

Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server リリース 3.13

API リファレンスガイド

2026 年 5 月 4 日

目次

変更履歴	11
1 全般情報	12
1.1 本書の使用方法	12
1.1.1 対話型 API リファレンスツール	13
1.2 3.13 API の追加と変更の概要	15
2 オブジェクトの一般的な構造	17
2.1 オブジェクト階層	17
3 API にアクセスする	22
3.1 構成設定	22
3.2 認証	23
3.3 Web インターフェイスでの API アクセス	23
3.4 使用するサードパーティのツール	24
3.4.1 サードパーティ API ツールを使用する際のヒント	25
4 API メソッド	27
4.1 URL 形式	27
4.2 GET メソッド	28
4.2.1 コレクションレベル	28
4.2.2 Collections レベルで制限とオフセットを使用する	29
4.2.3 個々のオブジェクトレベル	30
4.2.4 HTTP の詳細	30
4.2.5 GET メソッドの詳細については、このドキュメントを参照 してください	31
4.3 POST メソッド	31
4.3.1 HTTP の詳細	31
4.3.2 POST メソッドの詳細については、このドキュメントを参照 してください	32
4.4 PUT メソッド	32
4.4.1 HTTP の詳細	32
4.4.2 PUT メソッドの詳細については、このドキュメントを参照 してください	33
4.5 DELETE メソッド	33
4.6 失敗の理由	33

5 特定のメソッドに対するリクエストとレスポンスの例	41
5.1 現在アクティブな通話の取得	41
5.2 新しい通話をインスタンス化して参加者を接続する.....	41
6 coSpace 関連のメソッド	44
6.1 coSpace を取得する	45
6.2 coSpaces を作成、変更する	46
6.2.1 セカンダリ coSpace URI.....	52
6.2.2 coSpace callId の自動生成	52
6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する.....	53
6.3.1 特定の coSpace のエントリ詳細を取得する	57
6.4 coSpace のメンバーメソッド	57
6.4.1 coSpace のメンバーを取得する	57
6.4.2 coSpace メンバーの追加と変更	59
6.4.3 coSpace メンバーの情報を取得する	62
6.5 複数の coSpace アクセス方法	62
6.5.1 一般情報	62
6.5.2 coSpace アクセス方法の取得.....	63
6.5.3 coSpace アクセス方法の作成と変更	64
6.5.4 個別の coSpace アクセス方法に関する情報を取得する	67
6.6 coSpace から発信する.....	67
6.7 coSpaces の一括作成、更新、削除.....	68
6.7.1 /cospaceBulkParameterSets を作成する	68
6.7.2 coSpaces を一括作成するためのパラメータセットを取得する	70
6.7.3 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する	70
6.7.4 一括同期操作をキューする	72
6.7.5 一括同期操作を取得する.....	72
6.7.6 具体的な一括同期操作を取得する	74
6.7.7 例	75
6.8 coSpace の診断メソッド	76
6.9 coSpace テンプレートの使用	76
6.9.1 coSpace テンプレートの作成、変更、取得、列挙、および削除.....	76
6.10 アクセスメソッドテンプレートの使用.....	79
6.10.1 coSpace template access method テンプレートを作成、 変更、取得、列挙、削除する	79
6.11 coSpace のテキストベースのミーティングエントリ情報を取得する	82
6.12 coSpace でメタデータを設定する	84
7 ダイヤルプランメソッド	87

7.1 発信ダイヤル プラン API メソッド	87
7.1.1 発信ダイヤルプランへのアクセス	87
7.1.2 発信ダイヤル プラン ルールを取得する	88
7.1.3 発信ダイヤルプランルールの作成と変更	89
7.1.4 個別の発信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する	91
7.2 ダイヤル変換	92
7.2.1 ダイヤル変換を取得する	93
7.2.2 ダイヤル変換の設定と変更	94
7.2.3 個別のダイヤル変換に関する詳細情報を取得する	95
7.3 着信通話マッチング ダイヤル プラン API メソッド	95
7.3.1 受信ドメインのマッチングルールへのアクセス	95
7.3.2 着信ダイヤルプランルールの取得	96
7.3.3 着信ダイヤルプランルールの作成と変更	97
7.3.4 個別の着信ダイヤルプランルールに関する情報を取得する	98
7.4 着信通話転送ダイヤルプランの API メソッド	98
7.4.1 着信転送ルールへのアクセス	98
7.4.2 着信転送ダイヤルプランルールの取得	99
7.4.3 着信通話転送ダイヤルプランルールを作成、変更する	100
7.4.4 個別の着信通話転送ダイヤルプランルールの情報を取得する	101
8 コール関連メソッド	102
8.1 呼び出し方法	102
8.1.1 アクティブな通話に関する情報の取得	102
8.1.2 新しい通話を作成し、アクティブな通話を変更する	103
8.1.3 個々の通話に関する情報の取得	109
8.1.4 個々の通話に対する診断情報を生成する	115
8.1.5 電話会議の参加者を取得する	115
8.1.6 指定された通話に新しい参加者を作成する	116
8.1.7 会議参加者全員のプロパティを設定します	127
8.1.8 サードパーティ API ツールを使用して字幕を送信する	129
8.2 通話プロファイルのメソッド	129
8.2.1 通話プロファイルを取得する	130
8.2.2 通話プロファイルの設定と変更	130
8.2.3 個々の通話プロファイルに関する詳細情報を取得する	135
8.3 コール レッグ メソッド	136
8.3.1 アクティブコールレッグに関する情報を取得する	136
8.3.2 コールレッグの追加と変更	139
8.3.3 /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe	148
8.3.4 API を使用した遠端カメラ制御 (FECC) を可能にする	148

8.3.5	ミーティング参加者のスナップショットを取得する	149
8.3.6	個々の通話区間に関する情報の取得	150
8.4	コール レッグ プロファイル メソッド	167
8.4.1	一般情報	167
8.4.2	コールレッグプロファイルを取得する	167
8.4.3	コールレッグプロファイルを作成、変更する	178
8.4.4	個々のコールレッグプロファイルに関する情報を取得する	190
8.4.5	コールレッグプロファイルの例およびアクセスメソッドの使用	190
8.4.6	/callLegProfiles/<call leg profile id>/usage object method	190
8.4.7	/callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace object method	190
8.5	コールレッグの個々の機能を設定する	194
8.6	レイアウトテンプレートのメソッド	194
8.6.1	レイアウトテンプレートの追加と変更	195
8.6.2	レイアウトテンプレート (列挙) を取得する	195
8.6.3	レイアウトテンプレートに関する情報の取得	196
8.6.4	レイアウトテンプレートにレイアウトテンプレート の説明を割り当てる	196
8.6.5	レイアウトテンプレートからレイアウトテンプレ ート説明を取得する	196
8.7	コールブランディングプロファイルメソッド	197
8.7.1	通話ブランディングプロファイルの取得	197
8.7.2	通話ブランディングプロファイルの設定と変更	198
8.7.3	個々の通話ブランディングプロファイルに関す る詳細情報を取得する	198
8.8	DTMF プロファイル メソッド	198
8.8.1	DTMF プロファイルの取得	199
8.8.2	DTMF プロファイルの設定と変更	200
8.8.3	個別の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する	203
8.9	IVR メソッド	203
8.9.1	IVR を取得する	203
8.9.2	IVR の設定と変更	204
8.9.3	個々の IVR に関する詳細情報を取得する	204
8.10	IVR ブランディングプロファイルのメソッド	205
8.10.1	IVR ブランディングプロファイルの取得	205
8.10.2	IVR ブランディングプロファイルの設定と変更	205
8.10.3	個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する	206
8.11	参加者に関連するメソッド	206
8.11.1	参加者の取得	207
8.11.2	既に会議に参加している参加者の設定を変更します	208

8.11.3	個々の参加者に関する詳細情報を取得する	209
8.11.4	会議の特定参加者のペイン配置設定の作成、取得、削除	214
8.11.5	参加者のコールレグを取得する	215
8.11.6	通話の参加者を制限する	215
9	ユーザ関連のメソッド	217
9.1	ユーザーを取得する	217
9.2	個々のユーザに関する詳細情報の取得	218
9.2.1	ユーザの coSpace の関連付けを取得する	218
9.2.2	coSpace テンプレートをユーザに適用する	219
9.2.3	ユーザーの coSpace テンプレート情報を取得する	219
9.2.4	LDAP を使用した userCoSpaceTemplates の適用	220
9.2.5	ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する	221
9.2.6	LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、 変更、取得する	223
9.2.7	LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変更、取得する	224
9.3	ユーザ プロファイル メソッド	226
9.3.1	ユーザープロファイルを取得する	226
9.3.2	ユーザープロファイルを設定、変更する	227
9.3.3	個々のユーザープロファイルに関する詳細情報を取得する	228
10	システム関連のメソッド	229
10.1	システムステータスの取得	229
10.2	システムアラームステータスを取得する	231
10.3	システムデータベースの状態を取得中	235
10.4	CDR 受信者 URI メソッド	235
10.4.1	CDR Receivers URI を取得する	235
10.4.2	CDR レシーバー URI の設定	236
10.5	グローバル プロファイル メソッド	237
10.5.1	グローバルプロファイルの取得	237
10.5.2	グローバルプロファイルの設定	237
10.6	ライセンス方式	238
10.6.1	各 Meeting Server インスタンスのライセンスファイル 情報を取得する	239
10.6.2	クラスタライセンス情報の取得	247
10.7	TURN サーバメソッド	249
10.7.1	TURN Server の情報を取得する	250
10.7.2	TURN サーバの設定と変更	250

10.7.3 個別の TURN サーバに関する詳細情報を取得する	252
10.7.4 個別の TURN Server 状況を取得する	253
10.8 Web Bridge のメソッド	254
10.8.1 Web Bridge の情報を取得する	254
10.8.2 Web Bridge を設定、変更する	255
10.8.3 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する	256
10.8.4 Web Bridge のカスタマイズを更新する	256
10.8.5 Web Bridge (2.2 以降) で診断を取得する	256
10.9 Web Bridge プロファイルメソッド	257
10.9.1 Web Bridge プロファイルを取得する	257
10.9.2 ウェブブリッジプロファイルの作成と変更	260
10.9.3 特定の Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイル を検索する	262
10.9.4 現在最上位 (グローバル) システムレベルで有効な Web ブリッジプロファイルを確認する	264
10.9.5 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する	266
10.9.6 webBridgeProfile の Web Bridge アドレスの作成、変更、 および取得	267
10.9.7 webBridgeProfile の IVR 番号の作成、変更、および取得	269
10.10 Call Bridge メソッド	270
10.10.1 コールブリッジに関する情報の取得	270
10.10.2 コールブリッジの設定と変更	270
10.10.3 個々のコールブリッジに関する詳細情報を取得する	271
10.11 Call Bridge グループメソッド	271
10.11.1 コールブリッジグループに関する情報の取得	271
10.11.2 コールブリッジグループの設定と変更	272
10.11.3 個々のコールブリッジグループに関する詳細情報を取得する	273
10.12 Call Bridge クラスタ メソッド	273
10.12.1 Call Bridge Cluster の詳細を取得する	273
10.12.2 コールブリッジクラスタの設定と変更	274
10.13 SystemLoad メソッド	274
10.14 互換性プロファイルのメソッド	275
10.14.1 互換性プロファイルの操作を取得する	275
10.14.2 互換性プロファイルの設定と変更操作	276
10.15 ロビープロファイル手法	279
10.15.1 ロビープロファイルの操作を取得する	279
10.15.2 ロビープロファイルの操作を設定、変更する	280
10.16 システム診断方法	281

10.16.1 システム診断を取得する.....	281
10.16.2 個々のシステム診断を取得する.....	281
10.16.3 個々のシステム診断内容を取得する.....	282
10.17 システムのタイムドロギング方法.....	282
10.17.1 ログイングサブシステムの有効化.....	282
11 LDAP メソッド.....	284
11.1 LDAP サーバメソッド.....	285
11.1.1 LDAP Server の情報を取得する.....	286
11.1.2 LDAP サーバを追加、変更する.....	286
11.1.3 個々の LDAP サーバに関する詳細情報を取得する.....	287
11.2 LDAP マッピング方法.....	287
11.2.1 LDAP マッピングの追加と変更.....	287
11.2.2 セカンダリ LDAP マッピングパラメータ.....	289
11.2.3 LDAP マッピングに関する情報の取得.....	290
11.2.4 個々の LDAP マッピングに関する詳細情報の取得.....	290
11.3 LDAP ソースメソッド.....	291
11.3.1 LDAP ソースから情報を取得する.....	291
11.3.2 LDAP ソースの追加と変更.....	292
11.3.3 LDAP ソースの詳細情報を取得する.....	293
11.4 LDAP 同期方法.....	293
11.4.1 スケジュールされた LDAP 同期メソッドを取得する.....	294
11.4.2 新しい LDAP 同期を開始する.....	295
11.4.3 スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルする.....	295
11.4.4 単一の LDAP 同期メソッドで情報を取得する.....	296
11.5 外部ディレクトリの検索場所.....	296
11.5.1 外部ディレクトリの検索場所の情報を取得する.....	296
11.5.2 外部ディレクトリの検索場所を追加、変更する.....	297
11.5.3 外部ディレクトリの検索場所の詳細情報を取得する.....	298
11.5.4 外部ディレクトリ検索場所を追加する例.....	298
12 マルチテナンシー.....	302
12.1 テナント.....	304
12.1.1 テナントを取得する.....	304
12.1.2 テナントを作成、変更する.....	305
12.1.3 個々のテナントに関する詳細情報の取得.....	306
12.2 テナントグループの操作.....	307
12.2.1 テナントグループを取得する.....	307
12.2.2 テナントグループの作成と変更.....	308

12.2.3 個々のテナントグループに関する詳細情報の取得.....	308
13 クエリーメソッド	309
13.1 AccessQuery メソッド	309
13.2 conversationIdQuery メソッド	310
13.3 uriUsageQuery メソッド	310
14 ダイアルイン セキュリティプロファイルのメソッド	311
14.1 一般情報.....	311
14.1.1 ダイアルイン セキュリティ プロファイルを使用して 最小パスコード長を実装する	312
14.2 ダイアルイン セキュリティプロファイルを取得する	313
14.3 ダイアルイン セキュリティプロファイルの作成と変更.....	315
15 スケジューラ API	316
15.1 スケジューラの HTTPS インターフェースの設定.....	316
15.2 スケジューラ API メッセージ形式.....	317
15.3 コンテンツヘッダーの形式.....	318
15.4 応答コード	318
15.5 カスタムエラーコード	318
15.6 リクエストとレスポンスの例	319
15.7 スケジューラ関連のメソッド	320
15.7.1 サービスの正常状況を取得する.....	321
15.7.2 coSpace でのミーティングの作成、変更、削除.....	322
15.7.3 個々の会議の取得、変更、または削除.....	326
15.7.4 会議の参加者リストの変更または取得.....	328
15.7.5 定例ミーティングを作成、変更、削除する.....	329
15.7.6 定例ミーティングの参加者を取得または変更する.....	332
15.7.7 coSpace のメールをリフレッシュする	333
15.7.8 単一のミーティングのメールとミーティングシリーズ全体のメー ールをリフレッシュする	333
15.7.9 時間指定ログ情報を変更、取得する.....	334
16 プロファイルの使用	335
付録 A ウェブアプリミーティングで参加者の役割を変更する	337
A.1 利用できる役割.....	337
A.2 特殊な役割.....	338
A.2.1 スペースのデフォルトロール.....	339
A.2.2 カスタムロール	339

A.3 ロールと coSpace メンバーシップを割り当てる	340
A.3.1 メンバー	340
A.3.2 その他の参加者	340
付録 B 追加のコールレグ情報	341
B.1 コールレグ情報	341
B.1.1 コールレグの設定	341
B.1.2 コールレグステータス	342
付録 C マルチパーティー ライセンシングに関するその他の情報	345
C.1 /system/licensing Information	345
C.2 /system/multiparty ライセンス情報	346
付録 D API とともに RESTer をインストール、使用する	347
D.1 RESTer をインストールする	347
D.1.1 SSL 例外の追加/確認	348
D.1.2 基本認証ヘッダーを生成する	349
D.1.3 GET コマンドの例	351
D.1.4 POST コマンドの例	352
D.1.5 PUT コマンドの例	356
付録 E Web Bridge 3 によって提示される API メソッド	357
Cisco の法的情報	358
Cisco の商標または登録商標	359

図:

図 1 : Meeting Server に関するガイドの概要	14
図 2 : ミーティング Server Web インターフェイス経由で Call Bridge API にアクセスする	23
図 3: LDAP プロセスの概要	285
図 4: マルチテナンシー プロセスの概要	304
図 5: プロファイルでの値の継承	336
図 6 : テナント使用時のプロファイルでの値の継承	336

変更履歴

日付	変更の概要
2026 年 5 月 4 日	Cisco Meeting Server 3.13 の新バージョン。すべての API の追加と変更の概要については、「 API 追加の概要 」をご覧ください。

1 全般情報

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、Cisco Unified Computing Server (UCS) テクノロジに基づく特定のサーバー、または仕様ベースの VM サーバーでホストできます。本書では、Cisco Meeting Server を Meeting Server と呼びます。

注： Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.0 以降は X シリーズサーバーをサポートしていません。

このドキュメントは、Cisco Meeting Server アプリケーション プログラム インターフェース リリース 3.13 について説明します。

メモ： 以降、本書では Cisco Meeting Server ソフトウェアを指すことを「Meeting Server」と呼びます。

注： API 設定の変更、特に複数のユーザー/通話に影響を与える可能性があるグローバルプロファイルの変更は、メンテナンスウィンドウの非営業時間に行うことを強くお勧めします。

1.1 本書の使用方法

このガイドは 2 つのパートに分かれています：

- セクション 2 から 5 を順番に読むことから始めてください。これらのセクションは、API の背後にある概念、API メソッドの使用方法、使用例を理解するのに役立ちます。
- その後、残りの項（セクション 6 以降）を、使用したいメソッドの参照資料として利用します。

このガイドでは、次の API について説明します。

- セクション 6 から 14 まででは、XML ベースの Call Bridge API について説明します。
- セクション 15 では、JSON コンテンツ形式を使用するスケジューラ API について説明しています。

このガイドは、Meeting Server 用のドキュメントセット（1 に示されています）の一部です。これらのドキュメントは cisco.com で見つけることができます。

1.1.1 対話型 API リファレンスツール

最近、API オブジェクトの概要ビューを表示し、詳細を見るために深く掘り下げる新しいインタラクティブな API リファレンスツールを導入しました。使い始めるために役立つラーニングラボもあります。今後追加していきます。このツールを試してみることをお勧めします。将来的に、API リファレンス ガイドの PDF 版の公開を中止する予定です。

<https://developer.cisco.com/cisco-meeting-server/>

ツールの使用方法：

1. [ドキュメントの表示 (View the docs)] をクリックします。
2. 左ペインのリストからカテゴリを選択します。例；コール関連メソッド。
3. 任意のメソッドをクリックして、GET/POST/PUT の URI を参照します。パラメータとレスポンスの要素と説明の表を参照してください。例: GET

<https://ciscocms.docs.apiary.io/api/v1/calls?>

メモ: POST/PUT メソッドを使用している場合、メソッドを選択すると、関連する属性と説明が右側のペインに表示されます。

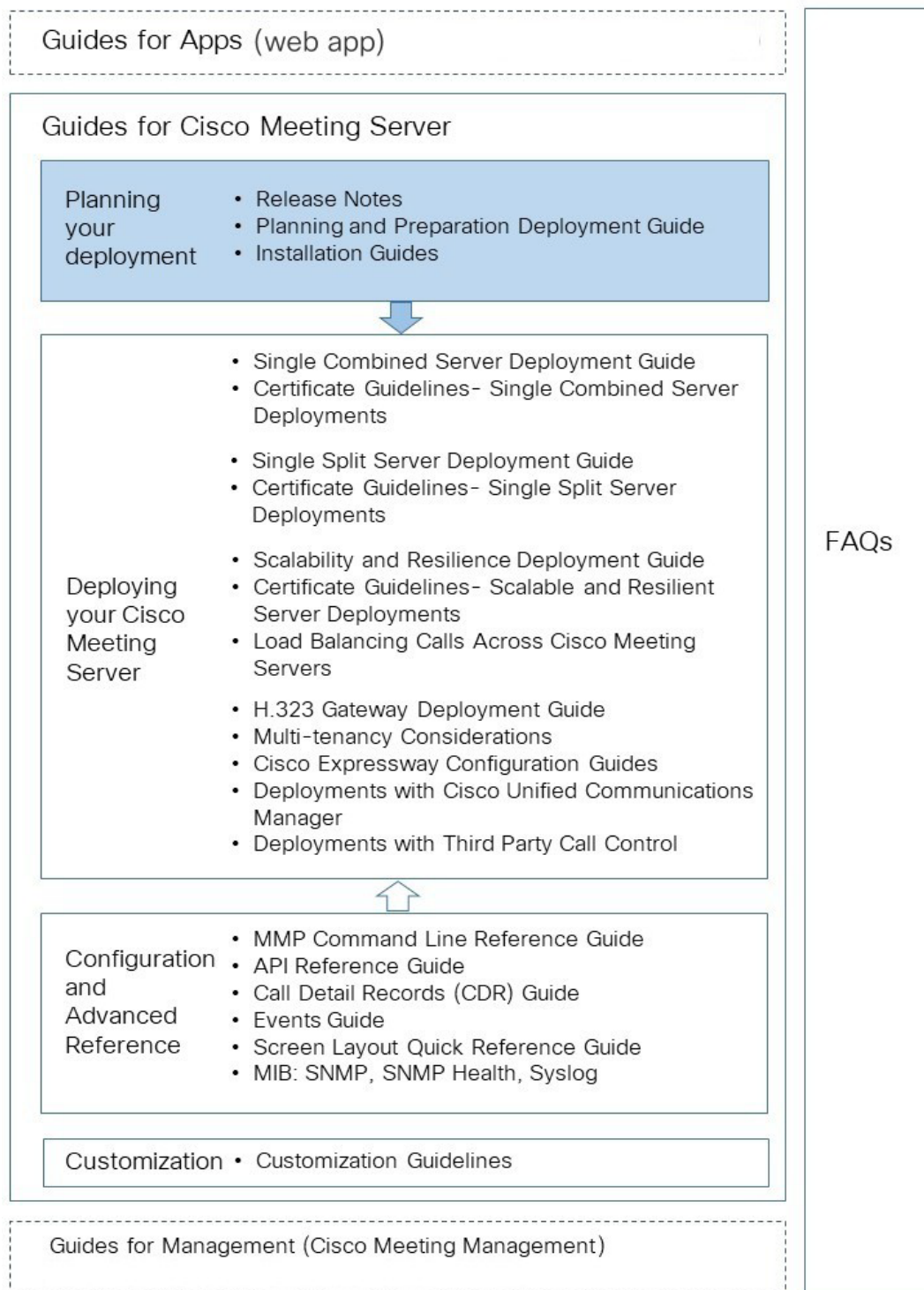
ラーニングラボ

<https://learninglabs.cisco.com/modules/cisco-meeting-server>

ラーニングラボは開始点として意図されており、Cisco Meeting Server API で可能なことの幅広い範囲をカバーしています。すべてのラーニングラボは、タスクを完了するための手順を最初から最後まで学習できる、ステップバイステップのチュートリアルです。

例: 「Cisco Meeting Server API を使用した主催者およびゲスト アクセスのセットアップ」は、ユーザがスペースのミーティングに参加する方法を異なるオプションで設定する方法を説明しています。

図 1 : Meeting Server に関するガイドの概要



1.2 3.13 API の追加と変更の概要

Meeting Server 3.13 の API には、以下の新しい機能が追加されています。

- Expressway を TURN サーバーとして統合する際に、短期認証情報をサポートするために、以下の API パラメータが追加されます。
 - 作成: `"/turnServers"` ノードへの POST メソッド
 - 修正: `"/turnServers/"` への PUT

パラメータ	タイプ/値	説明
資格情報サーバアドレス	文字列	Meeting Server が TURN サーバのために Expressway-C に接続する際に使用するアドレス。 URL には、まず <code>https://</code> プロトコルを指定し、その後に Expressway-C サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスとポート番号を記述し、最後に固定の API パスを追加する必要があります。 <code>/api/v1/turnServers/</code> 。
<code>credentialServerUsername</code>	文字列	Expressway - C サーバのユーザ名。
<code>credentialServerPassword</code>	文字列	Expressway - C サーバのパスワード。
<code>username_prefix</code>	文字列	この TURN サーバーで割り当てを行う際は、ユーザー名のプレフィックスとして JC:<domainname of credential server> という形式の文字列を、Meeting Server によって生成された短期ユーザー名に付加して使用する必要があります。

Meeting Server 3.13 の API 機能には、以下の API 変更が含まれています。

- 以下の API パラメータが変更され、coSpaces のパスコードの最小長が 0 または 8 ~ 63 桁 (8 と 63を含む) となるように強制されます。

API の変更

API メソッド	パラメータ	型/値	説明/メモ
/di-allSecurityProfiles の POST/PUT	minPasscodeLength	番号 (Number)	パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (8 と 63 を含む)。
/coSpaces/accessMethods の POST/PUT	パスコード	番号 (Number)	アクセス方法のセキュリティコード。パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (8 と 63 を含む)。
/coSpaces への POST/PUT	パスコード	番号 (Number)	coSpace のセキュリティコード。パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (8 と 63 を含む)。

上記のパスコードは web app にも適用され、すべてのアクセス方法で一貫したパスコード検証が保証されます。ユーザーが、8 桁から 63 桁以外の範囲のパスコードを入力した場合、web app はそれに応じたエラーメッセージを表示します。

2 オブジェクトの一般的な構造

Meeting Server のアプリケーション プログラミング インタフェース (API) は、ディレクトリ構造と同様に、オブジェクトの階層として設計されています。例えば、設定された各 coSpace はこのツリーのノードとして存在し、coSpace のメンバーであるすべてのユーザーは、coSpace オブジェクトのノードの「下」のノードとして存在します。API オブジェクトには適切な REST クライアントを使用してアクセスします。[セクション 3.4](#) を参照してください。

注： Cisco Meeting App および他の Cisco Meeting Server のガイドでは「coSpaces」ではなく「spaces」と記載していますが、API では依然として /coSpace オブジェクトを使用しています。

Meeting Server は、多数のアクティブな通話と coSpace をホストする可能性があります。単一のレスポンスでオブジェクトのコレクション全体を取得するオーバーヘッドを減らすために、レスポンスは通常、最初に一致したエントリ「N」とそのタイプのオブジェクトの合計数を返します。個々のオブジェクトのアクティブな状況を確認したり、変更または削除するには、問題のオブジェクトを特定するために、最初の取得でフィルタを使用します。フィルタと GET コマンドの詳細は、[セクション 4.2](#) を参照してください。

注： ツリーの一部のノードは、クラスタ全体で共有されるオブジェクトのセットを参照します（例えば、設定された coSpaces またはダイヤルプランルールセット）。一方で、他のノード（例えば、「api/v1/system/alarms」）は、アクセスされている Meeting Server に固有です。

2.1 オブジェクト階層

いずれの場合も、最上位の複数項は、潜在的に多くの個別の目的語ノードの上に位置します。これらの個々のオブジェクトノードは、通常、これらは <ID> という GUID で識別されます。たとえば、Meeting Server で 100 の coSpaces が設定されている場合、概念的には、階層内で /coSpaces の直下に 100 のノードがあります。

Call Bridge API 経由でアドレス指定可能なオブジェクトの階層は、次のとおりです。

/accessQuery

/callBrandingProfiles

```

/callBrandingProfiles/<call branding profile id>

/callBridges
/callBridges/<call bridge id>
/callBridgeGroups (2.1 以降)
/callBridgeGroups/<call bridge group id>(2.1 以降)

/calls
/calls/<call id>
/calls/<call id>/callLegs

/calls/<call id>/diagnostics
/calls/ <call id>/ participants
/calls/<call id>/participants/* (2.2 以降)
/calls/<call id>/captions (3.4 以降)

/callProfiles
/callProfiles/<コールプロファイル ID>

/callLegs
/callLegs/<callLeg id>
/callLegs/<callLeg id>/callLegProfileTrace
/callLegs/<call leg id>/cameraControl(2.9 以降)
/callLegs/<call leg id>/generateKeyframe(2.2 以降)
/callLegs/<call leg id>/snapshot(3.5 以降)

/callLegProfiles
/callLegProfiles/<call leg profile id>
/callLegProfiles/<call leg profile id>/usage

/clusterLicensing(3.0 以降)
/clusterLicensing/raw (3.0 以降)

/compatibilityProfiles (2.1 以降)
/compatibilityProfiles/<互換性プロファイル ID> (2.1 以降)

/lobbyProfiles(3.7 以降)
/lobbyProfiles/<lobby profile id>(3.7 以降)

/conversationIdQuery (2.3 以降)

/cospaceBulkParameterSets(2.0 以降)
/cospaceBulkParameterSets/<coSpace bulk parameter set id>(2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs(2.0 以降)
/cospaceBulkSyncs/<coSpace bulk sync id>(2.0 以降)

/coSpaces
/coSpaces/<coSpace id>
/coSpaces/<coSpace id>/emailInvitation(3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods

```

```

/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>
/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access method id>/emailInvitation
(3.2 以降)
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers
/coSpaces/<coSpace id>/coSpaceUsers/<coSpaceUser id>
/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics
/coSpaces/<coSpace id>/messages (3.0 廃止)
/coSpaces/<coSpace id>/metadata (3.2 以降)

/coSpaceTemplates (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id> (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates (2.9 以降)
/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method

```

テンプレート ID> (2.9 以降)

```

/dialInSecurityProfiles (3.0 以降)
/dialInSecurityProfiles/<dial in security profile id> (3.0 以降)

```

```

/dialTransforms
/dialTransforms/<dial transform id>

```

```

/directorySearchLocations
/directorySearchLocations/<directory search location id>

```

```

/dtmfProfiles
/dtmfProfiles/<dtmf profile id>

```

```

/forwardingDialPlanRules
/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule id>

```

```

/inboundDialPlanRules
/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule id>

```

```

/ivr
/ivr/<ivr id>
/ivrBrandingProfiles
/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>

```

```

/layoutTemplates
/layoutTemplates/<レイアウトテンプレート ID>
/layoutTemplates/<layout template id>/template (2.8 以降)

```

```

/ldapMappings
/ldapMappings/<ldap mapping id>
/ldapServers
/ldapServers/<ldap server id>
/ldapSources
/ldapSources/<ldap source id>
/ldapSyncs

```

```

/ldapSyncs/<ldap sync id>
/ldapUserCoSpaceTemplateSources (2.9 以降)
/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<ldap ユーザ coSpace テンプレートソース id>
(2.9 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceMappings/<LDAP user provisioned coSpace mapping
id> (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace mapping
id> (3.1 以降)
/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP user provisioned coSpace source
id> (3.1 以降)

/outboundDialPlanRules
/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule id>

/participants
/participants/<participant Id>
/participants/<participant ID>/importanceData
/participants/<participantId>/callLegs

/recorders (3.0 廃止)
/recorders/<recorder id> (3.0 廃止)
/recorders/<recorder id>/status (2.2 以降) (3.0 廃止)

/streamers (2.1 以降) (3.0 は削除)
/streamers/<ストリーマー ID> (2.1 以降) (3.0 は削除)
/streamers/<streamer id>/status (2.2 以降) (3.0 は削除)

/system/alarms
/system/cdrReceiver (非推奨)
/system/cdrReceivers
/system/cdrReceivers/<CDR receiver id>
/system/configuration/cluster
/system/configuration/xmpp (3.0 削除済み)
/system/database
/system/diagnostics
/system/diagnostics/<diagnostics id>
/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents
/system/licensing (2.0 以降)
/system/load (2.1 以降)
/system/MPLicenseUsage (2.6 以降)
/system/MPLicenseUsage/knownHosts (2.6 以降)
/system/multipartyLicensing (2.0 以降)
/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses (2.0 以降)
/system/profiles
/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile (3.0 以降)
/system/status
/system/timedLogging (3.2 以降)

```

```
/tenantGroups
/tenantGroups/<tenant group id>

/tenants
/tenants/<tenant id>
/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile(3.0 以降)

/turnServers
/turnServers/<turn server id>
/turnServers/<turn Server id>/status

/uriUsageQuery (2.3 以降)
/users
/users/<user id>
/users/<user id>/userCoSpaces
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates (2.9 以降)
/users/<user id>/userCoSpaceTemplates/<user coSpace Template id>(2.9 以降)

/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces (3.1 以降)
/users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user provisioned coSpace id>
(3.1 以降)
/userProfiles
/userProfiles/<ユーザプロフィール ID>

/webBridges
/webBridges/<web bridge id>
/webBridges/<web bridge id>/status(2.2 以降)
/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization

/webBridgeProfiles(3.0 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>(3.0 以降)
/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile(3.0 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers(3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id>
(3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses (3.1 以降)
/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge
address id>(3.1 以降)
```

3 API にアクセスする

API は、トランスポート メカニズムとして HTTPS を使用します。

注：API リクエストにかかる時間は、リクエストタイプ、未処理のリクエスト数、データベースサイズ、サーバーの読み込み、API クライアントと Call Bridge 間の遅延、API リクエストを受信する Call Bridge とプライマリデータベースの間の遅延など、これらに限らない要素によって異なります。アプリケーションを開発する際には、代表的なシステムで API パフォーマンスをテストすることを推奨します。

[構成設定](#) および [認証](#) を実行すると、次のいずれかの方法で API にアクセスして操作することができます。

- [ミーティング サーバ ウェブ インターフェイス上の API アクセス](#): ミーティング サーバのウェブ インターフェイスは、Call Bridge API 用の API エクスプローラを提供します。
- [サードパーティのツールを使用する](#): サードパーティのツールを使用すると、スケジューラ API と同様に Call Bridge へのアクセスも提供できます。

3.1 構成設定

API を使用するには、ウェブ管理インターフェイスにアクセスするために使用するのと同じ TCP ポートを介して HTTPS 経由で接続する必要があります。通常は 443 番ポートです。つまり、同じインターフェイスを使用します。

また、ユーザー名とパスワードを設定する必要があります。API を使用するために、これらの資格情報を提供する必要があります。MMP コマンド `user add <username>`

(`admin|crypto|audit|appadmin|api`) を使用して設定します。このコマンドによりユーザーパスワードの入力が求められます。詳細については、『[MMP コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

3.2 認証

API ユーザーは共有秘密のユーザー名とパスワードを、同じユーザー名とパスワードで設定された Meeting Server に提供します。ユーザー名とパスワードは MMP コマンドラインで設定します。

認証資格情報は HTTP トラフィック内で基本的にプレーンテキストで送信されますが、HTTPS を使用することで、トラフィック自体は外部関係者によって読み取ることができません。

3.3 Web インターフェイスでの API アクセス

図 2 で示されている通り、サードパーティアプリを必要とせずに Call Bridge API の使用を簡素化するために、バージョン 2.9 では、Meeting Server Web インターフェイスの **[設定 (Configuration)]** タブ経由でアクセスできる Call Bridge API のユーザーインターフェイスが導入されました。

バージョン 3.3 で導入されたスケジューラ API はこのインターフェイス経由ではサポートされていません。「[スケジューラ API](#)」を参照してください。

図 2 : ミー Meeting Server Web インターフェイス経由で Call Bridge API にアクセスする

The screenshot shows the Cisco Meeting Server Web Interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for Status, Configuration, Logs, and Debug. The user is logged in as 'admin'. The main content area is titled 'API object' and contains a list of API endpoints. The 'API' section is expanded, showing a list of endpoints such as /api/v1/callProfiles/<id>, /api/v1/callLegs/<id>, and /api/v1/calls/<id>. A search filter is visible on the left, and there are 'Allow delete' and 'Disallow delete' buttons on the right. The interface is clean and professional, with a blue header and a white background.

注：設定済み API オブジェクトを削除したい場合は、画面の右側で **[削除を許可]** を選択します。デフォルトでは削除は無効になっており、意図しない削除を防ぐため、**[削除の確認を要求する]** にチェックが入っています。

3.4 使用するサードパーティのツール

カスタムソフトウェア、構築済みライブラリ、コマンドラインツール、または GUI ベースのウェブ/REST ユーティリティなど、適切にフォーマットされた HTTPS リクエストを生成できる任意のソフトウェアを使用して、Meeting Server API と対話することができます。RESTful API の場合、REST API との対話を簡素化するためのツールがオンラインで利用できるようになりました。

Meeting Server で動作することが知られている一般的なサードパーティツールの例を次に示します：

- Postman – これは多くの開発ツールと堅牢なリクエスト/レスポンスツールを備えた Windows、OSX、および Linux 用のグラフィックユーティリティです。
<https://www.getpostman.com/postman> からインストールしてください。
さらに、Postman での Meeting Server API の使用を簡素化するコミュニティコンテンツも利用できます。<https://github.com/ciscocms/cms-postman-collection> を参照してください。これは、コミュニティがサポートする Meeting Server API 用の構築済みの Postman コレクションです。すべての Meeting Server のコマンドとプロパティが事前に設定されていて、Meeting Server API を素早く起動し、実行できます。
- RESTer – これは、変数、リクエストや履歴の保存などの高度な機能をサポートする、Google Chrome 用の軽量のブラウザベースの REST ツールです。Google Chrome ウェブストア (<https://chrome.google.com/webstore/category/extensions>) からインストールしてください。RESTER のインストールと使用例については、[付録 D](#) を参照してください。
- RESTED – 使いやすく軽量のブラウザベースの Mozilla Firefox 用 REST ツールで、変数、リクエストおよび履歴の保存などの高度な機能をサポートしています。Firefox の **[アドオン... (Add-ons...)]** オプションからインストールします。

コマンドラインを使用する、またはお使いの環境にサードパーティのソフトウェアをインストールできない場合、一般的なツールの例には次のようなものがあります。

- curl – ほとんどの OSX および Linux インストールで利用可能なコマンドラインウェブリクエストユーティリティです。Microsoft Windows にもインストールできます。
- Powershell – Microsoft のコマンドラインスクリプトツール。すべての最新の Windows インストールではデフォルトで利用でき、より複雑な応答解析に対しても簡単にスクリプト化できます。

3.4.1 サードパーティ API ツールを使用する際のヒント

- **https://** URL を使用し、Web Bridge ではなく、ウェブ管理者がリスンしているポートを含めるようにしてください。
- ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を確認し、証明書の確認が失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しない場合、または信頼されていない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を探るか、API URL に対する例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。
- 認証が有効になっていることと、**[基本認証 (Basic Auth)]** がリクエストに含まれていることを確認します。
- POST および PUT メソッドを使用する場合は、必ずリクエスト本文および **Content-Type: x-www-form-urlencoded** を使用します。
- Meeting Server API は PUT/POST アクションでスペルミスのあるプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待通りに実装されていることを確認するために、フォローアップの GET で常に確認します。
- 大きな結果セットでは、最初のいくつかのエントリの結果を超えるエントリを見るために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があることに注意してください。
- ほとんどのツールはデフォルトで SSL/TLS 接続を確認し、証明書の確認が失敗すると Meeting Server への接続を拒否します。URL が証明書と一致しない場合、または信頼されていない場合は、ツールで SSL チェックを無視する設定を探るか、API URL に対する

例外を追加します。ブラウザベースのクライアントは通常、実行しているブラウザの信頼済み/例外リストに従います。

- 認証が有効になっていることと、**[基本認証 (Basic Auth)]** がリクエストに含まれていることを確認します。
- POST および PUT メソッドを使用する場合は、必ずリクエスト**本文**および**Content-Type: x-www-form-urlencoded** を使用します。
- Meeting Server API は PUT/POST アクションでスペルミスのあるプロパティを無視し、HTTP エラーを返しません。変更が期待通りに実装されていることを確認するために、フォローアップの GET で常に確認します。
- 大きな結果セットでは、最初のいくつかのエントリの結果を超えるエントリを見るために、ページングとオフセットオプションの使用が必要になる場合があることに注意してください。

4 API メソッド

4 つの方法があります。

- [GET](#) – 既存の情報を取得する
- [POST](#) – 階層内に新しいオブジェクトを作成します
- [PUT](#) – 既存のオブジェクトを変更します
- [DELETE](#) – ツリー中のオブジェクトを破棄します

これらの方法の詳細については、以下で説明します。しかし、これらのメソッドを API に伝えるために使用される URL 形式をまず理解することが重要です。

4.1 URL 形式

個々のオブジェクトをアドレス指定したり作成したりするために、URL 形式はオブジェクトの概念的な階層を反映しています。さらに、リクエストが API に対するものであることを識別する追加の先行タグがあります。たとえば、API オブジェクト「/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4」の情報を取得するには、次を発行する必要があります。

GET /api/v1/calls/dbfca0dd-dbe1-43bb-b101-beb9a7ef35f4 HTTP/1.1

この文字列は次のように構成されます。最上位に「/api」を含むことは、オンボード HTTP サーバプロセスが通常のブラウザメソッドからこの HTTP メソッドを区別できることを意味します。「v1」を含むことは、リクエストがバージョン 1 の API を理解するオブジェクトによって作成されることを API ハンドラーに知らせます。

API メソッドが成功すると、Meeting Server から「200 OK」の応答が返されます。エラーが発生した場合、Meeting Server は 4xx または 5xx HTTP ステータスコードで応答します。

Meeting Server が一時的にビジー状態であるために API 呼び出しに対応できない場合、ステータスコード 503 (サービスが利用できません) が返されます。これは、後ほど同じ方法を再度試すことが役立つことを示します。

有効な coSpace オブジェクトに対応しない <coSpace id> を指定するリクエストにより、「404 ページが見つかりません」のレスポンスが返されます。

4xx および 5xx エラーの場合、詳細なエラー情報が返される場合があります。次に例を示します。

```
<failureDetails>
<coSpaceDoesNotExist/>
</failureDetails>
```

Call Bridge APIでは、情報は「text/xml」本文データとして返されますが、スケジューラ APIでは、これは JSON 形式で返されます。

一般的に、そのような応答は「failureDetails」セクションとエラーのリストで構成されます。上記の例では、アクティブな coSpace と一致しない coSpace ID を使用してメソッドが試みられました。

失敗の理由として考えられるものは、[セクション 4.6](#) に記載されています。

4.2 GET メソッド

GET メソッドにより、既存の API アクセス可能なオブジェクトに関する情報を取得できます。これらは、コレクションレベルと個別のオブジェクトレベルの 2 つのレベルで使用されます。

4.2.1 コレクションレベル

GET メソッドがコレクションレベルで実行される場合 (複数形の名詞: 「calls」、 「coSpaces」など)、複数の一致する子ノードが取得されます。設計上、これがリスト全体である保証はありませんが、Meeting Server に存在するそのタイプのオブジェクトの総数は、このメカニズムを通じて知ることができます。

特定の項目だけを取得するために、コレクションレベルのほとんどの GET メソッドでは、フィルター式を使用できます。そのため、管理ツールのインターフェイスは、最初に API ユーザーに coSpaces の合計数 (例)、最初の「N」 coSpaces の基本的な詳細 (名前など)、および人間のユーザーが検索に使用できるフィルタボックスを表示します。これは目的の特定の coSpace です。

他にパラメータを追加しない場合、コレクションレベルの GET メソッドは、ミーティングサーバの概念的な完全リストの先頭から項目を返します。返されたアイテム数を「total」値と比較することで、すべての要素が返されたかどうかを簡単に判断できます (返された要素数が「total」値と等しい場合)。

4.2.2 Collections レベルで制限とオフセットを使用する

API リクエストに「limit=<limitValue>」を含めることで、返される要素の数を、リクエスト送信者が選択した制限に制限できます。これにより、指定された「limitValue」数を超える要素が戻されないことが保証されます。Meeting Server はこのような場合にも独自の制限を持つため、戻される要素数は、指定された「limitValue」と Meeting Server 自身の制限のいずれか低い方になります。

Meeting Serverの想定リスト上の最初の「n」以外の要素を取得するために、API リクエストで「offset=<offsetValue>」を提供することも可能です。これにより、Meeting Serverはリスト内の指定された位置から始まる要素を返し、最初の "offsetValue" 個の要素をスキップします。「offsetValue」がそのタイプのオブジェクトの数より大きい場合、要素は返されません。

注：オフセット値は、大量のデータを一度に取得する一般的な手段と見なされるべきではありません。1 ページ目のデータの取得に続いて 2 ページ目のデータを取得するシーケンシャル取得は、これらのメソッドの間にオブジェクトが削除または追加された場合、必ずしも同じ完全なリストで動作するとは限りません。

各リクエストとレスポンスについて、リクエストは使用されるオフセットと制限値を追跡し、この知識を、レスポンスで返される要素数および Meeting Server が示す「合計」と組み合わせることが期待されます。リクエストから提供された「offsetValue」に返される要素の数を加えた値が、示された「total」値より小さい場合、要求者はさらに多くの値が存在することを応答で知ることができます。次の表に例を示します。

表 1：要求者のオフセット/制限の例

要求者のオフセット	リクエスト制限	XML レスポンス	意味
<未登録>	<未登録>	<coSpaces total=" 7" > <cospace /> x 7 </coSpaces>	応答中に存在するすべての coSpaces (0 - 6)
<未登録>	1	<coSpaces total=" 7" > <cospace /> x 1 </coSpaces>	レスポンスで最初の coSpace

要求者のオフセット	リクエスト制限	XML レスポンス	意味
4	10	<coSpaces total=" 7" > <cospace /> x 3 </coSpaces>	coSpaces 4 - 6 がレスポンスに存在
0	100	<coSpaces total=" 53" > <cospace /> x 10 </coSpaces>	Meeting Server は、リクエストが最大 100 まで許可しているにも関わらず、レスポ ンスを内部制限の 20 に制限しています。
20	10	<coSpaces total=" 53" > <cospace /> x 10 </coSpaces>	Meeting Serverは、要求者によるオフセット と制限を受け入れ、スペース 20..29 を返し ます。

メモ: 次の GET 制限が適用されます:

- /api/v1/coSpaces - 20
- /api/v1/calls - 10

4.2.3 個々のオブジェクトレベル

GET メソッドが個々のオブジェクトレベルで実行される場合、その 1 つのオブジェクトに関する完全な情報だけが返されます。例えば、coSpace の一意の ID が「/coSpaces」ノードの (フィルタリングされる可能性のある) GET によって学習された後、続く「/coSpaces/<coSpace id>」の GET ノードは、その 1 つの coSpace に関する詳細な情報を返します。

4.2.4 HTTP の詳細

GET メソッドには、完全なノードの場所と、API ユーザーが提供する URI で行われる取得に固有のパラメータが含まれます。たとえば、基本情報を取得するには最初の「N」個の coSpaces の場合、URI は次のようになります。

/api/v1/coSpaces

名前に「sales」が含まれるもののみを一覧表示するには、次の項目に対して GET を実行します。

`/api/v1/coSpaces?filter=sales`

GET メソッドが成功し、「200 OK」レスポンスを返す場合、Meeting Server は取得した情報を「text/xml/JSON（スケジューラ API 用）」本文データとして返します。

4.2.5 GET メソッドの詳細については、このドキュメントを参照してください

コレクションレベルの各 GET メソッドに対して、以下の情報が提供されます。

- それが操作するノード
- 上記の filter、offset、limit などのフォームパラメータの表です。一部はオプションです。必須項目にはアスタリスク (*) が付いています
- 返される情報を示す表

これらの表は、パラメータの形式（例：ID または文字列）または可能な値（例：true|false）を示します。

個人レベルの各 GET メソッドについて、以下の情報が提供されます。

- それが操作するノード
- 返される情報を示す表

フォームパラメータは、特に記載がない限り、コレクションズレベルのものです。

4.3 POST メソッド

POST メソッドは新しいオブジェクトを作成します。たとえば、新しく構成された coSpace またはダイヤル プラン ルールを作成します。POST メソッドを使用して、coSpace に関連付けられた新しいコール レッグを作成することは、新しい発信 SIP 接続を作成する方法です。

4.3.1 HTTP の詳細

ほとんどの POST メソッドでは、いくつかのパラメータを指定する必要があります。例えば、coSpace を作成するには、新しい coSpace の名前を指定する必要があります。新しいコール レッグは、リモートの通話者のアドレスが既知の場合にのみ作成できます。このようなパラメ

ータは、POST メソッドの開始者が、HTML ドキュメントの「<form>」要素で使用される標準の HTTP 「x-www-form-urlencoded」形式で指定する必要があります。

POST メソッドが新しいオブジェクトを階層に追加することに成功した場合、そのオブジェクトの ID と階層内での位置が、応答の「Location」フィールドで返されます。

4.3.2 POST メソッドの詳細については、このドキュメントを参照してください

各 POST メソッドについて、以下の情報が提供されます。

- それが操作するノード
- フォームパラメータのテーブル、その中にはオプションのものもあります。必須パラメータは、アスタリスク (*) が付いています
- 各パラメータの形式（例：ID または文字列）または可能な値（例：true|false）です。必要に応じて、パラメータのデフォルト値（パラメータを指定しない場合に使用される値）が太字で表示されます。例: **true|false**。

4.4 PUT メソッド

PUT メソッドは既存のオブジェクトを変更します。例えば、coSpaceの名前の変更、特定のコールレグのミュート、またはレイアウトの変更などです。

オブジェクトで PUT を使用する場合:

- パラメータを省略して値を変更しない
- 新しい値を持つパラメータを使用して、この値に変更するために使用します。値を設定解除するには、空の値を指定します。例えば、coSpace からテナントの関連付けを削除するには、その coSpace を「tenant=」を含むパラメータセットで変更します。

4.4.1 HTTP の詳細

リクエストのパラメータは「x-www-form-urlencoded」形式で指定する必要があります。

4.4.2 PUT メソッドの詳細については、このドキュメントを参照してください

各 PUT メソッドは、同じオブジェクトの POST メソッドと同じセクションにあります。例えば、coSpace の作成と変更は一緒に取り扱われます。オブジェクトを変更するためのフォームパラメータ (PUT) は、POST メソッドと異なる場合にのみ記載されます (例: callLegs の場合)。

4.5 DELETE メソッド

DELETE メソッドは、階層から個々のオブジェクトを削除します。例えば、コールレグを切断したり、ユーザーを coSpace から関連付け解除してメンバーでなくするなどです。

そのため、DELETE メソッドは通常、個人レベルで実行されます。DELETE を実行する:

```
/api/v1/coSpace/<id>/accessMethods/<id>
```

オブジェクトの ID は、コレクションレベルでの前回の取得 (GET) メソッド、または前回の作成 (PUT) メソッドへの応答の「Location」フィールドのいずれかからわかります。(coSpace はコレクション レベルで削除できます。)

オブジェクトが正常に削除されると、Meeting Serverは「200 OK」の応答を送信します。

この方法は比較的簡単なため、このドキュメントでは詳細を説明しません。スケジューラ API のチャットメッセージの削除、ミーティングとイベントの発生の削除を除きます。

4.6 失敗の理由

以下の「failureDetails」コードは、ユーザーエラーに対する応答として、上記の任意のメソッドに対して API から返される可能性があります。

```
<failureDetails>
<tenantDoesNotExist />
</failureDetails>
```

メモ: このセクションで説明されているエラー コードは、Call Bridge API に固有のものです。の項を参照してください。スケジューラの応答コードの [15.4](#)。

理由コード	説明
accessMethodDoesNotExist	有効なアクセスメソッドではない ID を使用して、アクセスメソッドを変更または削除しようとした。 通話の coSpace に対応しないアクセス方法でコールレグまたは参加者を作成しようとした。(バージョン 3.2 以降)
callBrandingProfileDoesNotExist	有効な通話ブランディング プロファイルに対応しない ID を使用して、通話ブランディング プロファイルを変更または削除しようとした。
callBridgeDoesNotExist	有効なクラスタ化された Call Bridge に対応しない ID を使用して、設定済みのクラスタ化された Call Bridge を変更または削除しようとした。
callBridgeGroupDoesNotExist	バージョン 2.1 以降の有効な Call Bridge グループに対応しない ID を使用して、Call Bridge グループを変更、削除、または使用しようとした。
callBridgeGroupUnavailable	通話を受け入れることができない、または利用できない Call Bridge グループに参加者を作成しようとした (バージョン 2.2 以降)。
callBridgeUnavailable	利用できない、または通話を受け入れることができない Call Bridge 上で参加者を作成しようとした (バージョン 2.2 以降)。
callDoesNotExist	現在アクティブな通話に対応していない ID を使用して、通話オブジェクトに対してメソッドを実行しようとした。
callRecordingCannotBeModified	変更できない通話の録音を開始/停止しようとした。
callStreamingCannotBeModified	変更できない通話のストリーミングを開始/停止しようとした (バージョン 2.1 から)。
callLegCannotBeDeleted	削除できないコールレグを削除しようとした。
callLegDoesNotExist	現在アクティブなコールレグに対応していない ID を使用して、コールレグオブジェクトに対してメソッドを実行しようとした。
callLegProfileDoesNotExist	有効なコールレグプロファイルに対応しない ID を使用して、callLegProfile を変更または削除しようとした。

理由コード	説明
callProfileDoesNotExist	無効な ID を使用して callProfile を変更または削除しようとした。
cdrReceiverDoesNotExist	有効な CDR 受信者に対応しない ID を使用して、CDR 受信者を変更または削除しようとした。
coSpaceAccessMethodTemplateDoesNotExist	使用している共有スペース方式テンプレートに対応する ID 番号が、システム（バージョン 2.9 以降）上の有効な共有スペース方式テンプレートに対応しない ID を変更、削除、または取得しようとした。
coSpaceCallDoesNotExist	通信スペースに関連付けられていない通話で、コールレックまたは参加者（指定されたアクセス方法）を作成しようとした。（バージョン 3.2 以降）
coSpaceDoesNotExist	システムの有効な通信スペースに対応しない ID を使用して通信スペースを変更または削除しようとした。
coSpaceTemplateDoesNotExist	使用している coSpace テンプレートの ID が、システム上の有効な coSpace テンプレート（バージョン 2.9 以降）に対応しない ID を変更、削除、または取得しようとした。
coSpaceUserDoesNotExist	有効な coSpace ユーザーに対応しない ID を使用して、coSpace ユーザーを変更または削除しようとした。
databaseNotReady	データベースの準備が完了する前に、LDAP の同期を開始するなどの方法を試みました。
dialInSecurityProfileDoesNotExist	ダイヤルインセキュリティ プロファイルを変更、削除、または取得しようとしたが、この ID は有効なダイヤルインセキュリティ プロファイルに対応しません。（3.0 以降）
directorySearchLocationDoesNotExist	有効なディレクトリ検索ロケーションに対応しない ID を使用して、ディレクトリ検索ロケーションを参照、変更、または削除しようとした。
dtmfProfileDoesNotExist	有効な DTMF プロファイルに対応しない ID を使用して、DTMF プロファイルを参照、変更、または削除しようとした。
duplicateCallBridgeName	クラスタ化された Call Bridge を作成または変更して、既存の設定済みのクラスタ化された Call Bridge と競合する名前を使用しようとした。

理由コード	説明
duplicateCoSpaceId	別の coSpace で使用されているものと競合するコール ID を使用する coSpace コール ID を作成または変更しようとした。
duplicateCoSpaceUri	別の共有スペースに対応する URI と競合する URI を使用する共有スペースを作成または変更しようとした。 (Meeting Serverが着信コールを coSpace URI に一意に解決できなければならないため、2つの通信スペースが同じ URI を共有することはできません)。
duplicateCoSpaceIdPasscode	coSpace またはそのアクセス方法の1つですでに使用されている別のコール ID/パスコードと競合するコール ID/パスコードの組み合わせを使用して、coSpace の変更、または coSpace アクセスメソッドの作成または変更を試みました。
duplicateCoSpaceUriPasscode	共有スペースの変更、またはそのアクセス方法の1つで使用されている URI/パスコードの組み合わせと競合する URI/パスコードの組み合わせを使って、共有スペースのアクセス方法を作成または変更しようとした。
duplicateCoSpaceSecret	coSpace またはそのアクセス方法の1つですでに使用されているシークレットと競合するシークレットを使って、coSpace の変更、またはそのアクセス方法の作成または変更を試みました。
duplicateUserCoSpaceTemplate	同じ coSpace テンプレートを同じユーザーに2回指定しようとした (バージョン 2.9 以降)。
forwardingDialPlanRuleDoesNotExist	有効な転送ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して転送ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。
inboundDialPlanRuleDoesNotExist	有効な着信ダイヤルプランルールに対応しない ID を使用して着信ダイヤルプランルールを変更または削除しようとした。
inboundDialPlanRuleUriConflict	インバウンドのダイヤルプランルールに変更を加えようとした。変更すると URI の競合が発生します。 例えば、複数のテナントに一致するルールを追加しようとして、複数のテナントが同じ URI の coSpace を持つ場合、これが発生する可能性があります。

理由コード	説明
invalidOperation	サポートされていない操作を試みました。たとえば、次の相手に POST しようとしてしました。 <code>/api/v1/system/profiles</code> に POST を試みたか、LDAP 同期から生成された設定済みユーザーに対して DELETE を試みました。
無効な値	言語パラメータとして空の文字列または無効な文字を入力しました。
無効なバージョン	無効な API バージョンで操作を試みました。
ivrBrandingProfileDoesNotExist	システムの有効な IVR ブランディングプロファイルに対応しない ID を使用して、IVR ブランディングプロファイルオブジェクトを変更または削除しようとしてしました。
ivrDoesNotExist	システムの有効な IVR に対応しない ID を使用して、IVR オブジェクトを変更または削除しようとしてしました。
ivrNumberDoesNotExist	有効な IVR 番号 (バージョン 3.1 以降) に対応しない ID を使用して IVR 番号を変更、削除、または取得しようとしてしました。
ivrUriConflict	IVR オブジェクトに変更を加えようとしてしました。それにより URI の競合が発生する可能性があります。
layoutTemplateDoesNotExist	使用しているレイアウトテンプレートの ID が、システム上の有効なレイアウトテンプレート (バージョン 2.8 以降) に対応しない ID を変更、削除、または取得しようとしてしました。
layoutTemplateDescriptionTooLong	レイアウトテンプレートの詳細な説明を設定しようとしてしましたが、許容サイズを超えています (バージョン 2.8 以降)。
ldapMappingDoesNotExist	有効な LDAP マッピングに対応しない ID を使用して LDAP マッピングを変更または削除しようとしてしました。
ldapServerDoesNotExist	有効な LDAP サーバーに対応しない ID を使用して LDAP サーバーを変更または削除しようとしてしました。
ldapSourceDoesNotExist	有効な LDAP ソースに対応しない ID を使用して LDAP ソースを変更または削除しようとしてしました。
ldapSyncCannotBeCancelled	開始または完了した LDAP 同期をキャンセルしようとしてしました。キャンセルできるのは、まだ開始されていない LDAP 同期メソッドのみです。

理由コード	説明
ldapSyncDoesNotExist	ID が有効な LDAP 同期に対応していない LDAP 同期を照会またはキャンセルしようとした。
ldapUserCoSpaceTemplateSourceDoesNotExist	既存の LDAP ユーザー coSpace テンプレートソースエントリ（バージョン2.9以降）に対応しない ID を使用して削除または取得しようとした。
ldapUserProvisionedCoSpaceMappingDoesNotExist	有効な LDAP ユーザープロビジョニング coSpace マッピングに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニング coSpace マッピングを変更または削除しようとした。
ldapUserProvisionedCoSpaceSourceDoesNotExist	有効な LDAP ユーザープロビジョニング coSpace ソースに対応しない ID を使用して、LDAP ユーザープロビジョニング coSpace ソースを変更または削除しようとした。
loadBalancingDisabled	発信コールのロードバランシングが無効になっている Call Bridge グループで参加者を作成しようとした（バージョン 2.2 以降）。
maxNumberOfWebBridgeAddressesReached	すでに最大数のエントリが定義されている Web Bridge プロファイルに新しい Web Bridge アドレスを追加しようとした。追加するには、1 つを削除してください（バージョン 3.1 以降）。
maxNumberOfivrNumbersReached	すでに最大数のエントリが定義されている Web Bridge プロファイルに新しい IVR 番号を追加しようとした。追加するには、1 つを削除してください（バージョン 3.1 以降）。
messageDoesNotExist	有効な coSpace メッセージに対応しない ID を使用して coSpace メッセージを削除しようとした。
outboundDialPlanRuleDoesNotExist	使用している発信ダイヤルプラン規則を変更または削除しようとしたが、その ID は有効な発信ダイヤルプラン規則に対応しませんでした
パラメータエラー	リクエストの 1 つ以上のパラメータが無効です。パラメータとエラー値は、失敗の詳細を提供します。
参加者削除不可	削除できない参加者を削除しようとした。例えば、リモートホストの参加者です。

理由コード	説明
参加者変更不可	変更できない参加者（リモートデプロイメントでホストされている参加者など）を変更しようとした。
participantLimitReached	通話で許可されている最大数を超過して新しい参加者を追加しようとした。
passcodeTooShort	coSpace または coSpace アクセスメソッドへのパスコードを設定しようとしたが、その長さは有効なダイヤルインセキュリティプロファイルで指定されているパスコードの最小許容長に準拠していません。（3.0 以降）
recorderDoesNotExist	有効なレコーダーに対応しない ID を使用してレコーダーを変更または削除しようとした。
recordingNotAllowedByLicensing	正しいライセンスを持たずに録画を開始しようとした。（以前は recordingLimitReached）（3.0 以降）
retryAfter	テキストベースのミーティング参加情報を取得しようとしたが、サーバーが混雑しているか、外部でホストされているテンプレートを取得していました。 後で再試行するか、推奨される再試行後に再試行してください。 retryAfter 秒単位で指定します。
streamerDoesNotExist	有効なストリーマ（バージョン 2.1 以降）に対応しない ID を使用してストリーマを変更または削除しようとした。
streamingNotAllowedByLicensing	正しいライセンスを持たずにストリーミングを開始しようとした。（以前は streamingLimitReached）（3.0 以降）
tenantDoesNotExist	有効なテナントに対応しない ID を使用してテナントを変更または削除しようとした
tenantGroupCoSpaceIdConflict	テナントグループを削除または使用するリクエストにより、coSpace ID の競合が発生することになります。
tenantGroupDoesNotExist	変更、削除、または存在しないテナントグループを使用しようとした。
tenantParticipantLimitReached	所有するテナントに許可されている最大数を超える新しい参加者を追加しようとした。

理由コード	説明
tooManyCdrReceivers	最大数に達しているにも関わらず、新しい CDR 受信者を追加しようとした。現在、最大 2 つの CDR 受信者がサポートされています。
tooManyLdapSyncs	新しい LDAP 同期メソッドの作成に失敗しました。あとで再試行してください。ldapSyncs テーブルは 10 エントリに制限されていることに注意してください。エラーが引き続き発生する場合、古い完了済み ldapSync を削除してみてください。
unrecognisedObject	アクセスしている URI に認識されない要素があります。例えば、/api/v1/system/profile で GET を実行しようとした場合 (正しい) /api/v1/system/profiles
userCoSpaceTemplateDeletionProhibited	自動生成された共有スペーステンプレートをユーザーから取り消そうとしたが、許可されていません (バージョン 2.9 以降)。
userCoSpaceTemplateDoesNotExist	使用しているユーザー共有スペーステンプレートの ID を変更、削除、または取得しようとしたが、そのユーザーの有効なユーザー共有スペーステンプレートに対応しません (バージョン 2.9 以降)。
userDoesNotExist	有効なユーザーに対応しない ID を使用して、ユーザーを変更または削除しようとした。
userProfileDoesNotExist	有効なユーザープロフィールに対応しない ID を使用して、ユーザープロフィールを変更または削除しようとした。
valueTooLong	入力した言語パラメータが長すぎます。
userProvisionedCoSpaceDoesNotExist	有効なユーザープロビジョニング coSpace に対応しない ID を使用してユーザープロビジョニング coSpace をインスタンス化、変更、削除、または取得しようとした (バージョン 3.1 以降)。
webBridgeAddressDoesNotExist	有効な Web Bridge アドレス (バージョン 3.1 以降) に対応しない ID を使用して Web Bridge アドレスを変更、削除、または取得しようとした。
webBridgeProfileDoesNotExist	有効な Web Bridge プロファイルに対応しない ID を使用して、Web Bridge プロファイルを変更、削除、または取得しようとした。 (3.0 以降)

5 特定のメソッドに対するリクエストとレスポンスの例

5.1 現在アクティブな通話の取得

セクション 4.2 に説明されているように、GET を使用する取得メソッドには、取得者によって投稿された本文コンテンツはありません。リクエストが有効な場合、Meeting Server は XML 応答データを返します。

リクエスト：

```
GET /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n
Host: test.example.com\r\n
User-Agent: API コンソール\r\n
接続: キープアライブ\r\n
Authorization: Basic Ym9iOmJ1aWxkZXI=\r\n
\r\n
```

Response:

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml
Content-Length: 187
Connection: close
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<calls total="1">
<call id="527089d6-6581-4331-8417-971c05c9e274">
<name>Sales coSpace</name>
<coSpace>2dcf2b7a-3410-4066-b638-46273698d469</coSpace>
</call>
</calls>
```

5.2 新しい通話をインスタンス化して参加者を接続する

上で説明したように、生成メソッドに必要な任意のパラメータ（この場合は、リモートパーティのアドレス）は、フォームデータとして発行者によって提供される必要があります。リクエストが成功した場合、新しいオブジェクトに関する詳細が Meeting Server から [Location] ヘッダーフィールドで返されます。

1. フィルタリングされた coSpace の列挙を使用して「開発チーム」を検索します。

Request:

```
GET /api/v1/coSpaces?filter=Development%20Team HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
\r\n
```

Response:

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Content-Type: text/xml\r\n
Content-Length: 197\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
<?xml version="1.0"?>
<coSpaces total="1">
<coSpace id="581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3"><name>Development
Team</name><autoGenerated>>false</autoGenerated><uri>dev_
team</uri></coSpace>
</coSpaces>
```

2. 列挙応答で見つかった一致する coSpace 581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3 を使用して、coSpace からの呼び出しをインスタンス化します。

リクエスト :

```
POST /api/v1/calls HTTP/1.1\r\n Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n Content-Length: 44\r\n
\r\n
coSpace=581caae0-420a-43df-9a9e-f690c70e12d3
```

Response:

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
```

3. Call "/api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a" は正常にインスタンス化されました。新しくインスタンス化されたコールからのアウトバウンドコールとして参加者を作成します。

リクエスト :

```
POST /api/v1/calls/8867d8f1-0918-4653-b41e-7341200e277a/participants
HTTP/1.1\r\n
Host: 127.0.0.1\r\n
Content-Type: www-formurl-encoded\r\n Content-Length: 33\r\n
\r\n remoteParty=username1@example.com
```

Response:

```
HTTP/1.1 200 OK\r\n
Location: /api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac\r\n
Connection: close\r\n
\r\n
```

4. 参加者 "/api/v1/participants/2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac" が正常に作成されました。

6 coSpace 関連のメソッド

注：ウェブアプリおよび他の Cisco Meeting Server のガイドでは「coSpaces」ではなく「spaces」と記載していますが、API では依然として /coSpace オブジェクトを使用しています。ウェブ管理インターフェイスは、「spaces」を参照するように変更されました。

この章では、coSpaces の管理に関連する API メソッドについて詳述します。この章の内容：

- [coSpace を取得する](#)
- [coSpaces を作成、変更する](#)
- [単一の coSpace に関する詳細情報を取得する](#)
- [coSpace のメンバーを取得する](#)
- [coSpace メンバーを追加、変更する](#)
- [coSpace アクセス方法の取得](#)
- [coSpace アクセス方法の作成と変更](#)
- [coSpace から発信する](#)
- [coSpace を一括作成、更新、削除する](#)
- [coSpaces 診断](#)
- [coSpace テンプレートを使用する](#)
- [アクセスメソッドテンプレートを使用する](#)
- [coSpace のテキストベースの会議参加情報を取得する](#)
- [coSpace 上でメタデータを構成する](#)

6.1 coSpace を取得する

"/coSpaces" ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の coSpace を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する coSpace だけを返します。
tenantFilter	ID	tenantFilter=<tenant id> を指定して、そのテナントに関連付けられた coSpace のみを返すようにします。
callLegProfileFilter	ID	そのコールレグプロファイルを使用して、それらの coSpaces だけを返すために、callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定します。
spaceTag	文字列	タグの名前が付けられた特定の coSpace 。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大で 10 文字です。

レスポンスには、レスポンスで返される数に関係なく、提供されている場合にフィルターに一致する存在する coSpaces の総数が含まれます。（フィルタなしで、この値は設定された coSpaces の合計数です。）

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <coSpace> 要素を持つ最上位の <coSpaces total=" N" > タグとして構成されます。 <coSpace>要素は左側の一般的な形式に従います。
coSpace id	ID	開始タグで返される「ID」値は coSpace の一意の識別子であり、その coSpace の今後の変更/削除/クエリメソッドで使用できます。
名前	文字列	この coSpace のクライアントの UI に表示される人間が読める形式の名前です。最大 200 文字までです。
uri	文字列	SIP システムがこの通信スペースにダイヤルインするために使用する URI。URI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI は「.」や「-」で始まったり終わったりすることはできません。また、これらの文字を一緒にまたは連続して使用することはできません。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
セカンダリ URI	文字列	この coSpace のセカンダリ URI は、「uri」パラメータと同じ機能を持っていますが、coSpace に複数の URI を設定できます。secondaryURI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI の先頭または最後に「.」または「-」を使用することはできません。また、「.」と「-」を一緒に使用することはできません。
コール ID	番号 (Number)	ユーザーがこのコスペースに接続するために IVR で（またはウェブクライアント経由で）入力する数字の ID です。長さは 200 桁までです。
テナント	ID	提供されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこのテナントに関連付けます
autoGenerated	true false	この共有スペースが自動で追加されたか手動で追加されたか <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されました。このため、同期操作のパラメータを変更する以外に、削除することはできません。 ■ false : この coSpace は、API メソッド経由またはウェブアプリを使用して追加されています。API 経由で変更または削除できます
creationTime	文字列	スペースが作成された日時。選択したタイムゾーンに関係なく、協定世界時 (UTC) に基づいて yyyy-mm-dd hh:m-m:ss 形式で表示されます。
ownerJid	文字列	特定の Jid によって識別される coSpace の所有者。

6.2 coSpaces を作成、変更する

- 作成: "/coSpaces" ノードに対する POST メソッド。coSpace が正常に作成され、「200 OK」レスポンスを受信すると、「Location」ヘッダーに新しい coSpace の ID が含まれます。
- 「/coSpaces/<coSpace ID>」ノードの PUT メソッドを変更する

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
userProvisionedCoSpace	ID	ユーザーが提供する coSpace から新しい coSpace をインスタンス化します。このパラメータが存在する場合、他のすべてのパラメータは無視されます。(バージョン 3.1 以降)
名前	文字列	この coSpace でクライアントの UI に表示される人間が読める形式の名前です。最大長は 200 文字です。
uri	文字列	SIP システムがこの通信スペースにダイヤルインするために使用する URI。URI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI は「.」や「-」で始まったり終わったりすることはできません。また、これらの文字を一緒にまたは連続して使用することはできません。
セカンダリ URI	文字列	この coSpace のセカンダリ URI は、「uri」パラメータと同じ機能を持っていますが、coSpace に複数の URI を設定できます。secondaryURI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI は「.」や「-」で始まったり終わったりすることはできません。また、これらの文字を一緒にまたは連続して使用することはできません。
コール ID	番号 (Number)	ユーザーがこのコスペースに接続するために IVR で (またはウェブクライアント経由で) 入力する数字の ID です。このパラメータの最大長は 200 桁です。
cdrTag	文字列	CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式テキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		成されると、このタグが「cdrTag」として callStart CDR に書き込まれます。詳細については、「Cisco Meeting Server CDR リファレンス」を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。
パスコード	数値	coSpace のセキュリティコード。パスコードの最小許容文字数: 空欄または 8 桁から 63 桁8 桁から 63 桁 (8 と 63を含む)。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine 自動 onePlusN	この coSpace では、新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API とウェブ管理インターフェイスの名前付けの違いについては、「 デフォルトのレイアウトオプション 」を参照してください。空白の場合、これに関連付けられた /callLegProfile の設定が使用されます。coSpace が使用されます。
テナント	ID	提供されている場合、指定されたテナントをこの仮想スペースに関連付けます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callBrandingProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールブランディング プロファイルをこの coSpace に関連付けます
lobbyProfile	ID	提供されている場合、指定されたロビープロファイルをこの coSpace に関連付けます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこのコスペースに関連付けます (3.0 以降)
requireCallId	true false	この値が true として提供され、コスペースにコールIDが指定されていない場合、新しく自動生成されたコール ID が割り当てられます。
secret	文字列	提供されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。セキュリティ文字列が指定されていない場合、coSpace に callId 値がある場合には、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、共有スペースへのゲスト アクセスの callId で提供される必要がある、共有スペースに関連付けられたセキュリティ値です。
regenerateSecret	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true として提供される場合：coSpace に対して新しいセキュリティ値が生成され、以前の値は無効になります (例えば、それを含むハイパーリンクが機能しなくなります) • false として提供される場合：coSpace の新しいシークレット値を生成しません。これによる影響はありません。 <p>このパラメータは、変更 (PUT) の場合にのみ有効です。</p>
nonMemberAccess	true false	coSpace のメンバー以外が coSpace にアクセスできるかどうかを制御します。提供されない場合、動作はデフォルトで true になります。(バージョン 2.0 以降)
ownerJid	文字列	coSpace が指定された JID を持つユーザに所有されていることを示します。(バージョン 2.0 以降)。
streamUrl	URL	ストリーミングが開始された場合、coSpace がストリーミングされる先を示します。(バージョン 2.1 以降)。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ownerAdGuid	ID	提供される場合、coSpace は指定された AD GUID を持つユーザーによって所有されます。 (バージョン 2.1 以降)。
meetingScheduler	文字列	この coSpace の作成をスケジュールした人 (ユーザーである必要はありません) の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとして任意の呼び出しオブジェクトに伝播されます。 (バージョン 2.2 以降)。
panePlacementHighestImportance	番号 (Number)	panePlacementHighestImportance が指定されている場合、ペインの配置がこの coSpace で有効になります。有効な重要度の範囲は、「最高重要度」から 1 までになります。(バージョン 2.4 以降)
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>ペインの配置が有効になっている場合、エンドポイント自身のレイアウトペインを表示する際の、この coSpace のレイアウトの動作を定義します。(バージョン 2.7 以降)</p> <p>skip : 2.7 バージョン以前の動作と同じですが、システム自体の重要度を表示するためのペインをレイアウトに含めません (デフォルト)。</p> <p>セルフ - エンドポイントのビデオを自分自身に映し出します</p> <p>blank : エンドポイントのビューアに、他の参加者が彼らをどこで見るかを示すために、空白のペインを残します。</p> <p><unset> : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance の値セットを使用する</p> <p>panePlacementHighestImportance on /calls が設定されていない場合、 panePlacementHighestImportance</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>on /coSpace (スペースへの通話の場合) に設定されている値を使用し、</p> <p>panePlacementHighestImportance on /coSpace も設定されていない場合、上で定義されたスキップ動作に戻ります。</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されています。</p>
defaultAccessMethod	ID ""	指定されたアクセス方法を、ダイヤルアウトに使用する既定のアクセス方法として関連付けます。
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<ul style="list-style-type: none"> allowself : 参加者が発言者である場合、最初のペインに参加者が表示されます。さらに、ペイン配置で設定されたペインでも参加者が表示されます。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself : 発言者以外の全ての参加者に対して、最初のペインに発言者が表示されます。アクティブな発言者について、前の発言者が最初のペインに表示されます。 なし - 機能は無効です。
spaceTag	文字列	タグの名前が付けられた特定の coSpace 。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大で 10 文字です。

注 : この PUT を使用して、ウェブアプリで作成された coSpace の値を変更することもできます。例えば、coSpace はそれを作成したユーザーの cdrTag で作成されますが、その値は API 呼び出しで変更できます。(これは、API 呼び出しで更新できない自動生成された coSpace の cdrTag とは異なります。)

既定のレイアウトオプション

defaultLayout オプションの名前は、API とウェブ管理者インターフェイスとの間で異なります [設定 (Configuration)] > [coSpaces] ページ。「マッピング」を下の表に示します。

API	Web 管理インターフェイス
allEqual	all equal
speakerOnly	フルスクリーン
telepresence	オーバーレイ (最大発言者は大きなペインに表示され、以前のいくつかの発言者は最大発言者のペインの下部にオーバーレイされる小さなペインに表示されます。)
stacked	積み重ね表示 (最大発言者のペインが大きいペインに表示され、以前のいくつかの発言者が、最大発言者のペインの下の小さいペインに表示されます)

6.2.1 セカンダリ coSpace URI

上記のように、coSpace ごとにオプションの secondaryUri パラメータがあります。これにより柔軟性が高まります。例えば、名前に加えて数字ダイヤルが可能です。

- coSpace (前のセクションを参照) を作成または変更する場合、上の表のフォームパラメータに加えて、secondaryUri パラメータを指定できます (例 : uri)
- セカンダリ URI は、URI と同じ方法で有効性と一意性がチェックされ、有効な場合は、coSpace に到達するための新しい URI を確立します。
- 個別の coSpace (以下を参照) の情報を取得する場合、この coSpace に定義されている場合は、secondaryUri 値が返されます。
- secondaryUri は、新しい LDAP マッピングパラメータが使用される場合、LDAP 同期中に自動的に作成されます。「[coSpaceSecondaryUri マッピング](#)」を参照してください。

6.2.2 coSpace callId の自動生成

新しい自動生成 callId は、「requireCallId=true」がcoSpaceの作成 (POST) または変更 (PUT) メソッドによって設定され、その coSpace で callId が現在指定されていない場合に割り当てられます。

6.3 単一の coSpace に関する詳細情報を取得する

「/coSpaces/<coSpace ID>」ノードで GET メソッドが実行されます。指定された coSpace ID が有効な場合、「<coSpace id=<ID>」を含む「200 OK」レスポンスを受信します。上記の [作成と変更](#) のケースに記載されているデータを含む「<coSpace id=<ID>」オブジェクトが含まれています。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	この coSpace でクライアントの UI に表示される人間が読める形式の名前です。最大長は 200 文字です。
uri	文字列	SIP システムがこの通信スペースにダイヤルインするために使用する URI。URI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI は「.」や「-」で始まったり終わったりすることはできません。また、これらの文字を一緒にまたは連続して使用することはできません。
セカンダリ URI	文字列	この coSpace のセカンダリ URI は、「uri」パラメータと同じ機能を持っていますが、coSpace に複数の URI を設定できます。secondaryURI は、次の基準で最大 200 文字の英数字を含むことができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 使用できる特殊文字は「.」、「-」、「_」のみです。 • URI は「.」や「-」で始まったり終わったりすることはできません。また、これらの文字を一緒にまたは連続して使用することはできません。
callId	番号 (Number)	ユーザーがこのコスペースに接続するために IVR で (またはウェブクライアント経由で) 入力する数字の ID です。このパラメータの最大値は 200 桁です。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
cdrTag	文字列	CDR でこの coSpace を識別するための最大 100 文字の自由形式テキスト。この coSpace に関連付けられたコールに対して「callStart」CDR が生成されると、このタグが「cdrTag」として callStart CDR に書き込まれます。詳細については、「Cisco Meeting Server CDR リファレンス」を参照してください。cdrTag は PUT メソッドで変更できます。
パスコード	数値	coSpace のセキュリティコード。パスコードの最小許容文字数: 空欄または 8 桁から 63 桁8 桁から 63 桁 (8 と 63を含む)。3.12.1 以降。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	この coSpace では、新しいコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。API とウェブ管理インタフェースの名前の違いについては、 デフォルトレイアウトオプション を参照してください。
テナント	ID	提供されている場合、指定されたテナントをこの仮想スペースに関連付けます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます
lobbyProfile	ID	提供されている場合、指定されたロビープロファイルをこの coSpace に関連付けます。
callBrandingProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールブランディング プロファイルをこの coSpace に関連付けます
autoGenerated	true false	これは、coSpace が LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されたかどうかを示します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpace は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されました。このため、同期操作のパラメータを変更する以外に、削除することはできません。 ■ false : この coSpace は、API メソッド経由またはウェブアプリを使用して追加されています。API 経由で変更または削除できます
nonMemberAccess	true false	共有スペースの非メンバーが共有スペースへのアクセスを持つことができるかどうか、提供されない場合、動作はデフォルトで true になります。 (バージョン 2.0 以降)
numAccessMethods	番号 (Number)	この共有スペースに追加のアクセス方法が定義されている場合、この共有スペースに対する追加のアクセス方法の数を返します。
secret	文字列	提供されている場合、この coSpace のセキュリティ文字列を設定します。セキュリティ文字列が指定されていない場合、coSpace に callId 値がある場合には、セキュリティ文字列が自動的に選択されます。これは、共有スペースへのゲスト アクセスの callId で提供される必要がある、共有スペースに関連付けられたセキュリティ値です。
所有者 ID	ID	coSpace が指定された GUID を持つユーザに所有されていることを示します。(バージョン 2.0 以降)。
ownerJid	文字列	coSpace が指定された JID を持つユーザに所有されていることを示します。(バージョン 2.0 以降)。
ストリーム URL	URL	ストリーミングが開始された場合、coSpace がストリーミングされる先を示します。(バージョン 2.1 以降)。
meetingScheduler	文字列	この coSpace の作成をスケジュールした人(ユーザーである必要はありません)の名前。設定されている場合、「ownerName」フィールドとし

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		て任意の呼び出しオブジェクトに伝播されます。 (バージョン 2.2 以降)。
panePlacementHighestImportance	番号 (Number)	ペインの配置がこの特定の coSpace で有効になります。有効な重要度の範囲は、「最高重要度」から 1 までになります。(バージョン 2.4 以降)
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>この coSpace でセルフペインモードが有効かどうかを示します。(バージョン 2.7 以降)</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じですが、ビューアごとの基準では、画面レイアウトは自分のペインをスキップし、次の重要な参加者のペインを表示します (デフォルト)。</p> <p>空欄 : 重要な参加者を表示する代わりに空欄のペインを残します。重要な参加者には、他のすべてのビューアと同じペイン位置に他の参加者が表示されます。</p> <p><unset> : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance の 値セットを使用する</p> <p>panePlacementHighestImportance on /calls が設定されていない場合、 panePlacementHighestImportance on /coSpace (スペースへの通話の 場合) に設定されている値を使用 し、</p> <p>panePlacementHighestImportance on /coSpace も設定されていない場 合、上で定義されたスキップ動作に 戻ります。</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されています。</p>
defaultAccessMethod	ID ""	ダイヤル アウトに使用される既定のアクセス方法。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<p>発言者がこのミーティングスペースに表示されるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> allowself : 参加者が発言者である場合、最初のペインに参加者が表示されます。さらに、ペイン配置で設定されたペインでも参加者が表示されます。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself : 発言者以外の全ての参加者に対して、最初のペインに発言者が表示されます。アクティブな発言者について、前の発言者が最初のペインに表示されます。 なし - 機能は無効です。
spaceTag	文字列	<p>タグの名前が付けられた特定の coSpace。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大で 10 文字です。</p>

6.3.1 特定の coSpace のエン트리詳細を取得する

2.1 から、「meetingEntryDetail」ノードが追加され、特定の共有スペースミーティングのエントリの詳細を取得できるようになりました。 /coSpaces/<coSpace id>/meeting EntryDetail で GET を実行します。

応答の値は uri と callId です。

6.4 coSpace のメンバーメソッド

6.4.1 coSpace のメンバーを取得する

" /coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers" ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	<p>URI に filter=<string> を指定して、フィルタに一致する coSpace ユーザのみを返します。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の coSpace を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<ID> を指定して、そのコールレグプロファイルを使用するメンバーだけを返します。

応答には、応答で返される数に関係なく、フィルターに一致するクエリされた coSpace に設定されている coSpace ユーザの合計数が含まれます。(フィルタなしでは、この値は coSpace に関連付けられたユーザの合計数です。)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは最上位レベルとして構成されています <coSpaceUsers total=" N" >タグ中に複数の <coSpaceUser> 要素を含む場合があります。 <coSpaceUser>要素は左側の一般的なフォームに従います。
coSpaceUser id	ID	<coSpaceUser>要素は固有の ID を持ち、ユーザの ID も含みます。
userJid	文字列	ユーザの XMPP ID です。
userId	ID	どの coSpace 関連付けにも関係のないユーザーを識別します。「coSpaceUser」オブジェクトの ID と同じ場合も同じでなくてもかまいません。
autoGenerated	true false	この coSpace ユーザーが自動的に追加されたか、または手動で追加されたか <ul style="list-style-type: none"> ■ true : この coSpaceUser は LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されています。このため、同期操作のパラメータを変更する以外に、削除することはできません。 ■ false : この coSpaceUser は、API メソッド経由またはウェブアプリを使用して追加されています。API 経由で変更または削除できます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
canDestroy	true false	このユーザーに coSpace の削除を許可するかどうか。
canAddRemoveMember	true false	このユーザーが coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。
canChangeName	true false	このユーザーに coSpace の名前の変更を許可するかどうかを示します。
canChangeUri	true false	このユーザーに coSpace の URL の変更を許可するかどうかを示します。
canChangeCallId	true false>	このユーザーに coSpace の コール ID を許可するかどうかを示します。
canChangePasscode	true false	このユーザに仮想スペースのパスコードの変更を許可するかどうか
canRemoveSelf	true false	このユーザが coSpace から自分自身を削除できるかどうか
canChangeNonMemberAccessAllowed	true false	(3.0 で廃止) このユーザーがコスペースの「メンバー以外のアクセス許可設定」を変更できるかどうか。

6.4.2 coSpace メンバーの追加と変更

- 追加 : /coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers」 ノードへの POST メソッド
- 修正 : 「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>」 ノードで実行される PUT メソッド。変更できるパラメータを以下に示します（「userJid」を除く。）

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
userJid *	文字列	メンバーとして追加されるユーザーのJIDは
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます
lobbyProfile	ID	提供されている場合、指定されたロビープロファイルをこの coSpace ユーザーに関連付けます。
		これらのパラメータはすべてオプションであり、POST 操作で指定されない場合はデフォルト値として false が

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		設定されます。権限に関する注記も併せてご確認ください。
canDestroy	true false	このユーザーに coSpace の削除を許可するかどうか。
canAddRemoveMember	true false	このユーザーが coSpace の他のメンバーを追加または削除できるかどうか。
canChangeName	true false	このユーザーに coSpace の名前の変更を許可するかどうかを示します。
canChangeUri	true false	このユーザーに coSpace の URL の変更を許可するかどうかを示します。
canChangeCallId	true false	このユーザーに coSpace の コール ID を許可するかどうかを示します。
canChangePasscode	true false	このユーザーに仮想スペースのパスコードの変更を許可するかどうか
canRemoveSelf	true false	このユーザーが coSpace から自分自身を削除できるかどうか
canChangeNonMemberAccessAllowed	true false	(3.0 で廃止) このユーザーがコスペースの「メンバー以外のアクセス許可設定」を変更できるかどうか。
canChangeScope	true false	このユーザーが coSpace のアクセス方法の範囲を変更できるかどうかを示します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。

メンバーが正常に追加された場合、「200 OK」応答が受信され、応答の「Location」ヘッダーに新しいユーザ ID が含まれます。

coSpace のパーミッション

canAddRemoveMember が true に設定されているメンバーは、ウェブ アプリから他のユーザーを coSpace のメンバーとして追加できます。新しいメンバーは、元のメンバーが canRemoveSelf を false に設定している場合を除き、自分を追加したメンバーと同一の権限を持ちます。

(canRemoveSelf で制御) coSpace から自分自身を削除できないメンバーは、自分のメンバーシップを削除するために 2 番目のメンバーを作成できてはなりません。

そのため、この状況で別のメンバーがウェブアプリから作成したメンバーは、`canAddRemoveMember` が `false` に設定され、`canRemoveSelf` が `true` に設定されます（下表を参照）。その他のすべての権限は、元のメンバーからコピーされます。

元のユーザ権限		作成されたユーザーの権限		注記
<code>canAddRemoveMember</code>	<code>canRemoveSelf</code>	<code>canAddRemoveMember</code>	<code>canRemoveSelf</code>	
False	該当なし	該当なし	該当なし	別のユーザを追加できない
True	True	True	True	すべての権限がコピーされます
True	False	False	True	その他のすべての権限をコピー。

API を使用すると、より柔軟性が高まります。自分では削除できないメンバーでも、別のメンバーによって削除される特定のメンバーを含む coSpaces を作成できます。メンバーは常に API 経由で削除できます。

自動生成されたメンバー（LDAP同期により作成されたメンバー）には自動生成された権限があります。これは、次の LDAP 同期で上書きされる変更を許可することは意味がないからです。そのため、これらのユーザーに対しては、パラメータ `canDestroy`、`canChangeName`、`canChangeUri`、`canChangeCallId`、および `canRemoveSelf` が常に `false` に設定されます。他の「can」パラメータは `True` に設定されます。自動生成されたメンバーに対して API を使ってこれらの設定を変更すると、一時的な効果しかなく、次の LDAP 同期で上書きされることに注意してください。メンバーが自動生成されているかどうかを確認できます。次のセクションを参照してください。

権限の既定設定の概要については、次の表を参照してください。

権限	coSpace の作成者:		
	web app	LDAP 同期	API
<code>canDestroy</code>	true	フォルス	フォルス
<code>canAddRemoveMember</code>	true	true	フォルス
<code>canChangeName</code>	true	フォルス	フォルス
<code>canChangeUri</code>	true	フォルス	フォルス
<code>canChangeCallId</code>	true	フォルス	フォルス

権限	coSpace の作成者:		
	web app	LDAP 同期	API
canChangePasscode	true	true	フォルス
canRemoveSelf	true	フォルス	フォルス
(3.0 で非推奨)	true	フォルス	true
canChangeNonMemberAccessAllowed			

6.4.3 coSpace メンバーの情報を取得する

「/coSpaces/<coSpace ID>/coSpaceUsers/<coSpaceUser ID>」ノードで実行される GET メソッド。取得が有効である場合、「200 OK」レスポンスが受信され、単一のものを含まず。<coSpaceUser id=<ID>> オブジェクトには、[場合の作成および変更](#) に上記で説明したデータが含まれます。加えて

- autoGenerated 値は、coSpace メンバーが LDAP 同期操作の一部として coSpace に自動的に追加されたかどうかを示します。
- canChangeScope は、このユーザが coSpace のアクセス方法の範囲を変更できるかどうかを示します。

6.5 複数の coSpace アクセス方法

6.5.1 一般情報

関連するオブジェクト テーブルが 2 つあります。

- coSpace ごとのアクセス方法、「/coSpaces/<cospace ID>/accessMethods [/<accessMethod ID>]」
- 通話レグプロファイル、「/callLegProfiles/<callLegProfile ID>」。

coSpace ごとのアクセス方法

アクセスメソッドは、coSpace にアクセスするために使用できる URI、パスコード、callId、シークレットの組み合わせを定義します。

オプションで、アクセス メソッドには callLegProfile を関連付けることができます。このようなアクセス メソッドを介して参加するすべてのコール レッグには、そのコール レッグ プロファイルが適用されます。アクセスメソッドにコールレッグプロファイルがないが、coSpace にはある場合、その場合、coSpaceのコールもコールレッグプロファイルを持つ。

注: Web アプリから 1 人以上のユーザに coSpace またはアクティブな通話に参加するための電子メール招待状を送信する場合、URI、パスコード、callId、シークレットの 1 セットのみが含まれます。条件アクセス方法の範囲フィールドがパブリックに設定されている場合、この情報が使用されます。パブリック スコープを持つアクセス方法がない場合、coSpace 自身の設定からの呼び出し情報が含まれます。

コールレッグプロファイル

コール レッグ プロファイルは、coSpace オブジェクトと関連付けることができ、その coSpace内のすべてのコール レッグのデフォルトのコール レッグ プロファイルにすることができます (たとえば、設定された URI および [セカンダリURI](#) 経由で接続するコール レッグなど)。coSpace コール レッグ プロファイルの効果は、追加の coSpace アクセス方法に対して設定されたコール レッグ プロファイルを介して課されるより具体的なオーバーライドによって、引き続きオーバーライドできます。[コールレッグプロファイルの方法](#) セクションを参照してください。

6.5.2 coSpace アクセス方法の取得

"/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/" ノードの GET メソッドについて。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する coSpace アクセスメソッドだけを返します。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の coSpace を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
callLegProfileFilter	ID	callLegProfileFilter=<ID> を提供します。そのコール レッグ プロファイルを使用して、coSpaces の accessMethods だけを返す

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
accessMethod id	ID	レスポンスは " <code><accessMethod id=<access メソッド id>></code> " のコレクションで、" <code><accessMethods></code> " オブジェクトに含まれます。 <code><accessMethod></code> 要素は左側の一般的な形式に従います。
uri	文字列	このアクセス方法によるダイヤルインに使用される URI です。これには、最大 200 文字を使用できます。
callId	ID (番号)	このアクセス方法 (IVR または Web Bridge ログインを使用) での接続に使用される「コール ID」。callId の最大長は200桁までです。
パスコード	数値	アクセス方法のセキュリティコード。パスコードの最小許容文字数: 空欄または 8 桁から 63 桁8 桁から 63 桁 (8 と 63を含む)。3.12.1 から。
callLegProfile	ID	このアクセス方法を経由して呼び出される通話に適用するコールレグプロファイルのIDです。

6.5.3 coSpace アクセス方法の作成と変更

- 作成: "`/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods`" ノードへの POST メソッド
- "`/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access メソッド id>`" ノードを変更する: PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uri	文字列 (URIのユーザーパート)	このアクセス方法によるダイヤルインに使用される URI です。 (URIのユーザーパートは、完全な URI の '@' 文字の前の部分です。) これには、最大 200 文字を使用できます。
コール ID	ID (番号)	このアクセス方法を経由して接続するために使用される「コール ID」 (IVR または Web Bridge ログインを使用)。長さは 200 桁までです。
パスコード	数値	アクセス方法のセキュリティコード。パスコードの最小許容文

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		字数: 空欄または 8 桁から 63 桁 8 桁から 63 桁 (8 と 63 を含 む)。3.12.1 以降。
名前	文字列	このアクセス方法に関連付けら れた名前です (バージョン 2.9 以 降)。これには、最大 200 文字 を使用できます。
callLegProfile	ID	このアクセス方法を経由して呼 び出される通話に適用するコー ルレグプロファイルの ID です。
lobbyProfile	ID	このアクセス方法に適用される ロビープロファイルの ID です。
secret	文字列	提供されている場合、この coSpace アクセス方法のセキュ リティ文字列を設定します。セ キュリティ文字列が指定されて いない場合、coSpace に callId 値がある場合には、セキュリテ ィ文字列が自動的に選択されま す。これは、このアクセス方法 を介した coSpace へのゲストア クセスのために callId と共に提供 される必要がある、coSpace ア クセス方法に関連付けられたセ キュリティ値です。
regenerateSecret	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true – この coSpace アクセ ス方法に対して新しいセキュ リティ値が生成され、以前の 値は有効ではなくなります (例えば、それを含むハイパー リンクが機能しなくなります) • false – この coSpace アクセ ス方式の新しいシークレット 値を生成しません。これによ る影響はありません。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		このパラメータは変更 (PUT) の場合にのみ有効です。
scope	公開 プライベート メンバー ディレクトリ	<p>coSpaceのメンバーであるウェブアプリのユーザーへのこのcoSpaceアクセス方法の可視性:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 公開 – この共有スペースアクセス方法の詳細は、共有スペースのメンバーとミーティングのすべての参加者に表示されます ■ プライベート – このcoSpaceアクセス方法の詳細は、スペースの所有者にのみウェブアプリで表示されるか、またはCall Bridge API を使用して管理ユーザに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインが追加されることはありません。 ■ メンバー – このcoSpaceアクセス方法の詳細はcoSpaceのメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降) ■ バージョン 3.1 以降、ディレクトリ – このcoSpaceへのアクセス方法の詳細は、検索で確認できます [メモ: 3.1 では検索がないため、動作は公開と同じです] <p>メモ: 範囲を 公開 に設定すると、ウェブアプリは coSpace の詳細を編集できなくなります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		また、名前の下に表示される URI はアクセス方法のものです。
importance	番号 (Number)	このアクセス方法経由で参加するすべての参加者に割り当てられる重要性の値。最大値は 2,147,483,647 です。(バージョン2.4)
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイルをこの coSpace アクセス方式に関連付けます (3.0 以降)

coSpace アクセス方式が正常に作成されると、「200 OK」応答が受信され、応答の「Location」ヘッダーに新しい coSpace アクセス方式 ID が含まれます。

6.5.4 個別の coSpace アクセス方式に関する情報を取得する

"/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access メソッド id>" ノードを変更する: GET メソッド

指定されたアクセス方式 ID が有効な場合、「200 OK」の応答と単一の <accessMethod id=アクセス方式 ID> の応答が返されます。オブジェクトは前のセクションのデータと共に返されます。

6.6 coSpace から発信する

coSpace にリモート参加者を追加するには、接続を確立できるアクティブな通話がこの coSpace に存在する必要があります。基本的に、これにより、coSpace からの最初の呼び出しが、他の2つのAPIメソッドの組み合わせになります。

1. 新しい通話の作成。
2. 新しい発信コールレグをコールに追加する。

これらの方法については [セクション 8](#)。

6.7 coSpaces の一括作成、更新、削除

6.7.1 /cospaceBulkParameterSets を作成する

- 作成中: 「/cospaceBulkParameterSets」ノードにPOST メソッドを作成します。新しいパラメータセットを作成します。下の表を参照してください。新しいパラメータセットの場所を返します /cospaceBulkParameterSets/<バルクパラメータセット GUID>
- 変更: 「/cospaceBulkParameterSets」ノードにPUT メソッドを変更します。このパラメータセット内のパラメータを更新しますが、有効にするには同期化が必要です。

パラメータ	タイプ	説明
startIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが開始するインデックス (両端を含む)
endIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが終了するインデックス (両端を含む)
coSpaceUriMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を示すマッピングです。設定されていない場合、coSpace はダイヤル可能な URI を持ちません。</p> <p>シンタックス</p> <pre>uri-mapping = [uri-component] [" \$index\$"] [uri-component]</pre> <p>ここで:</p> <pre>uri-component = *(uri-character / escaped-character)</pre> <pre>uri-character = *('@' を除く unescaped-character)</pre> <pre>unescaped-character = '\$' および '\' を除く任意の文字</pre> <pre>escaped-character = "\\\" / "\\$\" ; それぞれ '\' と '\$' を生成します。</pre> <p>これらは一意である必要があるため、インデックスが使用されていない場合、フィールドが完全に空のままでない限り、クラッシュが発生します。</p>
coSpaceNameMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成されたスペースに使用される名前を記述するマッピングです。</p> <p>シンタックス</p>

パラメータ	タイプ	説明
		<p>name-mapping = [name-component] [" \$index\$"] [name-component]</p> <p>ここで:</p> <p>name-component = *(unescaped-character / escaped-character)</p> <p>unescaped-character = 任意の文字 '\$' および '\' を除く。</p> <p>これはそれぞれ '\' と '\$' を生成します。</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p>
coSpaceCallIdMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用されるコール ID を示すマッピングです。設定されていない場合、coSpace は callId を持ちません。</p> <p>シンタックス</p> <p>id-mapping = [id-component] [" \$index\$"] [id-component]</p> <p>ここで:</p> <p>name-component = *(unescaped-character / escaped-character)</p> <p>unescaped-character = 任意の文字 '\$' および '\' を除く。これはそれぞれ '\' と '\$' を生成します。</p> <p>これらは一意である必要があるため、インデックスが使用されていない場合、フィールドが完全に空のままでない限り、クラッシュが発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p>
テナント	ID	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。</p>
callProfile	ID	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールプロファイルです。設定されていない場合、coSpace は通話プロファイルに関連付けられません。</p>
callBrandingProfile	ID	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロファイルです。設定されていない場合、coSpace は通話ブランディングプロファイルと関連付けられません。</p>
nonMemberAccess	true false	<p>非メンバーが一括作成された coSpaces にアクセスできるかどうか。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、既定値は「true」になり、メンバー以外でも coSpace にアクセスできます。</p>

6.7.2 coSpaces を一括作成するためのパラメータセットを取得する

" /cospaceBulkParameterSets " ノードの GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素を持つ最上位の <cospaceBulkParameterSets total="N"> タグとして構成されます。 <cospaceBulkParameterSet>要素は左側の一般的な形式に従います。
startIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが開始するインデックス (両端を含む)
endIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが終了するインデックス (両端を含む)

6.7.3 個々の /cospaceBulkParameterSet に関する情報を取得する

" /cospaceBulkParameterSets/<coSpace 一括パラメータセット ID>" の GET メソッドノード

パラメータ	タイプ	説明
		レスポンスは、複数の <cospaceBulkParameterSet> 要素を持つ最上位の <cospaceBulkParameterSets total="N"> タグとして構成されます。 各 <cospaceBulkParameterSet>要素には次の要素を含めることができます。
startIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが開始するインデックス (両端を含む)
endIndex	番号 (Number)	coSpace マッピングが終了するインデックス (両端を含む)
coSpaceUriMapping	文字列	指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を示すマッピングです。設定されていない場合、coSpace はダイヤル可能な URI を持ちません。 シンタックス uri-mapping = [uri-component] [" \$index\$"] [uri-component] ここで: uri-component = *(uri-character / escaped-character) uri-character = *('@' を除く unescaped-character) unescaped-character = '\$' および '\' を除く任意の文字 escaped-character = "\\\" / "\\$\" ;それぞれ '\' と '\$' を生成します。

パラメータ	タイプ	説明
		これらは一意である必要があるため、インデックスが使用されていない場合、フィールドが完全に空のままでない限り、クラッシュが発生します。
coSpaceNameMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用される URI を示すマッピングです。</p> <p>シンタックス</p> <pre>name-mapping = [name-component] [" \$index\$"] [name-component]</pre> <p>ここで:</p> <pre>name-component = *(unescaped-character / escaped-character)</pre> <p>unescaped-character = 任意の文字 '\$' および '\' を除く。これはそれぞれ '\' と '\$' を生成します。</p> <p>これらは一意である必要はありません。</p>
coSpaceCallIdMapping	文字列	<p>指定されている場合、これは、この cospaceBulk パラメータセットを使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に使用されるコール ID を示すマッピングです。設定されていない場合、coSpace は callId を持ちません。</p> <p>シンタックス</p> <pre>id-mapping = [id-component] [" \$index\$"] [id-component]</pre> <p>ここで:</p> <pre>name-component = *(unescaped-character / escaped-character)</pre> <p>unescaped-character = 任意の文字 '\$' および '\' を除く。これはそれぞれ '\' と '\$' を生成します。</p> <p>これらは一意である必要があるため、インデックスが使用されていない場合、フィールドが完全に空のままでない限り、クラッシュが発生します。</p> <p>CallIdMapping が設定されている場合、シークレットは自動生成されます。</p>
テナント	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるテナントです。設定されていない場合、coSpace はテナントに関連付けられません。
callProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコール

パラメータ	タイプ	説明
		プロフィールです。設定されていない場合、coSpace は通話プロフィールに関連付けられません。
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、これは、この cospaceBulkParameterSet を使用して、/cospaceBulkSync で作成された coSpace に関連付けられるコールブランディングプロフィールです。設定されていない場合、coSpace は通話ブランディング プロファイルと関連付けられません。
nonMemberAccess	true false	非メンバーが一括作成されたcoSpacesにアクセスできるかどうか。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、既定値は「true」になり、メンバー以外でも coSpace にアクセスできます。

6.7.4 一括同期操作をキューする

- 作成: "/cospaceBulkSyncs" ノードへの POST メソッド。すぐに実行できるように一括同期操作をキューに追加します。ロケーション /cospaceBulkSync/<一括同期 GUID>

メモ: 一括同期は、startIndex と endIndex (両端を含む)の間で繰り返し、マッピング部分を拡張して挿入します。

- 変更: "/cospaceBulkSyncs" ノードへの PUT メソッドはサポートされていません。

パラメータ	タイプ/値	説明
cospaceBulkParameterSet	ID	同期されることになるパラメータセットの GUID
removeAll	true false	指定されている場合、そのパラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期で削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除する必要がある場合にのみ使用されます。True に設定すると、スペースは作成されません。False に設定するか、省略すると、このパラメータセットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。

6.7.5 一括同期操作を取得する

" /cospaceBulkSyncs " ノードの GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
cospaceBulkParameterSet 状態	ID pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed	<p>レスポンスは最上位レベルとして構成されています</p> <p><cospaceBulkSyncs total="N"> タグは、複数の <cospaceBulkSync> 要素を含む可能性があります。</p> <p><cospaceBulkSync>要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータ セット</p> <p>同期操作の状況:</p> <p>保留中 - 同期操作はキューにあり、実行待ちです</p> <p>実行中 - 同期処理は現在実行中です</p> <p>完了 - 同期操作は正常に完了しました 失敗したCoSpaceUriの競合 - 同期に失敗しました。既存の統一リソース識別子と競合する統一リソース識別子を作成する必要があるためです。 失敗したCallIdの競合 - コールIDの作成が必要になるため、同期に失敗しました。すでに存在するものと重複しています 失敗したIndex範囲無効 - 「開始インデックス」が「終了インデックス」より大きいため、同期に失敗しました。</p> <p>failedIndexRangeTooGreat - 「endIndex」と「startIndex」の差が大きすぎるため、同期に失敗しました。 failedNoSuchParameterSet - 同期コマンドで参照された「cospaceBulkParameterSet」は存在しませんでした。</p> <p>失敗 - 同期操作に失敗しました</p>
removeAll	true false	<p>指定されている場合、そのパラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期で削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除する場合にはのみ使用されます。 True に設定すると、スペースは作成されません。 False に設定す</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>るか、省略すると、このパラメータ セットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。</p>

6.7.6 具体的な一括同期操作を取得する

" /cospaceBulkSyncs/<coSpace bulk sync id>" ノードの GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
<p>cospaceBulkParameterSet</p> <p>状態</p>	<p>ID</p> <p>pending running complete failedCoSpaceUriConflict failedCallIdConflict failedIndexRangeInvalid failedIndexRangeTooGreat failedNoSuchParameterSet failed</p>	<p>レスポンスは最上位レベルとして構成されています</p> <p><cospaceBulkSyncs total="N"> タグは、複数の <cospaceBulkSync> 要素を含む可能性があります。</p> <p><cospaceBulkSync>要素は、左側の一般的な形式に従います。</p> <p>この一括同期に使用されたパラメータ セット</p> <p>同期操作の状況:</p> <p>保留中 - 同期操作はキューにあり、実行待ちです</p> <p>実行中 - 同期処理は現在実行中です</p> <p>完了 - 同期操作が正常に完了しました</p> <p>failedCoSpaceUriConflict - それは既存のURIと競合するURIを作成することを含むため、同期が失敗しました。</p> <p>failedCallIdConflict - それは既存のコールIDと競合するコールIDを作成することを含むため、同期が失敗しました。</p> <p>failedIndexRangeInvalid - 「startIndex」が「endIndex」より大きいため、同期が失敗しました。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>failedIndexRangeTooGreat - 「endIndex」と「startIndex」の差が大きすぎるため、同期に失敗しました。</p> <p>failedNoSuchParameterSet - 同期コマンドで参照された「cospaceBulkParameterSet」は存在しませんでした。</p> <p>失敗 - 同期操作に失敗しました</p>
removeAll	true false	<p>指定されている場合、そのパラメータセットを使用して作成されたすべてのエントリを同期で削除するかどうかを決定します。以前に作成されたすべてのスペースを削除する場合にのみ使用されます。True に設定すると、スペースは作成されません。False に設定するか、省略すると、このパラメータ セットを使用して以前に作成されたすべてのスペースが削除され、新しいマッピングに基づいて新しいスペースが作成されます。</p> <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。</p>

6.7.7 例

coSpace の一括作成

1. パラメータ startIndex=1000 を使用して、cospaceBulkParameterSet を作成します。

endIndex=1999

coSpaceUriMapping=space.\$index\$

coSpaceNameMapping=スペース \$index\$

coSpaceCallIdMapping=811\$index\$

2. 次のパラメータを使用して、cospaceBulkSync を作成します:

cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>

これにより、始まる 1000 のスペースが作成されます。

「スペース 1000」 space.1000@domain.com 、 callID=8111000

そして終わる

「スペース 1999」 `space.1999@domain.com`、`callID=8111999`

範囲を更新するには:

1. 新しい範囲をPUTする `cospaceBulkParameterSets/<上記の GUID>`
2. 次のパラメータを使用して、`cospaceBulkSync` を作成します:
`cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>`

これにより、以前のすべてのスペースが削除され、新しいセットが作成されます。この操作全体が成功するか失敗します。失敗した場合、トランザクションはロールバックされ、以前に存在していたスペースは残ります。

範囲を削除するには :

1. 次のパラメータを使用して、`cospaceBulkSync` を作成します:
`cospaceBulkParameterSet=<上記の GUID>`

これにより、このパラメータ セットを使用して作成されたすべてのスペースが削除されます。名前が変更されたり、他の方法で編集された場合でも、それらは削除されます。

6.8 coSpace の診断メソッド

"`/coSpaces/<coSpace id>/diagnostics`" への POST は、指定された coSpace の通話診断の生成をトリガーします。

6.9 coSpace テンプレートの使用

6.9.1 coSpace テンプレートの作成、変更、取得、列挙、および削除

2.9 以降、API ノード `/coSpaceTemplates` は、以下のリクエストパラメータで、coSpace テンプレートの実装に使用されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	この coSpace テンプレートに関連付けられた人間が読める名前、最大文字数は200文字です。
説明	文字列	ユーザがこのテンプレートを使用したい理由を説明する、coSpace テンプレートの詳細な説明
callProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)

この API ノード `/coSpaceTemplates` は次の操作をサポートしています。

- `/coSpaceTemplates` にPOSTする
- `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>` に PUT する
- `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>` に対してDELETEする
- `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>` に対してGETするは、次の応答を示します。

応答値	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	この coSpace テンプレートに関連付けられた人間が読める名前、最大文字数は200文字です。
説明	文字列	ユーザがこのテンプレートを使用する理由を説明するための、coSpace テンプレートの詳細な説明
callProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定されたロビープロファイルをこのcoSpaceテンプレートに関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)

応答値	タイプ/値	説明/メモ
numAccessMethodTemplates	番号 (Number)	このcoSpaceテンプレートに関連付けられたアクセス方法テンプレートの数
defaultAccessMethodTemplate	ID ""	指定すると、アクセス方法テンプレートを coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けます。 coSpaceがcoSpaceテンプレートから生成されるとき、生成された既定のアクセス方法テンプレートが coSpaceの既定のアクセス方法になります。

- GETを実行すると /coSpaceTemplatesは、次の応答を示します。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外の coSpaceテンプレートを検索できます。
limit		
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する coSpace だけを返します。

レスポンスは、複数の <coSpaceTemplate> 要素を持つ最上位の <coSpaceTemplates total="N"> タグとして構成されます。

各 <coSpaceTemplate>タグには次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	この coSpace テンプレートに関連付けられた人間が読める名前で、最大文字数は200文字です。
callProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールプロファイルをこの coSpace に関連付けます
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定されたロビープロファイルをこのcoSpaceテンプレートに関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティプロファイルをこの coSpaceTemplate に関連付けます (3.0 以降)
numAccessMethodTemplates	番号 (Number)	このcoSpaceテンプレートに関連付けられたアクセス方法テンプレートの数

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
defaultAccessMethodTemplate	ID ""	指定すると、アクセス方法テンプレートを coSpace テンプレートのデフォルトとして関連付けます。 coSpaceがcoSpaceテンプレートから生成されるとき、生成された既定のアクセス方法テンプレートが coSpaceの既定のアクセス方法になります。

6.10 アクセスメソッドテンプレートの使用

6.10.1 coSpace template access method テンプレートを作成、変更、取得、列挙、削除する

2.9 では API ノード `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates` が導入されました。次のリクエストパラメータがあります：

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このアクセスメソッドテンプレートに関連付けられた人間が読める名前 で、最大文字数は 200 文字です。
uriGenerator	文字列	このアクセスメソッドテンプレートのためのURI値を生成するために使 用される式。使用できる文字は「a」から「z」、「A」から「Z」、 「0」から「9」、「.」、「-」、「_」および「\$」です。空でない場 合、正確に1つの'\$'文字を含まなければなりません。
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定されたロビープロファイルをこの accessMethod テンプレートに関連付けます。
generateUniqueCallId	true false	このアクセス方法に一意的な数値IDを生成して、このパラメータが提供さ れない場合のコスペースのグローバルIDを上書きするかどうか。提供さ れない場合、デフォルトは「false」です。
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルインセキュリティプロファイ ルをこの AccessMethodTemplate に関連付けます (3.0 以降)

API ノード `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates`

は次の操作をサポートしています。

- POST を送信する `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates`

- PUT を送信する `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates/<アクセス方法テンプレート ID>`
- DELETE を送信する `/coSpaceTemplates/<coSpace template ID>/accessMethodTemplates/<access method template ID>`
- GET `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates/<アクセス方法テンプレート ID>`は、次の応答を示します。

応答値	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このアクセスメソッドテンプレートに関連付けられた人間が読める名前で、最大文字数は 200 文字です。
uriGenerator	文字列	このアクセスメソッドテンプレートのためのURI値を生成するために使用される式。使用できる文字は「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」および「\$」です。空でない場合、正確に1つの'\$'文字を含まなければなりません。
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこの accessMethodTemplate に関連付けます
generateUniqueCallId	true false	このアクセス方法用に一意の数値 ID を生成して、コスペースのグローバルな ID を上書きするかどうか。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合、accessMethodTemplate (3.0 以降)に関連付けられている具体的なダイヤルイン セキュリティ プロファイル
Scope	公開 プライベート メンバー ディレクトリ	coSpaceのメンバーであるウェブアプリのユーザーへのこのcoSpaceアクセス方法の可視性: <ul style="list-style-type: none"> ■ 公開 – この共有スペースアクセス方法の詳細は、共有スペースのメンバーとミーティングのすべての参加者に表示されます ■ プライベート – このcoSpaceアクセス方法の詳細は、スペースの所有者にのみウェブアプリで表示されるか、または Call Bridge API を使用して管理ユーザに表示されます。ビデオアドレスにビデオドメインが追加されることはありません。 ■ メンバー – このcoSpaceアクセス方法の詳細は coSpaceのメンバーに表示されます (バージョン 3.1 以降)

応答値	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> ディレクトリー このスペースへのアクセス方法の詳細は、検索で見つけることができます (バージョン 3.1 以降) [メモ: に 3.1 検索がないため、動作はと同じです 公開] <p>メモ: 範囲を 公開 に設定すると、ウェブアプリは coSpace の詳細を編集できなくなります。また、名前の下に表示される URI はアクセス方法のものです。</p>

- `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates` で Enumerate GET を実行すると、次の応答が返されます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット limit		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外の coSpace アクセスメソッドテンプレートを検索できます。
filter	文字列	filter=<string> を指定します。その名前がフィルターに一致する coSpace アクセス方法テンプレートのみを返します。
callLegProfileFilter	文字列	指定されたコール レッグ プロファイルを使用する、スペース アクセス方式テンプレートのみを返すために、callLegProfileFilter=<string> を供給します。

レスポンスは、複数の <accessMethodTemplate> 要素を持つ最上位の <accessMethodTemplates total="N" > タグとして構成されます。

各 <accessMethodTemplate> タグには次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このアクセスメソッドテンプレートに関連付けられた人間が読める名前です。最大文字数は 200 文字です。
uriGenerator	文字列	このアクセスメソッドテンプレートのための URI 値を生成するために使用される式。使用できる文字は「a」から「z」、「A」から「Z」、「0」から「9」、「.」、「-」、「_」および「\$」です。空でない場合、正確に1つの '\$' 文字を含まなければなりません。
callLegProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールレックプロファイルをこのアクセスメソッドテンプレートに関連付けます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
generateUniqueCallId	true false	このアクセス方法に一意的な数値IDを生成して、このパラメータが提供されない場合のコスペースのグローバルIDを上書きするかどうか。提供されない場合、デフォルトは「false」です。
dialInSecurityProfile	ID	提供されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティプロファイルをこの coSpace アクセスメソッドテンプレートに関連付けます (3.0 以降)
scope	公開 プライベート メンバー ディレクトリ	<p>coSpaceのメンバーであるユーザーがこのテンプレートを使用するアクセス方法の可視性。 (3.2 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開 – この共有スペースアクセス方法の詳細は、共有スペースのメンバーとミーティングのすべての参加者に表示されます プライベート – このcoSpaceアクセス方法の詳細は、スペースの所有者にのみウェブアプリで表示されるか、または Call Bridge API を使用して管理ユーザに表示されません。ビデオアドレスにビデオドメインが追加されることはありません。 メンバー – このcoSpaceアクセス方法の詳細は、coSpaceのメンバーに表示されます。 ディレクトリ – このcoSpaceアクセス方法の詳細は検索で見つけることができます <p>POST 操作でこのパラメータが指定されなかった場合、デフォルトでprivate になります。プライベート スコープで作成されたスペースは、ビデオ アドレスにドメインを持ちません。</p>

6.11 coSpace のテキストベースのミーティングエントリ情報を取得する

メール招待状 API が導入され、通常メールでの配信に適したテキストベースのミーティング参加情報を取得できるようになりました。

- GET メソッドを使用して `/api/v1/coSpaces/<coSpace id>/accessMethods/<access メソッド id>/emailInvitation`

- GET メソッドを使用して /api/v1/coSpaces/<coSpace id>/emailInvitation

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
言語 (オプション)	文字列	言語タグの形式 "xx"、"xx_XX" (xx 言語コードおよび XX 地域コード)、または 1 から 32 文字の間 (使用可能な文字: 'a'-'z'、'A'-'Z'、'0'-'9'、および '_') が含まれます。 注: サポートされている言語の一覧およびメール招待状のカスタマイズに関する詳細については、『 Cisco Meeting Server カスタマイズガイドライン 』を参照してください。
開催者 (オプション)	文字列	指定する場合、メール招待状テキストに開催者の詳細を含めます。開催者の詳細は、APIに含まれている主催者/ホストの名前またはメールアドレスである可能性があります。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
招待	文字列	メール招待状のテキスト。
言語	文字列	招待メールの言語タグ。 言語が指定されていない場合、デフォルトで en_US になります。 指定された言語が無効な場合、「400-Bad Request」応答が返されます。

失敗時の応答

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
<failureDetails> <parameterError parameter="language" error="invalidValue" /></failureDetails>	400 - 不正なリクエスト	言語パラメータとして空の文字列または無効な文字を入力しました。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
<pre><failureDetails> <parameterError parameter="language" error="valueTooLong" /></failureDetails></pre>	400 - 不正なリクエスト	長い言語パラメータを入力しました。
<pre><failureDetails> <retryAfter=1 /></failureDetails></pre>	503 - サービスが利用できません	<p>テキストベースのミーティング参加情報を取得しようとしたが、サーバーが混雑しているか、外部でホストされているテンプレートを取得していました。</p> <p>後で再試行するか、推奨された時間が経過した後に再試行してください</p> <p>再試行後の 期間 (秒) です。</p>

メモ: メール招待状テキストには、Web Bridge アドレスまたは IVR 番号が含まれます。これは、それらが Web Bridge プロファイルで構成され、テナントレベルまたはシステムレベルにマッピングされている場合のみです。

6.12 coSpace でメタデータを設定する

メタデータは、coSpace で設定できるテキスト文字列です。これにより、Cisco Meeting Management などの管理アプリケーションはメタデータを coSpace に保存できます。メタデータは、Meeting Management のブラストダイヤル機能の使用中に取得される参加者のリストで構成されます。これは API ノードのバージョン 3.2 以降でサポートされています

`/coSpaces/<coSpace id>/metadata` 次のメソッドについて:

- PUT を使用して `/coSpaces/<coSpace id>/metadata`
- GET を使用して `/coSpaces/<coSpace id>/metadata`

ダイヤルブラスト機能について、以下のパラメータが取得されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ															
blastDial	文字列	ブラスト ダイヤル オブジェクトのリスト															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>attemptLimit</td> <td>数値</td> <td>最大試行回数連絡先が通話に接続できない場合、システムは連絡先へのダイヤルアウトを試みます。</td> </tr> <tr> <td>attemptDelay</td> <td>数値</td> <td>システムの最小待機時間連絡先へのダイヤルアウトを再試行するの間に デフォルトは 180 秒です。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	attemptLimit	数値	最大試行回数連絡先が通話に接続できない場合、システムは連絡先へのダイヤルアウトを試みます。	attemptDelay	数値	システムの最小待機時間連絡先へのダイヤルアウトを再試行するの間に デフォルトは 180 秒です。						
		パラメータ	タイプ/値	説明/メモ													
attemptLimit	数値	最大試行回数連絡先が通話に接続できない場合、システムは連絡先へのダイヤルアウトを試みます。															
attemptDelay	数値	システムの最小待機時間連絡先へのダイヤルアウトを再試行するの間に デフォルトは 180 秒です。															
participants	文字列	参加者オブジェクトのリスト															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住所</td> <td>string</td> <td>参加者のメールアドレスです。</td> </tr> <tr> <td>名前</td> <td>string</td> <td>参加者の名</td> </tr> <tr> <td>前のオーディオプロンプト</td> <td>オン オフ</td> <td>このパラメータはで設定されます 参加者レベル。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生され、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 オフ - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生されず、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要がありません。 </td> </tr> <tr> <td>audioPromptGlobal</td> <td>オン オフ</td> <td>このパラメータはで設定されます [ミーティングの管理] で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 音声プロンプトはグローバルレベルですべての参加者に対して有効になります。 </td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	住所	string	参加者のメールアドレスです。	名前	string	参加者の名	前のオーディオプロンプト	オン オフ	このパラメータはで設定されます 参加者レベル。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生され、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 オフ - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生されず、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要がありません。 	audioPromptGlobal	オン オフ	このパラメータはで設定されます [ミーティングの管理] で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 音声プロンプトはグローバルレベルですべての参加者に対して有効になります。
		パラメータ	タイプ/値	説明/メモ													
		住所	string	参加者のメールアドレスです。													
		名前	string	参加者の名													
前のオーディオプロンプト	オン オフ	このパラメータはで設定されます 参加者レベル。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生され、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 オフ - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生されず、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要がありません。 															
audioPromptGlobal	オン オフ	このパラメータはで設定されます [ミーティングの管理] で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> オン - 音声プロンプトはグローバルレベルですべての参加者に対して有効になります。 															

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ		
		パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
				<ul style="list-style-type: none"> オフ - 音声プロンプトはすべての参加者に対してグローバルレベルで無効になります。 グローバルレベルで音声プロンプトを有効または無効にすると、参加者レベルでの設定よりも優先されます。

`coSpaceMetaDataConfigured` レスポンスエレメントは、 `/calls/<call id>` にGETを行うと、 `/cospaces/<cospace id>/metadata` にメタデータが設定されている場合にtrueを返し、それ以外の場合はfalseを返します。

注：ブラストダイヤルなどの一部の Meeting Management 機能では、メタデータを coSpace に保存する必要があります。メタデータを変更すると、これらの機能が失敗する可能性があります。

7 ダイアルプランメソッド

この章では、発信通話、着信通話、および着信転送のダイアルプランの構成に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章の内容:

- [発信ダイアルプラン規則を取得する](#)
- [発信ダイアルプランルールの作成と変更](#)
- [個別の発信ダイアルプラン規則に関する情報を取得する](#)
- [発信ダイアルプランの変換](#)
- [着信のダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信のダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個別の着信通話のダイアルプランルールに関する情報を取得する](#)
- [着信転送のダイアルプランルールを取得する](#)
- [着信転送のダイアルプランルールを作成および変更する](#)
- [個別の着信を転送するためのダイアルプランルールの情報を取得する](#)

7.1 発信ダイアルプラン API メソッド

7.1.1 発信ダイアルプランへのアクセス

通常、発信通話に使用するトランク/プロキシの構成は、発信ダイアルプランで指定されている (SIP) 宛先のドメインに基づいています。発信ダイアルプランは、API オブジェクトツリーの "/outboundDialPlanRules" ノードの下にあり、POST メソッドを使用して発信ダイアルプランを作成するか、またはウェブ管理インターフェイス経由でセットアップします (以下のメモを参照)。

Call Bridge クラスタリングを展開する場合は、API パラメータ [スコープ](#) を使用して、各発信ダイアルプランルールをクラスタ内のすべての Call Bridge に適用するか、特定の Call Bridge だけに適用して、その Call Bridge をローカルの通話制御ソリューションにトランク接続できるようにします (該当する場合)。

メモ: API パラメータである [callRouting](#) は、発信 SIP/Lync 通話のトラバーサルメカニズムを指定します。このパラメータを使用して、SIP と Lync デバイスのファイアウォールトラバーサルをセットアップします。これはまだベータ機能です。

メモ: ウェブ管理者インターフェイスでは、送信ルールのテーブルは **設定 > ダイアルプラン** ページで設定します。ウェブ管理インターフェイス経由で追加されたすべてのルールはグローバルであり、クラスター内のすべての Call Bridge に適用されます。ウェブ管理インターフェイスを使用して、特定の Call Bridge または Call Bridge グループを使用した発信 SIP/Lync 通話のコールルーティングを指定することはできません。

7.1.2 発信ダイアルプランルールを取得する

"/outboundDialPlanRules/" ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URIにfilter=<string>を供給します。フィルターに一致する発信ダイアルプランルールのみを返すように
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の coSpace を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
tenantFilter	ID	指定されている場合、このフィルターは指定されたテナントに関連付けられている発信ダイアルプランルールのみを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
発信ダイアルプランルール ID	ID	レスポンスは「<outboundDialPlanRule id=<ID>」のコレクションで、「<outboundDialPlanRules>」オブジェクトに含まれます。 <outboundDialPlanRule>要素は左側の一般的な形式に従います。
ドメイン	文字列	ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値 (例 "example.com") またはワイルドカード値 (例 "*.com") のいずれかです

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
優先度	番号 (Number)	ダイアルプランのルール（ワイルドカードドメインを含むルール）が適用される順序を決定する数値。優先順位の値が高いルールが最初に適用されます
テナント	ID	テナントが指定されている場合、このルールはそのテナントに関連付けられた通話からの発信通話部分を行うためにのみ使用されます。そうでない場合、どの通話からもこのルールが使用される可能性があります。

7.1.3 発信ダイアルプランルールの作成と変更

- 作成: "/outboundDialPlanRules" ノードへの POST メソッド 発信ダイアル プラン ルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が受信され、応答の「ロケーション」ヘッダーに新しい発信ダイアル プラン ルール ID が含まれます。
- 変更: "/outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>" ノードへの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ドメイン *	文字列	ダイアル プラン ルールを適用するために照合するドメイン。完全な値 (例 "example.com") またはワイルドカード値 (例 "*.com") のいずれかです
優先度	番号 (Number)	ダイアルプランのルール（ワイルドカードを含むドメインを含む）が適用される順序を決定する数値。優先順位の値が高いルールが最初に適用されます。ルールが一致したが、呼び出しを行うことができない場合、ルールの failureAction パラメーターに応じて、他の優先順位の低いルールが試される場合があります。
ローカル連絡先ドメイン	文字列	使用する明示的な連絡先ドメインを形成する際に使用します。このフィールドを空欄にしておくと、localContactDomain はローカル IP アドレスから取得されます。 Lync を使用している場合、localContactDomain を設定することをお勧めします。Lync を使用していない場合、SIP 通話フローでの予期せぬ問題を回避するために、localContactDomain を設定しないことをお勧めします。
localFromDomain	文字列	このダイアル プラン ルールを使って発信通話を行う際の発呼者を形成する際に使用されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
sipProxy	文字列	発信に使用するプロキシ デバイスのアドレス (IP アドレスまたはホスト名) です。設定されていない場合は、直接通話になります。
trunkType	sip lync avaya	<p>CiscoExpressway、Avaya Manager または Lync サーバーなどのサードパーティ SIP 制御デバイスにコールをルーティングするためのルールをセットアップするために使用されます。Lync または avaya に設定すると、このルールを使用する発信は、特殊な動作で Lync または Avaya として発信されます。sip は、このルールを使用する通話が標準の SIP 通話になることを意味します。</p> <p>ミーティングサーバーは一般的に Avaya PBX と共に使用されます。これらの通話は音声のみになります。しかし、Meeting Serverは Avaya 製品 (ビデオをサポートする製品もあります) との相互運用性に関してこの制限を課しません。そのため、「avaya」の通話は、通話が音声のみであるという意味ではありません。</p>
失敗アクション	stop continue	現在のダイアルプランが通話につながらなかった場合、次の発信ダイアルプランルールを試すかどうか。ルールに停止の失敗アクションがある場合、以降のルールは使用されません。
sipControlEncryption	auto encrypted unencrypted	<p>このルールで発信した通話で、暗号化されたコントロールトラフィックを使用するかどうか:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 暗号化: 暗号化された SIP 制御トラフィック (TLS 接続) のみを許可する • 非暗号化: 暗号化されていないトラフィックのみを使用します (TCP または UDP) • auto: 最初に暗号化されたコントロール接続の使用を試みますが、障害が発生した場合に非暗号化コントロールトラフィックにフォールバックすることを許可します。 <p>メモ: すべての「Lync」発信ダイアルルールが明示的に 暗号化 モードに設定されていることを確認し、TLS 接続試行が失敗した場合には、Call Bridgeが非暗号化TCPを使用しようとするのを防ぎます。</p>
scope	global callBridge callBridgeGroup	<p>この発信ダイアル プラン ルールが有効なエンティティ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル - すべての Call Bridge は、この発信ダイアル プラン ルールを使用して、一致するドメインに到達できます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> callBridge - この発信ダイアル プラン ルールは、callBridge パラメーターで ID が指定される、指名された単一の Call Bridge に対してのみ有効です。 callBridgeGroup - この発信ダイアル プラン ルールは、callBridgeGroup パラメータで指定される ID の指定された単一の Call Bridge グループに対してのみ有効です。（バージョン 2.2 以降）。 <p>このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、既定で「global」になります。</p>
callBridge	ID	ルールの範囲が callBridge (上記参照) の場合、これはルールが有効な Call Bridge の ID です
callBridgeGroup	ID	ルールの範囲が callBridgeGroup (上記参照) の場合、これはルールが有効な Call ブリッジグループの ID (バージョン 2.2 以降) です。
テナント	ID	テナントが指定されている場合、このルールはそのテナントに関連付けられた通話からの発信通話部分を行うためにのみ使用されます。そうでない場合、どの通話からもこのルールが使用される可能性があります。
コール ルーティング (ベータ機能)	デフォルト トラバーサル	<p>これは、このルールから発信される SIP 通話に使用されるメディアルーティングです:</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルト - このルールを使用する通話は、通常の、直接の、メディアルーティングを使用します トラバーサル - このルールを使用する通話のメディアは TURN サーバー経由で流れます <p>このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、既定で "default" になります。</p>

7.1.4 個別の発信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

" /outboundDialPlanRules/<outbound dial plan rule ID>" ノードで GET メソッドを使用します。提供された発信ダイアル プラン ルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の「<outboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが、前のセクションのデータと共に返されます。

7.2 ダイアル変換

Dial Transforms は、発信ルールが有効になる前に発信通話に適用されます。ダイアル変換が適用されると、発信ダイアルプランルールが変換された番号に適用されます。ダイアル変換は発信通話にのみ影響し、ゲートウェイの通話には影響しません。

変換には 3 つのステージがあります。

- 変換に適用する前処理の種類を定義する「種類」が適用されます。
 - ロウ: 1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - ストリップ: ドット、ダッシュ、スペースを削除して 1 つのコンポーネントを生成します - \$1
 - 電話: 国際電話番号への変換に使用 - 2 つのコンポーネントを生成します \$1 国コードと \$2 番号

注: 電話の URI は、有効な国際ダイアルコード (例、英国の 44、米国の 1) の後に次の電話番号の桁数が正確である場合に、純粋な数字列 (オプションのプレフィックス '+' が付き) として認識されます。

- コンポーネントは、ルールが有効かどうか確認するために、正規表現を使用して照合されます
- 出力文字列は、定義された変換に従ってコンポーネントから作成されます

例

例	タイプ	一致 (Match)	変換
米国の番号については、「vcs1」を直接使用します	電話 (Phone)	(\$1/01/)	\$2@vcs1
英国の番号については、プレフィックスを追加し、「vcs2」を使用します	電話 (Phone)	(\$1/44/)	90044\$2@vcs2
7で始まるイギリスの番号には、プレフィックスとして「90044」を追加し、サフィックスとして「123@mobilevcs」を追加します	電話 (Phone)	(\$1/44/)(^2/^7/)	90044\$2{}123@mobilevcs

例	タイプ	一致 (Match)	変換
認識されない全て数字の文字列には、サフィックスとして '@vcs3' を使用します	削除	(\$1/(\d){6,}/)	\$1@vcs3
+ を 00 に置換します	削除	(\$1/\+(\d)+/)	\$1{/+/00/}
(.*)@example.com などの英数字正規表現を置換し、と置換します \1.endpoint@vc.example.com	生	(\$1/(.*)@example.com/)	\$1{/@example.com\$/ .endpoint@vc.example.com/}

Call Bridge クラスタでは、各 Call Bridge でダイアル トランスフォームを個別に設定する必要はありません。クラスタのダイアル変換は、データベース クラスタ内の最初の coSpace データベースと同じ場所にある Call Bridge ホスト サーバーで定義されたものです。

メモ: 同じダイアル トランスフォームがクラスタ内のすべての Call Bridge に適用されますが、発信ダイアル プラン ルールは Call Bridge ごとに設定できます。

7.2.1 ダイアル変換を取得する

"/dialTransforms" ノードで GET メソッドが実行されました。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset	数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
limit	数字	
filter	文字列	フィルタを入力して、文字列に一致するダイアル トランスフォームのみを取得します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
タイプ	生データ ストリップ 電話	レスポンスは、複数の <dialTransform> 要素を持つ最上位の <dialTransforms total="N"> タグとして構成されます。 この変換に適用する前処理のタイプ Raw: 一つのコンポーネントを生成 - \$1 ストリップ: ドット、ダッシュ、スペースを削除して 1 つのコンポーネントを生成します - \$1 電話: 国際電話番号 - 2 つのコンポーネントを生成します \$1 国コードと \$2 番号

7.2.2 ダイアル変換の設定と変更

- 作成中: "/dialTransforms" ノードに対する POST メソッド
- 変更: "/dialTransforms/<dialTransform id>" への PUT

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
type	生データ ストリップ 電話	<p>この変換に適用する前処理のタイプ。作成 (POST) 操作でパラメータが提供されない場合、デフォルトは「raw」です。</p> <p>ロウ: 1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>ストリップ: ドット、ダッシュ、スペースを削除して 1 つのコンポーネントを生成します - \$1</p> <p>Phone: 国際電話番号 - \$1country コードと \$2number の 2 つのコンポーネントが生成されます</p>
match	文字列	<p>指定されている場合、このルールが適用されるべきかを判断する正規表現です。空の文字列は「すべてに一致」を意味します。</p> <p>これは前処理された表現の各コンポーネントに適用される正規表現の組み合わせで、その結果は論理 AND で結合されます。形式は (\$<componentnum_1>/<regex_1>/)(\$<componentnum_2>/<regex_2>/)(\$<componentnum_3>/<regex_3>/)... です。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> • (\$2/abc/): コンポーネント 2 は 'abc' を含む必要があります • (\$1/^0/) (\$1/9\$/): 構成要素 1 は 0 で始まり 9 で終わる必要があります • (\$1/^44\$/) (\$2/^7/): コンポーネント 1 は '44' であり、コンポーネント 2 は 7 で始まっていなければなりません
変形する	文字列	<p>適用されるべき置換トランスフォームです。これにより、前処理されたコンポーネントへの参照、および次の特殊文字列による中括弧で囲まれた 1 つ以上の正規表現の置換が、説明どおりに置換されます。</p> <p>\$<componentnum> : コンポーネントで置換</p> <p>\$<componentnum>{} : コンポーネントで置換</p> <p>\$<componentnum>{/<matchregex1>/<replaceregex1/}</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>{/<matchregex2>/<replaceregex2/}/{/<matchregex3>/<replaceregex3/}...: コンポーネントを置換し、すべてのmatchregex1のインスタンスをreplaceregex1で置換し、その後、matchregex2をreplaceregex2で置換するなど。キャプチャグループはサポートされています。</p> <p>以下に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>abc</code> : すべてを 'abc' に置換してください • <code>\$1\$2@t.com</code> : 構成要素 1 の後に構成要素 2、その後に "@t.com" • <code>\$1{}123@t.com</code> : " 123@t.com" の後にコンポーネント 1 • <code>\$1{/999/123/}@t.com</code> : '999'のすべてのインスタンスが'123'に置き換えられ、その後に '@t.com'が続くコンポーネント1 • <code>\$1{/^D//}{/^9//}@example.com</code> : 数字以外のすべてと先頭の9が削除され、その後に '@example.com'が続くコンポーネント1
優先度	番号 (Number)	この変換規則が持つべき優先順位。優先順位の高いルールが先に適用されます
アクション	受け入れ 電話を 受け入れる 拒否	このルールに一致した場合に実行するアクション。作成 (POST) 操作でパラメータが指定されなかった場合、デフォルトで「受け入れ」になります。

7.2.3 個別のダイアル変換に関する詳細情報を取得する

" /dialTransform/<dialTransform id>" に対して実行される GET メソッドノードが実行されます。指定されたダイアル変換 ID が有効な場合、「200 OK」の応答が受信され、XML コンテンツが、「ダイアル変換を取得する (97 ページ)」項と一致します。

7.3 着信通話マッチング ダイアル プラン API メソッド

7.3.1 受信ドメインのマッチングルールへのアクセス

着信 SIP 通話が Meeting Server にルーティングされると、Call Bridge はまず設定された着信ダイアル プラン ルールを調べ、宛先の「ドメイン」部分を照合しようとします。URI

"<user>@<domain>" はルールに反します。API オブジェクトで POST メソッドを使用します `/inboundDialPlanRules` をクリックして、着信 SIP 通話に対して照合する新しい着信ダイヤルプランルールを作成するか、またはウェブ管理インターフェイス経由でセットアップします (以下のメモを参照)。

メモ: ウェブ管理者インターフェイスで受信ルールのテーブルを [設定] から設定します。

[着信] ページ

7.3.2 着信ダイヤルプランルールの取得

`/outboundDialPlanRules/"` ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URIにfilter=<string>を供給します。フィルターに一致する着信ダイヤルプランルールのみを返すように
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」は、概念的なリストの最初の「ページ」以外の着信ダイヤルプランルールを取得するために指定できます (4.2.2 項を参照)。
tenantFilter	ID	"tenantFilter" を提供し、指定されたテナントに関連付けられたインバウンドダイヤルプランルールのみを返すようにします。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
inboundDialPlanRule id	ID	レスポンスは「<inboundDialPlanRule id=<ID>」のコレクションで、「<inboundDialPlanRules>」オブジェクトに含まれます。 <inboundDialPlanRule>要素は左側の一般的な形式に従います。
ドメイン	テキスト	ダイヤルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません (例 "example.com")
優先度	番号 (Number)	複数のルールが適用される受信ダイヤルプランルールの優先順位を決定します
resolveTocoSpaces	true false	true に設定されている場合、このドメインへの通話は、coSpace URI に対して照合されます (一致が見つかった場合、着信コールレグは、coSpace の参加者になります)。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
resolveToIvrs	true false	true に設定すると、このドメインへの通話は設定済みの IVR URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コール レッグはその IVR に接続されます)。
resolveToLyncConferences	true false	true に設定すると、このドメインへの通話は Lync 電話会議 URL に解決されます。解決が成功した場合、着信コール レッグは Lync 電話会議の参加者になります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトは False です。
resolveToLyncSimplejoin	true false	true に設定すると、このドメインへの呼び出しは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。接続が成功した場合、着信コール レッグは Lync 電話会議の参加者になります。(バージョン 2.2 以降)。
テナント	ID	指定すると、このインバウンド ドメインへの呼び出しは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ一致します

7.3.3 着信ダイアルプランルールの作成と変更

- 作成: "/inboundDialPlanRules" ノードへの POST メソッド 着信ダイアル プラン ルールが正常に作成されると、「200 OK」応答が受信され、応答の「ロケーション」ヘッダーに新しい着信ダイアル プラン ルール ID が含まれます。
- 変更: "/inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>" ノードへの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ドメイン *	文字列	ダイアル プラン ルールを適用するために照合するドメイン。完全な値でなければなりません (例 "example.com")
優先度	数値	着信ダイアルプランルールは、構成済みのドメイン値が常に着信通話と正確に一致します。着信を通知するための完全な URI を生成する目的で (特に複数のルールが適用される場合)、優先順位の数値を設定することもできます。値が大きいほど優先されます。
resolveToCoSpacesを解決する	true false	true に設定すると、このドメインへの通話は、coSpace URI に対して照合されます (一致が見つかった場合、着信コール レッグは、coSpace の参加者になります)。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
resolveToIvrs	true false	true に設定すると、このドメインへの通話は設定済みの IVR URI と照合されます (一致が見つかった場合、着信コール レッグはその IVR に接続されます)。
resolveToLyncConferences	true false	true に設定すると、このドメインへの通話は Lync 電話会議 URL に解決されます。解決が成功した場合、着信コール レッグは Lync 電話会議の参加者になります。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。
resolveToLyncSimplejoin	true false	true に設定すると、このドメインへの呼び出しは、指定された URL への HTTPS ルックアップによって解決されます。接続が成功した場合、着信コール レッグは Lync 電話会議の参加者になります。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで false になります。 (バージョン 2.2 以降)。
テナント	ID	指定した場合、このインバウンド ドメインへの呼び出しは、指定されたテナントの coSpace URI に対してのみ照合されます

7.3.4 個別の着信ダイアルプランルールに関する情報を取得する

" /inboundDialPlanRules/<inbound dial plan rule ID>" ノードで GET メソッドを使用します。提供された着信ダイアル プラン ルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の「<inboundDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが、前のセクションのデータと共に返されます。

7.4 着信通話転送ダイアルプランの API メソッド

7.4.1 着信転送ルールへのアクセス

着信 SIP 通話の宛先 URI の「ドメイン」部分がインバウンドダイアルプランのルールのいずれかと一致しない場合、通話は着信転送ダイアル プラン ルールのルールに従って処理されます。通話を完全に拒否するか、ブリッジモードで通話を転送するかは、ルールによって決定されます。

転送ルールは重複して、ワイルドカードを含むことができます。優先順位の値を使用してルールを並べ替えます。番号が高いルールが最初に試されます。ルールを定義することで、通話を

転送するかどうかを決定します。特定の通話を「キャッチ」し、拒否することが適切な場合があります。

転送される通話については、宛先ドメインを再記述でき、指定したドメインへの新しい通話が作成されます。

着信転送のダイアルプランは、API オブジェクト ツリーの「/ forwardingDialPlanRules」ノードの下にあります。POST メソッドを使用して、転送ルールを作成するか、またはウェブ管理インターフェイス経由でセットアップします (以下の注を参照してください)

メモ: ウェブ管理インターフェイスでは、着信の転送ルールは、**設定 > 着信** ページの転送セクションを通じて設定されます。

7.4.2 着信転送ダイアルプランルールの取得

/ forwardingDialPlanRules/ ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URIにfilter=<string>を供給します。フィルターに一致する着信コール転送ルールのみを返すように
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の coSpace を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
tenantFilter	ID	提供されている場合、このフィルターは、指定されたテナントに関連付けられている転送ダイアルプランのルールに返される結果を制限します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
forwardingDialPlanRule id	ID	レスポンスは " <forwardingDialPlanRule id=<ID>" のコレクションで、 " <forwardingDialPlanRules>" オブジェクトに含まれます。 <forwardingDialPlanRule>要素は左側の一般的な形式に従います。
マッチパターン	テキスト	マッチパターンと優先順位については、次のセクションで説明されています。 ダイアルプランルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名 (例、 " example.com") またはワイルドカード名 (例、 *.com) を指定してください。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
優先度	番号 (Number)	転送ダイアル プラン ルールを適用する順番を決定する際に使用される数値。値が大きいほど先に適用されます
テナント	ID	forwardingDualPlanRuleに関連付けられたテナント

7.4.3 着信通話転送ダイアルプランルールを作成、変更する

- 作成: "/forwardingDialPlanRules" ノードへの POST メソッド 転送ダイアル プラン ルールが正常に作成されると、「200 OK」 応答が受信され、応答の「ロケーション」ヘッダーに新しい転送ダイアル プラン ルール ID が含まれます。
- "/forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>" ノードのPUTメソッドは、転送ダイアルプランルールの変更です

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
マッチパターン	文字列	ダイアル プラン ルールを適用するために照合するドメイン。完全なドメイン名 (例、"example.com") またはワイルドカード名 (例、exa*.com) でなければなりません。ドメイン マッチング パターンのどの部分でもワイルドカードを使用できません。しかし、すべてに一致するように「matchPattern=*」を使用しないでください。呼び出しループが作成されてしまいます。
destinationDomain	文字列	このルールで転送された通話は、宛先ドメインがこの値に書き換えられます
アクション	forward reject	「Forward」に設定すると、一致するコール レッグが新しい宛先とのポイントツーポイント コールになります。「reject」を選択すると、着信コール レッグが拒否されます。
callerId モード	regenerate preserve	着信を新しい宛先アドレスに転送する際に、元の発信者 ID を保持するか、新しい ID を生成するかを指定します。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで regenerate になります。
優先度	番号 (Number)	転送ダイアル プラン ルールを適用する順番を決定する際に使用される数値。値が大きいほど先に適用されます
テナント	ID	テナントが指定されている場合、このルールを使用する通話は指定されたテナントに関連付けられます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uriParameters	破棄 転送	着信を新しい宛先アドレスに転送する場合、このパラメータは、着信の宛先 URI に存在する追加パラメータを破棄するか、それらを発信コールの宛先 URI に転送するかどうかを決定します。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで「discard」になります。 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します

7.4.4 個別の着信通話転送ダイアルプランルールを取得する

" / forwardingDialPlanRules/<forwarding dial plan rule ID>" ノードの GET メソッド。
提供された転送ダイアルプランルール ID が有効な場合、「200 OK」応答と単一の「<forwardingDialPlanRule id=<ID>>」オブジェクトが、前のセクションのデータと共に返されます。

8 コール関連メソッド

この章では、以下の API メソッドについて詳しく説明します。

- [件のアクティブコール](#)
- [通話プロフィール](#)
- [コールレック](#)
- [コールレックプロフィール](#)
- [コールブランディングプロフィール](#)
- [レイアウトテンプレート](#)
- [DTMF プロファイル](#)
- [ivr メソッド](#)
- [ivr branding profiles](#)
- [参加者](#)

API を使用して会議を作成すると (coSpace、通話、および通話レック オブジェクトを作成することにより)、通話が終了した後も通話オブジェクトはアクティブなままになります。システムの過負荷を防ぎ、予期しない動作を回避するために、呼び出しが終了したら、次の順序で DELETE メソッドを使用してこれらのオブジェクトを削除することをお勧めします。

- コールレック/参加者/コールオブジェクト
- コール (Calls)
- coSpace

8.1 呼び出し方法

8.1.1 アクティブな通話に関する情報の取得

"/calls" ノードで GET メソッドが実行される。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
coSpaceFilter	ID	フィルターに一致する呼び出しのみを返すための ID を指定します
tenantFilter	ID	IDを指定する、指定されたテナントに属する呼び出しのみを返すレスポンスは、複数の <call> 要素を持つ最上位の <calls total="N"> タグとして構成されます。 <call>要素は左側の一般的な形式に従います。
callCorrelator	ID	この呼び出しのすべての分散インスタンスで同じ ID。
名前	文字列	通話に関連付けられた（人間が読める）名前。最大長は 200 文字。
coSpace	ID	呼び出しが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の id を保持します
テナント	ID	通話が所属する特定のテナント

8.1.2 新しい通話を作成し、アクティブな通話を変更する

"/calls" ノードに対して POST メソッドを実行するか、"/calls/<call id>" に PUT メソッドを実行します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpace *	ID	POST のみ:通話がインスタンス化される coSpace を指定します。設定されていない場合、"name" を設定する必要があります。設定されていない場合は「名前」または「callCorrelator」を設定する必要があります。
name *	文字列	POST の場合のみ: 生成される新しい通話の名前を指定します。設定されていない場合は「coSpace」を設定する必要があります。または「callCorrelator」を設定する必要があります。
callCorrelator *	文字列	POST の場合のみ: クラスター内の別の Call Bridge の既存の通話の callCorrelator ID を指定します。設定されていない場合、「coSpace」または「name」を設定する必要があります。（バージョン 2.6 以降）
ロックされている	true false	参加者の参加を許可するプロセスをコントロールするために、ミーティングロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティベーションを必要とする参

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>加者は通常、まだ「アクティベート」されていない coSpace のゲストです。 coSpace のメンバーは影響を受けず、任意の時点で coSpace に参加できません。 ミーティングがロックされている場合、アクティベーションが必要なゲストは、主催者が coSpace をロック解除するまでミーティングロビーで待機します。 ロック解除された時点で参加が許可され、coSpace に参加します。 会議がロック解除状態からロック状態に移行するとき、すでにアクティブ化された参加者は非アクティブ化されません。</p> <p>true に設定すると、アクティベーションが必要な新しい参加者アクティベーターがあってもアクティブにならないコール。</p>
recording	true false	trueであれば、この通話は録音されています。
streaming	true false	trueであれば、この通話は現在ストリーミングされています。(バージョン 2.1 以降)
allowAllMuteSelf	true false	true の場合、参加者には、自分自身をミュートおよびミュート解除する権限が付与されます。
allowAllPresentationContribution	true false	true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。 False の場合、この権限はコールログプロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。 デフォルトは false です。
joinAudioMuteOverride	true false	<p>true の場合、新しい参加者は通話に参加するとミュートになります。</p> <p>false の場合、通話に参加する新しい参加者はミュート解除されます。</p> <p>設定されていない場合、新しい参加者はコール ログ プロファイルの音声ミュート値を使用します。</p>
メッセージテキスト	文字列	通話のすべての参加者に表示するテキスト (設定された messageDuration が 0 以外の場合にのみ表示されます)。(バージョン 2.1 以降)
messagePosition	top middle bottom	設定したメッセージテキストを画面上に表示する位置 (SIP エンドポイント)。(バージョン 2.1 より)

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
messageDuration	Number permanent	設定したメッセージテキストを画面に表示する時間(秒)です。文字列「permanent」を入力すると、再設定されるまで文字列が永続的に表示されます。(バージョン 2.1 以降)
activeWhenEmpty	true false	true の場合、参加者が存在しない場合、この呼び出しは'負荷分散用アクティブ'と見なされます。これは、空の会議への最初の呼び出しが優先的に負荷分散されることを意味します。このパラメータを false に設定すると、空の会議を優先的に使用して負荷分散が行われないようにすることができます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。(バージョン 2.2 以降)
panePlacementHighestImportance	番号 (Number)	panePlacementHighestImportance が指定されている場合、ペインの配置がこのアクティブな通話で有効になります。重要度の値の範囲は、「最高重要度」から 1 までの範囲で指定します。設定されている場合、coSpaceの対応するものを上書きします。(バージョン 2.7 以降)
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	panePlacementSelfPaneMode が指定されている場合、このアクティブな通話に対してセルフ ペイン モードがアクティブになります。 skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じですが、ビューアごとの基準では、画面レイアウトは自分のペインをスキップし、次の重要な参加者のペインを表示します (デフォルト)。 空欄 : 重要な参加者を表示する代わりに空欄のペインを残します。重要な参加者には、他のすべてのビューアと同じペイン位置に他の参加者が表示されます。 <unset> : 次の優先順位に従います。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>- /calls の panePlacementHighestImportance の値セットを使用する</p> <p>- panePlacementHighestImportance /calls が設定されていない場合は、panePlacementHighestImportance に設定されている値を使用します。</p> <p>/coSpace (通話の発信先がスペースの場合)、</p> <p>- panePlacementHighestImportance /coSpace も設定解除され、上で定義されたスキップ動作に戻ります。</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されています。設定されている場合、coSpaceの対応するものを上書きします。(バージョン 2.7 以降)</p>
messageBannerText	文字列	この文字列は、画面に表示されるメッセージです。デフォルト値は空の文字列で、メッセージバナーは表示されません。(バージョン 3.2 以降)
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でチャットが許可されていることを示します。 • false - 通話でチャットが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	管理者は全体の通話でこの機能を有効または無効にすることができます。デフォルトでは、パラメータは<unset> ですが、call / callProfile 階層のすべてのレベルで設定されていない場合は、デフォルトで true になります。(バージョン 3.2 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<ul style="list-style-type: none"> allowself : 参加者が発言者である場合、最初のペインに参加者が表示されます。さらに、ペイン配置で設定されたペインでも参加者が表示されます。すべての参加者に同じビューが表示されます。 suppressself : 発言者以外の全ての参加者に対して、最初のペインに発言者が表示されます。アクティブな発言者について、前の発言者が最初のペインに表示されます。 なし - 機能は無効です。
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - 通話でメモが許可されていることを示します。 false - 通話でメモが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - 通話で字幕が許可されることを示します。 false - 通話で字幕が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - 通話で背景のぼかしが許可されることを示します。 false - 通話で背景のぼかしが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベ</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		ルで設定されていない場合、デフォルト値は false になります。
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でファイル共有が許可されることを示します。 • false - 通話でファイル共有が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
ロゴファイル名	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前で、ファイル名は 128 文字に制限されています。
ロゴの位置	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面上で表示されるロゴの位置です。すべてのレベルで設定解除した場合、ロゴの位置はデフォルトの 左上 に配置されます。
surveyAllowed	true false	<p>True - ミーティングでアンケートが許可され、参加者がアンケートに回答できることを示します。</p> <p>False - ミーティングでアンケートが許可されないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
panePlacementRotatePanelImportance	数値	これにより、呼び出しに割り当てることができる回転ペインの重要度値が取得されます。 panePlacementRotatePanelImportance が n に設定されている場合、n 番目のペインが回転ペインとして設定されます。設定されていない場合、回転ペインは割り当てられません。

coSpaceに対して通話が正常にインスタンス化されると、その通話のIDが応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。以下で説明するように、このコールにコール レッグを追加できます。

8.1.3 個々の通話に関する情報の取得

"/calls/<call id>" ノードで実行される GET メソッド。提供されたコール ID が有効な場合、「200 OK」の応答が次の形式の XML コンテンツと共に受信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	呼び出しが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が存在し、coSpace の id を保持します
callCorrelator	ID	この呼び出しのすべての分散インスタンスで同じ ID。
callType	coSpace forwarding adHoc lyncConferencing	コール タイプを示します。 coSpace – この通話はスペース転送のインスタンスです 転送 – これは転送された、または「ゲートウェイ」通話です adHoc – これはアドホックの複数者通話です lyncConferencing – このコールレグは Lync 会議に参加しています (バージョン 2.3 以降)
テナント	ID	通話を所有するテナントの ID
durationSeconds	番号 (Number)	通話開始からの経過秒数で示した通話時間
名前	文字列	通話に関連付けられた、最大200文字の人間が読める名前です。(バージョン 2.3 以降)
numCallLegs	番号 (Number)	この通話で現在アクティブなコール レグの数
maxCallLegs	番号 (Number)	この通話中に同時に存在したコールレグの最大数
numParticipantsLocal	番号 (Number)	要求が行われている Call Bridge によってローカルに主催されているこの通話の参加者数
numParticipantsRemote	番号 (Number)	他の Call Bridge が主催したこの通話の参加者数
numDistributedInstances	番号 (Number)	この通話で参加者をホストしている他の Call Bridge の数
presenterCallLeg	ID	presenterCallLeg の値は、コール レグがこの通話内でアクティブにプレゼンテーションを行っている場合にのみ表示されます。
ロックされている	true false	通話がロックされているか (true)、アンロックされているか (false) を示します。
recording	true false	true の場合、この通話は録音されるように構成されています。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
streaming	true false	true の場合、この通話はストリーミングされるように構成されています。(バージョン 2.1 以降)
recordingStatus	true false	true の場合、この通話は録音されています。(バージョン 2.4 以降)
allowAllMuteSelf	true false	true の場合、参加者は自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を持ちます。False の場合、この権限はコール レッグ プロファイルの muteSelfAllowed に依存します。
allowAllPresentationContribution	true false	true の場合、参加者はプレゼンテーションを行う権限を持っています。False の場合、この権限はコール レッグ プロファイルの presentationContributionAllowed に依存します。デフォルトは false です。
joinAudioMuteOverride	true false	true の場合、新しい参加者は通話に参加するとミュートになります。 false の場合、通話に参加する新しい参加者はミュート解除されます。 設定されていない場合、新しい参加者はコール レッグ プロファイルの音声ミュート値を使用します。
メッセージテキスト	文字列	通話のすべての参加者に表示するテキスト (設定された messageDuration が 0 以外の場合にのみ表示されます)。(バージョン 2.1 以降)
messagePosition	top middle bottom	画面上に設定されたメッセージテキストを表示する位置です (SIP エンドポイントの場合)。(バージョン 2.1 以降)
messageDuration	番号 (Number)	設定されたメッセージテキストを画面に表示する時間 (秒) (再設定するまでメッセージが表示されるように「永続的」にすることもできます)。(バージョン 2.1 以降)
messageTimeRemaining	番号 (Number)	messageTextを表示するための残り時間 (秒)。(バージョン 2.1 以降)
所有者名	文字列	設定されている場合、この通話の所有者が表示されます。これは、この通話の coSpace の meetingScheduler、この通話の所有者の名前、または

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		所有者の Jabber識別子にすることができます。(バージョン 2.2 以降)
activeWhenEmpty	true false	true の場合、参加者が存在しない場合、この呼び出しは'負荷分散用アクティブ'と見なされます。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。(バージョン 2.2 以降)
エンドポイント録画	true false	設定すると、この通話の参加者の 1 人が外部で電話会議を録画します (現在、電話会議を録画している Skype または Lync クライアントのみがフラグを立てます)。(バージョン 2.4 以降)
lync オーディエンスミュート	true false	参加者が Skype または Lync クライアントによってミュートされているかどうか。この通話が Skype/Lync 電話会議の場合にのみ表示されます。(バージョン 2.4 以降)
panePlacementHighestImportance	番号 (Number)	指定されている場合、ペイン配置がこのアクティブな通話に対してアクティブ化されます。重要度のアクティブな範囲は、「最も高い重要度」から 1 までの範囲で指定されます。(バージョン 2.7 以降)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
panePlacementSelfPaneMode	skip self blank <unset>	<p>このアクティブな通話でセルフペインモードがアクティブになっているかどうかを示します。</p> <p>skip : 2.7 以前のバージョンの動作と同じですが、ビューアごとの基準では、画面レイアウトは自分のペインをスキップし、次の重要な参加者のペインを表示します（デフォルト）。</p> <p>空欄 : 重要な参加者を表示する代わりに空欄のペインを残します。重要な参加者には、他のすべてのビューアと同じペイン位置に他の参加者が表示されます。</p> <p><unset> : 次の優先順位に従います。</p> <p>/calls の panePlacementHighestImportance の値セットを使用する</p> <p>panePlacementHighestImportance on /calls が設定されていない場合、panePlacementHighestImportance on /coSpace（スペースへの通話の場合）に設定されている値を使用し、panePlacementHighestImportance on /coSpace も設定されていない場合、上で定義されたスキップ動作に戻ります。</p> <p>デフォルトでは、panePlacementSelfPaneMode は <unset> に設定されています。（バージョン 2.7 以降）</p>
coSpaceMetadataConfigured	true false	<p>呼び出しが coSpace のインスタンス化を表す場合、この値が表示され、coSpace に構成されたメタデータがある場合は true になります。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でチャットが許可されていることを示します。 • false - 通話でチャットが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	設定されている場合、このコールで参加者が挙手できるかどうかを指定します。
messageBannerText	文字列	この文字列は、画面に表示されるメッセージです。 デフォルト値は空の文字列で、メッセージバナーは表示されません。(バージョン 3.2 以降)
panePlacementActiveSpeakerMode	allowself suppressself none	<p>発言者がこのミーティングスペースに表示されるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • allowself : 参加者が発言者である場合、最初のペインに参加者が表示されます。さらに、ペイン配置で設定されたペインでも参加者が表示されます。すべての参加者に同じビューが表示されます。 • suppressself : 発言者以外の全ての参加者に対して、最初のペインに発言者が表示されます。アクティブな発言者について、前の発言者が最初のペインに表示されます。 • なし - 機能は無効です。
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でメモが許可されていることを示します。 • false - 通話でメモが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話で字幕が許可されることを示します。 • false - 通話で字幕が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話で背景のぼかしが許可されることを示します。 • false - 通話で背景のぼかしが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルト値は false になります。</p>
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でファイル共有が許可されることを示します。 • false - 通話でファイル共有が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
ロゴファイル名	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前で、ファイル名は 128 文字に制限されています。
ロゴの位置	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面上で表示されるロゴの位置です。すべてのレベルで設定解除した場合、ロゴの位置はデフォルトの 左上 に配置されます。
surveyAllowed	true false	<p>True - ミーティングでアンケートが許可され、参加者がアンケートに回答できることを示します。</p> <p>False - ミーティングでアンケートが許可されないことを示します。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
panePlacementRotatePanelImportance	数値	これにより、呼び出しに割り当てることができる回転ペインの重要度値が取得されます。 panePlacementRotatePanelImportance が n に設定されている場合、n 番目のペインが回転ペインとして設定されます。設定されていない場合、回転ペインは割り当てられません。

8.1.4 個々の通話に対する診断情報を生成する

「/calls/<call id>diagnostics」で実行される POST メソッドは、問題のコール診断を生成します。

8.1.5 電話会議の参加者を取得する

"/calls/<call id>/participants" ノード上で実行される GET メソッド。指定された通話に関連するすべての参加者のリストを取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定すると、概念リストの最初の「ページ」以外のアクティブな参加者を検索することができます (セクション 4.2.2) を参照してください。
coSpaceFilter	ID	ID を指定すると、フィルターに一致するアクティブな参加者だけが返されます。
tenantFilter	ID	ID を指定すると、指定されたテナントに属するアクティブな参加者のみが返されます。
callBridgeFilter	ID	ID を指定して、指定された Call Bridge 上にあるアクティブな参加者だけを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	レスポンスは、複数の <participant> 要素を持つ最上位の <participants total=" N" > タグとして構成されます。 <participant>要素は左側の一般的な形式に従います。 この参加者に関連付けられた (人間が読める形式の) 名前です。これには、最大 200 文字を使用できます。
call	ID	この参加者が参加する通話
テナント	ID	この参加者が関連付けられている特定のテナント
callBridge	ID	この参加者が接続しているリモートのクラスター化された Call Bridge

8.1.6 指定された通話に新しい参加者を作成する

" /calls/<call id>/participants" ノードの POST メソッド。

注：クラスター化された Meeting Server 間の負荷分散のため、Call Bridge または Call Bridge グループ、または設定済みのダイヤルプランルールから、リモートのクラスター化された Call Bridge でコールレグのインスタンス化（参加者オブジェクトによって「所有」）が発生する場合があります。

メモ: [セクション 8.11](#) の参加者関連のメソッドのセクションも参照してください。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
remoteParty *	文字列	POST の場合のみ、RemoteParty は参加者のアドレスを指定します。これは SIP URI またはユーザを通話に招待する電話番号の場合があります。RemoteParty は、<call id>に対応する電話会議から、指定された URI に発信します。2.6 から、remoteParty が指定されていない場合、movedParticipant を代わりに指定する必要があります。
移動した参加者*	ID	POST の場合のみ、movedParticipant は <call id> に対応する電話会議に移動する参加者の ID を指定します。callBridge および callBridgeGroup パラメータの両方は無視され、通話は移動した参加者がホームとしている callBridge または callBridgeGroup でホストされます。(バージョン 2.6 以降) メモ: remoteParty と movedParticipant の両方が指定されている場合、movedParticipant パラメータは無視されます。
帯域幅	番号 (Number)	POST の場合のみ、提供された場合、参加者の帯域幅をビット/秒で設定します (例: 2000000 (2Mbit/秒の場合)。指定しない場合は、Call Bridge の設定値が使用されます。
確認	true false	POST のみの場合、指定されている場合、リモート側からの通話参加確認の自動選択が上書きされます。 true - 常にリモート側の確認を要求します。これは通常、参加するためにキーを押すことを要求する音声プロンプトの形式をとります false - リモート側からの確認を要求しません。通話相手が着信を受け入れると、通話スペースに参加します。
所有者 ID	ID	指定する場合は、Meeting Server がこの参加者に関連付けるための ID を指定する必要があります。これは後ほど参加者のコールレグ

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		が問い合わせられた際にMeeting Serverから返される値です。このため、この値は要求者にとって意味のある値である必要があります。
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコール レッグ プロファイルをこの参加者のコール レッグに関連付けます。 これらのパラメータのいずれかを指定して、このコール レッグのコール レッグ プロファイル値を上書きします。
needsActivation		
defaultLayout	すべて等しい スピーカーのみ テレプレゼンス 重ねて表示 すべて等しい四分の一 すべて等しい九分の一 すべて等しい六分の一 すべて等しい二十五分の一 onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	空白のままにすると、 /callLegProfile がこれと関連付けられています /calls/<call id>/participants が使用されます。
participantLabels		
presentationDisplayMode		
presentationContributionAllowed	true false	
presentationViewingAllowed	true false	
endCallAllowed	true false	
muteOthersAllowed	true false	
videoMuteOthersAllowed	true false	
muteSelfAllowed	true false	
videoMuteSelfAllowed	true false	

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
changeLayoutAllowed	true false	
joinToneParticipantThreshold	true false	
leaveToneParticipantThreshold		
videoMode		
rxAudioMute		
txAudioMute		
rxVideoMute		
txVideoMute		
sipMediaEncryption		
audioPacketSizeMs		
deactivationMode		
deactivationModeTime		
telepresenceCallsAllowed		
sipPresentationChannelEnabled	true false	
bfcPMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーション ビデオ チャンネル操作が SIP 通話に対して有効になっている場合、この設定は BFCP の動作を決定します。</p> <p>serverOnly - 電話会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアント モード デバイス (SIP エンドポイントなど) での使用を想定しています。</p> <p>serverAndClient - リモートデバイスとの通話で、Meeting Serverが BFCP クライアントまたは BFCP サーバモードのいずれかで動作することを許可します。これにより、プレゼンテーションビデオが改善されます。サードパーティの MCU などのリモート会議主催デバイスと共有</p>
レイアウト	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths	<p>このパラメータは、Acano サーバーの初期のバージョンとの下位互換性のために提供されています。これは、「デフォルトレイアウト」の変更と同等の機能を持ち、両方が指定されている場合、「デフォルトレイアウト」が優先されます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
disconnectOthersAllowed	onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN true false	
addParticipantAllowed	true false	(バージョン 2.3 以降)
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のメインのビデオ コールのネゴシエートされた最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを使用して指定します。コール レッグは、エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディングリソースのネゴシエートに制限します。たとえば、60 フレーム/秒で 1280x720 の画面サイズ</p> <p>max720p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max480p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>メモ:このパラメータは、Cisco ミーティングアプリまたは Cisco ミーティングアプリ WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p> <p>注: Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアは影響を受けません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のネゴシエートされたプレゼンテーション ビデオコールの最大品質を制限します。</p> <p>標準的な解像度とフレームレートを用いて指定されています。これは別のプレゼンテーション ストリームを使用する通話路にのみ影響します。</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - Call Bridgeが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max720p5 - Call Bridge が 5 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します (バージョン 2.2 以降)</p> <p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のメインのビデオ コールのネゴシエートされた最大品質を制限します。</p> <p>標準的な解像度とフレームレートを使用して指</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>定めます。コール レッグは、エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、低い解像度またはフレームレートで動作する可能性があることに注意してください</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディングリソースのネゴシエートに制限します。たとえば、60 フレーム/秒で 1280x720 の画面サイズ</p> <p>max720p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max480p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p> <p>メモ:このパラメータは、Cisco ミーティング アプリまたは Cisco ミーティングアプリ WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p> <p>注: Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアは影響を受けません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者カウンターの動作を制御します。</p> <p>決して - 画面上に参加者カウント値を表示しません</p> <p>自動 - 該当する場合、画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、あなたには現在見ることができない他の参加者がいることを示します。</p> <p>いつも - 画面上に参加者カウント値をいつも表示します</p> <p>(バージョン 2.2 以降)</p>
callBridge	ID	<p>指定されている場合、バージョン 2.2 以降で指定された Call Bridge から参加者を追加します。</p> <p>参加者が movedParticipant パラメーターを使用して電話会議を切り替えた場合、callBridge パラメーターは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p>
callBridgeGroup	ID	<p>指定されている場合、バージョン 2.2 以降で指定された Call Bridge グループから参加者を追加します。</p> <p>参加者が movedParticipant パラメーターを使用して電話会議を切り替えた場合、callBridgeGroup パラメーターは無視されます。(バージョン 2.6 以降)</p>
importance	番号 (Number)	<p>作成される参加者の重要性の値です。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定にします (値を空白にします)。(バージョン 2.2 以降)</p>
nameLabelOverride	文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト)	<p>指定されている場合は、この参加者の名前をオーバーライドします。空文字列を設定すると、値がクリアされ、元の名前が復元されます。参加者とそれに関連付けられたコールレグの名前の上書きは相互に作用し、両方に</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>影響します。最後に行われた変更が優先されます。次の状況で参加者の名前が変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル、 - ActiveControl ロスターリスト、 - 通話中にウェブ アプリが参加者の名前を確認できる任意の場所、 - CDR 記録、 - ウェブインタフェースで名前が表示される場所。 <p>(バージョン 2.4 以降)</p>
dtmfSequence	文字列	<p>参加者が最初に作成されたとき、または通話中に、遠端に送信する DTMF キープレスコマンドのシーケンス。その DTMF シーケンスは、この参加者の発信が行われる Call Bridge から再生されます。提供されたシーケンスでは、0から9までの数字、*、#、および1つ以上のカンマ文字(",")を使用でき、これらは数字の間に一時停止を追加します。(バージョン 2.4 以降)</p>
controlRemoteCameraAllowed	true false	<p>参加者が遠端カメラコントロール (FECC) を使用することを許可します。(バージョン 2.8 以降)</p>
レイアウト テンプレート	ID	<p>指定する場合、参加者用のレイアウトテンプレートを関連付けます。(バージョン 2.8 以降)</p>
音声ゲインモード	disabled agc	<p>この参加者の音声自動ゲイン コントロールを使用するかどうかを指定します。(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC はMeeting Serverに直接接続されたエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフト クライアント) に適用されます。TIP 通話または AVMCU には適用されません (これは混合音声ストリームのため)。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>- AVMCU に接続している Skype 参加者は、AVMCU が音声をコントロールするため、AGC の対象にはなりません。</p> <p>- Meeting Server 間の分散リンクには AGC が適用されません。これは混合音声ストリームのためです。</p>
無効化されました	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 参加者はロビーで待機します。またはロビーに移動できます バージョン3.4から。 • false - 参加者はロビーからミーティングに参加できます。
meetingTitlePosition	top middle bottom	ミーティングの議題を有効にし、指定の位置に配置します。指定されていない場合、値 bottom になります。(バージョン 3.2 以降)
chatContributionAllowed	true false	参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを指定します。階層のすべてのレベルで設定解除されている場合、デフォルトで true になります (バージョン 3.2 から)
handStatus	string	設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が上がったかどうかを示します。コール中にhandStatusが変更されなかった場合、値は返されません。(バージョン 3.2 以降)
accessMethod	ID	指定した accessMethod をコールレグ/参加者のアクセス方法として使用し、coSpaceのデフォルトまたはプライマリのアクセス方法をオーバーライドします。
changeRoleAllowed	true、false、または <unset>	参加者がウェブアプリ使用時に、通話中に別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。 true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができます。 false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができません。参加者の役割変

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>更に関する権限の詳細については、付録 A を参照してください。</p> <p>通話の階層とコールレグプロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
noteContributionAllowed	true false	参加者がメモを公開できるかどうかを指定します。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
captionContributionAllowed	true false	<p>参加者がミーティング中に字幕を送信できるかどうかを指定します。callLeg の階層と callLeg プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p> <hr/> <p>注意: 通話レベルで captionsAllowed が false に設定されている場合、参加者は、captionContributionAllowed が設定されているにも関わらず、字幕を送信することができません として true。</p>
音声プロンプト	オン/オフ	<ul style="list-style-type: none"> オン - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生され、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 オフ - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生されず、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要がありません。 <p>このパラメータは POST メソッドでのみサポートされています。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 • false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロフィールの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
surveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができることを示します。</p> <p>False - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロフィールの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>

8.1.7 会議参加者全員のプロパティを設定します

" /calls/<call id>/participants/*" ノードに PUT を行う。指定された通話に関連するすべての参加者のプロパティを設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
rxAudioMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからの音声の受信をミュートにします。
txAudioMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからの音声の伝送をミュートします。
rxVideoMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの受信をミュート(ブロック)します。
txVideoMute	true false	true の場合、すべてのエンドポイントからのビデオの送信をミュート(ブロック)します。
レイアウト	allEqual speakerOnly telepresence	すべてのエンドポイントのレイアウトを設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
	stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
importance	番号 (Number)	すべての参加者の重要度を設定します。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定にします (値を空白にします)。(バージョン 2.2 以降)
filterIds		この操作に含めたり除外したりする最大 20 の参加者 ID のカンマ区切りのリスト (「mode」パラメータの値による)。 一括操作に関する詳細情報と参加者に対する操作については、以下を参照してください。 (バージョン 2.4 以降)
モード	exclude selected	除外 - filterIds の参加者 id は操作から除外されます 選択済み - filterIds 中の参加者 ID のみが処理に含まれます 以下の参加者 の一括処理の使用に関する詳細情報を参照してください。 このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、既定で「除外」になります。(バージョン 2.4 以降)
無効化されました	true/false	<ul style="list-style-type: none"> true - 参加者はロビーで待機するか、ロビーに移動することができます。 false - 参加者はロビーからミーティングに参加できます。

8.1.7.1 参加者に対する一括操作の使用に関する詳細

PUTを/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<id1>,<id2>&mode=に (除外|選択)

モード (Mode)	filterIds	注記
除外する	空です (ID がありません)	これは既定の設定であり、バージョン 2.4 以前の動作と同等です。この操作は、選択した通話のすべての参加者に適用されます。
除外する	1 つ以上の ID	この操作は、選択した通話の参加者すべてに対して実行されます。ただし、リストされた参加者は除きます。
選択済み	空です (ID がありません)	ID が入力されないため、これによる影響はありません。
選択済み	1 つ以上の ID	この操作は、通話で選択した参加者に対してのみ適用されます。

リストの最大サイズは 20 に固定されており、これを超える数の ID を追加しようとするとエラーが発生します。

戻り値は操作の受け入れ用であり、個々の参加者の失敗または成功は返されません。

次に例を示します。

PUT to `/calls/<call id>/participants/*?filterIds=<smith>,<green>&mode=exclude`

smith または green のフィルター ID に一致するすべての参加者が一括操作から除外されるという効果があります。

エラー:

`callDoesNotExist` コール ID が存在しません、

20 を超える filterIds がフィルター ID リストに含まれている場合、"valueTooLong" に等しい error 属性を持つ parameterError が生成されます。

8.1.8 サードパーティ API ツールを使用して字幕を送信する

サードパーティ API ツールがミーティング中に字幕を送信できるようにします。POST メソッド `calls/<call id>/captions/` ウェブアプリの参加者のみがこれらのキャプションを表示できます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
字幕テキスト	文字列	ミーティングの画面上に字幕として表示されるテキストです。

8.2 通話プロファイルのメソッド

通話プロファイルは、アクティブな同時参加者の最大数と SIP (Lync を含む) 通話の通話中の体験をコントロールします。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.2.1 通話プロファイルを取得する

"/callProfiles" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
usageFilter	unreferenced referenced	リクエストで「usageFilter=unreferenced」を指定すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されない通話プロファイルのみが取得されます。これは、プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。少なくとも 1 か所で参照されている通話プロファイルだけを取得するには、「usageFilter=referenced」を指定します。
名前	文字列	通話プロファイル の名前です。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <callProfile> 要素を持つ最上位の <callProfiles total=" N" > タグとして構成されます。 各 <callProfile> タグには次の要素を含めることができます: 次のセクションを参照

8.2.2 通話プロファイルの設定と変更

- 作成: "/callProfiles" ノードに対する POST メソッド
- 修正: "/callProfiles/<call Profile id>" へのPUT

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
participantLimit	番号 (Number)	同時にアクティブにできるこの通話プロファイルを使用した通話 (coSpace インスタンスまたはアドホック通話) の参加者の最大数を設定します。この制限を超える新しい参加者は許可されません
ロックされている	true false	参加者の参加を許可するプロセスをコントロールするために、ミーティング ロビーのロック/ロック解除を許可します。アクティベーションが必要な参加者は通常、まだ参加が許可されていない coSpace

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>のゲストです。 coSpace のメンバーは影響を受けず、任意の時点で coSpace に参加できます。 ミーティングがロックされている場合、アクティベーションが必要なゲストは、主催者が coSpace をロック解除するまでミーティングロビーで待機します。 ロック解除された時点で参加が許可され、coSpace に参加します。 会議がロック解除状態からロック状態に移行するとき、すでにアクティブ化された参加者は非アクティブ化されません。</p> <p>true に設定すると、アクティベータが通話中に存在する場合でも、アクティベーションが必要な新しい参加者はアクティベートされません。</p>
recordingMode	無効 手動 自動	<p>このcoSpaceまたはアドホックコールを録音する方法をコントロールします</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効 - 通話は録音されません • 手動 - ユーザは録音を開始/停止できます • 自動 - 通話は自動的に録音されるため、ユーザは録音を開始/停止できない <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで manual になります。</p>
lockMode	all needsActivation	<p>通話をロックする動作を定義します</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全員 - 通話がロックされている場合、新しい参加者はミーティングに入れられず、ロビーにいます。これにはアクティベーションを必要としない参加者も含まれます • アクティベーションが必要 - 通話がロックされている場合、アクティベーションを必要としない新しい参加者は通話に参加しますが、アクティベーションが必要な新しい参加者はロビーに移動します。 コスペースのメンバーである参加者は、アクティベーションが必要な場合でも、通話にアクティベータがすでに存在する限り、ロックをバイパスして通話に参加します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		(バージョン 2.9 以降)
sipRecorderUri	string	SIP レコーダーのダイヤルアウト URI。(バージョン 2.9 以降)
sipStreamerUri	string	SIP ストリーマの発信 URI。(バージョン 3.0 以降)
ストリーミングモード	disabled manual automatic	この共有スペースまたはアドホック コールをどのようにストリーミングするかを制御します <ul style="list-style-type: none"> 無効 - 通話はストリーミングされません 手動 - ユーザはストリーミングを開始/停止できます 自動 - 通話は自動的にストリーミングされるため、ユーザはストリーミングを開始/停止することはできません 作成(POST)操作でこのパラメータが指定されていない場合、「手動」にデフォルト設定されます。(バージョン 2.1 以降)
パスコードモード	required timeout	空白のパスコードと設定されたパスコードが混在して使用され、同じ URI/コールID を介して coSpace にアクセスできる場合の、パスコード入力の動作を決定します。 <ul style="list-style-type: none"> 必須 - パスコードの入力が必要です。パスコードが空欄の場合は、明示的に入力する必要があります。 タイムアウト - パスコードが入力されないまま一定の時間が経過すると、空のパスコードとして解釈されます。タイムアウトの長さは「passcode タイムアウト」の値によって決定されます
passcodeTimeout	数値	指定する場合、パスコードを空のパスコードとして解釈する前に、Call Bridge が待機する時間(秒)です(「passcodeMode」が「timeout」に設定されている場合)。タイムアウト時間は、パスコードプロンプトの最後から測定されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
gatewayAudioCallOptimization	true false	true に設定すると、着信コールレグが音声のみの場合、発信ゲートウェイのコールレグは音声のみになります。 (バージョン 2.3 以降)
lyncConferenceMode	dualHomeCluster dualHomeCallBridge gateway	参加者を Lync 電話会議に接続するときの Call Bridge の動作を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • dualHomeCluster - すべての Call Bridge が同じ電話会議を共有します • dualHomeCallBridge - 各 Call Bridge は独自の電話会議を主催し、AVMCU に接続します。 • ゲートウェイ - 各参加者は Lync AVMCU サーバへの専用接続を持ちます (バージョン 2.3 以降)
muteBehavior	linked separate	通話のミュート動作を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • リンク - このモードでは、ユーザの通話が Meeting Server でミュートされている場合、エンドポイントまたはウェブアプリセッションも自動的にデバイスのローカルミュートを実行する場合があります。つまり、Meeting Server のミュートの効果を別の API コマンドで元に戻すことはできません。ユーザ自身がデバイスをミュート解除する必要があります。 • 分離 : このモードでは、Meeting Server とローカルデバイス上のユーザーの通話のミュートステータスは、互いに独立しています。つまり、他のユーザー/管理者は、すべての参加者をビデオ/音声でミュート/ミュート解除できます。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで linked になります。(バージョン 3.1 以降)
messageBannerText	文字列	文字列は画面に表示されるメッセージです。既定値は空の文字列で、メッセージバナーを表示しません。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
chatAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でチャットが許可されていることを示します。 • false - 通話でチャットが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。</p>
raiseHandEnabled	true false	<p>管理者は全体の通話でこの機能を有効または無効にすることができます。</p> <p>デフォルトでは、パラメータは <unset> ですが、call / callProfile 階層のすべてのレベルで設定を解除すると、デフォルトで true になります。</p>
notesAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でメモが許可されていることを示します。 • false - 通話でメモが許可されていないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
captionsAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話で字幕が許可されることを示します。 • false - 通話で字幕が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
backgroundBlurAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話で背景のぼかしが許可されることを示します。 • false - 通話で背景のぼかしが許可されていないことを示します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定されていない場合、デフォルト値は false になります。
fileReceiveAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 通話でファイル共有が許可されることを示します。 • false - 通話でファイル共有が許可されないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
ロゴファイル名	文字列	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前で、ファイル名は 128 文字に制限されています。
ロゴの位置	leftTop leftBottom rightTop rightBottom	受信者の画面上で表示されるロゴの位置です。すべてのレベルで設定解除した場合、ロゴの位置はデフォルトの 左上 に配置されます。
surveyAllowed	true false	<p>True - ミーティングでアンケートが許可され、参加者がアンケートに回答できることを示します。</p> <p>False - ミーティングでアンケートが許可されないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
名前	文字列	通話プロファイル の名前です。

8.2.3 個々の通話プロファイルに関する詳細情報を取得する

"/callProfiles/<call Profile id>" ノードに対して実行される GET メソッド。提供された通話プロファイル ID が有効な場合、「200 OK」の応答を受信し、上記のセクションと一致する XML コンテンツが含まれます。

8.3 コール レッグ メソッド

8.3.1 アクティブコールレッグに関する情報を取得する

/callLegs ノードで実行される GET メソッド (システム内のすべてのアクティブなコール レッグに関する情報を取得するため)。

代わりに、"/calls/<call id>/callLegs" ノードで GET メソッドを実行することで、特定のコールのアクティブなコール レッグに関する情報を取得することもできます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「offset」と「limit」を指定して、概念リストの最初の「page」以外の要素を取得することができます (セクション 4.2.2 を参照)。
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致するコールレッグだけを返します。
参加者フィルタ	ID	参加者フィルタを提供して、指定された参加者に関連するコール レッグのみを返します。
tenantFilter	ID	tenantFilter を提供して、指定されたテナントに関連するコール レッグのみを返します。
activeLayoutFilter	文字列	指定されている場合、このフィルターは指定されたレイアウトを使用するコール レッグに返される結果を制限します。
availableVideoStreamsLowerBound	番号 (Number)	指定すると、このフィルターは指定された数以上の使用可能なビデオ ストリームを持つコール レッグに返される結果を制限します。
availableVideoStreamsUpperBound	番号 (Number)	このフィルターが指定されている場合、結果は、使用可能なビデオ ストリームの数が多い、または少ないコール レッグに制限されます。
所有者 ID セット	true false	所有者 ID が設定されている、または所有者 ID が設定されていないコール レッグを返すために使用されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
アラーム	文章	<p>指定されたアラーム名が現在アクティブであるコールレグのみを返すために使用されます。サポートされているすべてのアラーム条件をカバーする「all」、または「 」で区切られた1つ以上の特定のアラーム条件でフィルタリングできます。</p> <p>サポートされているアラーム名は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> packetLoss - パケット損失は現在このコールレグに影響を与えています 過剰ジッター - 現在、このコールのセグメントの1つまたは複数のアクティブメディアストリームで高レベルのジッターが発生しています。 highRoundTripTime : Meeting Server は、それ自体とコールのセグメントの宛先との間の往復時間を測定します。メディアストリームの往復時間が長い（通話品質に影響する可能性がある）ことが検出された場合、このアラーム条件がコールのセグメントに設定されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
callLeg id 名前 remoteParty call テナント <アラーム>	ID 文字列 文字列 ID ID	<p>レスポンスは、複数の <callLeg> 要素を持つ最上位の <callLegs total="N"> タグとして構成されます。</p> <p><callLeg>要素は左側の一般的な形式に従います。</p> <p>アクティブなアラーム状態を持つコールレグには、「<callLeg>」タグの下に追加の「<alarms>」タグがあり、現在アクティブなアラームの詳細を示します。この「<alarms>」タグの中には、一つまたはそれ以上の補助的な指示があります-以下のメモも参照してください。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
パケット損失	文字列	1 つ以上のコール レッグのアクティブ メディア ストリームでパケット損失が発生している場合に表示されます。
過度のジッター	文字列	コール レッグの 1 つ以上のアクティブ メディア ストリームで高レベルのジッターがある場合に表示されます。
highRoundTripTime	文字列	1 つまたは複数のコール レッグのメディア ストリームで、高い往復時間が検出された場合に表示されます。
accessMethod	ID "coSpace"	ダイヤルイン時に通話に参加するために使用されたアクセス方法、またはダイヤルアウト時に設定されたアクセス方法を返します。 POST 操作で、accessMethod が指定されていない場合でも、coSpace で defaultAccessMethod が構成されている場合、またはプライマリアクセス方法が採用されていれば、GET はアクセス方法 ID を返します。 API は、アクセス方法を通じて接続されていない場合に「coSpace」を返します。これはダイヤルイン時またはダイヤルアウト時で、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方法が存在しない場合です。

アラームに関するメモ:

コール レッグ アラームは、アラームを発生させたり、発生した後に問題をトラブルシューティングする際に役立つ情報を提供しますが、システム レベルのアラームとは異なり、必ずしもそれ自体がアラーム状態であるかのように扱う必要はありません。

コール レッグ アラームは、さまざまな要因によってトリガーされる場合があります。たとえば、必ずしもパケット損失の設定パーセンテージによるわけではありません。Meeting Server がコールレッグの性能が落ちていると判断した場合、そのコールレッグにアラーム条件が付けられます。これらの「条件」には単純なしきい値が含まれる場合がありますが、より適応性のあるしきい値や他の要因が考慮されるなど、他の条件も含まれる可能性があります。これは、必ずしもユーザのエクスペリエンスが低かったことを意味するものではありませんが、エラーが発生した場合にトラブルシューティングするための情報を提供します。そのため、このアラーム情報にフィルターを追加し、オペレータへのアラームとしてイベントにフラグを設定するタイミングを決定することを検討できます (つまり、自分のしきい値を設定すること) および/または CDR と一緒にコール レッグ アラーム情報を保存して、ユーザが通話品質が低いと報告した場合にイベント後にこの情報を取得することで、何が原因だったかを推定できます。

8.3.2 コールレグの追加と変更

- 追加: "/calls/<call ID>/callLegs" ノードに POST メソッドを使用して追加します。 <call ID>が「/calls」の GET または新しく作成された通話から学習されます (上記の新しい通話の作成を参照してください)。 プロファイルがこのコールレグに適用されている場合、プロファイルで設定された値で開始されます。 メモ: これらの追加または変更されたコールレグは、クラスタ化されたMeeting Server間で負荷分散されません。
- 変更: "/callLegs/<callLeg ID>" に対して実行される PUT メソッドノードが行われます。これは、リモート参加者への進行中の接続に対するライブで動的な変更を行います。

メモ: remoteParty、帯域幅、確認を変更することはできません。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
remoteParty *	文字列	POST の場合のみ、コールレグのアドレスを指定します。これは SIP URI またはユーザを通話に招待する電話番号の場合があります。
帯域幅	番号 (Number)	POST の場合のみ、提供された場合、コールレグの帯域幅をビット/秒で設定します (例: 2000000 (2Mbit/秒の場合)。指定しない場合は、Call Bridge の設定値が使用されます。
確認	true false	POST のみの場合、指定されている場合、リモート側からの通話参加確認の自動選択が上書きされます。 true - 常にリモート側の確認を要求します。これは通常、参加するためにキーを押すことを要求する音声プロンプトの形式をとります false - リモート側からの確認を要求しません。通話相手が着信を受け入れると、通話スペースに参加します。
所有者 ID	ID	指定する場合は、Meeting Serverがこのコールレグと関連付けるための ID でなければなりません。この値は、後ほどコールレグが問い合わせられた際にMeeting Serverにより返され

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		るため、要求者にとって意味のある値でなければなりません。
選択されたレイアウト	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このパラメータは、このコールレグの現行のデフォルトレイアウトを上書きします。
dtmfSequence	string	コールレグの最初の接続時または通話中に、遠端に送信する DTMF キープレスコマンドのシーケンス。提供されたシーケンスでは、0から9までの数字、*、#、および1つ以上のカンマ文字(",")を使用でき、これらは数字の間に一時停止を追加します。
callLegProfile	ID	提供されている場合、指定されたコールレグプロファイルをこのコールレグに関連付けます。コールレグプロファイルの一部であるすべてのパラメータに個別の値を指定して、このコールレグプロファイルの値を上書きすることもできます。以下 を参照してください 。
needsActivation		これらのパラメータのいずれかを指定して、このコールレグのコールレグプロファイル値を上書きします。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths	指定すると、コールレグは指定されたビデオストリームレイアウトを使用するように変更されます。 メモ: callLegProfile の「defaultLayout」パラメータは同等の「layout」パラメータを置換し

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
	allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	ます。両方が指定されている場合、defaultLayoutが優先されます。
participantLabels		
presentationDisplayMode		
presentationContributionAllowed	true false	
presentationViewingAllowed	true false	
endCallAllowed	true false	
muteOthersAllowed	true false	
videoMuteOthersAllowed	true false	
muteSelfAllowed	true false	
videoMuteSelfAllowed	true false	
changeLayoutAllowed	true false	
joinToneParticipantThreshold	番号 (Number)	
leaveToneParticipantThreshold		
videoMode		
rxAudioMute		
txAudioMute		
rxVideoMute		
txVideoMute		
sipMediaEncryption		
audioPacketSizeMs		
deactivationMode		
deactivationModeTime		
telepresenceCallsAllowed	true false	
sipPresentationChannelEnabled	true false	メモ 注意: sipPresentationChannelEnabled パラメータは、アクティブな通話中に変更しないでください。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
bfcfMode	true false	
レイアウト	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このパラメータは、Acano サーバーの初期のバージョンとの下位互換性のために提供されています。これは、「デフォルトレイアウト」の変更と同等の機能を持ち、両方が指定されている場合、「デフォルトレイアウト」が優先されます。
disconnectOthersAllowed	true false	
addParticipantAllowed	true false	
qualityMain	unrestricted max1080p30 max720p30 max480p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のメインのビデオ コールのネゴシエートされた最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを使用して指定します。コール レッグは、エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、低い解像度またはフレームレートで動作する場合があります (バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディングリソースのネゴシエートに制限します。たとえば、60 フレーム/秒で 1280x720 の画面サイズ</p> <p>max720p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトラン</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>スコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max480p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>メモ: Meeting Serverと Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限はMeeting Serverへの着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p> <p>メモ:このパラメータは、Cisco ミーティング アプリまたは Cisco ミーティング アプリ WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p>
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のネゴシエートされたプレゼンテーション ビデオコールの最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを用いて指定されています。これは別のプレゼンテーション ストリームを使用する通話路にのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - Call Bridgeが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max720p5 - Call Bridge が 5 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランス</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>スコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>メモ: Meeting Serverと Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限はMeeting Serverへの着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p> <p>メモ:このパラメータは、Cisco ミーティング アプリまたは Cisco ミーティング アプリ WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p>
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者数を制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>決して - 画面上に参加者カウント値を表示しません</p> <p>自動 - 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは現在見ることができない追加の参加者が存在することを示すためです。</p> <p>いつも - 画面上に参加者カウント値をいつも表示します</p>
nameLabelOverride	文字列 (UTF-8 で最大 50 バイト)	<p>指定されている場合、このコール レッグの名前を優先します。空の文字列を設定すると値が消去され、元の名前が復元されます。参加者および関連するコールレッグの名前を優先する両方に影響を与えます。最新の変更が優先されます。次の状況で参加者の名前が変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他の会議参加者に表示される画面上の名前ラベル、 - ActiveControl ロスターリスト、 - 通話中にウェブ アプリが参加者の名前を確認できる任意の場所、

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> - CDR 記録、 - ウェブインタフェースで名前が表示される場所。 (バージョン 2.4 以降)
controlRemoteCameraAllowed	true false	コール レッグがリモート参加者のカメラを (FECC を使用して) 操作することを許可するかどうかを決定します。(バージョン 2.8 以降)
レイアウト テンプレート	ID	指定する場合、レイアウト テンプレートをこのコールレッグに関連付けます。(バージョン 2.8 以降)
音声ゲインモード	disabled agc	<p>このコール レッグの音声で自動ゲイン コントロールを使用するかどうかを指定します。(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は Meeting Server に直接接続されたエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフトクライアント) に適用されます。TIP 通話または AVMCU には適用されません (これは混合音声ストリームのため)。 - AVMCU に接続している Skype 参加者は、AVMCU が音声をコントロールするため、AGC の対象にはなりません。 - Meeting Server 間の分散リンクには AGC が適用されません。これは混合音声ストリームのためです。
meetingTitlePosition	disabled top middle bottom	<p>ミーティングの議題を有効にし、指定の位置に配置します。指定されていない場合、値 bottom になります。</p> <p>値を無効にすると、ミーティングのタイトルが削除されます。</p>
chatContributionAllowed	true false	参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを指定します。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
handStatus	raised lowered	このコール レッグで挙手をするか下げるかを指定します。
accessMethod	ID	指定した accessMethod をコールレッグ/参加者のアクセス方法として使用し、coSpaceのデフォルトまたはプライマリのアクセス方法をオーバーライドします。参加者の役割を変更する権限の詳細については、 付録 A を参照してください。
changeRoleAllowed	true 、 false 、または <unset>	参加者がウェブアプリ使用時に、通話中に別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。 true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができます。 false に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができません。参加者の役割を変更する権限の詳細については、 付録 A を参照してください。 通話の階層とコールレッグプロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
noteContributionAllowed	true false	参加者がメモを公開できるかどうかを指定します。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
captionContributionAllowed	true false	参加者がミーティング中に字幕を送信できるかどうかを指定します。callLeg の階層と callLeg プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。 注意: 通話レベルで captionsAllowed が false に設定されている場合、参加者は、 captionContributionAllowed が設定されているにもかかわらず、字幕を送信することができません として true 。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
音声プロンプト	オン/オフ	<ul style="list-style-type: none"> オン - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生され、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要があります。 オフ - 一斉ダイヤル音声プロンプトが再生されず、ユーザは電話会議に参加するために DTMF キーを入力する必要がありません。 <p>このパラメータは POST メソッドでのみサポートされています。</p>
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> true - 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
surveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができることを示します。</p> <p>False - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
audioGainDb	数値/整数	<p>このパラメータは、特定の参加者のゲイン値をデシベル単位で設定します。値は 10 の倍数で入力する必要があります。たとえば、ゲイン値を 6 dB にするには、60 と入力します。正の値（音量増加）と負の値（音量減少）を、以下の範囲内で受け入れます。+60 から-60。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>audioGainDb パラメータからのゲインは、audioGainMode パラメータとは独立して動作します。ただし、有効な音量は、callLeg プロファイルで audioGainMode パラメータが有効になっているかどうかによって異なります。AGC に設定すると、自動ゲイン制御後に audioGainDb からの固定ゲインが適用されます。</p> <hr/> <p>注: callLegProfile 経由で修正した audioGainDb は、callLeg 確定後に修正されない限り、そして修正されるまで適用されません。</p> <hr/>
allChatSave	True/False	<p>True - Web App の参加者は、チャットメッセージを .txt 形式でダウンロードして保存できます。</p> <p>False - Web アプリの参加者はチャットメッセージをダウンロードして保存できません。設定されていない場合はデフォルトで False になります。</p>

8.3.3 /callLegs/<call leg id>/generateKeyframe

/callLegs/<通話レグ id>/generateKeyframeにPOSTすると、問題の通話レグの発信ビデオストリームで新しいキーフレームの生成がトリガーされます。これはデバッグ機能です。Cisco サポートは、問題を診断する際に、この機能の使用をお願いする場合があります。

8.3.4 API を使用した遠端カメラ制御 (FECC) を可能にする

リモートシステムのカメラで FECC を許可するには、バージョン2.9から:

- /callLegs/<call leg id>/cameraControl

に PUT このオブジェクトは、オプションなリクエストパラメーターをサポートします。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
手のひらツール	左 右	リモートカメラを左または右にパンします。
傾斜	up down	リモートカメラを上下にチルトします。
ズーム	in out	リモートカメラをズームインまたはズームアウトします。
集中	in out	リモートカメラのフォーカスをインまたはアウトします。

8.3.5 ミーティング参加者のスナップショットを取得する

ミーティング中に、参加者のビデオのスナップショットおよび/またはミーティングビデオのスナップショットを撮影することができます。 `callLegs/<call leg id>/snapshot` に GET メソッドはスナップショットを取るために導入されました。 このオプションは参加者レベルで利用できます。以下の2つのオプションパラメーターをサポートします。

パラメータ	タイプ/値	説明
方向 (オプション)	文字列	<p>RX または TX を受け入れます</p> <ul style="list-style-type: none"> • RX/受信 - 参加者から CMS へ • TX/送信 - CMS から参加者へ <p>指定されていない場合、デフォルトで RX/受信になります。</p>
<code>maxWidth</code> (オプション)	数値	<p>サポートされているスナップショットの最大解像度は 720 ピクセルです。この API は <code>maxWidth</code> 値を受け入れます。そのため、スナップショットの最大解像度 720P を達成するには、このパラメーターを 1280 に設定する必要があります。</p> <p>他の値も受け付けますが、Meeting Server はスナップショットを最大解像度 720 ピクセルで応答します。</p> <hr/> <p>メモ: スナップショット画像の最大解像度は 720p (1280*720 ピクセル) です</p>

パラメータ	タイプ/値	説明
		maxwidth の値が指定されていない場合、Meeting Server はデフォルトの解像度 96p でスナップショットに回答します。

メモ: スナップショット API は、Meeting Serverのウェブ管理インターフェイスまたは API Explorer を使ってアクセスすることはできません。

8.3.6 個々の通話区間に関する情報の取得

"/callLegs/<callLeg ID>" ノードに対して実行される GET メソッド。

提供されたコール レッグ ID が有効な場合、「200 OK」の応答と XML コンテンツが受信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
callLeg id	ID	
名前	文字列	
remoteParty	文字列	
originalRemoteParty	文字列	発信コールの場合、これは元の宛先アドレスです。着信コールの場合、これは Call Bridge に最初にシグナリングされたリモートアドレスです。バージョン 2.3 以降。
ローカルアドレス	文字列	
call	ID	
テナント	ID	
type	sip acano	
subType	lync avaya distributionLink lyncDistribution webApp (2.9 以降)	
lyncSubType	audioVideo applicationSharing instantMessaging	コールレッグのサブタイプが「lync」の場合の、コールレッグのタイプのさらなる特殊化。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>audioVideo : これは、Call Bridge と Lync の間の音声とビデオの交換に使用される Lync コールレグです。</p> <p>applicationSharing : これは、Lync と Call Bridge の間のアプリケーションまたはデスクトップ共有に使用される Lync コールレグです</p> <p>instantMessaging : これは、Lync と Call Bridge の間のインスタントメッセージの交換に使用される Lync コールレグです</p> <p>応答に存在する場合、これらのパラメータは、特にこのコールレグに対して現在アクティブなオーバーライドです (つまり、コールレグの関連付けられたテナントなど、「より高いレベル」のために有効な値ではありません)</p>
方向	incoming outgoing	
移動できる	true false	このコールレグを所有する参加者を移動できるかどうかを示します。(バージョン 2.6 以降)
movedCallLeg	ID	このコールレグが参加者の移動により作成されたものである場合、ID は参加者が移動した元のコールレグを示します。(バージョン 2.6 以降)
movedCallLegCallBridge	ID	このコールレグが参加者の移動によって作成された場合、この ID は、参加者が移動した元のコールレグをホストした Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
configuration	名前	タイプ	説明
	所有者 ID	ID	
	選択されたレイアウト	次のいずれか: speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
			上記の callLegProfile フィールド (存在する場合は、このコールレグのために特にアクティブである現在のオーバーライドを示します (つまり、コールレグの関連するテナントなど、より高いレベルのために強制されているものではありません)
	needsActivation		
	defaultLayout		
	participantLabels		
	presentationDisplayMode		
	presentationContributionAllowed		
	presentationViewingAllowed		
endCallAllowed			
muteOthersAllowed			
videoMuteOthersAllowed			
muteSelfAllowed			
videoMuteSelfAllowed			
changeLayoutAllowed			

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	joinToneParticipantThreshold		
	leaveToneParticipantThreshold		
	videoMode		
	rxAudioMute		
	txAudioMute		
	rxVideoMute		
	txVideoMute		
	sipMediaEncryption		
	audioPacketSizeMs		
	deactivationMode		
	deactivationModeTime		
	telepresenceCallsAllowed		
	sipPresentationChannelEnabled		
	bfcfMode		
	disconnectOthersAllowed		
	addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降)		
	qualityMain (バージョン 2.2 以降)		<p>メモ: Meeting Serverと Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限はMeeting Serverへの着信メディアにのみ適用され、発信メディアには影響しません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>
	qualityPresentation (バージョン 2.2 以降)		<p>注: これらのパラメータは、Cisco ミーティング アプリまたは Cisco ミーティング アプリ WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p>
	participantCounter (バージョン 2.2 以降)		

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	nameLabelOverride (バージョン 2.4 から)		
	controlRemoteCameraAllowed (バージョン 2.8 から)		
	layoutTemplate (バージョン 2.8 から)		
	audioGainMode バージョン 2.8 から		
	meetingTitlePosition	top middle bottom	ミーティングの議題を有効にし、指定の位置に配置します。指定されていない場合、値 bottom になります。値を無効にすると、ミーティングのタイトルが削除されます。
	handStatus	raised lowered	設定されている場合、この参加者またはコールレグの手が挙げたかどうかを示します。コール中にhandStatusが変更されなかった場合、値は返されません。
	accessMethod	ID "coSpace"	<p>インダイヤルまたはアウトダイヤルの設定で、通話に参加するために使用するアクセス方法を返します。POST 操作で、accessMethod が指定されていない場合でも、coSpace で defaultAccessMethod が構成されている場合、またはプライマリアクセス方法が採用されていれば、GET はアクセス方法 ID を返します。</p> <p>API は、アクセス方法を通じて接続されていない場合に「coSpace」を返します。これはダイヤルイン時またはダイヤルアウト時で、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方法が存在しない場合です。</p>
	handStatusLastModified	文字列	ハンドステータスが最後に変更されたときの UTC 日時を返します。コール中にhandStatusが変更されなかった場合、値は返されません。

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	chatContributionAllowed	真 偽	指定するかどうかを決定します。参加者がチャットメッセージを送信できるかどうか。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。
	changeRoleAllowed	true、false、 または <unset>	指定するかどうかを決定します。参加者は、ウェブ アプリの使用時に、通話で別の参加者の役割を変更できます。true に設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができます。false に設定すると、参加者は他の参加者のロールを変更することができません。 通話の階層とコールレグプロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
	noteContributionAllowed	true false	パラメーターが true または false かどうかを決定します。参加者はメモを公開することができます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
	CaptionContributionAllowed	true false	指定するかどうかを決定します。参加者はミーティング中に字幕を送信できます。callLeg の階層と callLeg プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。 注意: もし captionsAllowed が false に設定されている場合、参加者は、次の場合でもであっても字幕を送信できません。 captionContributionAllowed が true に設定されています。

応答要素	タイプ/値		説明/メモ						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="362 268 711 319">名前</th> <th data-bbox="711 268 979 319">タイプ</th> <th data-bbox="979 268 1419 319">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="362 319 711 772">fileUploadAllowed</td> <td data-bbox="711 319 979 772">true false</td> <td data-bbox="979 319 1419 772"> <ul style="list-style-type: none"> • true - は次のことを示します: 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 • false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	名前	タイプ	説明	fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - は次のことを示します: 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 • false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>		
名前	タイプ	説明							
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - は次のことを示します: 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 • false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>							
	surveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者を示すことを示します アンケートの作成/起動/削除/結果の表示ができます。</p> <p>False - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>						

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
状態	名前	タイプ	説明
	state	initial ringing connected onHold	
	durationSeconds	番号 (Number)	
	sipCallID	文字列	
	グループ ID	ID	
	recording	trueのみ	callLeg が録画中の場合にのみ表示
	streaming	trueのみ	callLeg がストリーミングの場合にのみ表示されます
	無効化されました	trueのみ	true の場合にのみ表示されます
	encryptedMedia	true false	
	unencryptedMedia	true false	
cipherSuite	以下のいずれか: AEAD_AES_256_GCM AEAD_AES_128_GCM AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 AES_CM_128_HMAC_SHA1_32	このコール レッグのメディアのいずれかが暗号化されている場合、これは使用中の SRTP 暗号化スイートに関する情報を提供します。 - AEAD_AES_256_GCM - AES 暗号化、256 ビット、GCM - AEAD_AES_128_GCM - AES 暗号化、128 ビット、GCM - AES_CM_128_HMAC_SHA1_80 - AES 暗号化、128 ビット、80 ビット SHA1 認証タグ - AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 - AES 暗号化、128 ビット、32 ビット SHA1 認証タグ (バージョン 2.9 以降)	

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	レイアウト	次のいずれか: speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
	アクティブなレイアウト	次のいずれか: speakerOnly telepresence stacked allEqual allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	
	利用可能なビデオストリーム	番号 (Number)	
	レイアウト テンプレート	ID	このコールレグのレイアウトを生成するために、カスタムレイアウトテンプレートが現在使用されている場合に存在し、使用されているレイアウトテンプレートを識別します。(バージョン 2.8 以降)

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	cameraControlAvailable	true false	<p>このコール レッグがをアダバタイズしたかどうかカメラをリモートで制御する能力があります。</p> <p>true - このコール レッグのカメラ コントロールは可能です</p> <p>false - このコールレッグのカメラコントロールはできません (バージョン 2.8 以降)</p>
	confirmationStatus	必須 必須ではありません 確認されました	<p>必須: Confirmation=true が必要です設定された、ユーザがまだ通話に参加するための DTMF 確認を提供していない</p> <p>notRequired: confirmation=true が設定されていません</p> <p>確認: 参加者が通話への参加を希望していることを確認するための DTMF シーケンスが入力されました</p>

応答要素	タイプ/値		説明/メモ	
状態	rxAudio	名前		
		タイプ		
		説明		
		名前	タイプ	説明
		コーデック	次のいずれか:	使用される音声コーデック:
			g711u	g711u - G.711 mu law
			g711a	g711a - G.711 a law
			g722	g722 - G.722
			g728	g728 - G.728
			g729	g729 - G.729
	g722_1	g722_1 - G.722.1		
	g722_1c	g722_1c - G.722.1C (G.722.1 付録 C)		
	aac	aac - AAC		
	speexNb	speexNb - Speex ナローバンド		
	speexWb	speexWb - Speex 広帯域		
	speexUwb	speexUwb : Speex ウルトラワイドバンド		
	isacWb	isacWb - iSAC (internet Speech Audio Codec) ワイドバンド		
	opus	isacSwb : iSAC (インターネットスピーチ音声コーデック) スーパーワイドバンド		
	jitter	番号 (Number)		
	bitRate	番号 (Number)	受信音声データの実際の測定ビット レート	
	codecBitRate	番号 (Number)	音声コーデックタイプに対して存在します (例えば、G.722.1)。ビットレートによってのみ区別できるバリエーションを持つ。このフィールドは、観測された測定値ではなく、期待される音声ビットレートになります (バージョン 2.1 以降)。	
	パケット損失率	番号 (Number)		
	ゲイン適用済み		リモートパーティからAGCを使用して受信した音声に適用されたゲインのデシベル値 (バージョン 2.8 以降)。	

応答要素	タイプ/値	説明/メモ		
状態	txAudio	名前	タイプ	説明
		名前	タイプ	説明
		コーデック	次のいずれか: g711u g711a g722 g728 g729 g722_1 g722_1c aac speexNb speexWb speexUwb isacWb opus	使用される音声コーデック: g711u - G.711 mu law g711a - G.711 a law g722 - G.722 g728 - G.728 g729 - G.729 g722_1 - G.722.1 g722_1c - G.722.1C (G.722.1 付録 C) aac - AAC speexNb - Speex ナローバンド speexWb - Speex 広帯域 speexUwb : Speex ウルトラワイドバンド isacWb - iSAC (internet Speech Audio Codec) 広帯域 isacSwb : iSAC (インターネットスピーチ音声コーデック) スーパーワイドバンド
		jitter	番号 (Number)	
		bitRate	番号 (Number)	受信音声データの実際の測定ビットレート
往復時間	番号 (Number)			
パケット損失率	番号 (Number)			

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
状態	名前		
	名前	タイプ	説明
	rxVideo		
	親タグに含まれるパラメータ		
	ロール	メイン プレゼン テーション	ビデオストリームのタイプ: メインまたはプレゼン テーション
	応答値		
	コーデック	次のいずれか: h261 h263 h263+ h264 h264Lync vp8 rtVideo	使用されているビデオコ ーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 SVC Lync 用 vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo
	幅	番号 (Number)	
	高さ	番号 (Number)	
	フレームレート	番号 (Number)	
jitter	番号 (Number)		
bitRate	番号 (Number)		
パケット損失率	番号 (Number)		

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
txVideo	名前		説明
	名前		タイプ
	親タグに含まれるパラメータ		
	ロール	main presentation	ビデオストリームのタイプ: メインまたはプレゼンテーション
	応答値		
	コーデック	次のいずれか: h261 h263 h263+ h264 h264Lync VP8 rtVideo	使用されているビデオコーデック h261 - H.261 h263 - H.263 h263+ - H.263+ h264 - H.264 h264Lync - H.264 Lync 用 SVC vp8 - VP8 rtVideo - RTVideo
	幅	番号 (Number)	
	高さ	番号 (Number)	
	フレームレート	番号 (Number)	
	jitter	番号 (Number)	
	bitRate	番号 (Number)	
	往復時間	番号 (Number)	
パケット損失率	番号 (Number)		

応答要素	タイプ/値		説明/メモ	
activeControl (バージョン 2.1 以降)	名前		説明	
	名前	タイプ	説明	
	暗号化された	true/false	<p>アクティブコントロールがリモートパーティとネゴシエートされている場合、これはアクティブコントロール接続が暗号化されているかどうかを示します。</p> <p>true - 暗号化された Active Control 接続はリモート側とネゴシエートされています</p> <p>false - Active Control 接続がリモート側とネゴシエートされていますが、暗号化はされていません</p>	
	localSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	下の表を参照。		
	リモートサブスクリプション (バージョン 2.2 以降)	下の表を参照。		
multiStreamVideo (バージョン 2.2 から)	名前		説明	
	画面数	番号 (Number)	このコール レッグでマルチストリーム ビデオがアクティブであることを示します	
	numCameras	番号 (Number)	このコール レッグで現在アクティブなマルチストリーム メイン ビデオ カメラ ストリームの数。(バージョン 2.9 以降)	
	利用可能なカメラ数	番号 (Number)	この通話経路で利用可能とされているマルチストリームのメインビデオカメラストリームの数が遠端によって通知されました。(バージョン 2.9 以降)	

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
	名前	タイプ	説明
	lyncRole	プレゼンタ 表示	<p>参加者が出席者に関連付けられている場合にのみこのコール レッグは Lync 会議中です。</p> <p>プレゼンタ - このコール レッグに関連付けられた参加者は、Lync 電話会議のプレゼンタです。</p> <p>出席者 - このコール レッグに関連付けられた参加者は、Lync 電話会議の出席者です。</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p>

アクティブ コントロール パラメータのステータス

名前	タイプ		説明
localSubscriptions (バージョン 2.2 以降)	名前	説明	
	機能	存在する場合、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP ケーパビリティにサブスクライブしていることを示します。	
	conferenceInfo	存在する場合、これはローカル Meeting Server が遠端の XCCP conference information (参加者リスト、録画がアクティブかどうかなどの電話会議全体の情報を含む) をサブスクライブしていることを示します。	
	layouts	存在する場合、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP レイアウト情報をサブスクライブしていることを示します。	
	selfInfo	存在する場合、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP レイアウト情報をサブスクライブしていることを示します。	
	speakerInfo	存在する場合、ローカル Meeting Server が遠端の XCCP スピーカー情報をサブスクライブしていることを示します。	
リモートサブスクリプション (バージョン 2.2 以降)	Name	説明	
	機能	存在する場合、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP 機能をサブスクライブしていることを示します。	
	conferenceInfo	存在する場合、これは遠端の Meeting Server がローカルの XCCP 電話会議情報 (参加者リスト、録画がアクティブかどうかなどの電話会議全体の情報を含む) をサブスクライブしていることを示します。	
	レイアウト	存在する場合、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP レイアウト情報をサブスクライブしていることを示します。	
	自己情報	存在する場合、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP レイアウト情報をサブスクライブしていることを示します。	
	スピーカー情報	存在する場合、遠端の Meeting Server がローカルの XCCP スピーカー情報をサブスクライブしていることを示します。	

メモ: [付録 B](#)を参照してください。コールレグの設定と返されるステータスの例を示しています。

8.4 コール レッグ プロファイル メソッド

8.4.1 一般情報

通話セッションプロファイルは、一連の通話中の動作を定義します。coSpace、coSpaceUser、accessMethod、および tenant オブジェクトは、オプションで通話セッションプロファイル関連付けを持つことができます。関連付けられている場合、これらのオブジェクトに対応する通話セッションは、通話セッションプロファイルによって定義された通話中の動作を継承します。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.4.2 コールレッグプロファイルを取得する

"/callLegProfiles/" ノード上の GET メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「offset」と「limit」を指定して、概念リスト上の最初の「page」以外の要素を取得することができます (セクション 4.2.2 を参照)。
usageFilter	unreferenced referenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定または他のオブジェクトによって参照されないコール レッグ プロファイルのみが取得されます。これは、コール レッグ プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
needsActivation	true false	<p>応答は次のコレクションです: <callLegProfile id=<コールレッグ プロファイル ID>オブジェクトが含まれています" <callLegProfiles>" <callLegProfile>要素は左側の一般的な形式に従います。</p> <p>「true」に設定すると、参加者は 1 人以上の「全権限/活性化可能」参加者が参加するまで、音声やビデオを受信したり投稿したりすることができません。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
defaultLayout	すべて等しい スピーカーのみ テレプレゼンス 重ねて表示 すべて等しい四分の一 すべて等しい九分の一 すべて等しい六分の一 すべて等しい二十五分の一 onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグに使用されるデフォルトのレイアウト。
changeLayoutAllowed	true false	「true」に設定すると、このコール レッグプロファイルを使用するすべてのレッグは、SIP エンドポイントで画面レイアウトを変更できます。
participantLabels	true false	「true」に設定されている場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグのビデオ ペインに参加者ペインのラベルが表示されます。
presentationDisplayMode	dualStream singleStream	singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の合成コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。
presentationContributionAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、コンテンツの共有が許可されます。
presentationViewingAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッ

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		グは、共有されたコンテンツの表示が許可されます。
endCallAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、参加しているコールを終了することが許可されます。
disconnectOthersAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、通常は Active Control 経由で、他の参加者を切断することが許可されます。
addParticipantAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、通常はアクティブ コントロール経由で、他の参加者を追加することが許可されます。
muteOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグは、他の参加者の音声をミュートまたはミュート解除することができます。
videoMuteOthersAllowed	true false	true の場合、このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグは、他の参加者のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）することができます。
muteSelfAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、自分の音声をミュートまたはミュート解除できます。
videoMuteSelfAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、自分のビデオをミュートまたはミュート解除（開始/停止）することができます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
joinToneParticipantThreshold	番号 (Number)	「参加トーン」が鳴る参加者数。 最大 100、値 0 は機能を「無効」にします。
leaveToneParticipantThreshold	番号 (Number)	「終了トーン」が鳴る参加者数。 最大 100、値 0 は機能を「無効」にします。
videoMode	自動 無効	無効 が設定されている場合、この通話レグプロファイルを使用する通話レグは、 presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、音声のみ、または音声とコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオストリームでコンテンツを表示するデバイスの場合、適切なきにはコンテンツのみがメインビデオストリームに表示され、参加者のビデオは表示されません。
rxAudioMute	true false	True の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声は他の参加者には聞こえません。
txAudioMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへの音声はミュートされます。
rxVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用してコールレグから提供された(「カメラ」)ビデオは、他の参加者には表示されません。
txVideoMute	true false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグへのビデオストリームはミュートされます(たとえば、SIP エンド

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		ポイントの画面にはロゴが表示されるだけで、ウェブアプリにはビデオが送信されません)
sipMediaEncryption	optional required prohibited	Web 管理画面の設定と同じです。 システム プロファイルの下にある callLegProfiles の sipMediaEncryption を変更すると、グローバル レベルの設定に影響することに注意してください。 システム プロファイル下でない callLegProfiles の sipMediaEncryption に加えられた変更は、coSpace にのみ影響し、グローバル設定には影響しません。
audioPacketSizeMs	番号 (Number)	ミリ秒単位で、デフォルト値は 20msの発信音声ストリームの優先パケットサイズの数値です
deactivationMode	deactivate disconnect remainActivated	最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コール レッグのアクション
deactivationModeTime	番号 (Number)	最後の「アクティベーター」が離れてから非活性化モードアクションが実行されるまでの秒数
telepresenceCallsAllowed	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、TIP (Telepresence Interoperability Protocol) 通話を行うことが許可されます。
sipPresentationChannelEnabled	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、プレゼンテーション ビデオチャンネル操作を実行することが許可されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
bfcfMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーション ビデオ チャンネル操作が SIP 通話に対して有効になっている場合、この設定により Call BridgeのBFCP 動作が決定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ serverOnly - これは電話会議デバイスの通常の設定であり、BFCP クライアント モード デバイス (たとえば、SIP エンドポイント) で使用するためのものです ■ serverAndClient - この設定により、Call Bridge はリモートデバイスとの通話で BFCP クライアントまたは BFCP サーバモードのいずれかで動作することができます。これにより、サードパーティのマルチポイント制御ユニットなどのリモート会議主催デバイスとのプレゼンテーション ビデオ共有を改善できます。
callLockAllowed	true false	このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグがコールをロックできるかどうかを決定します。
setImportanceAllowed	true false	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、通話中の参加者の重要度を変更することが許可されているかどうか。(バージョン 2.3 以降)
allowAllMuteSelfAllowed	false true	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、全てのコールレッグが自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		変更することが許可されているかどうか。
allowAllPresentationContributionAllowed	false true	このコールレグプロファイルを使用するコールレグが、すべてのコールレグのプレゼンス権限を変更することが許可されているかどうか。
changeJoinAudioMuteOverrideAllowed	false true	新しい参加者の初期ミュート状態の設定を許可されるかどうか、このコールレグプロファイルを使用するコールレグ。
recordingControlAllowed	true false	コールの録音を開始/停止できるかどうか、このコールレグプロファイルを使用するコールレグ。
streamingControlAllowed	true false	コールのストリーミングを開始/停止できるかどうか、このコールレグプロファイルを使用するコールレグ。
名前	文字列	プロファイルの名前 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。
maxCallDurationTime	番号 (Number)	コールレグが存在する最大時間秒です。このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
qualityMain	無制限 max1080p30 max720p30 max480p30 max1080p60	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のメインのビデオ コールのネゴシエートされた最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを使用して指定します。コール レッグは、エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、低い解像度またはフレームレートで動作する場合がありますことに注意してください (バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディングリソースのネゴシエートに制限します。たとえば、60 フレーム/秒で 1280x720 の画面サイズ</p> <p>max720p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max480p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>max1080p60 - ブリッジがネゴシエートできる画面サイズを最大1920x1080、フレームレートを60fps、または同等のトランスコーディングリソースに制限します。</p> <p>注: このパラメータは、Cisco Meeting App WebRTC アプリまたは Cisco Meeting Server web app からの受信ビデオには適用されません。</p> <p>メモ: 間の通話については Meeting Server および Lync/Skype for Business の場合、この制限は Meeting Server への受信メディアにのみ適用され、送信メディアは影響を受けません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5 max720p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のネゴシエートされたプレゼンテーション ビデオコールの最大品質を制限します。 標準的な解像度とフレームレートを用いて指定されています。 これは別のプレゼンテーション ストリームを使用する callLegs にのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - Call Bridgeが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max720p5 - Call Bridge が 5 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max720p30 - Call Bridge が 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>注：このパラメータは、Cisco Meeting App WebRTC アプリまたは Cisco Meeting Server web app からの受信ビデオには適用されません。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>注：QualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有する際、Meeting Server は最大解像度のフレームレートを受信プレゼンテーションビデオに適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。しかし、Lync クライアントがプレゼンテーションを共有するとき、Meeting Server は、QualityPresentation 設定を Lync からの受信プレゼンテーションビデオには適用せず、SIP エンドポイントへの送信プレゼンテーションビデオには適用します。</p>
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者数を制御します。 (バージョン 2.2 以降)</p> <p>決して - 画面上に参加者カウント値を表示しません</p> <p>自動 - 必要に応じて画面上に参加者のカウント値を表示します。通常、これは現在見ることができない追加の参加者が存在することを示すためです。</p> <p>いつも - 画面上に参加者カウント値をいつも表示します</p>
負荷予測	True/False	<p>通話時のメディア負荷を予測できます。</p> <p>True - メディア負荷を予測します。 False - メディア負荷を予測しません。設定されていない場合はデフォルトで False になります。</p>

8.4.3 コールレグプロファイルを作成、変更する

- 作成: "/callLegProfiles" ノードに対する POST メソッド 通話レグ プロファイルが正常に作成されると、「200 OK」応答が受信され、応答の「ロケーション」ヘッダーに新しい通話レグ プロファイルの ID が含まれます。
- コール レグ プロファイルの変更は、"/callLegProfiles/<call leg profile id>" ノードの PUT メソッドです。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
needsActivation	true false	「true」に設定すると、参加者は 1 人以上の「全権限/活性化可能」参加者が参加するまで、音声やビデオを受信したり投稿したりすることができません。
defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	このコールレグプロファイルを使用するコールレグに使用されるデフォルトのレイアウト。
changeLayoutAllowed	true false	「true」に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するすべてのレグは、SIP エンドポイントとウェブアプリの画面レイアウトを変更できます。
participantLabels	true false	「true」に設定されている場合、このコールレグプロファイルを使用するコ

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
presentationDisplayMode	dualStream singleStream	<p>ール レッグのビデオ ペインに参加者ペインのラベルが表示されます。</p> <p>singleStream は、発信コンテンツが別のストリームにあるのではなく、単一の合成コンテンツ + ビデオ BFCP ストリームを提供します。</p>
presentationContributionAllowed	true false	true の場合、コール レッグを使用する参加者はコンテンツを提供できます
presentationViewingAllowed	true false	true の場合、コールレッグを使用する参加者は、他の参加者によって提供されたコンテンツを見ることができます。
endCallAllowed	true false	true の場合、コール レッグ プロファイルを使用する参加者は、全員のためにミーティングを終了することができます。
disconnectOthersAllowed	true false	true の場合、Active Control 経由でのみ、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグは、他の参加者を切断することができます。(バージョン 2.1 以降)
addParticipant allowed	true false	true の場合、通常は Active Control 経由で、このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグは、他の参加者の追加を許可されます。(バージョン 2.3 以降)
muteOthersAllowed	true false	true の場合、コール レッグ プロファイルを使用する参加者は他の参加者をミュートできます
videoMuteOthersAllowed	true false	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、他の参加者のビデオをミュートまたはミュート解除 (開始/停止) できるかどうか
muteSelfAllowed	true false	このコールレッグプロファイルを使用するコール レッグが、自分の音声をミュートまたはミュート解除できるかどうか

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
videoMuteSelfAllowed	true false	このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグが、自分のビデオをミュートまたはミュート解除 (開始/停止) することができるかどうか。
joinToneParticipantThreshold	番号 (Number)	「参加トーン」が鳴る参加者数。最大 100、値 0 は機能を「無効」にします。
leaveToneParticipantThreshold	番号 (Number)	「終了トーン」が鳴る参加者数。最大 100、値 0 は機能を「無効」にします。
videoMode	自動 無効	無効 が設定されている場合、この通話 レッグプロファイルを使用する通話レグは、presentationViewingAllowed および txAudioMute の値に応じて、音声のみ、または音声とコンテンツになります。メインストリームビデオは表示されません。メインビデオストリームでコンテンツを表示するデバイスの場合、適切なきにはコンテンツのみがメインビデオストリームに表示され、参加者のビデオは表示されません。
rxAudioMute	true false	trueの場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグからの音声は他の参加者には聞こえません。
txAudioMute	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグへの音声はミュートされます。
rxVideoMute	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用してコール レッグから提供された (「カメラ」) ビデオは、他の参加者には表示されません。
txVideoMute	true false	true の場合、このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグへのビデオ ストリームはミュートされます (たとえば、SIP エンドポイントの画面にはロゴが表示されるだけで、ウェブ アプリにはビデオが送信されません)

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
sipMediaEncryption	optional required prohibited	ウェブ管理インタフェースの設定と同じ
audioPacketSizeMs	番号 (Number)	ミリ秒単位で、デフォルト値は20msの発信音声ストリームの優先パケットサイズの数値です
deactivationMode	deactivate disconnect remainActivated	最後の「アクティベータ」が退出したときの「needsActivation」コールレグのアクション
deactivationModeTime	番号 (Number)	最後の「アクティベーター」が離れてから非活性化モードアクションが実行されるまでの秒数
telepresenceCallsAllowed	true>false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、TIP (Telepresence Interoperability Protocol) 通話を行うことが許可されます。
sipPresentationChannelEnabled	true>false	true の場合、このコールレグプロファイルを使用するコールレグは、プレゼンテーションビデオチャンネル操作を実行することが許可されます。
bfcfMode	serverOnly serverAndClient	<p>プレゼンテーションビデオチャンネル操作が SIP 通話に対して有効になっている場合、この設定により Call Bridge の BFCF 動作が決定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ serverOnly - これは電話会議デバイスの通常の設定であり、BFCF クライアントモードデバイス (たとえば、SIP エンドポイント) で使用するためのものです ■ serverAndClient - この設定により、Call Bridge はリモートデバイスとの通話で BFCF クライアントまたは BFCF サーバモードのいずれかで動作することができます。これにより、サードパーティのマルチポイント制御ユニットなどのリモート会議

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		主催デバイスとのプレゼンテーションビデオ共有を改善できます。
callLockAllowed	true false	このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグがコールをロックできるかどうかを決定します。
setImportanceAllowed	true false	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、コール参加者の重要度を変更することを許可するかどうかを決定します。(バージョン 2.3 以降)
allowAllMuteSelfAllowed	true false	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、全てのコールレッグが自分自身をミュートおよびミュート解除する権限を変更することが許可されているかどうか。
allowAllPresentationContributionAllowed	false>true	このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグが、すべてのコールレッグのプレゼンテーションの権限を変更できるかどうか。
changeJoinAudioMuteOverrideAllowed	false>true	新しい参加者の初期ミュート状態の設定を許可されるかどうか、このコールレッグ プロファイルを使用するコールレッグ。
recordingControlAllowed	true false	true の場合、このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグは、コールの録音を開始/停止できます。
streamingControlAllowed	true false	true の場合、このコールレッグプロファイルを使用するコールレッグは、コールのストリーミングを開始/停止できます。(バージョン 2.1 以降)
名前	文字列	プロファイルの名前 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。
maxCallDurationTime	番号 (Number)	コール レッグが存在する最大時間秒です。このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
qualityMain	無制限 max1080p30 max720p30 max480p30 max1080p60	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のメインのビデオ コールのネゴシエートされた最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを使用して指定します。コール レッグは、エンドポイントの制限または Call Bridge の全体的な負荷により、低い解像度またはフレームレートで動作する場合がありますことに注意してください (バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディングリソースのネゴシエートに制限します。たとえば、60 フレーム/秒で 1280x720 の画面サイズ</p> <p>max720p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max480p30 - ブリッジが 30 フレーム/秒で最大 1868x480 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max1080p60 - ブリッジがネゴシエートできる画面サイズを最大 1920x1080、フレームレートを 60fps、または同等のトランスコーディングリソースに制限します。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>注：このパラメータは、Cisco Meeting App WebRTC アプリまたは Cisco Meeting Server web app からの受信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアは影響を受けません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>
qualityPresentation	unrestricted max1080p30 max720p5 max720p30	<p>トランスコーディング リソースの制限に基づいて、この通話路のネゴシエートされたプレゼンテーション ビデオコールの最大品質を制限します。標準的な解像度とフレームレートを用いて指定されています。これは別のプレゼンテーション ストリームを使用する callLegs にのみ影響します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>制限なし - これは指定されていない場合のデフォルト設定であり、解像度やフレーム レートに制限がない、古い Call Bridge バージョンの動作と一致します。</p> <p>max1080p30 - Call Bridgeが 30 フレーム/秒で最大 1920x1080 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>max720p5 - Call Bridge が 5 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<p>max720p30 - Call Bridge が 30 フレーム/秒で最大 1280x720 の画面サイズまたは同等のトランスコーディング リソースをネゴシエートするように制限します</p> <p>注： このパラメータは、Cisco Meeting App WebRTC アプリまたは Cisco Meeting Server web app からの受信ビデオには適用されません。</p> <p>注： QualityPresentation が設定されている場合、SIP エンドポイントが Lync ユーザーとプレゼンテーションを共有する際、Meeting Server は最大解像度のフレームレートを受信プレゼンテーションビデオに適用し、Lync への送信プレゼンテーションビデオはこの最大フレームレートに一致します。しかし、Lync クライアントがプレゼンテーションを共有する場合、Meeting Server は、Lync からの受信プレゼンテーションビデオに品質プレゼンテーション設定を適用しませんが、SIP エンドポイントへの送信プレゼンテーションビデオには適用します。</p>
participantCounter	never auto always	<p>画面上の参加者数を制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>決して - 画面上に参加者カウント値を表示しません</p> <p>auto - 適切な場合に画面上の参加者数を表示します。</p> <p>通常、これは現在見るできない追加の参加者が存在することを示すためです。</p> <p>いつも - 画面上に参加者カウント値をいつも表示します</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
controlRemoteCameraAllowed	true false	このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグが (FECC 経由で) リモート参加者のカメラをコントロールすることを許可するかどうかを決定します。(バージョン 2.8 以降)
レイアウト テンプレート	ID	指定されている場合、レイアウトテンプレートとこの呼び出しレッグプロファイルとを関連付けます。(バージョン 2.8 以降)
音声ゲインモード	disabled agc	<p>このコール レッグ プロファイルを使用するコール レッグの音声は自動ゲインコントロールを使用するかどうかを指定します。</p> <p>(バージョン 2.8 以降)</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGC は Meeting Server に直接接続されたエンドポイント (物理エンドポイントまたはソフト クライアント) に適用されます。TIP 通話または AVMCU には適用されません (これは混合音声ストリームのため)。 - AVMCU に接続している Skype 参加者は、AVMCU が音声をコントロールするため、AGC の対象にはなりません。 - Meeting Server 間の分散リンクには AGC が適用されません。これは混合音声ストリームのためです。
meetingTitlePosition	disabled top middle bottom	<p>ミーティングの議題を有効にし、指定の位置に配置します。指定されていない場合、値 bottom になります。</p> <p>値を無効にすると、ミーティングのタイトルが削除されます。</p>
chatContributionAllowed	true, false	参加者がチャットメッセージを送信できるかどうかを指定します。階層のす

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		すべてのレベルで設定を解除すると、既定で true になります。
changeRoleAllowed	true、false、または <unset>	<p>参加者がウェブアプリ使用時に、通話中に別の参加者の役割を変更できるかどうかを決定します。 trueに設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができます。 falseに設定すると、参加者は他の参加者の役割を変更することができません。参加者の役割を変更する権限の詳細については、付録 Aを参照してください。</p> <p>通話の階層とコールレグプロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
noteContributionAllowed	true false	参加者がメモを公開できるかどうかを指定します。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。
captionContributionAllowed	true false	<p>参加者が会議中に字幕を送信できるかどうかを決定します。</p> <p>callLeg の階層と callLeg プロファイルの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p> <hr/> <p>注意: もし captionsAllowed が false に設定されている場合、参加者は、次の場合でもであっても字幕を送信できません。</p> <p>captionContributionAllowed が true に設定されています。</p> <hr/>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
fileUploadAllowed	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 参加者は通話中にファイルを共有できることを示します。 • false - 参加者は通話でファイルを共有できないことを示します。 <p>通話の階層と通話プロフィールの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
surveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができることを示します。</p> <p>False - 参加者がアンケートの作成/開始/削除/結果の閲覧ができないことを示します。</p> <p>通話の階層と通話プロフィールの通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで設定を解除すると、既定で false になります。</p>
参加者の名前変更許可	なし 自分 participants	<p>なし - 参加者は表示名を変更できません。設定されていない場合はデフォルトでなしになります。</p> <p>self - 参加者は自分の表示名を変更できます。</p> <p>参加者 - 参加者は自分自身や、ロビー内の参加者を含む他の参加者の名前を変更できます。</p>
allChatSave	真 偽	<p>True - Web App の参加者は、チャットメッセージを .txt 形式でダウンロードして保存できます。</p> <p>False - Web アプリの参加者はチャットメッセージをダウンロードして保存できません。設定されていない場合、値はデフォルトで False になります。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
audioGainDb	数値/整数	<p>このパラメータは、特定の参加者のゲイン値をデシベル単位で設定します。値は 10 の倍数で入力する必要があります。たとえば、ゲイン値を 6 dB にするには、60 と入力します。+60 から -60 までの範囲内で、正の値（音量増加）と負の値（音量減少）を受け入れます。</p> <p>audioGainDb パラメータによるゲインは、audioGainMode パラメータとは独立して動作します。</p> <p>ただし、有効な音量は、callLeg プロファイルで audioGainMode パラメータが有効になっているかどうかによって異なります。AGC に設定すると、自動ゲイン制御後に audioGainDb からの固定ゲインが適用されます。</p> <hr/> <p>注: callLegProfile 経由で修正した audioGainDb は、callLeg 確定後に修正されない限り、そして修正されるまで適用されません。</p>
負荷予測	真/偽	<p>通話時のメディア負荷を予測できます。</p> <p>True - メディア負荷を予測します。</p> <p>False - メディア負荷を予測しません。設定されていない場合はデフォルトで False になります。</p>

いずれの場合も、POST または PUT でパラメータに空の値を明示的に設定すると、そのパラメータはそのプロファイルで「未設定」になります。これらのコール レッグは、そのレベルの上位のコールレッグプロファイルからそのパラメータの値を「継承」します。

8.4.4 個々のコールレグプロファイルに関する情報を取得する

/callLegProfiles/<コールレグプロファイルID> ノードの GET メソッドを使用します。指定されたコールレグプロファイルIDが有効な場合、「200 OK」の応答と単一の「<callLegProfile id=callレグプロファイルID>」が返されます。

8.4.5 コールレグプロファイルの例およびアクセスメソッドの使用

コールレグプロファイルをアクセス方法に関連付ける主な用途は、異なる URI / コール ID / パスコードの組み合わせを構築して、異なる通話動作を提供することです。たとえば、

「needsActivation」値が「true」である1つのコールレグプロファイルは1つのアクセス方法に関連付けられ、「needsActivation」値が「false」である別のコールレグプロファイルは異なるアクセス方法に関連付けられます。

実質的に、これにより、その coSpace に個別の「アクティベータ」および「ゲスト」アクセスメソッドがセットアップされ、「needsActivation=true」アクセスメソッドへの発信者は、他のアクセスメソッドへの呼び出しが成功するまで、電話会議の音声とビデオがアクティブになるまで待機する必要があります。このように異なるコールレグプロファイルにリンクされた複数のアクセス方法の場合、パスコードのみでそれらを区別することを選択できます。基本的に、アクティベータユーザとゲストユーザは同じ URI をダイヤルしますが、アクティベータ参加者であるかゲスト参加者であるかに応じて異なる PIN を入力します。

8.4.6 /callLegProfiles/<call leg profile id>/usage object method

階層には /callLegs/<コールレグID>/usage オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET を実行すると、クエリーされたコールレグについて、指定されたコールレグプロファイルが使用される場所のリストが取得されます：それがグローバルコールレグプロファイルに設定されているか、テナント、coSpace、coSpaceユーザー、coSpaceアクセス方法との関連付けがあるかどうか。

8.4.7 /callLegs/<call leg id>/callLegProfileTrace object method

階層には /callLegs/<コールレグID>/callLegProfileTrace オブジェクトがあります。このオブジェクトで GET を実行すると、照会したコールレグについて、有効なコールレグプロファイルがどのように決定されたかを取得できます。つまり、現在「有効な」コールレグ

プロファイルに影響を与えたオーバーライドの階層です。具体的には、応答にはプロファイル階層の各レベルのセクションが含まれ、どのコール レッグ プロファイル要素がどのレベルに適用されているかの詳細が示されます。

各パラメータの最終結果は、そのパラメータに対する最低レベルのオーバーライドです。たとえば、テナント レベルのコール レッグ プロファイルが「participantLabels」を true に設定しているが、coSpace のコール レッグ プロファイルが false に設定している場合、その coSpace のコール レッグは参加者ラベルを表示しません。

「/callLegProfileTrace/」 ノードで GET メソッドを使用して、コール レッグ プロファイル トレースを取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
scope	次のいずれか:	一連のプロファイルパラメータが適用されているレベルを示します
	グローバル	指定されたプロファイルパラメータは、システム全体のレベルで適用されています。具体的には、これらのパラメータが最上位の callLegProfile に存在し、system/profiles で設定されていることを意味します。
	テナント	指定されたプロファイルパラメータがテナントレベルで適用されている
	coSpace	指定されたプロファイルパラメータは、coSpaceレベルで適用されています
	accessMethod	指定されたプロファイルパラメータはアクセス方法レベルで適用されています
	coSpaceUser	指定されたプロファイルパラメータは、coSpaceUserに関連付けられた callLegProfile を介して適用されています。
	callOut	指定されたプロファイルパラメータは、コールレグが作成されたときに提供された callLegProfile を介して適用されています
	callLeg	指定されたプロファイルパラメータは、特にこのコールレグに適用されています(つまり、設定された callLegProfile オブジェクト経由ではありません)。
ID	ID	存在する場合、このエントリの範囲に適用可能な callLegProfile
meetingTitlePosition	top middle	ミーティングの議題を有効にし、指定の位置に配置します。指定されていない場合、値 bottom になります。
	bottom	

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
needsActivation		このレベルで上書きされたコール レッグ プロファイル値を示すパラメータ
defaultLayout		
changeLayoutAllowed		
participantLabels		
presentationDisplayMode		
presentationContributionAllowed		
presentationViewingAllowed		
endCallAllowed		
muteOthersAllowed		
videoMuteOthersAllowed		
muteSelfAllowed		
videoMuteSelfAllowed		
joinToneParticipantThreshold		
leaveToneParticipantThreshold		
videoMode		
rxAudioMute		
txAudioMute		
rxVideoMute		
txVideoMute		
sipMediaEncryption		
audioPacketSizeMs		
deactivationMode		
deactivationModeTime		
telepresenceCallsAllowed		
sipPresentationChannelEnabled		
bfcfMode		
callLockAllowed		
setImportanceAllowed		
allowAllMuteSelfAllowed		
allowAllPresentationContributionAllowed		
changeJoinAudioMuteOverrideAllowed		
recordingControlAllowed		
streamingControlAllowed		

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
name		
maxCallDurationTime		
disconnectOthersAllowed		
audioGainMode (バージョン 2.8 以降)		
addParticipantAllowed (バージョン 2.3 以降)		
participantCounter(バージョン 2.2 以降)		
qualityMain (バージョン 2.2 以降)		
qualityPresentation (バージョン 2.2 以降)		<p>注：QualityMain および QualityPresentation パラメータは、Cisco Meeting Server web app または Cisco Meeting App の WebRTC アプリからの受信ビデオには適用されません。</p> <p>注：Cisco Meeting Server と Lync/Skype for Business 間の通話の場合、この制限は Cisco Meeting Server への着信メディアにのみ適用され、発信メディアは影響を受けません。これは、Lync ユーザ通話とデュアルホーム電話会議の両方に適用されます。</p>

8.5 コールレグの個々の機能を設定する

アクティブなコールレグごとに設定、変更、取得できます。これらの設定には、プレゼンテーションをシングルスクリーンモード（つまり、メインとプレゼンテーションビデオストリームが一つに組み合わさったもの）に制限するか、受信側がサポートしている場合は別々のビデオストリームを使用することを許可するかどうかが含まれます。

メモ: コールレグの個々のパラメータを設定すると、コールレグプロファイルの値が上書きされます。

8.6 レイアウトテンプレートのメソッド

Meeting Server はカスタマイズ可能なレイアウトをサポートしています。これにより、管理者は特定のニーズに合ったカスタムレイアウトをより柔軟に作成して適用できます。この機能は、シングルおよび 2 画面表示のエンドポイントとウェブアプリで動作します。

注：カスタマイズ可能なレイアウトは 3 画面表示のエンドポイントには対応していません。

レイアウト テンプレート メソッドを使用すると、カスタマイズされた JSON レイアウト テンプレート ファイルを実装できます。

カスタマイズ可能なレイアウトの詳細については、[『Cisco Meeting Server アドミニストレーション ガイド』スクリーンレイアウトとペイン配置、カスタマイズされたレイアウト](#)を参照してください。

8.6.1 レイアウトテンプレートの追加と変更

"/layoutTemplates" ノードに対して POST メソッドが実行されるか、または
"/layoutTemplates/<layout template id>" ノードに対して PUT メソッドが実行されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	string	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人が読める形式の名前です。最大 200 文字の長さです。

8.6.2 レイアウトテンプレート (列挙) を取得する

/layoutTemplates ノードで GET メソッドを呼び出します。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のレイアウトテンプレートを検索できます。
制限		
filter	string	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致するレイアウトだけを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		応答は最上位レベルとして構成され、それには、複数の<layoutTemplate>要素を含む可能性がある <layoutTemplates total=" N" >タグがあります。各 <layoutTemplate> タグには、以下の要素を含めることができます。
名前	string	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人が読める形式の名前です。最大 200 文字の長さです。
templateSize	数値	バイト単位でのファイルサイズです。

8.6.3 レイアウトテンプレートに関する情報の取得

/layoutTemplates/<layout template id> に対して実行される GET メソッドノードが実行されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	string	このレイアウトテンプレートに関連付けられた、人が読める形式の名前です。最大 200 文字の長さです。
templateSize	数値	バイト単位でのファイルサイズです。

8.6.4 レイアウトテンプレートにレイアウトテンプレートの説明を割り当てる

PUTメソッドを"/layoutTemplates/<layout template id>/template" に使用して、レイアウトテンプレートにレイアウトテンプレートの説明を指定する; 「Content-Type」を「application/json」に設定する必要があります

8.6.5 レイアウトテンプレートからレイアウトテンプレート説明を取得する

GETメソッドを"/layoutTemplates/<layout template id>/template" に使用して、レイアウトテンプレートに関連付けられたレイアウト テンプレートの説明を取得するために。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ソース	解析済み	このオプションの URI パラメータ「source」は、GET 操作で指定できます。指定されていない場合、GET オペレーションは /layoutTemplates/<layout template id>/template の PUT で指定されているとおり、元の JSON の説明を返します。指定されている場合、source=parsed は、Meeting Server により処理された後にレイアウトテンプレートデータを返します。これにより、例えば検証制約を満たすために、Meeting Server にアップロードされたテンプレートデータに何らかの変更が加えられたかどうかを確認することができます。

8.7 コールブランディングプロファイルメソッド

通話ブランディング プロファイルは、SIP (Lync を含む) 通話の通話エクスペリエンスと、招待状内のテキストをカスタマイズする機能を制御します。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

メモ: バージョン 2.4 以降、callBrandingProfiles を使用してもブランディングライセンスは必要ありません。

8.7.1 通話ブランディングプロファイルの取得

"/callBrandingProfiles" ノードで実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
usageFilter	referenced unreferenced	unreferenced を使用すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されない通話ブランディング プロファイルのみが取得されます。これは、通話ブランディング プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <callBrandingProfiles> 要素を持つ最上位の <allBrandingProfiles=" N" > タグとして構成されます。

8.7.2 通話ブランディングプロファイルの設定と変更

- 作成: /callBrandingProfiles ノードへの POST メソッド
- 変更: "/callBrandingProfiles/<call ブランディングプロファイル ID>" への PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
招待状テンプレート	URL	ウェブアプリがテキスト形式の招待状を作成するときに使用する招待状テキストのHTTPまたはHTTPS URLです。招待状内のテキストをカスタマイズする方法の詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズ ガイド』を参照してください。
resourceLocation	URL	Call Bridge の通話ブランディング ファイルが取得される HTTP または HTTPS URL です。これは、個々の音声および画像ファイルが存在する「ディレクトリ」です。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズ ガイド』を参照してください。

8.7.3 個々の通話ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する

"/callBrandingProfiles/<call ブランディング・プロファイル ID>" に対して実行される GET メソッドが実行されます。提供されたコール ブランディング プロファイル ID が有効な場合、「200 OK」の応答を受信し、上記のセクションと一致するXMLコンテンツが含まれます。

8.8 DTMF プロファイル メソッド

dtmfProfiles を使用して、音声をコントロールするために使用できる多くの DTMF シーケンスを定義できます。このセクションで説明します。 dtmfProfile はアクションを実行する機能を定義しません。アクションを呼び出す DTMF 文字列を定義します。 coSpace 内でそのアクションを実行する権限を持つユーザの定義は、 callLegProfile レベルで定義されます。 詳細については、 [セクション 16](#) も参照してください。

Meeting Server をサードパーティのソリューションと一緒に使用している場合、または既存のソリューションを置換する場合、ソリューションが使用する値と一致するように値を設定します。例えば、Lync 電話会議は、*6 ミュートとミュート解除の両方に使用できるため、toggleMuteSelfAudio を *6 に設定します。

8.8.1 DTMF プロファイルの取得

"/dtmfProfiles" ノードで GET メソッドが実行されました。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
usageFilter	referenced unreferenced	未参照を使用すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されていない DTMF プロファイルのみが取得されます。これは、プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。少なくとも 1 箇所参照されている DTMF プロファイルだけを取得するには、"usageFilter=referenced" を指定します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <dtmfProfile> 要素を持つ最上位の <dtmfProfiles total=" N" > タグとして構成されます。
muteSelfAudio	文字列	参加者が通話で提供される音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス
unmuteSelfAudio	文字列	参加者が音声をミュート解除するために使用する DTMF シーケンス
toggleMuteSelfAudio	文字列	参加者が自分の音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス
muteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が通話の他のすべての参加者をミュートするために使用する DTMF シーケンス。
unmuteAllExceptSelfAudio	文字列	通話の他のすべての参加者のミュートを解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
startRecording	文字列	アクティブな通話の録音を開始するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
stopRecording	文字列	アクティブな通話の録音を停止するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
muteAllNewAudio	文字列	すべての新しい参加者をミュートするために参加者が使用する DTMF シーケンス。 joinAudioMuteOverride 通話オブジェクトを true に設定します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
unmuteAllNewAudio	文字列	すべての新しい参加者をミュート解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 . joinAudioMuteOverride 通話オブジェクトを false に設定します。
defaultMuteAllNewAudio	文字列	新しい参加者がコールレグプロファイルの音声ミュート値を使用するためのDTMFシーケンス。
muteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	すべての新しい参加者と通話の他のすべての参加者をミュートするために参加者が使用する DTMF シーケンス。 コール オブジェクトの joinAudioMuteOverride を「true」に設定し、発行者を除くすべてのコール レッグをミュートします。 これには、発行者のコール レッグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。
unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	すべての新しい参加者と通話の他のすべての参加者をミュート解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 通話オブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコール レッグをミュート解除します。 これには、発行者のコール レッグプロファイルで「muteOthersAllowed」および「changeJoinAudioMuteOverrideAllowed」が「true」である必要があります。

8.8.2 DTMF プロファイルの設定と変更

- 作成中: /dtmfProfiles ノードへの POST メソッド
- 変更: "/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>" へのPUT

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
lockCall	文字列	通話をロックするために参加者が使用する DTMF シーケンス。アクティベータがコールに参加した場合でも、アクティベーションが必要な新しいコール レッグはアクティベートされません。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
unlockCall	文字列	通話をロック解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。これにより、通話中にアクティベーション要素が存在する場合、アクティベーションが必要なすべての通話部分がアクティベートされます。
次のレイアウト	文字列	参加者がリスト中の次のビデオレイアウトに変更するために使用する DTMF シーケンス。
previousLayout	文字列	参加者がリスト中の前のビデオレイアウトに変更するために使用する DTMF シーケンス。
muteSelfAudio	文字列	参加者が通話で提供される音声をミュートするために使用する DTMF シーケンス
unmuteSelfAudio	文字列	参加者が音声をミュート解除するために使用する DTMF シーケンス
toggleMuteSelfAudio	文字列	参加者が自分の音声のミュートとミュート解除を切り替えるために使用する DTMF シーケンス
muteAllExceptSelfAudio	文字列	参加者が通話の他のすべての参加者をミュートするために使用する DTMF シーケンス。
unmuteAllExceptSelfAudio	文字列	通話の他のすべての参加者のミュートを解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
startRecording	文字列	アクティブな通話の録音を開始するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
stopRecording	文字列	アクティブな通話の録音を停止するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
startStreaming	文字列	アクティブな通話のストリーミングを開始するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
stopStreaming	文字列	アクティブな通話のストリーミングを停止するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
allowAllMuteSelf	文字列	すべての参加者が自分自身をミュートおよびミュート解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 Call オブジェクトのすべてをミュート自己許可を true に設定します。
cancelAllowAllMuteSelf	文字列	すべての参加者が自分でミュートおよびミュート解除することを許可する許可をキャンセルするために

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		参加者が使用する DTMF シーケンス。通話オブジェクトの AllowAllMuteSelf を false に設定します。
allowAllPresentationContribution	文字列	すべての参加者のプレゼンテーションを許可するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
cancelAllowAllPresentationContribution	文字列	すべての参加者によるプレゼンテーションの許可をキャンセルするために、ある参加者が使用する DTMF シーケンス。
muteAllNewAudio	文字列	すべての新しい参加者をミュートするために参加者が使用する DTMF シーケンス。 joinAudioMuteOverride 通話オブジェクトを true に設定します。
unmuteAllNewAudio	文字列	すべての新しい参加者をミュート解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。 joinAudioMuteOverride 通話オブジェクトを false に設定します。
defaultMuteAllNewAudio	文字列	新しい参加者のコール レッグ プロファイルの音声ミュート値を使用するために参加者が使用する DTMF シーケンス。
muteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	すべての新しい参加者と通話の他のすべての参加者をミュートするために参加者が使用する DTMF シーケンス。通話オブジェクトの joinAudioMuteOverride を設定し、true に設定し、発行者を除くすべてのコール レッグをミュートします。これには、発行者のコール レッグ プロファイルで「muteOthersAllowed」が「true」である必要があります。
unmuteAllNewAndAllExceptSelfAudio	文字列	すべての新しい参加者と通話の他のすべての参加者をミュート解除するために参加者が使用する DTMF シーケンス。通話オブジェクトの joinAudioMuteOverride を「false」に設定し、発行者を除くすべてのコール レッグをミュート解除します。これには、発行者のコール レッグ プロファイルで「muteOthersAllowed」が「true」である必要があります。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
endCall	文字列	参加者が通話を終了するために使用する DTMF シーケンス。この操作を開始した参加者を含むすべての参加者が切断されます
getTotalParticipantCount	文字列	参加者が通話の参加者の総数を取得するために使用する DTMF シーケンス。(バージョン 2.8 以降)

8.8.3 個別の dtmfProfile に関する詳細情報を取得する

"/dtmfProfiles/<dtmfprofile id>" ノードで実行された GET メソッド。提供された dtmfProfile ID が有効な場合、「200 OK」の応答を受信し、上記のセクションと一致する XML コンテンツが含まれます。

8.9 IVR メソッド

8.9.1 IVR を取得する

"/ivr/" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する IVR だけを返します。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます(セクション 4.2.2 を参照してください)。
tenantFilter	ID	tenantFilter を提供して、指定されたテナントに関連する IVR のみを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <ivr> 要素を持つ最上位の <ivr total="N"> タグとして構成されます。 各 <ivr> タグには次の要素を含めることができます:
uri	URI ユーザー部分	この IVR に使用される URI です。これには、最大 200 文字を使用できます。

8.9.2 IVR の設定と変更

- /ivrs" ノードへの POST メソッドの作成
- 修正中: PUT を "/ivrs/<ivr id>"

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uri *	URI ユーザー部分	この IVR に使用するための URI は、最大長は 200 文字です。
テナント	ID	指定すると、この IVR への発信は、指定されたテナントに関連付けられた共有スペースにのみ参加できます。テナントが指定されていない場合、この IVR へのコールは、コール ID が設定されているシステム上の任意のコールに参加できます。
tenantGroup	ID	この IVR への発信は、指定されたテナント グループ内のテナントに関連付けられた共有スペースにのみ参加できます。テナント グループが指定されていない場合、この IVR へのコールは、テナントなしで、またはテナント グループなしのテナントに関連付けられている coSpaces にのみ参加できます。
ivrBrandingProfile	ID	提供される場合、この IVR への通話に使用される IVRブランディングプロファイルを指定します - ここで提供される IVRブランディングプロファイルは、トップレベルまたはテナントレベルの IVRブランディングプロファイルより優先されます。
resolveCoSpaceCallIds	true false	発信者が Meeting Server の共有スペースに参加できるようにするために、この IVR への通話が共有スペースおよび共有スペースアクセスメソッドコール ID を受け入れるかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「true」になります。
resolveLyncConferencelds	true false	この IVR への発信が、Lyncのスケジュールされた会議IDに解決されるIDを受け入れるかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「false」になります。

8.9.3 個々の IVR に関する詳細情報を取得する

"/ivrs/<ivr id>" ノードで実行された GET メソッド。指定された IVR ID が有効な場合、上のセクションに一致する XML コンテンツと共に、「200 OK」の応答を受信します。

8.10 IVR ブランディングプロファイルのメソッド

IVR ブランディング プロファイルは、IVR にダイヤルするときのエクスペリエンスを定義できます。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

8.10.1 IVR ブランディングプロファイルの取得

"/ivrBrandingProfiles" ノードで実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
usageFilter	referenced unreferenced	未参照を使用すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されていない IVR ブランディングのみが取得されます。これは、ivr ブランディング プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
resourceLocation	URL	レスポンスは、複数の <ivrBrandingProfile> 要素を持つ最上位の <ivrBrandingProfiles total=" N" > タグとして構成されます。 IVR ブランディング ファイルが取得される HTTP または HTTPS URL です。これは、個々の音声および画像ファイルが存在する「ディレクトリ」でなければなりません。これらのファイルの詳細については、Cisco Meeting Server カスタマイズ ガイドを参照してください。

8.10.2 IVR ブランディングプロファイルの設定と変更

- 作成: /ivrBrandingProfiles ノードへの POST メソッド
- 変更: PUT を使用して "/ivrBrandingProfiles/<ivr branding Profile id>"

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
resourceLocation	URL	IVR ブランディング ファイルが取得される HTTP または HTTPS URL です。これは、個々の音声および画像ファイルが存在する「ディレクトリ」でなければなりません。これらのファイルの詳細については、『Cisco Meeting Server カスタマイズ ガイド』を参照してください。

8.10.3 個々の IVR ブランディングプロファイルに関する詳細情報を取得する

"/ivrBrandingProfiles/<ivr branding profile id>" に対して実行される GET メソッドが実行されます。指定された IVR ブランディングプロファイル ID が有効な場合、「200 OK」の応答と、上記のセクションに一致する XML コンテンツを受信します。

8.11 参加者に関連するメソッド

「participant」と「callLeg」オブジェクトを混同しないようにしてください。「参加者」には、音声とビデオ、アプリケーション共有、およびインスタントメッセージで別々のコールレグがあるユーザの Lync セッションを含めることができます。

分散された通話に含まれる各 Call Bridge は、他の Call Bridge でホストされている参加者を含む、その通話の「参加者」リストの全体像を持ちます。Callでホストされる参加者について問い合わせている Call Bridge でホストされている参加者については、構成要素のコールレグを列挙することができます。ただし、別の Call Bridge でホストされている参加者については、これらの参加者にクエリを実行すると、ホストされている Call Bridge の ID が得られます。(その後、コールレグレベルの詳細を取得するために、同じ参加者 ID を使用して「所有する」Call Bridge にクエリを実行できます。)

メモ： /call/callLegId/participants [セクション 8.3.6](#) も参照してください。

8.11.1 参加者の取得

"/participants" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	filter=<string> を提供します。これをURIの一部に追加すると、フィルターに一致したアクティブな参加者のみが返されます。
offset limit	数字 数字	概念リストの最初の「ページ」以外の要素を取得するには、「offset」と「limit」を指定できます（ セクション 4.2.2 を参照）。
tenantFilter	ID	tenantFilter を提供して、そのテナントに所属する参加者のみを返します。
callBridgeFilter	ID	callBridgeFilter を提供して、その Call Bridge に位置する参加者のみを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <participant> 要素を持つ最上位の <participants total="N"> タグとして構成されます。 <participant>要素は左側の一般的な形式に従います。
名前	文字列	この参加者に関連付けられた、最大200文字の人間が読める表示名です。
call	ID	この参加者が参加する通話
テナント	ID	もし指定されていれば、この参加者が関連付けられているテナントの ID
callBridge	ID	もし指定されていれば、この参加者が接続しているリモートのクラスタ化された Call Bridge
uri	文字列	この参加者に関連付けられた URI（最大200文字）
originalUri	文字列	Call Bridge が最初に使用した、またはシグナリングしたリモート アドレスです。（バージョン 2.3 以降）
numCallLegs	番号（Number）	この参加者に関連付けられている現在のアクティブなコール レッグ数。この値は、要求が行われた Call Bridge のローカルな参加者にのみ存在します
userJid	文字列	この参加者に関連付けられている userJid です

応答要素	タイプ/値	説明/メモ						
isActivator	true false	この参加者が「アクティベータ」であるかどう かかどうか <ul style="list-style-type: none"> ■ true - この参加者はアクティベータです - それ自体が「アクティベートされた」であり、現在接続されている「非アクティブ」参加者がアクティベートされる ■ false - この参加者はアクティベータではありません - 完全に「活性化された」になるには、1人以上の「アクティベータ」参加者が揃うまで待つ必要があります。 						
移動できる	true false	オブジェクト /calls/<call id>/participants で movedParticipant パラメーターを使用して、この参加者を別の電話会議に移動できるかどうかを指定します。(バージョン 2.6 以降)						
movedParticipant	ID	この参加者が、次の参加者の移動 (オブジェクトに movedParticipant パラメーターを POST することで作成された場合)/calls/<call id>/participants)、この移動元の参加者を ID が示します。(バージョン 2.6 以降)						
movedParticipantCallBridge	ID	この参加者が、ある参加者を移動することで作成されたものである場合、ID は、この参加者が移動した元の参加者をホストしていた Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)						
状況 (バージョン 2.2 から)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>state</td> <td>initial ringing connected onHold</td> <td>この参加者の通話状態です。</td> </tr> </tbody> </table>	Name	タイプ	説明	state	initial ringing connected onHold	この参加者の通話状態です。
Name	タイプ	説明						
state	initial ringing connected onHold	この参加者の通話状態です。						
configuration (バージョン 2.2 以降)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>importance</td> <td>番号 (Number)</td> <td>この参加者の重要性です。</td> </tr> </tbody> </table>	Name	タイプ	説明	importance	番号 (Number)	この参加者の重要性です。
Name	タイプ	説明						
importance	番号 (Number)	この参加者の重要性です。						

8.11.2 既に会議に参加している参加者の設定を変更します

- 変更: PUTを使用して"/participants/<participant id>"

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
importance	番号 (Number)	すでに電話会議に参加しているこの参加者の重要度を設定します。例えば 1 に。最大値は 2,147,483,647 です。重要度を削除するには、重要度パラメータを未設定にします (値を空白にします)。 (バージョン 2.2 以降)
dtmfSequence	文字列	この参加者に再生される DTMF シーケンスを設定します。 (バージョン 2.4 以降)
nameLabelOverride	文字列	この参加者の名前を上書きします。 (バージョン 2.4 以降)
無効化されました	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 参加者はロビーで待機するか、ロビーに移動することができます。バージョン 3.4 以降。 • false - 参加者はロビーからミーティングに参加できます。
handStatus	raised lowered	この参加者または通話セッションのハンドを上げるか下げるかを指定します。 (バージョン 3.2 以降)

8.11.3 個々の参加者に関する詳細情報を取得する

"/participants/<participant ID>" に対して実行された GET メソッドエンドポイント

入力された参加者 ID が有効な場合、「200 OK」の応答が次の形式の XML コンテンツと共に受信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	この参加者に関連付けられた、人間が読める形式の表示名です。これには、最大 200 文字を使用できます。
call	ID	この参加者が参加する通話
テナント	ID	もし指定されていれば、この参加者に関連付けられているテナントの ID
callBridge	ID	もし指定されていれば、この参加者が接続しているリモートのクラスタ化された Call Bridge
uri	文字列	この参加者に関連付けられた URI (最大200文字)
originalUri	文字列	Call Bridge が最初に使用した、またはシグナリングしたリモート アドレスです。 (バージョン 2.3 以降)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
numCallLegs	番号 (Number)	この参加者に関連付けられている現在のアクティブなコールレッグ数。この値は、要求が行われた Call Bridge のローカルな参加者にのみ存在します
userJid	文字列	この参加者に関連付けられている userJid です
isActivator	true false	この参加者が「アクティベータ」であると思われるかどうか <ul style="list-style-type: none"> ■ true - この参加者はアクティベータです - それ自身が「アクティベートされた」であり、現在接続されている「非アクティブ」参加者がアクティベートされる ■ false - この参加者はアクティベータではありません - 完全に「活性化された」になるには、1人以上の「アクティベータ」参加者が揃うまで待つ必要があります。
移動できる	true false	オブジェクト /calls/<call id>/participants で movedParticipant パラメーターを使用して、この参加者を別の電話会議に移動できるかどうかを指定します。(バージョン 2.6 以降)
can-MoveToLobby	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true - 参加者をロビーに移動できます。 • false - 参加者をロビーに移動することはできません。
movedParticipant	ID	この参加者が参加者を移動することで（つまり、movedParticipantパラメータをobject /calls/<call id>/participantsにPOSTすることで）作成された場合、IDはこの参加者が移動された元の参加者を示します。(バージョン 2.6以降)
movedParticipantCallBridge	ID	この参加者が、参加者を移動することで作成された場合、IDは、この参加者が移動した元の参加者をホームとした Call Bridge を示します。(バージョン 2.6 以降)

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
状況 (バージョン 2.2 から)	名前	タイプ	説明
	state cameraControlAvailable	initial ringing connected onHold true false	この参加者の通話状態。 この参加者がカメラのリモートコントロール機能をアナウンスしたかどうか (バージョン 2.8 以降) <ul style="list-style-type: none"> ■ true - この参加者のカメラはコントロール可能です ■ false - この参加者のカメラはコントロール不可能です

応答要素	タイプ/値	説明/メモ	
configuration (バージョン 2.2 以降)	名前	タイプ	説明
	重要性	番号	この参加者の重要性。
	nameLabelOverride	文字列	この参加者の上書きされた名前 (バージョン 2.4 以降)
	defaultLayout	allEqual speakerOnly telepresence stacked allEqualQuarters allEqualNinths allEqualSixteenths allEqualTwentyFifths onePlusFive onePlusSeven onePlusNine automatic onePlusN	設定すると、返されるデフォルトのレイアウトは、結果として得られたコール レッグ プロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得した、この参加者のものです。
	レイアウト テンプレート	ID	設定すると、結果のコール レッグ プロファイル (バージョン 2.8 以降) から取得した、この参加者に関連付けられたレイアウト テンプレート ID が返されます。
	handStatus	raised lowered	設定されている場合、この参加者の挙手が挙げられたか下げられたかを示します。
	handStatusLastModified	文字列	挙手の状態が最後に変更された時間を示す UTC 日時を返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="394 262 724 321">名前</th> <th data-bbox="724 262 1044 321">タイプ</th> <th data-bbox="1044 262 1414 321">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="394 321 724 1568">accessMethod</td> <td data-bbox="724 321 1044 1568">ID "coSpace"</td> <td data-bbox="1044 321 1414 1568"> <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時に通話に参加するために使用されたアクセス方法、またはダイヤルアウト時に設定されたアクセス方法を返します。 POST 操作で、accessMethod が指定されていない場合でも、coSpace で defaultAccessMethod が構成されている場合、またはプライマリアクセス方法が採用されていれば、GET はアクセス方法 ID を返します。 .API は、アクセス方法を通じて接続されていない場合に「coSpace」を返します。これはダイヤルイン時またはダイヤルアウト時で、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方法が存在しない場合です。 </td> </tr> </tbody> </table>	名前	タイプ	説明	accessMethod	ID "coSpace"	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時に通話に参加するために使用されたアクセス方法、またはダイヤルアウト時に設定されたアクセス方法を返します。 POST 操作で、accessMethod が指定されていない場合でも、coSpace で defaultAccessMethod が構成されている場合、またはプライマリアクセス方法が採用されていれば、GET はアクセス方法 ID を返します。 .API は、アクセス方法を通じて接続されていない場合に「coSpace」を返します。これはダイヤルイン時またはダイヤルアウト時で、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方法が存在しない場合です。 		
名前	タイプ	説明							
accessMethod	ID "coSpace"	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤルイン時に通話に参加するために使用されたアクセス方法、またはダイヤルアウト時に設定されたアクセス方法を返します。 POST 操作で、accessMethod が指定されていない場合でも、coSpace で defaultAccessMethod が構成されている場合、またはプライマリアクセス方法が採用されていれば、GET はアクセス方法 ID を返します。 .API は、アクセス方法を通じて接続されていない場合に「coSpace」を返します。これはダイヤルイン時またはダイヤルアウト時で、accessMethod または defaultAccessMethod が指定されておらず、プライマリアクセス方法が存在しない場合です。 							
highest-Importance	数値	<p>これには、特定の参加者に割り当てられる最も高い重要度の値が適用されます。 highestImportance = n が設定されている場合、最初の n ペインの参加者には、n から 1 の範囲の重要度の値が割り当てられます。特定の参加者のペイン配置を無効にするには、最小値を 0 に設定します。</p>							

応答要素	タイプ/値	説明/メモ									
importanceData	JSON のリスト	1 つのオブジェクトに参加者の GUID と重要度が含まれる JSON データのリスト。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ID</td> <td>ID</td> <td>新が必要な参加者に 連付けられたユーザ ー Jid (<participant id>) です。</td> </tr> <tr> <td>重要性</td> <td>数値</td> <td>要性特定の参加者に割 り当てられた値。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: JSON リストは、最大 25 件まで指定できます。これは、1 つの画面に表示できるペインの最大数であるためです。</p>	パラメータ	タイプ	説明	ID	ID	新が必要な参加者に 連付けられたユーザ ー Jid (<participant id>) です。	重要性	数値	要性特定の参加者に割 り当てられた値。
パラメータ	タイプ	説明									
ID	ID	新が必要な参加者に 連付けられたユーザ ー Jid (<participant id>) です。									
重要性	数値	要性特定の参加者に割 り当てられた値。									

8.11.4 会議の特定参加者のペイン配置設定の作成、取得、削除

`/participants/<participant ID>/importanceData` ノードにより、ユーザはモデルと呼ばれるものを参加者ごとに異なるペイン配置を作成し、適用することができます。次のメソッドでサポートされています。

- POST `/participants/<参加者 ID>/重要度データ`
- GET `/participants/<参加者 ID>/重要度データ`
- DELETE `/participants/<participant ID>/importanceData`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
highestImportance	数値	これには、特定の参加者に割り当てられる最も高い重要度の値が適用されます。 highestImportance = n が設定されている場合、最初の n ペインの参加者には、n から 1 の範囲の重要度の値が割り当てられます。特定の参加者のペイン配置を無効にするには、最小値を 0 に設定します。
回転重要度	数値	これにより、特定の参加者に割り当てることができる回転ペインの重要度値が取得されます。 rotateImportance が n に設定されている場合、n 番目のペインが回転ペインとして設定されます。特定の参加者の回転ペインを無効にする場合の最小値は 0 です。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ							
重要度データ	JSON のリスト	1つのオブジェクトに参加者のGUIDと重要度が含まれるJSONデータのリスト。							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ID</td> <td>ID</td> <td>新が必要な参加者に関連付けられたユーザー Jid (<participant id>) です。</td> </tr> <tr> <td>重要性</td> <td>数値</td> <td>定の参加者に割り当てられた重要度。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	ID	ID	新が必要な参加者に関連付けられたユーザー Jid (<participant id>) です。	重要性
パラメータ	タイプ/値	説明/メモ							
ID	ID	新が必要な参加者に関連付けられたユーザー Jid (<participant id>) です。							
重要性	数値	定の参加者に割り当てられた重要度。							
注：1画面に表示できるペインの最大数は、JSONリストの最大25エントリです。									

8.11.5 参加者のコールレグを取得する

"/participant/<participant ID>/callLegs" ノードで GET メソッドが実行されると、参加者のアクティブな通話の脚が取得されます。成功した場合、上記の [通話脚](#) のパラメータが返されます。

この通話脚が分散ミーティング (1つが複数の Call Bridge により主催されている) の一部である場合、これらの詳細はローカル参加者についてのみ返されることに注意してください。参加者の通話脚が別の Call Bridge によってホストされている場合、その Call Bridge の ID が返されます。

8.11.6 通話の参加者を制限する

通話中に参加できる参加者数の上限を設定することができます。次の項目を設定できます：

- テナントごとのparticipantLimit値。そのテナントでアクティブになることが許可されている参加者の合計数に制限を設けます。
- 「callProfile」オブジェクト内の「participantLimit」値;つまり、そのcallProfileが適用されている通話 (例、coSpace インスタンス) には、その制限が適用されます。

callProfilesはシステム、テナント、またはcoSpaceレベルに適用でき、最も具体的なものが適用されます

そのため、通話の参加者制限は多くの要素に依存します。

コールの「participantLimit」に達した場合:

- それに新しい参加者を追加することはできません

メモ: participantLimitの値は、Meeting Server側の参加者だけでなく、Skypeの参加者の数も含まれます。

ただし、

- ウェブ アプリの参加者は、チャット、ビデオ、音声、プレゼンテーションの表示/受信を自由に組み合わせて使用できます。これらの要素が1つの通話レグを構成し、1つの参加者としてカウントされます。

ウェブ アプリとペアリングされたビデオ会議システムを使用しても、参加者数は増加しません。

- SIP エンドポイント上のミーティングの参加者は、ビデオ、音声を使用したり、プレゼンテーションを受信したりできます。これらの要素が1つの通話レグを構成し、1つの参加者としてカウントされます。
- Lync クライアントの参加者は、チャット、ビデオ、音声、プレゼンテーションの送信を自由に組み合わせて使用できます。これらの要素の任意の組み合わせは1つの参加者としてカウントされますが、各要素は別の通話レグです。(受信したプレゼンテーションはメインのビデオストリームに表示されます。)
- 既存の参加者に対し、新しい通話セグメントを追加することは可能です。たとえば、Lync 音声/ビデオ 通話セグメントを伴う Lync プレゼンテーション 通話セグメント

制限に達したために API メソッドを介したコール レグまたは参加者の作成が失敗した場合、適切な「failureReason」が表示されます。制限に達したために着信接続の試みが失敗した場合、エラー メッセージも表示されます (通話の制限に達したか、所有するテナントの上限であるかどうかについて、別の 通話セグメント終了の理由と共に)。

9 ユーザ関連のメソッド

ユーザは LDAP サーバに対して同期することによって作成されます (後述の通り) [後で](#)); しかし、ユーザ情報を取得する方法はいくつかあります。この章の内容:

- [ユーザに関する情報の取得](#)
- [個々のユーザーに関する詳細情報を取得する](#)
- [ユーザプロフィールの構成](#)
- [ユーザーに coSpace テンプレートを適用する](#)
- [ユーザーの coSpace テンプレート情報を取得する](#)

9.1 ユーザーを取得する

"/users" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致するユーザーだけを返します。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (上記 を参照してください)。
tenantFilter	ID	tenantFilter を提供して、指定されたテナントに関連するユーザーのみを返します。
emailFilter	文字列	バージョン 2.1 以降、emailFilter を指定すると、指定されたメールアドレスと完全に一致するユーザーの結果のみが返されます。
cdrTagFilter	文字列	バージョン 2.1 以降、cdrTagFilter を指定すると、指定された cdrTag と完全に一致するユーザーの結果のみが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/メモ
ユーザ ID	ID	レスポンスは、複数の <user> 要素を持つ最上位の <users total="N"> タグとして構成されます。
userJid	文字列	<user>要素は左側の一般的な形式に従います。 たとえば、 first.last@example.com
テナント	ID	このユーザが関連付けられているテナントの ID (該当する場合)

9.2 個々のユーザに関する詳細情報の取得

"/users/<user ID>" ノードに対して GET メソッドが実行されました

指定されたユーザ ID が有効な場合、「200 OK」の応答が次の形式の XML コンテンツと共に受信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ユーザ ID	ID	
userJid	文字列	例えば first.last@example.com
テナント	ID	このユーザが関連付けられているテナントの ID (該当する場合)
名前	文字列	ユーザーの表示名。最大長は200文字です。
email	文字列	例: first.last@mail.example.com
authenticationId	文字列	認証に使用される id。この値は、証明書ベースの認証中にユーザが提示した証明書の値と照合されます。
userProfile	ID	あれば、これはこのユーザに関連するユーザプロフィールの ID です。 (バージョン 2.0 以降)

9.2.1 ユーザの coSpace の関連付けを取得する

"/users/<user ID>/usercoSpaces" ノードで GET メソッドが実行されると、ユーザがメンバーである coSpace が取得されます。(自動生成メンバーに対する coSpace メンバーの権限に関する [注記](#) も参照してください。)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	レスポンスは、複数の <usercoSpace> 要素を持つ最上位の <usercoSpaces total="N"> タグとして構成されます。 <usercoSpace>要素は左側の一般的な形式に従います。

9.2.2 coSpace テンプレートをユーザに適用する

2.9 から、API でユーザに coSpaceTemplate を割り当てることができます。

- POST `/users/<user id>/userCoSpaceTemplates`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	coSpaceをインスタンス化するためにユーザが使用することを許可されたcoSpaceテンプレートの id です (バージョン 2.9 以降)

以下の操作もサポートされています。

- DELETEメソッドを使用する `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/<usercoSpace テンプレート ID>`

9.2.3 ユーザーの coSpace テンプレート情報を取得する

- GETメソッドを使用する `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates/<usercoSpace テンプレート ID>` は以下の応答パラメータを提供します:

応答パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	ユーザがcoSpaceをインスタンス化するために使用することを許可されたcoSpaceテンプレートの ID です。(バージョン 2.9 以降)
autoGenerated	true false のいずれか	この coSpace テンプレートが自動または手動で追加されたかどうか: true - このテンプレートは LDAP 同期操作の一部として自動的に追加されているため、同期操作のパラメータを変更しない限り、削除することはできません。 false - このテンプレートは API メソッドにより追加されました。API 経由で変更または削除できます。(バージョン 2.9 以降)

- GET を列挙する `/users/<user ID>/userCoSpaceTemplates` 標準の URI パラメータである「limit」と「offset」をサポートします。レスポンスは最上位レベルとして構成されています。<userCoSpaceTemplates total=" N" >タグには、複数の <userCoSpaceTemplate>要素が下に表示されます。各 <userCoSpaceTemplate> タグには、リクエストとレスポンスのパラメータ (" coSpaceTemplate" および " autoGenerated") が含まれます。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念的なリストの最初のページ以外の
limit		アクセスメソッドを取得できます (バージョン 2.9 以降)

9.2.4 LDAP を使用した userCoSpaceTemplates の適用

2.9 から、API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` が導入され、ユーザが LDAP メソッドを使用してスペースを作成できるようになりました。これにより、テンプレートをソースオブジェクトに直接含めることができます。

API オブジェクト `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` は次の操作をサポートします:

- POST を `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` へ
- PUT を `/ldapUserCoSpaceTemplateSources` へ

要求パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用されるスペース テンプレートの ID
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID
filter	文字列	ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルター文字列

- `/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<LDAPユーザーcoSpace テンプレートソースID>` に対する GET、次の応答が返されます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用されるスペース テンプレートの ID
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID
filter	文字列	ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルター文字列

- GETを実行すると /ldapUserCoSpaceTemplateSourcesは、次の応答を示します。

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のエン トリーを検索できます。
limit		

レスポンスは、複数の <ldapUserCoSpaceTemplateSource> 要素を持つ最上位の
<ldapUserCoSpaceTemplateSources total=" N" > タグとして構成されます。

各 <ldapUserCoSpaceTemplateSource>タグには次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	これらのユーザに適用されるスペース テンプレートの ID
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID

9.2.5 ユーザーがプロビジョニングした coSpace 情報を取得する

バージョン 3.1 ではこの API オブジェクトを導入し、以下の操作をサポートします:

- GET リクエストの列挙: /users/<user id>/userProvisionedCoSpaces
- GET リクエストを行う /users/<user id>/userProvisionedCoSpaces/<user プロビ
ジヨンド coSpace id>

/users/<user id>/userProvisionedCoSpacesの列挙は 次のURIパラメータを受け入れます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、仮想リストの最初のページ以外のユーザがプ ロビジョニングした coSpace を取得できます。 (バージョン 3.1 以降)
limit		

レスポンスは、複数の <userProvisionedCoSpace> 要素を持つ最上位の <userProvisionedCoSpaces total="N"> タグとして構成されます。

<userProvisionedCoSpace>タグごとに次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	この coSpace がインスタンス化されるときにベースになる coSpaceTemplate。 (バージョン 3.1 以降)
uriHint	string	このcoSpaceの URI の基準 (coSpaceのインスタンス化時にこれが他の URI と衝突する場合、このヒントに基づいて一意の URI が生成されます)。 (バージョン 3.1 以降)
名前	string	インスタンス化されたときにこのcoSpaceに付けられる名前です。 (バージョン 3.1 以降)
coSpace	ID	存在する場合、このユーザーがプロビジョニングしたcoSpaceがインスタンス化されたcoSpaceのIDです。 (バージョン 3.1 以降)

個々のユーザーがプロビジョニングしたcoSpaceでGET /users/<user id>/

userProvisionedCoSpaces/<ユーザーがプロビジョニングしたcoSpace id> は次の応答を返します:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceTemplate	ID	この coSpace がインスタンス化されるときにベースになる coSpaceTemplate。 (バージョン 3.1 以降)
uriHint	string	このcoSpaceの URI の基準 (coSpaceのインスタンス化時にこれが他の URI と衝突する場合、このヒントに基づいて一意の URI が生成されます)。 (バージョン 3.1 以降)
名前	string	インスタンス化されたときのこのcoSpaceの名前です。 (バージョン 3.1 以降)
coSpace	ID	存在する場合、このユーザーがプロビジョニングしたcoSpaceがインスタンス化されたcoSpaceのIDです。 (バージョン 3.1 以降)

9.2.6 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace ソースを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは、以下の操作をサポートしています。

- POST を `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources` へ送信
- PUT を `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP ユーザによりプロビジョニングされた coSpace ソースの ID>` へ送信

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ldapSource (*)	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 以降)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping (*)	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace (バージョン 3.1 以降) の名前と URI ヒントを生成するために使用されるマッピング
filter	string	ソースの読み取り時に適用される追加の LDAP フィルター文字列 (バージョン 3.1 以降)

- `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources` の列挙は以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念的なリストの最初のページ以外のエントリを取得できます (バージョン 3.1 以降)
limit		

レスポンスは、複数の `<ldapUserProvisionedCoSpaceSource>` 要素を持つ最上位の `<ldapUserProvisionedCoSpaceSources total="N">` タグとして構成されます。

各 `<ldapUserProvisionedCoSpaceSource>` タグには、以下の要素を含めることができます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 以降)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping	ID	ユーザープロビジョニングの coSpace の名前と URI ヒントの生成に使用されるマッピング (バージョン 3.1 以降)
filter	string	情報源の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルター文字列 (バージョン 3.1 以降)

- 個々の LDAP ユーザがプロビジョニングした coSpace ソースに対する GET `/ldapUserProvisionedCoSpaceSources/<LDAP ユーザ用にプロビジョニングされた coSpace マッピング ID>` は次の応答を返します:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapSource	ID	ユーザの検索に使用される LDAP ソースの ID (バージョン 3.1 以降)
ldapUserProvisionedCoSpaceMapping	ID	ユーザープロビジョニングの coSpace の名前と URI ヒントの生成に使用されるマッピング (バージョン 3.1 以降)
filter	string	情報源の読み取り時に適用される追加の LDAP フィルター文字列 (バージョン 3.1 以降)

9.2.7 LDAP ユーザーがプロビジョニングした coSpace マッピングを作成、変更、取得する

この新しい API オブジェクトは、以下の操作をサポートしています。

- POST `/ldapUserProvisionedCospaceMappings`
- PUT `/ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP ユーザがプロビジョニングした coSpace マッピング ID>`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceUriMapping (*)	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceNameMapping	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate (*)	ID	ユーザがプロビジョニングされた coSpace に使用する coSpace テンプレート。 (バージョン 3.1 以降)

- `/ldapUserProvisionedCospaceMappings` の列挙は以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のエントリーを検索することができます。
limit		

レスポンスは、複数の `<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` 要素を持つ最上位の `<ldapUserProvisionedCospaceMappings total="N">` タグとして構成されます。

`<ldapUserProvisionedCospaceMapping>` タグごとに次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceUriMapping	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceNameMapping	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用される coSpace テンプレート。 (バージョン 3.1 以降)

- 個々の LDAP ユーザがプロビジョニングした coSpace マッピングに対する `GET /ldapUserProvisionedCospaceMappings/<LDAP ユーザ用にプロビジョニングされた coSpace マッピング ID>` は次の応答を返します:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceUriMapping	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の URI を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceNameMapping	string	ldapMappings オブジェクトのマッピングと同様に、ユーザがプロビジョニングした coSpace の名前を生成するためのテンプレート。 (バージョン 3.1 以降)
coSpaceTemplate	ID	ユーザがプロビジョニングした coSpace に使用される coSpace テンプレート。 (バージョン 3.1 以降)

9.3 ユーザ プロファイル メソッド

ユーザ プロファイルは、プロフィールでユーザに提供される機能をコントロールします。たとえば、新しい coSpace の作成、通話の作成、通話の発信、ビデオ会議システムとのペアリング、ポイントツーポイント コール時のチャット メッセージの送受信を許可するかどうかなどです。詳細については、[セクション 16](#) も参照してください。

9.3.1 ユーザープロフィールを取得する

" /userProfiles" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (上記 を参照してください)。
usageFilter	Referenced unreferenced	未参照を使用すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されていないユーザープロフィールのみが取得されます。これは、ユーザープロフィールを削除する前に確認するのに役立ちます。少なくとも 1 か所で参照されているユーザプロフィールだけを取得するには、" usageFilter=referenced" を指定します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <userProfile> 要素を持つ最上位の <userProfiles total="N"> タグとして構成されます。
audioParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられていて、ウェブ アプリを使用しているユーザが、通話中にライブ音声を送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 (バージョン 2.0 以降)
videoParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられたユーザが、通話中にライブ ビデオを送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 (バージョン 2.0 以降)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
presentationParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられたユーザが、通話中にプレゼンテーションメディアを送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 (バージョン 2.0 以降)
hasLicense	true false	このユーザプロファイルに関連付けられたユーザが Cisco ユーザライセンスを持っているかどうか。 (バージョン 2.0 以降)

9.3.2 ユーザープロファイルを設定、変更する

- 作成: /userProfiles ノードへの POST メソッド
- 変更: PUTを /userProfiles/<user Profile id>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
audioParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられていて、ウェブアプリを使用しているユーザが、通話中にライブ音声を送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。
videoParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられたユーザが、通話中にライブ ビデオを送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
presentationParticipationAllowed	true false	このユーザ プロファイルに関連付けられたユーザが、通話中にプレゼンテーションメディアを送信または受信できるかどうかを指定します。この制限は、SIP 経由でコールに直接ダイヤルする、または SIP エンドポイントに従属する場合には適用されません。 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。
hasLicense	true false	このユーザプロファイルに関連付けられたユーザが Cisco ユーザライセンスを持っているかどうか。 このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。

9.3.3 個々のユーザプロフィールに関する詳細情報を取得する

"/userProfiles/<ユーザプロフィール ID >" に対して実行される GET メソッドノード。指定されたユーザプロフィール ID が有効な場合、上のセクションに一致する XML コンテンツと共に、「200 OK」の応答を受信します。

10 システム関連のメソッド

この章では、システムの管理に関連する API メソッドについて詳しく説明します。この章の内容:

- [システムステータスを取得する](#)
- [システムアラームステータスを取得する](#)
- [システムデータベースステータスの取得](#)
- [CDR 受信者の URI の取得および設定](#)
- [グローバルプロファイルの取得と設定](#)
- [ライセンス情報を取得する](#)
- [TURN サーバを設定する](#)
- [Web Bridge を設定する](#)
- [Web Bridge プロファイルを設定する](#)
- [コールブリッジの設定](#)
- [Call Bridge グループの設定](#)
- [Call Bridge クラスタリングの設定](#)
- [システム負荷](#)
- [システム診断](#)
- [タイムスタンプ付きシステムログ](#)

10.1 システムステータスの取得

" /system/status" ノード上で実行された GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
hostId	文字列	<status>要素内の左側の要素を返します: このMeeting Serverインスタンスを一意に識別する ID です。
softwareVersion	文字列	Call Bridge で現在実行されているソフトウェア バージョン

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
uptimeSeconds	番号 (Number)	ユニットの稼働時間
activated	true false	(3.0 で非推奨)Call Bridge が現在アクティベートされている (ライセンスされている) かどうか。現在、Meeting Serverでは常に true です。現在常に Meeting Serverの場合は true です。
clusterEnabled	true false	true に設定されている場合、Call Bridge は現在、クラスタリングを有効にした状態で実行されています。このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します
クラスタ ID	ID	Call Bridge が属するクラスタを表す Id で、クラスタのライフタイム全体で一定です。このパラメータにおいて、クラスタ化されていない Call Bridge は 1 のクラスタと見なされ、それゆえこのパラメータは、単一の Meeting Server でも値を持ちます。インスタンス。(3.0 以降)
cdrTime	番号 (Number)	要求が受信された時点で生成されるとしたら、そのCDRに書き込まれる現在のタイムスタンプ。これは CDR 自体の「時間」フィールドと同じ形式になります (RFC 3339 を参照、例えば「2014- 02- 11T12:10:47Z」)。
callLegsActive	番号 (Number)	リクエスト時のアクティブなコール レッグ数
callLegsMaxActive	番号 (Number)	このMeeting Server上で同時にアクティブなコールレッグの最大数。
callLegsCompleted	番号 (Number)	一度アクティブだったが現在は接続されていない/存在していないコールレッグの総数
audioBitRateOutgoing	番号 (Number)	すべての送信音声ストリーム (Meeting Server からリモート参加者に送信される音声メディア) を合計した、現在の合計ビットレート (ビット/秒)
audioBitRateIncoming	番号 (Number)	受信音声ストリームの現在の合計ビットレート
videoBitRateOutgoing	番号 (Number)	送信ビデオストリームの現在の合計ビットレート
videoBitRateIncoming	番号 (Number)	受信ビデオストリームの現在の総ビットレート
cdrCorrelatorIndex	番号 (Number)	次に送信される CDR レコードの相関関係子インデックス。CDR レコードが送信されていない場合、値が 0 になります。(バージョン 2.2 以降)。

10.2 システムアラームステータスを取得する

" /system/alarms" ノード上で実行された GET メソッド。 オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のアラーム条件を検索できます。 このメソッドは、現在アクティブなシステム全体のアラーム条件を詳述するテーブルを返します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		個別の "<alarm>" 要素のリストを返します。 現在アクティブなアラーム条件がない場合、このリストには何も表示されません。 アクティブな各アラーム条件には「alarm」タグが付けられます。これには以下が含まれます。
ID	ID	この障害状態のインスタンスの一意の ID
activeTimeSeconds	番号 (右を参照)	このアラーム条件がアクティブだった時間の長さ。
type		次のいずれか： <ul style="list-style-type: none"> callBrandingResourceInvalid – 提供されたリソースの形式が無効です。通話ブランディング プロファイルは、添付の「callBrandingProfiles」GUIDパラメーターで指定されます、問題のあるファイルは、添付の「fileName」テキストパラメーターで指定されます。 callBridgeConnectionFailure – Call Bridge は、付随する「callBridge」GUID パラメータで指定された、クラスター化されたピア Call Bridge の 1 つへの接続の確立に失敗しました。 callDistributionFailure – Call Bridge はアクティブな通話の 1 つに対する分散リンクの確立に失敗しました。リンクが設定されているはずの Call Bridge が、付随する「callBridgeName」テキストパラメーターによって識別され、通話が「call」GUID パラメーターとして表示されます。 cdrConnectionFailure – Meeting Server は、設定された CDR 受信者への接続を確立できなかったため、新しい通話詳細レコードをプッシュアウトできない可能性があります。 c2wConnectionFailure – Call Bridge は設定された Web Bridge への C2W 接続を確立できませんでした (3.0 以降)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> • databaseClusterNodeOutOfSync – データベースクラスター内のノードが同期されておらず、同期していません • databaseConnectionError – Meeting Serverはデータベースへの接続を確立できませんでした • guestAccountConnectionFailure – Meeting Serverは、ゲストのログインを許可するために構成された Web Bridge への接続を確立できませんでした (3.0 削除済み) • ivrBrandingResourceInvalid – 提供されたリソースの形式が無効です。IVR ブランディング プロファイルは、添付の「ivrBrandingProfile」 GUIDパラメーターで指定されます、問題のあるファイルは、添付の「fileName」テキストパラメーターで指定されます。 • licenseGrace – 有効期限が切れたため間もなく無効化される機能ライセンス (バージョン 2.1 以降) • licenseExpired – 機能ライセンスの有効期限が切れ、非アクティブ化されました (バージョン 2.1 以降) • recorderLowDiskSpace – レコーダーのディスクスペースが限られています。レコーダーは付随する「recorder」 GUID パラメーターによって指定されます (3.0 で削除されました) • recorderUnavailable – Call Bridge は設定されたレコーダーと正常に通信できませんでした。レコーダーは付随する「recorderAddress」パラメータによって指定されます • streamerUnavailable – Call Bridge は設定されたストリーマとの接続に成功していません。ストリーマが指定されている付随する「streamerAddress」パラメータによって

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> • turnServerUnavailable – Call Bridge は設定された TURN サーバと通信できませんでした。この TURN サーバは、付随する「turnServer」GUID パラメータによって指定されます。 • webBridgeArchivePushFailure – Call Bridge が Web Bridge に必要なカスタマイズアーカイブをプッシュできなかった (3.0 削除済み) • webBridgeArchiveRetrievalFailure – Call Bridge は必要な Web Bridge カスタマイズアーカイブを取得できませんでした (3.0 削除) • webBridgeBackgroundImagePushFailure – Call Bridge が、必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを Web Bridge にプッシュできなかった (3.0 削除済み) • webBridgeBackgroundImageRetrievalFailure – Call Bridge が必要なカスタマイズされた背景画像ファイルを取得できませんでした (3.0 は削除済み) • webBridgeLoginLogoImagePushFailure – Call Bridge が必要なカスタマイズされたログインロゴ画像を Web Bridge にプッシュすることができなかった (3.0 で削除) • webBridgeLoginLogoImageRetrievalFailure – Call Bridge が必要なカスタマイズされたログインロゴ画像ファイルを取得できませんでした (3.0 は削除済み) • webBridgeXmppCertificatePushFailure – Call Bridge が Web Bridge に XMPP 証明書をプッシュできない (3.0 で削除) • xmppAuthenticationRegistrationFailure – Meeting Server は指定された XMPP 認証コンポーネントで正常に登録できませんでした (3.0 削除) • xmppRegistrationFailure – Meeting Server は設定済みの XMPP サーバでは正常に登録できませんでした (3.0 で削除)

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
失敗理由		<p>上記の一部のアラーム タイプでは、特定の障害の原因に関する追加情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証の失敗 • connectFailure – リモートの宛先への接続の失敗を示します。例えば、TCP または TLS 接続が確立できなかった場合などです。 • dataFormatInvalid – Call Bridge が特定のデータ セット (リモートでホストされているリソース ファイルなど) を使用するように設定されており、使用可能な形式ではないことがわかった場合 • destinationReadOnly – 書き込みアクセスが必要なときに、Call Bridge が読み取り専用としてデータベースなどの重要なリソースを検出した場合 • dnsFailure – リモート宛先のホスト名解決の失敗。例えば、リモートシステムとの接続を確立するプロセスの一部として • エラー • fileNotFound – Call Bridge が必要なファイルのロードに失敗したため、アラーム条件が引き起こされ、アラーム状態が発生しました。例えば、Web Bridge に必要なリソースアーカイブがリモートサーバから取得できなかった場合などです。 • fileSizeLimitExceeded – Call Bridge は、リモートでホストされているリソース ファイルなどを使用するように設定されていますが、そのリソースが内部ファイル サイズ制限を超過したために取得できませんでした。 • internalServerError – Call Bridge は、リソース ファイルのアップロードまたはダウンロードなどの操作を実行できませんでした。操作が試行されたときに、リモート側が「内部サーバ エラー」を返したためです。 • serviceUnavailable

10.3 システムデータベースの状態を取得中

" /system/database" ノード上で実行された GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
クラスター化した	有効 無効	データベースクラスタリングが有効かどうか。
クラスタ		クラスタリングが有効になっている場合、<クラスター>要素には左側の要素が含まれます
エラー (Error)	文字列	エラーの説明
totalNodes	番号 (Number)	クラスター内のデータベースノード数
ノード使用中	文字列	現在使用中のデータベースノード (プライマリデータベース)
ノード		<p>クラスター内の各データベースのノード要素が以下の詳細と共に返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • hostname: ノードのホスト名または IP アドレス • アクティブ: ノードがこの Call Bridge から表示される場合 (true false) • syncBehind: このノードがプライマリデータベースの現在の状態より遅れている概算のバイト数。0 は同期中であることを意味し、-1 は計算が利用できないことを意味します • ウェブ管理インターフェイスと同様に、API を通じて CDR 受信者の URI を見つけることができます。

10.4 CDR 受信者 URI メソッド

メモ: /system/cdrReceiver は廃止されました。複数の CDR レシーバーをサポートする /system/cdrReceivers オブジェクトを使用してください。

10.4.1 CDR Receivers URI を取得する

ウェブ管理インターフェイスと同様に、API を通じて CDR 受信者の URI を見つけることができます。 /system/cdrReceivers ノードで GET を発行して、構成された CDR レシーバーの完全な URL である URI を取得します。

この方法では、ウェブ管理インターフェイス **設定 > CDR 設定** を使用して CDR 受信者の URI にアクセスします。 ページ

"/system/cdrReceivers" ノード上で実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」は、仮想リストの最初の「ページ」以外の CDR 受信機に提供できます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
uri	文字列	レスポンスは、複数の <cdrReceiver> 要素を持つ最上位の <cdrReceivers total="N"> タグとして構成されます。 各<cdrReceiver>タグには次の要素を含めることができます: 設定された CDR 受信者アドレスの完全な URL

メモ: /system/cdrReceivers/<CDR受信者ID>のGETを使用すると、指定した単一のCDRレシーバーの設定を取得できます。

10.4.2 CDR レシーバー URI の設定

API (およびウェブ管理インターフェイス) を介して CDR 受信者 URI を設定します。

/system/cdrReceivers ノードで PUT または POST を発行できます。

一度の操作で CDR レシーバーを作成および構成するには、POST を使用して「url」値を指定するか、または PUT を使用して最初に CDR レシーバーを作成し、「url」を後で個別に構成します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uri *	文字列	CDR が送信される完全な URL。

作成が成功した場合、「200 OK」の応答と「Location:」を受け取るはずですが。

/api/v1/system/cdrReceivers/<cdr receiver id>" object reference; すでに設定されている CDR レシーバーが多すぎる場合、「tooManyCdrReceivers」エラーを受け取ります (「failureDetails」セクション内)。

メモ: レガシーの `/system/cdrReceiver` ノードに対して空の URL で PUT を実行する場合、その CDR レシーバーに関連付けられた GUID は削除され、事実上その CDR レシーバーは存在しなくなります。後で同じ (レガシー) ノードに空ではない「url」値を PUT すると、その CDR レシーバー用に新しい GUID が生成されます。

レガシーではない CDR レシーバー (`/system/cdrReceivers/cdr レシーバー id`) に空の「url」を指定して PUT を実行すると、その CDR レシーバーは同じ GUID のままですが、「url」値はありません。GET 操作では引き続き表示されます。これは、新しい CDR レシーバーオブジェクトには明示的な「DELETE」メソッド (セクション 4.4) があるためです。一方、レガシー CDR レシーバーについては、ロケーションを空の値に設定するしかありません。

ウェブ管理インターフェイス経由で CDR 受信者の URI を設定または更新するには、「設定 > CDR設定」ページを使用してください。

10.5 グローバルプロファイルメソッド

10.5.1 グローバルプロファイルの取得

`/system/profiles` への GET は次のセクションで説明されている値を返します。

10.5.2 グローバルプロファイルの設定

`/api/v1/system/profiles` の下の `callLegProfile ID` 値を設定 (または削除) して、最上位プロファイルを課す (または削除する) ことができます。

`/api/v1/system/profiles` に PUT または POST を送信します。空の値を指定すると最上位プロファイルの設定が解除されます。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
<code>callLegProfile</code>	ID	指定された ID を持つトップレベルのコール レッグ プロファイルを設定します。
<code>callProfile</code>	ID	最上位通話プロファイルを指定されたものに設定します。
<code>dtmfProfile</code>	ID	最上位 DTMF プロファイルを指定されたものに設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
userProfile	ID	最上位ユーザープロフィールを指定されたものに設定します。
ivrBrandingProfile	ID	トップレベル IVR ブランディングプロフィールを指定されたものに設定します。
callBrandingProfile	ID	最上位の通話ブランディング プロファイルを、指定されたものに設定します。
互換性プロフィール	ID	最上位互換性プロフィールを指定されたものに設定します (2.1 以降)
lobbyProfile	ID	最上位ロビー プロファイルを指定されたものに設定します (3.7 以降)
dialInSecurityProfile	ID	最上位ダイヤルインセキュリティプロフィールを指定されたものに設定します (3.0 以降)
webBridgeProfile	ID	最上位の Web Bridge プロファイルを指定されたものに設定します (3.0 以降)。

10.6 ライセンス方式

メモ: バージョン 2.4 以降、単一または複数のブランディングにライセンスを適用する必要はありません。

ライセンスに関連する API メソッドは以下のとおりです。

- [アップロードされたライセンスおよびライセンスの消費に関する情報を取得する](#)

以前は、既存の `/system/licensing` API が、ライセンスファイルのコンテンツ、つまりミーティングサーバの機能コンポーネント、および各コンポーネントのライセンスの状況と有効期限 (該当する場合) が表示されました。たとえば、コールブリッジライセンスが Meeting Server 上でアクティベートされているかどうか、ライセンスされている場合、その有効期限。

3.0 から、既存の `/system/licensing` API は、Meeting Serverごとにライセンスファイルのコンテンツ (機能コンポーネントなど) のみを返すようになりました。新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` は Meeting Server クラスターのライセンス状況と有効期限 (該当する場合) を返します。

注：

新しい `/clusterLicensing` API はクラスタを表します (単一のミーティングサーバの展開は 1 つのクラスタと見なされます)。ライセンスファイルのコンテンツを表す `/system/licensing` API は、Meeting Server インスタンスごとであり続けます。

10.6.1 各 Meeting Server インスタンスのライセンスファイル情報を取得する

"`/system/licensing`" ノード上で実行された GET メソッド。情報の構造の例については、付録 C.1 を参照してください。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
特徴		ライセンスが有効な場合、 <features>要素には以下の要素が含まれます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ	
callBridge	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	ステータス	noLicense activated grace expired	Call Bridge にライセンスが適用されていません。Call Bridge は通話を発信できません。 ライセンスが適用され、Call Bridge がメディア暗号化でアクティブ化されました。通話中にメディアが暗号化されません。ライセンスの有効期限が切れ、現在はライセンス更新の猶予期間です。メディア暗号化を含む Call Bridge のライセンスの有効期限が切れました。
	有効期限	文字列	有効期限の日付
callBridgeNoEncryption (バージョン 2.4 から)	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	ステータス	noLicense activated grace expired	Call Bridge にライセンスが適用されていません。Call Bridge は通話を発信できません。 ライセンスが適用され、メディア暗号化なしで Call Bridge がアクティベートされました。通話中のメディアは暗号化されません ライセンスが期限切れ、ライセンス更新のための猶予期間中 メディア暗号化なしの Call Bridge のライセンスが期限切れ
	有効期限	文字列	有効期限の日付
webBridge	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	Web Bridge にライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、Web Bridge がアクティベートされました ライセンス有効期限切れ、ライセンス更新の猶予期間 Web Bridge のライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付

応答要素	タイプ/値	説明/メモ	
TURN	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	ステータス	noLicense activated grace expired	TURN サーバにライセンスは適用されていません ライセンスが適用され、TURN サーバがアクティベートされました ライセンスの有効期限が切れました。現在ライセンス更新の猶予期間中です
	有効期限	文字列	有効期限の日付
ldap	名前	タイプ/値	説明
	ステータス	noLicense activated grace expired	LDAP サーバにライセンスは適用されていません ライセンスが適用され、LDAP サーバがアクティベートされました ライセンスの有効期限が切れました。現在ライセンス更新の猶予期間中です
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	名前	タイプ/値	説明
ブランディング	状態	バージョン 2.4 から、ブランディング ライセンスが必要ないため、これはもはや関連性がありません。	
	状態 (バージョン 2.4 以前)	noLicense activated grace expired	ブランディングに適用されているライセンスはありません ライセンスが適用され、ブランディングがアクティブ ライセンスの有効期限が切れました。現在ライセンス更新の猶予期間中です ブランディングのためのライセンスの期限が切れました
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	名前	タイプ/値	説明

応答要素	タイプ/値	説明/メモ	
録音	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	レコーダーにライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、レコーダーがアクティベートされました ライセンスの有効期限が切れました。現在レコーダーのライセンス更新の猶予期間中です
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	limit	番号(Number)	
streaming	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	Streamer にライセンスが適用されていません ライセンスが適用され、Streamer がアクティベートされました ライセンスの有効期限が切れました。現在ストリーマのライセンス更新の猶予期間中です
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	Limit	番号 (Number)	
パーソナル	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	パーソナル マルチパーティ ライセンスが適用されていません パーソナル マルチパーティ ライセンスが有効になりました ライセンス有効期限切れ、ライセンス更新の猶予期間 パーソナル マルチパーティ ライセンスのライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	limit	番号 (Number)	

応答要素	タイプ/値	説明/メモ	
共有	名前	説明	
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	共有マルチパーティライセンスは適用されていません 共有マルチパーティライセンスが有効になりました ライセンス有効期限切れ、ライセンス更新の猶予期間 共有マルチパーティライセンスのライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	Limit	番号 (Number)	
容量単位	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated grace expired	[容量ユニット] のライセンスが適用されていません キャパシティユニットのライセンスがアクティベートされました ライセンス有効期限切れ、ライセンス更新の猶予期間 キャパシティユニットのライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付
	limit	番号 (Number)	
customizations	名前	タイプ/値	説明
	状態	ライセンスなし アクティベートされた グレース 期限切れ	カスタム設定を構成できません。機能の有無に関わらずレイアウトを構成できません。のライセンスキーがないと、ミーティングサーバはキーがないと、カスタムレイアウトが構成されていないかのように表示されません。
	有効期限	文字列	有効期限の日付

"/system/multipartyLicensing" ノード上で実行された GET メソッド。情報の構造例は、付録 C.2 を参照してください。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
タイムスタンプ	string	レポートが生成された UTC 時刻
personalLicenseLimit	番号 (Number)	(3.0 で非推奨) 利用可能な個人のライセンス数
sharedLicenseLimit	番号 (Number)	(3.0 で非推奨) 利用可能な共有ライセンス数
capacityUnitLimit	番号 (Number)	(3.0 で非推奨) 利用可能な容量ユニット数
users	番号 (Number)	システム上のゲスト以外のユーザ数
personalLicenses	番号 (Number)	ユーザに割り当てられた個人ライセンス数
participantsActive	番号 (Number)	アクティブな参加者数
CallsActive	番号 (Number)	アクティブ コール数
weightedCallsActive	番号 (Number)	加重がかけられたアクティブ コール数 (以下の注を参照)。
capacityUnitUsage	番号 (Number)	使用中の容量ユニット数
callsWithoutPersonalLicense	番号 (Number)	パーソナル ライセンスなしのコール数。バージョン 2.6 から廃止され、ライセンスカウントの変更により、この値を使用して SMP 使用量を正確に計算することができなくなりました。
weightedCallsWithoutPersonalLicense	番号 (Number)	パーソナルライセンスなしの重み付けコール数 (下記のメモを参照) パーソナルライセンスなしの重み付けコール数 バージョン 2.6 から廃止され、ライセンスカウントの変更により、この値を使用して SMP 使用量を正確に計算することができなくなりました。
capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense	番号 (Number)	パーソナルライセンスなしの通話で使用中の容量単位数

"/system/multipartyLicensing/activePersonalLicenses" に対して実行される GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のアクティブなパーソナルライセンスを検索できます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
CallsActive	番号 (Number)	レスポンスは、複数の <user> 要素を持つ最上位の <activePersonalLicenses total=" N" > タグとして構成されます。 各 <user> タグには次の要素を含めることができます: このユーザのライセンスを使用したアクティブな通話数
weightedCallsActive	番号 (Number)	このユーザのライセンスを使用している加重されたアクティブな通話数 (下のメモを参照)。

メモ: クラスタ全体の加重呼び出しの合計は、クラスタの別個の呼び出しの数と一致します。たとえば、CMS1が3のcallsActiveと2のweightedCallsActiveを示し、CMS2が2のcallsActiveと1のweightedCallsActiveを示している場合、クラスタ上には合計3つの会議があり、3つのライセンスが必要です。

" /system/MPLicenseUsage" ノードで実行される GET メソッド (バージョン 2.6 以降)。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外のアクティブなパーソナルライセンスを検索できます。
startTime	文字列	ライセンス使用状況のスナップショットが取得される最も早い日時を指定する UTC 時間 (RFC 3339 に準拠) (含む)
endTime	文字列	ライセンス使用状況のスナップショットが取得される最も遅い日時を指定する UTC 時間 (RFC 3339 に準拠) (含む)
hostId	ID	ライセンス使用状況のスナップショットを取得するホストの ID (system/status により返される)

応答要素			
イベント	名前	タイプ/値	説明
	親タグに含まれるパラメーターの		
	時間	文字列	ライセンス使用状況イベントが生成された UTC 時間
	レスポンス値		
	pmp	番号 (Number)	使用中の個人ライセンス数 (各ライセンスは正規化されています) コールがまたがる Call Bridge の数に対して)
	pmpAssigned	番号 (Number)	クラスター内のユーザに割り当てられているパーソナル ライセンスの数(3.0 以降)
	smpAud	番号 (Number)	共有ライセンスの音声専用コール数 (各ライセンスまたはコールがまたがる Call Bridge の数に対して)
	smpPtP	番号 (Number)	共有ライセンスのポイントツーポイント コール数、それらは音声のみの各ライセンスは、通話がカバーする Call Bridge の数で正規化されます
	smpFull	番号 (Number)	音声のみでない、使用中の共有ライセンスの数、またはポイントツーポイント (各ライセンスは、通話がカバーする Call Bridge の数で正規化されます)
	録画	番号 (Number)	通話録画中の通話数
ストリーミング	番号 (Number)	ストリーミング中の通話数	

" /system/MPLicenseUsage/knownHosts" ノードでに実行される GET メソッド (バージョン 2.6 以降)。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、概念リストの最初の「ページ」以外のホスト ID を検索できます。

応答要素			
ホスト	名前	タイプ/値	説明
	親タグに含まれるパラメーターの		
	id	ID	システム/MPLicenseUsage API ノードからライセンス使用情報にアクセスできる Call Bridge の一意のホストID

10.6.2 クラスタライセンス情報の取得

3.0 以降、既存の `/system/licensing` API での GET 操作は、ミーティングサーバーインスタンスごとのライセンスファイル（つまり、機能コンポーネント）の内容のみを返します。新しく導入された API オブジェクト `/clusterLicensing` は、Meeting Server クラスタのライセンス状況と有効期限（該当する場合）を返します。

メモ: `/clusterLicensing` の有効期限フィールドは、最大で 90 日先までしか返されません。

ミーティングサーバまたはクラスタの現在のライセンス情報を取得するには、

`/clusterLicensing` で GET メソッドを実行すると、次の情報が得られます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
特徴		ライセンスが有効な場合、 <code><features></code> 要素には以下の要素が含まれます。

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
callBridge	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated expired	ライセンスの状況: <ul style="list-style-type: none"> noLicense - この機能のライセンスは利用できません アクティベート済み - 機能はライセンスされ、有効期限内です 期限切れ - この機能のライセンスの有効期限が切れています
callBridgeNoEncryption	有効期限	文字列	有効期限の日付
	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
状態	noLicense activated expired	ライセンスの状況: <ul style="list-style-type: none"> noLicense - この機能のライセンスは利用できません アクティベート済み - 機能はライセンスされ、有効期限内です 期限切れ - この機能のライセンスの有効期限が切れています 	
customizations	有効期限	文字列	有効期限の日付
	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
状態	noLicense activated expired	ライセンスの状況: <ul style="list-style-type: none"> noLicense - この機能のライセンスは利用できません アクティベート済み - 機能はライセンスされ、有効期限内です 期限切れ - この機能のライセンスの有効期限が切れています 	

応答要素	タイプ/値		説明/メモ
レコーディング	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated expired	ライセンスの状況: <ul style="list-style-type: none"> noLicense - この機能のライセンスは利用できません アクティベート済み - 機能はライセンスされ、有効期限内です 期限切れ - この機能のライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付
スナップショット	名前		説明
	名前	タイプ/値	説明
	状態	noLicense activated expired	ライセンスの状況: <ul style="list-style-type: none"> noLicense - この機能のライセンスは利用できません アクティベート済み - 機能はライセンスされ、有効期限内です 期限切れ - この機能のライセンスの有効期限が切れています
	有効期限	文字列	有効期限の日付

バージョン 3.0 では、Cisco Meeting Management がスマート ライセンスを管理するためにライセンス情報を提供/取得するために、/clusterLicensing/raw API が導入されました。この API は一般的な使用を意図したものではないため、管理者による設定は必要ありません。

10.7 TURN サーバメソッド

注記: TURN サーバは、Cisco Meeting Server 2000 では使用できません。これは、容量の低い Cisco Meeting Server Small および仕様ベースの VM サーバに適しています。

メモ: TURN サーバコンポーネントは、UDP の標準ポート 3478 を常にサポートします。Cisco Meeting Server ウェブエッジをデプロイする際、API ノード `/turnServers " type"` パラメータは「cms」に設定する必要があります。このパラメータが未設定の場合、デフォルト値は、[標準 (standard)]で、クライアントに TCP/UDP ポート 443 を使用して、TURN サーバに接続するよう指示します。詳細については、[を参照してください](#)。「type」パラメータ値については、*Cisco Meeting Server API リファレンスガイド*の [TURN サーバのセットアップと変更 セクション](#)を参照してください。

10.7.1 TURN Server の情報を取得する

"/turnServers" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する TURN サーバだけを返します。
offset	数字	
limit	数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (上記 を参照してください)。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/メモ
serverAddress		レスポンスは、複数の <turnServer> 要素を持つ最上位の <turnServers total="N"> タグとして構成されます。
clientAddress		各 <turnServer>タグには次の要素を含めることができます。次のセクションを参照してください

10.7.2 TURN サーバの設定と変更

- 作成中: /turnServers ノードへの POST メソッド
- 修正: PUTを "/turnServers/<turn server id>"

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
サーバアドレス	文字列	Call BridgeがこのTURNサーバに到達するために使用するアドレス
clientAddress	文字列	ウェブアプリケーションがこのTURNサーバに到達するために使用するアドレス
ユーザ名	文字列	このTURNサーバで割り当てを行う際に使用するユーザ名です (短期資格情報モードが無効な場合)
パスワード	文字列	この TURN サーバで割り当てを行う際に使用するパスワード (短期認証モードが無効になっている場合はパスワードが必須です)
短期証明書を使用	true false	この TURN サーバで短期認証情報を使用するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「false」になります。
共有シークレット	string	この TURN サーバで割り当てを行う際に使用される共有シークレットです (短期資格情報モードが有効な場合)。
type	acano cms エクスプレスイ エイ Lyncエッジ 標準	ミーティングサーバ内の TURN サーバを使用する場合は、「cms」または「acano」を選択します。クライアントに、Lync の場合は UDP/TCP ポート 3478、Web アプリの場合は TCP ポート 443 を使用して接続するように指示します。 TURN サーバ。 ミーティングサーバで TURN サーバを使用せずに Cisco Expressway に接続する場合は、[expressway] を選択します。lync に UDP/TCP ポート 3478、ウェブ アプリに TCP ポート 443 を使用するようクライアントに指示します。 Lync または Skype for Business 展開に接続する場合は、「lyncEdge」を選択します。これは、ポート 443 を使用して TURN サーバに接続するようにクライアントに指示します。 「type」フィールドが設定されていない場合、デフォルトで「標準」になります。これは、ポート 443 を使用して TURN サーバに接続するようにクライアントに指示します。
登録数	番号 (Number)	この TURN Server に対して行われる必要がある登録の数。このパラメータは、構成された Lync Edge サーバに対してのみ意味があります。
tcpPortNumberOverride	番号 (Number)	この TURN サーバを TCP メディアに使用する際に使用するポート番号をオプションで上書きするためのものです (例えば、Lync プレゼンテーションコールレグ)。このパラメータは、TCP ポート

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		番号が常に自動的に決定される Lync Edge サーバが構成されている場合には必要ありません。
callBridge	ID	指定された場合、この TURN サーバを提供された Call Bridge (バージョン 2.1 以降) と関連付けます。
callBridgeGroup	ID	指定された場合、この TURN サーバを提供された Call Bridge グループ (バージョン 2.1 以降) と関連付けます。
credentialServerAddress	文字列	Meeting Server が TURN サーバとして Expressway-C に接続する際に使用するアドレス。 URL には、プロトコル https:// を指定し、その後に Expressway-C サーバの 完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスおよびポートを指定します。
credentialServerUsername	文字列	Expressway - C サーバのユーザ名。
credentialServerPassword	文字列	Expressway - C サーバのパスワード。
ユーザ名プレフィックス	文字列	この TURN サーバで割り当てを行う際は、 JC:<domainname of credential server> という形式のユーザ名プレフィックスを、Meeting Server が生成した短期ユーザ名に付加して使用する必要があります。 例： JC:test.example.com

10.7.3 個別の TURN サーバに関する詳細情報を取得する

"/turnServers/<turn server id>" に対して実行された GET メソッドが実行されます。指定された TURN サーバ ID が有効な場合、XML コンテンツを含む「200 OK」応答が返されます。

メモ: 短期間の TURN 資格情報には、API GET オペレーションを通じてアクセスすることはできません。/turnServers、共有シークレットも同様です。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
サーバアドレス	文字列	Call Bridge がこの TURN サーバに到達するためのアドレス
clientAddress	文字列	ウェブアプリが TURN Server に到達するアドレス
ユーザ名	文字列	この TURN Server で割り当てを行う際に使用するユーザ名です
短期証明書を使用	true false	この TURN サーバで短期証明書を使用するかどうか。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
type	acano cms expressway lyn-cEdge 標準	TURN サーバのタイプを示します。PUT/POSTを参照してください。 詳細は /turnServers を参照してください。
登録数	番号 (Number)	構成済みの Lync Edge サーバについては、この TURN Server に対して行われた登録の数のみです。
tcpPortNumberOverride	番号 (Number)	TCP メディアに TURN サーバを使用する際に使用するポート番号です。
callBridge	ID	指定すると、これがこの TURN サーバに関連付けられた Call Bridge になります。
callBridgeGroup	ID	指定すると、これがこの TURN サーバに関連付けられた Call Bridge グループになります。
資格情報サーバアドレス	文字列	Meeting Server が TURN サーバのために Expressway-C に接続する際に使用するアドレス。 URL には、プロトコル https:// を指定し、その後に Expressway-C サーバの 完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスおよびポートを指定します。
credentialServerUsername	文字列	Expressway - C サーバのユーザ名。
credentialServerPassword	文字列	Expressway - C サーバのパスワード。
username_prefix	文字列	この TURN サーバで割り当てを行う際は、 JC:<domainname of credential server> という形式のユーザー名プレフィックスを、Meeting Server が生成した短期ユーザー名に付加して使用する必要があります。 例： JC:test.example.com

10.7.4 個別の TURN Server 状況を取得する

「/turnServers/<turn server id>/status」ノードに対して GET メソッドが実行されました。指定されたTURNサーバ ID が有効な場合、「200 OK」の応答と次の XML コンテンツが返されます。

応答要素	説明/メモ		
ホスト	0、1、またはそれ以上の <host>各子ノードには次の要素が含まれます:		
	名前	タイプ	説明
	住所	文字列	
	ポート番号	番号 (Number)	
	到達可能	true false	この TURN サーバが現在到達可能な場合は true、到達できない場合は false
	roundTripTimeMs	番号 (Number)	この TURN サーバが到達可能な場合、Call Bridge のそのサーバへのパスの往復時間 (ミリ秒)
	mappedAddress	文字列	入力されている場合、Call Bridge が TURN サーバの到達性チェックを実行したときに、TURN サーバが送信元の STUNのバインディング要求を参照したソース IP とソースポートを示します。
	マッピングされたポート番号	番号 (Number)	これは、Call Bridge と TURN Server の間に NAT がある展開では、Call Bridge の IP アドレスと異なる場合があります。

10.8 Web Bridge のメソッド

10.8.1 Web Bridge の情報を取得する

"/webBridges" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に filter=<string> を提供して、フィルタに一致する Web Bridge のみを返します。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (上記 を参照してください)。
tenantFilter	ID	tenantFilter を指定して、指定されたテナントに関連付けられた Web Bridge のみを返すようにします。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
callBridgeGroupFilter	ID	callBridgeGroupFilter が指定されている場合、指定されたコールブリッジグループ内の Web Bridge のみが返されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
URL	URL	レスポンスは、複数の <webBridge> 要素を持つ最上位の <webBridges total=" N" > タグとして構成されます。 各 <webBridge>タグには次の要素を含めることができます。次のセクションを参照してください
リソースアーカイブ	URL	

10.8.2 Web Bridge を設定、変更する

- 作成中: "/webBridges" ノードに対する POST メソッド
- 変更中: "/webBridges/<web bridge id>" への PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
url	URL	Call Bridge のアドレス、この Web Bridge に到達するために使用する
テナント	ID	テナントをこの Web Bridge と関連付ける ID を提供する場合、そのテナントが所有するコストスペースのコール ID のみがそれを通じて参加できます
tenantGroup	ID	指定されたテナント グループ内のテナントに関連付けられた仮想会議スペースのみが、このウェブブリッジを通じてコールIDでアクセスできます。テナント グループが指定されていない場合、テナントがない、またはテナント グループなしのテナントに関連付けられている仮想会議スペースだけが、コールIDでアクセスできます。
callBridge	ID	指定する場合は、この Web Bridge を提供された Call Bridge バージョン 2.1 以降と関連付ける

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
callBridgeGroup	ID	指定する場合は、この Web Bridge を提供された Call Bridge グループ（バージョン 2.1 以降）と関連付ける
webBridgeProfile	ID	指定した場合、この Web Bridge を指定した Web Bridge プロファイルと関連付けます。（3.0 以降）

10.8.3 個々の Web Bridge に関する詳細情報を取得する

"/webBridges/<webブリッジ ID>" に対して実行された GET メソッドが行われます。指定された Web Bridge ID が有効な場合、前のセクションで説明した XML コンテンツと共に「200 OK」の応答を受信します。

10.8.4 Web Bridge のカスタマイズを更新する

/webBridges/<web bridge id>/updateCustomization ノードへの POST により、指定された Web Bridge の設定済みのカスタマイズ アーカイブが再取得され、Web Bridge にプッシュされます。たとえば、これにより、カスタマイズ アーカイブのコンテンツを変更し、これらの変更を有効にできます。Call Bridge または Web Bridge を再起動する必要はありません。

10.8.5 Web Bridge（2.2 以降）で診断を取得する

"/webBridges/<web bridge id>/status" に対して実行された GET メソッドが行われます。指定された Web Bridge ID が有効な場合、「200 OK」の応答を受信し、以下の表に一致する XML コンテンツが送信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
状態	unused	Web Bridge は、クエリされた Call Bridge によって使用されません
	success	Web Bridge はクエリされた Call Bridge に接続されています
	connectionFailure	Web Bridge は、クエリされた Call Bridge に接続できませんでした
	dnsFailure	設定された Web Bridge URL を解決できませんでした (3.0 以降)

10.9 Web Bridge プロファイルメソッド

これにより、Web Bridge ごとにではなく、共通の場所で一部の Web Bridge 構成オプションを構成することができます。すべての Web Bridge、または特定のグループに同じ設定を適用することができます。

この変更をサポートするために、さまざまな Web Bridge 構成オプションを含む `/webBridgeProfiles` API オブジェクトが導入されました。新しく定義された Web Bridge のプロファイルは、個々の `webBridge` オブジェクト、または最上位のグローバルプロファイルまたはテナントに割り当てることができます。

プロファイルの階層があり、下位の階層のプロファイルの値が上位の設定を上書きし、パラメータが設定されていない場合、またはウェブブリッジプロファイルが設定されていない場合、それは階層内の上位のプロファイルから継承します。

`webBridgeProfiles` の階層は次のとおりです。

- トップレベル (グローバル) プロファイル (`/system/profiles`)
- テナント (`/tenants/<tenant id>`)
- `webBridges` (`/webBridges/<webBridge id>`)

10.9.1 Web Bridge プロファイルを取得する

- `/webBridgeProfiles` の列挙は、以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset		オフセットと制限を指定して、仮想リストの最初のページ以外のウェブブリッジプロファイルを取得できます (3.0 以降)
limit		
usageFilter	未参照 referenced	リクエストで「usageFilter=unreferenced」を指定すると、グローバル設定またはその他のオブジェクトによって参照されないウェブブリッジプロファイルのみが取得されます。これは、プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。少なくとも 1 か所で参照されているウェブブリッジプロファイルだけを取得するには、「usageFilter=referenced」(3.0 以降)を指定します。

レスポンスは、複数の `<webBridgeProfile>` 要素を持つ最上位の `<webBridgeProfiles total="N">` タグとして構成されます。

各 <webBridgeProfile> タグには、次の要素を含めることができます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このウェブブリッジプロファイルに関連付けられた人間が読める形式の名前です (3.0 以降)。これには、最大 200 文字を使用できます。
showParticipantIndicator	True/False	参加者リスト内のユーザ識別アイコンを表示または非表示にします。 True - ユーザー識別アイコンを表示します。設定されていない場合はデフォルトで True になります。 False - ユーザー識別アイコンを非表示にします。

- GETメソッドを使用する `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>` は次の応答を返します:

応答値	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このウェブブリッジプロファイルに関連付けられた人間が読める形式の名前です (3.0 以降)。これには、最大 200 文字を使用できます。
リソースアーカイブ	URL	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI の組み合わせで coSpaces (および coSpace アクセス方法) を検索することを許可するかどうかを指定します。(3.0 以降)
パスコードを許可する	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI の組み合わせで coSpaces (および coSpace アクセス方法) を検索することを許可するかどうかを指定します。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge のプロファイルを使用する Web Bridge が、数字の ID とシークレットを含むミーティング参加リンクを通じてユーザーが coSpaces (および coSpace のアクセス方法) にアクセスすることを許可するかどうかを指定します。(3.0 以降)

応答値	タイプ/値	説明/メモ
userPortalEnabled	true false	この Web ブリッジのプロファイルを使用する Web ブリッジが、インデックスページにログインタブを表示するかどうかを指定します。(3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	この Web Bridge のプロファイルを使用して、Web Bridge のランディング画面からのゲストアクセスを許可するか、またはユーザがユーザポータルにログインしたときにのみゲストアクセスを許可するかを指定します。False の場合、リンクはログインしたユーザに対してのみ機能します。(3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	このウェブブリッジプロファイルを使用するウェブブリッジが、コスペースおよびコスペースアクセスメソッドコールIDを受け入れ、訪問者がコスペースミーティングに参加できるようにするかどうかを指定します。(3.0 以降)
resolveLyncConferencelds	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge が、Lync スケジュール済み会議IDに解決される ID を受け入れるかどうかを指定します。(3.0 は見えますが、機能しません。3.1 削除)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestion-Disabled domainSuggestion-Enabled	<p>この Web Bridge のプロファイルを使用する Web Bridge が、スペースミーティングへのビジターの参加を許可する目的で、coSpace および coSpace アクセスメソッド SIP URI を受け入れるかどうかを指定します。(3.0 以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」に設定すると、URI による参加が無効になります。 「domainSuggestionDisabled」に設定すると、URI による参加は有効になりますが、このウェブブリッジプロファイルを使用するウェブブリッジでは、URI の自動補完や確認ができなくなります 「domainSuggestionEnabled」に設定すると、URI による参加が有効になり、このウェブブリッジプロファイルを使用するウェブブリッジで、URI のドメインの自動補完と確認が可能になります。

応答値	タイプ/値	説明/メモ
sessionLimit	数値	ユーザごとに許可されるウェブセッションの最大数で、範囲は 0 から 5 です。指定がない場合は、既定で 0 になり、セッションコントロールなしを示します。
contentResolution	720p 1080p unrestricted	ウェブアプリでコンテンツを共有する際のプレゼンタの画面の最大解像度。

10.9.2 ウェブブリッジプロファイルの作成と変更

この `/webBridgeProfiles` オブジェクトは、ウェブブリッジプロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは以下の操作をサポートします。

- 新しい Web Bridge プロファイルの作成には、POST 先 `/webBridgeProfiles`
- 個々のプロファイルに対してPUTを使用して `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>`

次のリクエストパラメータについて:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このウェブブリッジプロファイルに関連付けられた人間が読める形式の名前です。(バージョン 3.0 以降) これには、最大 200 文字を使用できます。
リソースアーカイブ	URL	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge のために Meeting Server が使用するカスタマイズアーカイブファイルのアドレスです。(3.0 以降)
パスワードを許可する	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge で、ユーザがパスワードと数値 ID/URI の組み合わせで coSpaces (および coSpace アクセス方法) を検索することを許可するかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge のプロファイルを使用する Web Bridge が、数字の ID とシークレットを含むミーティング参加リンクを通じてユーザが coSpaces (および

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		coSpace のアクセス方法) にアクセスすることを許可するかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。 (3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge が、インデックスページにログインタブを表示するかどうか。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。 (3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	この Web Bridge のプロファイルを使用して、Web Bridge のランディング画面からのゲストアクセスを許可するか、またはユーザがユーザポータルにログインしたときにのみゲストアクセスを許可するかを指定します。 False の場合、リンクはログインしたユーザに対してのみ機能します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。 (3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	このウェブブリッジプロファイルを使用するウェブブリッジが、コスペースおよびコスペースアクセスメソッドコールIDを受け入れ、訪問者がコスペースミーティングに参加できるようにするかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで true になります。 (3.0 以降)
resolveLyncConferencelds	true false	この Web Bridge プロファイルを使用する Web Bridge が、Lync スケジュール済み会議IDに解決される ID を受け入れるかどうかを指定します。 作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「false」になります。(3.0 は見えますが、機能しません。3.1 削除)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestion-Disabled domainSuggestion-Enabled	この Web Bridge が、coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI で、訪問者による cospace ミーティングへの参加を許可するかどうかを指定します。 (3.0 以降)

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		<ul style="list-style-type: none"> 「オフ」に設定すると、URI による参加が無効になります。 「domainSuggestionDisabled」に設定すると、URI による参加は有効になりますが、このウェブブリッジ プロファイルを使用するウェブブリッジでは、URI の自動補完や確認ができなくなります 「domainSuggestionEnabled」に設定すると、URI による参加が有効になり、このウェブブリッジ プロファイルを使用するウェブブリッジで、URI のドメインの自動補完と確認が可能になります。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトで off になります。</p>
sessionLimit	数値	ユーザごとに許可されるウェブセッションの最大数で、範囲は 0 から 5 です。指定がない場合は、既定で 0 になり、セッションコントロールなしを示します。
contentResolution	720p 1080p unrestricted	ウェブアプリでコンテンツを共有する際のプレゼンタの画面の最大解像度。
showParticipantIndicator	True/False	<p>参加者リストにユーザー識別アイコンを表示または非表示にします。</p> <p>True - ユーザー識別アイコンを表示します。設定されていない場合は、デフォルトで true になります。</p> <p>False - ユーザー識別アイコンを非表示にします。</p>

10.9.3 特定の Web Bridge で現在有効な Web Bridge プロファイルを検索する

API オブジェクト `/webBridges/<web bridge id>/effectiveWebBridgeProfile` により、Web Bridge のプロファイルと、指定された Web Bridge で現在有効な関連値を確認することができます。

- GETメソッドを使用すると `/webBridges/<web bridge ID>/effectiveWebBridgeProfile` は次の応答を返します:

応答値	タイプ/値	説明/メモ
リソースアーカイブ	URL	Meeting Server がこの Web Bridge に使用するカスタマイズアーカイブファイルのアドレスです。 (3.0 以降)
パスコードを許可する	true false	この Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI の組み合わせで coSpaces (および coSpace アクセス方法) を検索することを許可するかどうかを指定します。 (3.0 以降)
allowSecrets	true false	この Web Bridge が、数字の ID とシークレットを含むミーティング参加リンクを通じてユーザーが coSpaces (および coSpace のアクセス方法) にアクセスすることを許可するかどうかを指定します。 (3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	この Web Bridge がインデックスページにログインタブを表示するかどうかを指定します。 (3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	この Web Bridge のランディング画面からのゲストアクセスを許可するか、またはユーザーがユーザーポータルにログインした場合にのみ訪問者アクセスを許可するか。 False の場合、リンクはログインしたユーザーに対してのみ機能します。 (3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	訪問者がコスペースミーティングに参加できるようにする目的で、この Web Bridge がコスペースおよびコスペースアクセスメソッドコールIDを受け入れるかどうかを指定します。 (3.0 以降)
resolveLyncConferencelds	true false	この Web Bridge が Lync のスケジュール済み電話会議 ID に解決するための ID を受け入れるかどうかを指定します。 (3.0 は見えますが、機能しません。 3.1 削除)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestion-Disabled	この Web Bridge が、coSpace および coSpace アクセス方式の SIP URI で、訪問者による cospace

応答値	タイプ/値	説明/メモ
	domainSuggestion-Enabled	<p>ミーティングへの参加を許可するかどうかを指定します。（3.0 以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」に設定すると、URI による参加が無効になります。 「domainSuggestionDisabled」に設定すると、URI による参加は有効になりますが、この Web Bridge では URI の自動入力や確認ができません 「domainSuggestionEnabled」に設定されている場合、[URIによる参加]が有効になり、このWeb Bridgeプロファイルを使用している Web Bridge では、URI のドメインの自動補完および検証が可能になります。

10.9.4 現在最上位（グローバル）システムレベルで有効な Web ブリッジプロファイルを確認する

この API オブジェクト `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` により、Web Bridge のプロファイルと、このシステムで現在有効な関連値を見つけることができます。以下の操作をサポートします。

- GETリクエストを行う `/system/profiles/effectiveWebBridgeProfile` は次の応答を返します:

応答値	タイプ/値	説明/メモ
リソースアーカイブ	URL	Meeting Server がこのシステム上の Web Bridge のデフォルトとして使用するカスタマイズアーカイブファイルのアドレスです。（3.0 以降）
パスコードを許可する	true false	このシステムの Web Bridge でユーザがパスコードと数値 ID/URI の組み合わせで検索することを許可するかどうかを指定します。（3.0 以降）
allowSecrets	true false	このシステムの Web Bridge により、数字の ID とシークレットを含むミーティング参加リンクを介してユーザが coSpaces (および coSpace のアクセス方法)

応答値	タイプ/値	説明/メモ
		にアクセスすることを許可するかどうかを指定します。(3.0以降)
userPortalEnabled	true false	どうかこのシステムの Web Bridge がインデックスページにログインタブを表示するかどうかを指定します。(3.0以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	このシステムに対して、Web Bridge のランディング画面からのゲストアクセスを許可するか、またはユーザがユーザポータルにログインしたときにのみゲストアクセスを許可するかを指定します。False の場合、リンクはログインしたユーザに対してのみ機能します。(3.0以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	訪問者がコスペースミーティングに参加できるようにする目的で、このシステム上の Web Bridge がコスペースおよびコスペースアクセスメソッドコールIDを受け入れるかどうかを指定します。(3.0以降)
resolveLyncConferencelds	true false	このシステム上の Web Bridge が Lync のスケジュール済み電話会議 ID に解決するための ID を受け入れるかどうかを指定します。(3.0 は見えますが、機能しません。3.1 削除)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestion-Disabled domainSuggestion-Enabled	<p>訪問者がスペースミーティングに参加できるようにする目的で、このシステムの Web Bridge が coSpace および coSpace アクセスメソッド SIP URI を受け入れるかどうかを指定します。(3.0以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」に設定すると、URI による参加が無効になります。 「domainSuggestionDisabled」に設定すると、URI による参加は有効になりますが、このシステム上の Web Bridge では、URI の自動補完や検証が行われません。 「domainSuggestionEnabled」に設定すると、URI による参加が有効になり、このシステム上の Web Bridge で、URI のドメインの自動補完と確認が可能になります。

10.9.5 個々のテナントで現在有効な Web Bridge プロファイルを取得する

API オブジェクト `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` により、ウェブブリッジ プロファイルと、指定されたテナントで現在有効な関連値を見つけることができます。以下の操作をサポートします。

- GETメソッドを使用する `/tenants/<tenant id>/effectiveWebBridgeProfile` に対して次の応答を返します:

応答値	タイプ/値	説明/メモ
リソースアーカイブ	URL	Meeting Server がこのテナントの Web Bridge のデフォルトとして使用するカスタマイズアーカイブファイルのアドレスです。(3.0 以降)
パスコードを許可する	true false	このテナントの Web Bridge で、ユーザーがパスコードと数値 ID/URI の組み合わせで coSpaces (および coSpace アクセス方法) を検索することを許可するかどうかを指定します。(3.0 以降)
allowSecrets	true false	このテナントの Web Bridge が、数字の ID とシークレットを含むミーティング参加リンクを通じてユーザーが coSpaces (および coSpace のアクセス方法) にアクセスすることを許可するかどうかを指定します。(3.0 以降)
userPortalEnabled	true false	このテナントの Web Bridge がインデックスページにログインタブを表示するかどうかを指定します。(3.0 以降)
allowUnauthenticatedGuests	true false	このテナントのウェブブリッジのランディング画面からのゲスト アクセスを許可するか、またはユーザーがユーザーポータルにログインしたときにのみ訪問者アクセスを許可するかどうか。False の場合、リンクはログインしたユーザーに対してのみ機能します。(3.0 以降)
resolveCoSpaceCallIds	true false	訪問者がコスペースミーティングに参加できるようにする目的で、このテナントの Web Bridge がコスペースおよびコスペースアクセス

応答値	タイプ/値	説明/メモ
		メソッドコールIDを受け入れるかどうかを指定します。
resolveLyncConferencelds	true false	このテナントの Web Bridge が Lync のスケジュール済み電話会議 ID に解決するための ID を受け入れるかどうかを指定します。(3.0 は見えますが、機能しません。3.1 削除)
resolveCoSpaceUris	off domainSuggestionDisabled domainSuggestionEnabled	訪問者がスペースミーティングに参加できるようにする目的で、このテナントの Web Bridge が coSpace および coSpace アクセス方式 SIP URI を受け入れるかどうかを指定します。 (3.0 以降) <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」に設定すると、URI による参加が無効になります。 「domainSuggestionDisabled」に設定すると、URI による参加は有効になりますが、このテナントのウェブブリッジでは、URI の自動補完や検証が行われません 「domainSuggestionEnabled」に設定すると、[URIによる参加] が有効になり、このテナントでは、URI のドメインは自動補完され、Web Bridgeで検証可能です。

10.9.6 webBridgeProfile の Web Bridge アドレスの作成、変更、および取得

3.1から外部アクセスが構成 > 全般 ページの Web Bridge URI および IVR 電話番号の設定が削除されました。これらの設定フィールドはウェブブリッジプロファイルに移動されました。

複数の IVR 番号と Web Bridge アドレスも指定できるようになりました – 最大 32 個の Web Bridge プロファイルごとに IVR 番号と最大 32 個の Web Bridge アドレス。これらは参加情報を表示する際、およびメール招待状を生成する際に使用されます。

メモ: `ivrNumber` と `webBridgeAddresses` を設定するために、システム レベルまたはテナント レベル (マルチテナントを使用している場合) で `webBridgeProfile` を使用することを強くお勧めします。

この API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- POST to `/webBridgeProfiles/<webブリッジプロファイル ID>/webBridgeAddresses`
- PUT to `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id>`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例: USA ウェブアプリ (バージョン 3.1から)
アドレス	URL	メール招待状を表示する際に使用するアドレスです。例: https://usa.mycompany.com/ (バージョン 3.1 から)

- `/webBridgeProfiles/<webブリッジプロファイル id>/webBridgeAddresses` の一覧は、以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、仮想リストの最初のページにあるアドレス以外のウェブブリッジアドレスを取得できます。
limit		

レスポンスは、複数の `<webBridgeAddress>` 要素を持つ最上位の `<webBridgeAddresses total="N">` タグとして構成されます。

各 `<webBridgeAddress>` タグには、次の要素を含めることができます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例: USA ウェブアプリ (バージョン 3.1から)

- `webBridgeProfiles` の個々の Web Bridge アドレスに対する GET リクエスト `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/webBridgeAddresses/<web bridge address id>` は次の応答を返します:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この Web Bridge アドレスを説明するラベル名。例: USA ウェブアプリ (バージョン 3.1から)
住所	URL	メール招待状の生成時に使用されるアドレスです。例: https://usa.mycompany.com/ (バージョン 3.1 以降)

10.9.7 webBridgeProfile の IVR 番号の作成、変更、および取得

この API オブジェクトは以下の操作をサポートします。

- POST to `/webBridgeProfiles/<webブリッジプロファイルID>/ivrNumbers`
- PUT to `/webBridgeProfiles/<web bridge profile id>/ivrNumbers/<ivr number id>`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この IVR 番号を説明するラベル名。例: 米国のコールイン番号 (バージョン 3.1から)
番号	string	メール招待状をレンダリングする際に使用する IVR 番号です。例: 888-123123 (バージョン 3.1 以降)

- `/webBridgeProfiles/<webブリッジプロファイルid>/ivrNumbers` の一覧は、以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、概念リストの最初のページ以外の IVR 番号を検索できます。
limit		

レスポンスは、複数の `<ivrNumber>` 要素を持つ最上位の `<ivrNumbers total="N">` タグとして構成されます。

各 `<ivrNumber>` タグには次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この IVR 番号を説明するラベル名。例: 米国のコールイン番号 (バージョン 3.1から)

- webBridgeProfiles の個々の IVR 番号に対する GET を実行すると、
/webBridgeProfiles/<webブリッジプロファイル id>/ivrNumbers/<ivr番号 id> 次の
応答が返されます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	string	この IVR 番号を説明するラベル名。例: 米国のコールイン番号 (バージョン 3.1から)
番号	string	メール招待状の表示時に使用される IVR 番号です。例: 888-123123 (バージョン 3.1以降)

10.10 Call Bridge メソッド

10.10.1 コールブリッジに関する情報の取得

"/callBridges" ノードで実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	レスポンスは、複数の <callBridge> 要素を持つ最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成されます。 各 <callBridge> タグには、次の要素を含めることができます。 次のセクションをご覧ください

10.10.2 コールブリッジの設定と変更

- 作成: "/callBridges" ノードに対する POST メソッド
- 修正中: PUTを使用して "/callBridges/call bridge id"

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
name *	文字列	この設定されたクラスタ化された Call Bridge の一意の名前
住所	文字列	このクラスタ内の Call Bridge にアクセス可能なアドレス
sipDomain	文字列	このクラスタ化された Call Bridge とピアツーピア接続を確立するための SIP ドメイン
callBridgeGroup	ID	指定する場合は、この Call Bridge を提供された Call Bridge グループ (バージョン 2.1 以降) と関連付ける

10.10.3 個々のコールブリッジに関する詳細情報を取得する

"/callBridges/<call ブリッジ id>" ノードで実行される GET メソッド。提供された Call Bridge ID が有効な場合、「200 OK」の応答が、前のセクションで説明されている XML コンテンツと共に受信されます。

10.11 Call Bridge グループメソッド

10.11.1 コールブリッジグループに関する情報の取得

"/callBridgeGroups" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <callBridgeGroup> 要素を持つ最上位の <callBridges total="N"> タグとして構成されます。 各 <callBridgeGroup> タグには、次の要素を含めることができます。
名前	文字列	Call Bridge グループの名前

10.11.2 コールブリッジグループの設定と変更

- 作成中: "/callBridgeGroups" ノードに対する POST メソッド
- 変更中: "/callBridgeGroups/ call ブリッジグループ ID >" への PUT

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	Call Bridge グループの名前のオプション
loadBalancingEnabled	true false	この Call Bridge グループの Call Bridge が、グループ内の通話を負荷分散しようとするかどうかを指定します。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.1 以降)。
loadBalanceLyncCalls	true false	Lync から coSpaces への着信通話が Call Bridge グループ内で負荷分散されるかどうかを指定します。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.1 以降)。 注: Lync クライアントとの間の通話の負荷分散は、現在コールブリッジグループではサポートされていません。
loadBalanceOutgoingCalls	true false	coSpaces からのコールをグループ内で負荷分散するかどうか。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.2 以降)。
負荷分散ユーザ通話数	true false	coSpaces へのウェブアプリの呼び出しをグループ内で負荷分散するかどうか。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、デフォルトで「true」になります (バージョン 2.3 以降)。
loadBalanceIndirectCalls	true false	Record-Route SIP ヘッダーを持つ着信コールをグループ内で負荷分散するかどうか。このパラメータが作成 (POST) 操作で提供されない場合、デフォルトで「false」になります (バージョン 2.4 以降)。 メモ: Exp C を通話コントロールとして使用する場合、このパラメータを true に設定する必要があります。これは Expressway で機能する負荷分散に必要です。

10.11.3 個々のコールブリッジグループに関する詳細情報を取得する

"/callBridgeGroups/<callブリッジグループID>" ノード上で実行される GET メソッド。指定された Call Bridge グループ ID が有効な場合、「200 OK」の応答が受信されます。XML コンテンツは、に記述されています。前のセクション。

10.12 Call Bridge クラスタ メソッド

10.12.1 Call Bridge Cluster の詳細を取得する

/system/configuration/cluster ノードで GET を発行して以下の情報を取得します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
uniqueName	文字列	この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。
peerLinkBitRate	番号 (Number)	Call Bridge間での通話分配接続に使用する最大メディアビットレートが指定されています
participantLimit	番号 (Number)	指定されている場合は、この Call Bridge 上でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP 通話が拒否されます。
loadLimit	番号 (Number)	バージョン 2.1 以降で指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数。
newConferenceLoadLimitBasisPoints	番号 (Number)	非アクティブな電話会議への着信を避けられる負荷制限のベースポイント (10,000 分の 1)。0 から 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 は 50% 負荷です。値はロード制限を基準に調整されます。(バージョン 2.1 以降)
existingConferenceLoadLimitBasisPoints	番号 (Number)	この Call Bridge への着信が拒否される負荷制限の基準点は、0 から 10000 の範囲で、デフォルトは 8000 です (バージョン 2.1 以降)
maxPeerVideoStreams	番号 (Number)	Call Bridge 間のコールディストリビューション接続を介して送信されるストリームの最大数は、指定されていない場合、デフォルトで 4 になります。 (バージョン 2.3.3 以降)

10.12.2 コールブリッジクラスタの設定と変更

/system/configuration/cluster ノードで PUT を発行します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
uniqueName	文字列	この Call Bridge が Call Bridge クラスタ内で認識される名前。これは、/callBridges テーブルのエントリの「name」値と一致する必要があります。
peerLinkBitRate	番号 (Number)	提供された場合、Call Bridge 間での通話分配接続に使用する最大メディアビットレート
participantLimit	番号 (Number)	指定されている場合は、この Call Bridge 上でアクティブにできる参加者の最大数。この制限に達すると、新しい着信 SIP 通話が拒否されます。
loadLimit	番号 (Number)	バージョン 2.1 以降で指定されている場合、この Call Bridge で使用されるロードユニットの最大数。
newConferenceLoadLimitBasisPoints	番号 (Number)	非アクティブな電話会議への着信を避けられる負荷制限のベースポイント (10,000 分の 1)。0 から 10000 の範囲で、デフォルトは 5000 は 50% 負荷です。値はロード制限を基準に調整されます。(バージョン 2.1 以降)。
existingConferenceLoadLimitBasisPoints	番号 (Number)	非アクティブな電話会議への着信が拒否される負荷制限の基準。0 から 10000 までの範囲で、デフォルトは 5000 からのバージョン 2.1)。

10.13 SystemLoad メソッド

"/system/load" ノード上で実行された GET メソッド。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
mediaProcessingLoad	番号 (Number)	Call Bridge の現在のメディア処理負荷

10.14 互換性プロファイルのメソッド

10.14.1 互換性プロファイルの操作を取得する

/compatibilityProfiles ノードで実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset	数字	「offset」と「limit」を指定して、概念リストの最初の「page」以外の互換性プロファイルを検索できます。
limit	数字	
usageFilter	unreferenced referenced	リクエストに "usageFilter=unreferenced" を指定すると、別のオブジェクトによって参照されていない互換性プロファイルのみを取得できます。これは、プロファイルを削除する前の確認に役立ちます。少なくとも 1 箇所参照されている互換性プロファイルのみを取得するには、"usageFilter=referenced" を指定します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		レスポンスは、複数の <compatibilityProfile> 要素を持つ最上位の <compatibilityProfiles total="N"> タグとして構成されます。各 <compatibilityProfile> タグにはこれらの要素を含めることができます:
sipUdt	true false	SIP 通話で UDT の使用が許可されるかどうかを示します。(バージョン 2.1 以降)
sipMultistream	true false	SIP 通話で Cisco マルチストリームプロトコルの使用を許可するかどうかを示します。(バージョン 2.2 以降)
sipMediaPayloadTypeMode	auto broadsoft	デフォルトのコーデック メディア ペイロード タイプが使用されるか、または特別なバリエーションが使用されるかを示します。(バージョン 2.2 以降)
chromeWebRtcVideoCodec	auto avoidH264	Chrome が WebRTC 通話に使用するコーデックを示します。(バージョン 2.3 以降)
h264CHP モード	auto basic	H.264 CHP のどの部分が使用されるかを示します。(バージョン 2.4 以降)
safariWebRtcH264interopMode	auto none	WebRTC 通話で Safari ブラウザが使用する H.264 パラメータを示します。

10.14.2 互換性プロファイルの設定と変更操作

- 作成中: "/compatibilityProfiles" ノードに対する POST メソッド
- 変更中: "/compatibilityProfiles/<互換性プロファイル ID>" への PUT

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
sipUdt	true false	<p>SIP 通話で UDT の使用を許可するかどうかを制御します。Active Control は、エンドポイントへの参加者リストの送信、ユーザが通話中に他の参加者を切断できるようにする、展開間参加者リストなど、特定の機能で UDT トランスポートを使用します。(バージョン 2.1 以降)</p> <p>true - SIP 通話内で ユーザーデータグラムプロトコル が許可されます</p> <p>false - SIP 通話内で ユーザーデータグラムプロトコル は許可されません</p>
sipMultistream	true false	<p>SIP 通話で Cisco マルチストリーム プロトコルの使用を許可するかどうかを制御します。Cisco デュアル エンドポイントのデュアル ビデオ機能はこのプロトコルを使用します。これが無効になっている場合、デュアル スクリーン ビデオを使用できる通話はありません。(バージョン 2.2.3 以降)</p> <p>true - Cisco マルチストリーム シグナリングは SIP コール内で許可されます (<未設定>の場合、SIP マルチストリームの動作はデフォルトで true)</p> <p>false - SIP コール内で Cisco マルチストリーム シグナリングは許可されません</p>
sipMediaPayloadTypeMode	auto broadsoft	<p>デフォルトのコーデック メディア ペイロード タイプを使用するか、特別なバリエーションを使用するかを制御します。(バージョン 2.2 以降)</p> <p>auto - デフォルトのモードで、通常メディアペイロードタイプの値が使用されます</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
		Broadsoft - 特別な例外モードで、H.264 ビデオコーデックはペイロードタイプ 109 でアドバタイズされます。
chromeWebRtcVideoCodec	auto avoidH264	<p>WebRTC 通話で Chrome が使用するコーデックを制御します。</p> <p>auto - すべてのコーデックを許可します。Chrome で WebRTC に h264 が使用されるようになります (デフォルトの動作)。</p> <p>avoidH264 - Chrome で VP8 が代わりに使用されます</p> <p>(バージョン 2.3 以降)</p>
chromeWebRtcH264interopMode	自動 なし	<p>WebRTC 呼び出しのために Chrome が使用する H264 パラメーターをコントロールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • auto - デフォルトの動作、ハイ プロファイルが無効にし、Chrome に SDP オファーでベースプロファイル レベル 5.0 をアドバタイズするよう強制します • none - レガシーな動作 SDP への変更はありません。(バージョン 2.9 以降)
h264CHP モード	auto basic	<p>H.264 CHP のどの部分が使用されるかを制御します。</p> <p>自動 - デフォルトの動作、エンドポイントの識別に基づいて、適切な部分が使用されます</p> <p>基本 - パーツの最小限のサブセットのみが使用されます</p> <p>(バージョン 2.4 以降)</p>
パススルーモード	有効 無効	<p>H264 パススルー機能を許可するかどうかを制御します</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効 - 可能な場合にビデオのトランスコードを回避できます • 無効 - 常にビデオをトランスコードする <p>(バージョン 3.1 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
passthroughDualCamera	有効 無効	<ul style="list-style-type: none"> 有効 - デュアル カメラ エンドポイントとピア リンクのビデオをトランスコードしません。 無効 - デュアル カメラ エンドポイントとピア リンクのビデオをトランスコードします。 <hr/> <p>メモ: パススルーモード が有効になっている場合のみ、このパラメータを無効にします。パススルーモード が無効になっている場合、このパラメータは無効になります。</p> <p>デュアル カメラ エンドポイントを持つ電話会議で通話を発信する前に、SIP RX/TX およびピア リンクの最小ビット レートを 4 Mbps に設定することをお勧めします。</p> <hr/> <p>(バージョン 3.7 以降)</p>
sipH224	true false	<p>SIP 通話で H.224 の使用を許可するかどうかを制御します。このプロトコルは、遠端カメラ制御サポータに使用されます。</p> <p>true - すべての SIP 通話で H.224 が有効になります false - H.224 はすべての SIP 通話で無効になっています</p> <hr/> <p>(バージョン 2.8 以降)</p>
distributionLinkMediaTraversal	有効 無効	<p>クラスタ化された Meeting Server デバイス間の配信リンクにメディアトラバーサル ICE / STUN を使用するかどうかを制御します。</p> <p>有効 - メディア トラバーサルを配信リンクに使用すべきです</p> <p>無効 - メディア トラバーサルを配信リンクに使用すべきではありません</p> <hr/> <p>(バージョン 2.8 以降)</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
safariWebRtcH264interopMode	auto none	<p>WebRTC 通話で Safari ブラウザが使用する H.264 パラメータをコントロールします。</p> <p>自動: Safari で実行中の WebRTC クライアントに送信された SDP は、H.264 ハイプロファイルを無効にし、ベース プロファイル レベル 5 を告知します。これはデフォルト値です。</p> <p>none: SDP への変更はありません。 (バージョン 3.2 以降)</p>

10.15 ロビープロフィール手法

10.15.1 ロビープロフィールの操作を取得する

"/lobbyProfiles" ノードに対して実行された GET メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明
名前 (オプション)	文字列	このプロフィールを識別しやすくするオプションの名前ラベル (最大サイズ 200 バイト)
joinMethod (オプション)	unset presentationOnly audioVideo	<p>次のいずれか presentationOnly または audioVideo。これにより、ウェブ アプリの参加者が presentation only で参加するか、audio video participant として参加するかが決定されます。</p> <p>lobbyProfiles の階層の通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで未設定の場合、既存の 音声ビデオ 方法にデフォルト設定されます。</p> <p>ゲストユーザの場合、パラメータは以下の階層に従います。 accessMethod > coSpaces > テナント > システム/プロフィール。</p> <p>[参加する] ボタンを使用して自分がメンバーになっているスペースに参加しようとするユーザの場合、パラメータは次の階層に従います: coSpaceUsers &gt; accessMethod > coSpaces > テナント ID > system/profiles。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
joinMethod	audioVideo presentationOnly	既定の参加方法を、音声とビデオまたはプレゼンテーションのみのモードに設定します。

10.15.2 ロビープロフィールの操作を設定、変更する

- 作成中: "/lobbyProfiles" ノードに対する POST メソッド
- 変更: "/lobbyProfiles/<ロビープロフィール ID>" へのPUT

パラメータ	タイプ/値	説明
名前 (オプション)	文字列	このプロフィールを識別しやすくするオプションの名前ラベル (最大サイズ 200 バイト)
joinMethod (オプション)	unset presentationOnly audioVideo	次のいずれか presentationOnly または audioVideo 。これにより、ウェブ アプリの参加者が presentation only で参加するか、audio video participant として参加するかが決定されます。 lobbyProfiles の階層の通常のルールがこのパラメータに適用されます。階層のすべてのレベルで未設定の場合、既存の 音声ビデオ 方法にデフォルト設定されます。 ゲストユーザの場合、パラメータは以下の階層に従います。 accessMethod > coSpaces > テナント > システム/プロフィール 。 [参加する] ボタンを使用して自分がメンバーになっているスペースに参加しようとするユーザの場合、パラメータは次の階層に従います: coSpaceUsers > accessMethod > coSpaces > テナントID > system/profiles 。

10.16 システム診断方法

10.16.1 システム診断を取得する

新しい /system/diagnostics ノードで GET を発行し、以下の情報を取得します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、概念リストの最初の「ページ」以外の要素を検索できます。
coSpaceFilter	ID	指定すると、このフィルターは、返される結果を、指定された coSpace に対応する診断に制限します。
callCorrelatorFilter	ID	指定すると、このフィルターは、返される結果を、指定された callCorrelator に対応する診断に制限します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	文字列	指定した診断ログに関連する説明テキスト

10.16.2 個々のシステム診断を取得する

ノード /system/diagnostics/<diagnostics ID> の GET を発行します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ラベル	文字列	特定の診断ログに関連する説明テキスト
coSpace	ID	診断ログが特定の通信スペースに関連付けられている場合、このパラメータはその通信スペースの ID を保持します
callCorrelator	ID	アクティブな通話のすべての分散インスタンスで同じ ID - この値は、同じ通話に対する他の Call Bridge ピアの診断ファイルでも同じです
タイムスタンプ	文字列	診断ログが生成された時刻
コンテンツサイズ	番号 (Number)	このログエントリの診断データのサイズ

10.16.3 個々のシステム診断内容を取得する

/system/diagnostics/<diagnostics id>/contents ノードで GET メソッドを発行して、システム診断に保存されているデータを取得します。

10.17 システムのタイムドロギング方法

10.17.1 ログイングサブシステムの有効化

バージョン 3.2 では、新しい API ノード、 `/system/timedLogging` を導入し、以下の操作をサポートしています。

- PUT を使用して `/system/timedLogging`
- GET を使用して `/system/timedLogging`

これは、下の表に記載されているパラメータをサポートしています。各パラメータには、ログイングサブシステムが有効になる秒数を示す整数値を割り当てることができます。

パラメータを 0 に設定するか、または何も設定しない場合、ログイングサブシステムは非アクティブになります。たとえば、`system/timedLogging` に `sip=60` を指定して PUT すると、SIP の詳細ログが 60 秒間有効になります。この 60 秒が経過する前に、`sip=0` で `system/timedLogging` に PUT を実行すると、ログイングが再度無効になります。複数のパラメータを一度に指定できます。例: `sip=600&tip=600` これにより、次の 10 分間、SIP と TIP の両方のログが有効になります。

このオブジェクトでは次のパラメータを利用できます:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
activeControl	数値	Active Controlの詳細なログ記録を有効にすべき残り時間 (秒)
アクティブなスピーカー	数値	発言者の詳細なログ記録を有効にすべき残り時間 (秒)
api	数値	詳細な API ログが有効である残り時間 (秒)
bfcf	数値	詳細な BFCF ログが有効である残り時間 (秒)
cameraControl	数値	カメラコントロールの詳細ログイングが有効になっている残り時間 (秒) (有効になっていない場合は 0)
dns	数値	詳細な DNS ログが有効である残り時間 (秒)

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
events	数値	詳細なイベントログが有効である残り時間 (秒)
ICE	数値	詳細な ICE ログが有効である残り時間 (秒)
sip	数値	詳細な SIP ログが有効である残り時間 (秒)
ヒント	数値	詳細な TIP ログが有効である残り時間 (秒)
webBridge	数値	詳細な Web Bridge のロギングを有効にするための残り時間 (秒)

11 LDAP メソッド

オブジェクトツリーの"/ldapMappings"、"/ldapServers"、"/ldapSources" ノードに存在する階層内のオブジェクトは、ミーティングサーバと 1 つ以上の LDAP サーバ (例えば、Active Directory) との対話に関連しており、これらはミーティングサーバにユーザアカウントをインポートするために使用されます。

- 1 つまたは複数の LDAP サーバを設定します。各 LDAP サーバには、Meeting Serverがユーザアカウント情報を取得する目的で接続するために使用するユーザ名とパスワード情報が関連付けられています。
- 設定済みの LDAP サーバからユーザをインポートする際にシステムに追加されるユーザアカウント名の形式を定義する 1 つ以上の LDAP マッピングも必要です
- その後、LDAP ソースのセットを設定する必要があります。これは設定済みの LDAP サーバと LDAP マッピングを結びつけ、それ自体のパラメータと共に、一連のユーザの実際のインポートに対応します。

LDAP ソースは LDAP サーバ / LDAP マッピングの組み合わせを取得し、その LDAP サーバからフィルタリングされたユーザのセットをインポートします。このフィルターは、LDAP ソースの「baseDn」(ユーザが存在する LDAP サーバツリーのノード) と、特定のパターンに一致する LDAP オブジェクトに対してのみユーザアカウントが作成されるようにするフィルターによって決定されます。

API LDAP メソッドでは、ウェブ管理インターフェイスに基づいて、「Active Directory 構成」の複数の追加セットが許可されます。 **構成 > Active Directory** ページを参照してください。このページで、[Active Directory サーバ設定] セクションは API 設定の LDAP サーバ、インポート設定は LDAP ソースに、フィールドマッピング表現は LDAP マッピングに対応します。

メモ: LDAP サーバ資格情報は次のフィールドの読み込みに使用されます:

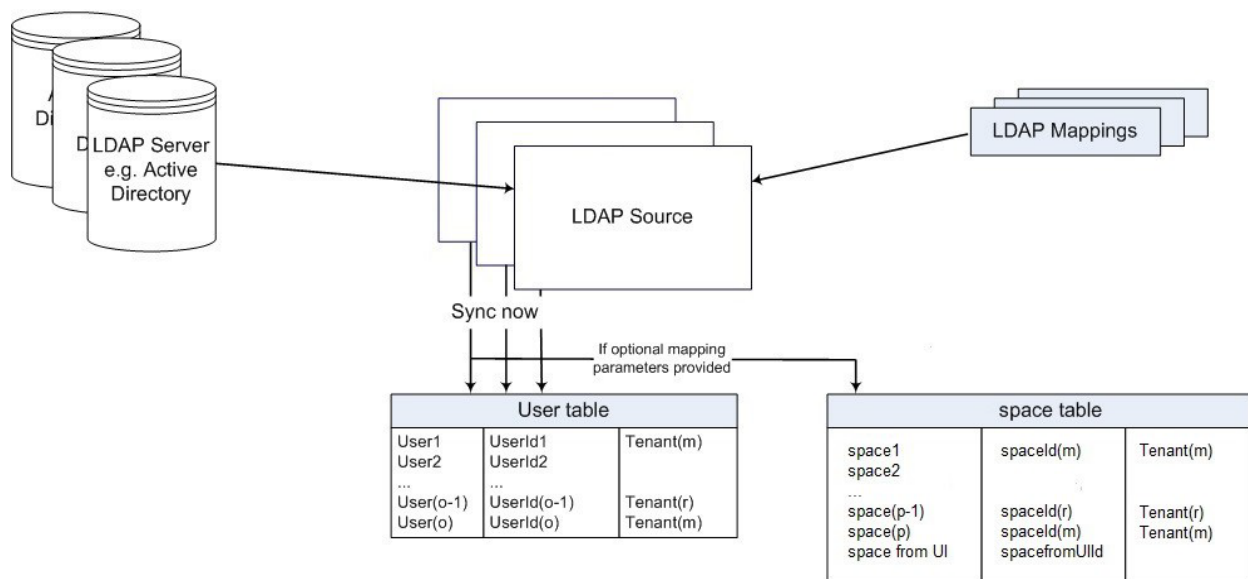
メール アドレス	telephoneNumber
objectGUID	mobile
entryUUID	sn
nsuniqueid	givenName

セキュリティ上の理由から、これらの資格情報を使用してアクセス可能なフィールドと権限を制限することを検討してみてください。

注： Meeting Serverで LDAP/AD 同期を設定する場合、LDAP/AD 属性を受け入れるフィールドでは、大文字と小文字を区別する形式で属性を入力する必要があります。たとえば、ユーザー名のマッピングが属性 userPrincipalName を使用する場合、\$userPrincipalName\$ は同期に成功しますが、\$UserPrincipalName\$ は同期に失敗します。各 LDAP 属性の大文字と小文字が正しく入力されていることを確認してください。

11.1 LDAP サーバメソッド

図 3: LDAP プロセスの概要



11.1.1 LDAP Server の情報を取得する

"/ldapServers" ノード上で GET メソッドが実行されました。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に「filter=<string>」を指定して、フィルターに一致する LDAP サーバだけを返します。
オフセット	番号 (Number)	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
limit	番号 (Number)	

レスポンス要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapServer id	ID	レスポンスは、複数の <ldapServer> 要素を持つ最上位の <ldapServers total="N"> タグとして構成されます。 返された「<ldapServer>」要素は左側の一般的な形式に従います。
住所	文字列	
ポート番号	番号 (Number)	
セキュア	true false	

11.1.2 LDAP サーバを追加、変更する

- 作成: "/ldapServers" ノードで POST メソッドを実行します。LDAP サーバがシステム上で正常に構成されている場合、その ID は応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- LDAP サーバの変更は "/ldapServers/<ldapServer id>" ノード上の PUT メソッドです。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
address *	文字列	接続先の LDAP サーバのアドレス
名前	文字列	関連名 (バージョン 2.9 以降)
ポート番号 *	番号 (Number)	リモート LDAP サーバで接続する TCP または TLS ポート番号
ユーザ名	文字列	LDAP サーバから情報を取得するときに使用するユーザ名
パスワード	文字列	ユーザ名と関連するアカウントのパスワード

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
セキュア*	true false	LDAP サーバへのセキュア接続を行うかどうか。True の場合、TLS が使用されます。false の場合、TCP が使用されます。
usePagedResults	true false	LDAP同期中の検索操作でLDAPページ結果コントロールを使用するかどうか。設定されていない場合は、ページ結果コントロールが使用されます。Oracle Internet Directory では、このパラメータを false (バージョン 2.1 以降) に設定する必要があります。

11.1.3 個々の LDAP サーバに関する詳細情報を取得する

" /ldapServers/<ldapServer ID>" ノードで実行されたGETメソッド。提供された ldapServer ID が有効である場合、「200 OK」応答が次の XML コンテンツと共に受信されます。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapServer id	ID	
住所	文字列	
ポート番号	番号 (Number)	ドメイン名
ユーザ名	文字列	directoryUser
セキュア	true false	

11.2 LDAP マッピング方法

11.2.1 LDAP マッピングの追加と変更

- 作成: "/ldapMappings" に対する POST メソッド LDAP マッピングがシステム上で正常に設定されている場合、その ID は応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更: "/ldapMappings/<ldapMapping id>" の PUT メソッドノード

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
jidMapping	文字列	<p>関連する LDAP サーバのエントリからユーザ JID を生成するためのテンプレート。例えば、 \$sAMAccountName\$@example.com</p> <p>メモ: jidMappingにより生成されたユーザ JID は URI としても使用されるため、一意である必要があり、任意の URI や通話と同じであってはなりません。ID。</p>
名前マッピング	文字列	<p>関連する LDAP サーバのエントリからユーザ名を生成するためのテンプレート。例えば "\$cn\$" は、共通名を使用します。</p>
cdrTagMapping	文字列	<p>ユーザの cdrTag 値を生成するためのテンプレートです。固定値を設定するか、そのユーザの他の LDAP フィールドから構築できます。ユーザの cdrTag は callLegStart CDR で使用されます。詳細については、「Cisco Meeting Server CDR リファレンス」を参照してください。</p>
認証 ID マッピング	文字列	<p>関連するLDAPサーバーのエントリから認証IDを生成するためのテンプレート、例えば"\$userPrincipalName\$"。</p>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceUriMapping	文字列	これらのパラメータが提供された場合、これらのパラメータにより、このLDAPマッピングによって生成された各ユーザーアカウントに、関連付けられた個人のcoSpaceが確保されます。ユーザは、上記で定義された権限で、CoSpace のメンバーとして自動的に追加されます。 上記
coSpaceSecondaryUriMapping	文字列	必要に応じて CoSpace をセットアップするために、これらのパラメータは、CoSpace の URI、表示名、および設定済みのコール ID を設定するためのテンプレートを提供します。たとえば、 CoSpaceNameMapping を「\$cn\$personal CoSpace」に設定すると、各ユーザの CoSpace は名前の後に「personal CoSpace」が付いたラベルが付けられます。
coSpaceNameMapping	文字列	生成された CoSpace には独自の cdrTag があることに注意してください。ユーザの cdrTag と同じものになり、上記の cdrTagMapping を変更して再同期する以外に変更することはできません。(CoSpace の cdrTag は callStart CDR で使用されます。詳細については、Cisco Meeting Server CDR リファレンスを参照してください。
coSpaceCallIdMapping	文字列	通常の一意性ルールが、次のようにセットアップされた coSpacesの URI および呼び出し ID に適用されることに注意してください。指定された LDAP マッピングによってセットアップされた複数のcoSpacesに対して、同じ URI または呼び出し ID を持つことは有効ではありません。このようなcoSpaces URI またはコール ID は、Meeting Server上の他の場所で現在使用されているものと同じになります。 メモ: jidMappingにより生成されたユーザ JID は URI としても使用されるため、一意である必要があり、任意の URI やコール ID と同じではありません。

11.2.2 セカンダリ LDAP マッピングパラメータ

LDAP マッピングごとに、新しいオプションの coSpaceSecondaryUriMapping パラメータがあり、自動的に作成される coSpace にセカンダリ URI があります。

- LDAP マッピングを作成するとき (前のセクションを参照)、または既存の LDAP マッピングの構成を変更するとき、「coSpaceSecondaryUriMapping」パラメータを指定できます。

- 個々の LDAP マッピングに関する情報を取得するとき (" /ldapMappings/<LDAP マッピング ID>" ノードの GET メソッド)、その LDAP マッピングに対して定義されている場合、coSpaceSecondaryUriMapping 値が返されます。

11.2.3 LDAP マッピングに関する情報の取得

" /ldapMappings" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文字列	URI に filter=<string> を指定して、フィルタに一致する LDAP マッピングのみを返します。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapMapping id	ID	レスポンスは、複数の <ldapMapping> 要素を持つ最上位の <ldapMappings total="N"> タグとして構成されます。返された「<ldapMapping>」要素は左側の一般的な形式に従います。
jidMapping	文字列	
nameMapping	文字列	

11.2.4 個々の LDAP マッピングに関する詳細情報の取得

" /ldapMappings/<ldapMapping ID>" 上で実行された GET メソッド。指定された ldapMapping ID が有効な場合、「200 OK」の応答と、[セクション 11.2.1](#)で説明されている XML コンテンツを受信します。

11.3 LDAP ソースメソッド

11.3.1 LDAP ソースから情報を取得する

"/ldapSources" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます（ セクション 4.2.2 を参照してください）。
tenantFilter	ID	tenantFilter を指定して、指定されたテナントに関連する LDAP ソースのみを返します。

応答は、最上位の <ldapSources total="N">タグには、複数の<ldapSource>要素を含んでいます。各<ldapSource>タグには次の要素を含めることができます：

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	string	バージョン 3.1 以降、LDAP ソースのオプションの名前ラベル
サーバ *	ID	設定済み LDAP サーバーの ID (上記 上 を参照)
マッピング *	ID	設定済み LDAP マッピングの ID (上記 上 を参照)
baseDn *	文字列	ユーザーがインポートされるべきLDAPサーバーのツリー内のノードの識別名。例えば、"cn=Users, dc=<companyname>,dc=com"
filter	文字列	ユーザとしてインポートするためのレコードが満たすべきLDAPフィルタ文字列。例えば、"(objectClass=person)"
テナント	ID	指定されている場合、LDAPソースはそのテナントに関連付けられるべきです。この LDAP ソースでインポートされたユーザはそのテナントに関連付けられます
userProfile	ID	提供されている場合、これはこの LDAP ソース経由でインポートされたユーザと関連付けるユーザプロファイルの ID です。このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。
nonMemberAccess	true false	このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーのアクセスを許可または禁止します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>LDAP 同期によりスペースが自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメーターにより、会社はすべてのユーザスペースへの非メンバー アクセスに対してパスワード保護を強制できます。</p> <p>true - スペースにアクセスするためのパスワードは必要ありません。メンバー以外は作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作と一致します。</p> <p>false - メンバーが LDAP 同期の一部として非メンバー アクセスを構成し、パスワードを設定する必要があることを保証します。</p> <p>メモ:バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへの非メンバーのアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。</p>

11.3.2 LDAP ソースの追加と変更

- 作成中: "/ldapSources" ノードに対する POST メソッド。LDAP ソースがシステム上で正常に構成されている場合、その ID は応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更: "/ldapSources/<ldapSource id>" ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	string	バージョン 3.1 以降、LDAP ソースのオプションの名前ラベル
サーバ *	ID	設定済み LDAP サーバーの ID (上記 上 を参照)
マッピング *	ID	設定済み LDAP マッピングの ID (上記 上 を参照)
baseDn *	文字列	ユーザーがインポートされるべきLDAPサーバーのツリー内のノードの識別名。例えば、"cn=Users, dc=<companyname>,dc=com"
filter	文字列	ユーザとしてインポートするためのレコードが満たすべきLDAPフィルタ文字列。例えば、"(objectClass=person)"
テナント	ID	指定されている場合、LDAPソースはそのテナントに関連付けられるべきです。この LDAP ソースでインポートされたユーザはそのテナントに関連付けられます
userProfile	ID	提供されている場合、これはこの LDAP ソース経由でインポートされたユーザと関連付けるユーザプロファイルの ID です。このパラメータはバージョン 2.0 以降で存在します。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
nonMemberAccess	true false	<p>このパラメータはバージョン 2.4 で導入されました。新しく作成されたスペースを事前構成して、非メンバーのアクセスを許可または禁止します。</p> <p>LDAP 同期によりスペースが自動生成される場合、すべてパスワードなしで作成されます。このパラメータにより、会社はすべてのユーザスペースへの非メンバーアクセスに対してパスワード保護を強制できます。</p> <p>true - スペースにアクセスするためのパスワードは必要ありません。メンバー以外は作成されたスペースにアクセスできます。これはデフォルト設定であり、このパラメータがバージョン 2.4 で導入される前の動作と一致します。</p> <p>false - メンバーが LDAP 同期の一部として非メンバーアクセスを構成し、パスワードを設定する必要があることを保証します。</p> <p>メモ:バージョン 2.4 より前に作成されたスペースへの非メンバーのアクセスは、LDAP 同期の影響を受けません。</p>

11.3.3 LDAP ソースの詳細情報を取得する

" /ldapSources/<ldapSource ID>" ノードに適用された GET メソッド。指定された ldapSource ID が有効な場合、「200 OK」の応答が返され、上記の LDAP ソース作成に従った XML コンテンツが含まれます。

11.4 LDAP 同期方法

LDAP 同期の API サポートには、次の機能が含まれます。

- API 経由で新しい同期をトリガーする
- 保留中および進行中の LDAP 同期を監視する

オブジェクトツリーの最上位の /ldapSyncs ノードと、その下のオブジェクトで使用する関連 GET、DELETE、POST メソッドがあります。

11.4.1 スケジュールされた LDAP 同期メソッドを取得する

"/ldapSyncs" ノードの GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
		<p>の形で <ldapSyncs 合計=N> ... 結果を返す </ldapSyncs>"、Nは保留中および進行中のLDAP同期メソッドの合計数である</p> <p>"<ldapSyncs>" で囲まれた範囲内に 1 つ以上の "<ldapSync id=ID>" ノードがあります。それぞれが左側の形式である。状態は、"inProgress" (現在進行中)、 "pending" (開始前)、完了 または失敗のいずれかです。</p>
ldapSyncid	ID	
state	進行中 保留中 完了 失敗	この LDAP 同期操作の現在の状況: 進行中 - この LDAP 同期操作は現在進行中です 未処理 - この LDAP 同期操作はまだ開始されていません 完了 - この LDAP 同期操作は完了しました正常に 失敗 - この LDAP 同期操作は失敗しました
失敗理由	テナントが存在しません ldapソースが存在しません 衝突が発生しました ldapエラー	
numUsersImported	番号 (Number)	進行中の LDAP 同期のためにインポートされたユーザ数です
numLdapSourcesComplete	番号 (Number)	複数の LDAP ソースの進行中の LDAP 同期で同期方法が完了した LDAP ソースの数。ただし、最初の LDAP ソース同期がまだ進行中で、 numLdapSourcesComplete=0 である場合、パラメータは省略されます。
creationTime	string	同期オブジェクトが UTC で作成されたときのタイムスタンプ。RFC 3339、「2014-02- 11T12:10:47Z」(バージョン 3.1 以降) に準拠してフォーマット

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
startTime	string	同期操作が開始されたタイムスタンプ (UTC)。 (バージョン 3.1 以降)
endTime	string	同期操作が成功または失敗時に終了したタイムスタンプ (UTC)。(バージョン 3.1 以降)

11.4.2 新しい LDAP 同期を開始する

"/ldapSyncs" ノードの POST メソッド。次の表にあるパラメータのいずれもが含まれていない場合、同期はウェブ管理インターフェイスの **設定 > Active Directory** ページの **今すぐ同期** ボタンと同等です。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
テナント	文章	指定されている場合、同期はそのテナントに制限されます
ldapSource	ID	指定されている場合、同期はその LDAP ソースに制限されます
removeWhenFinished	true false	<ul style="list-style-type: none"> ■ true - この LDAP 同期は、完了したら (正常にまたはエラーが発生した場合)、システムの追跡リストから削除されるため、照会できなくなります ■ false - この LDAP 同期は、完了した時点でシステムの追跡リストに保持され、その時点で成功または失敗のステータスが照会できます。システムの追跡リストに永久的に残らないようにするには、明示的に削除する必要があります。 <p>作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「true」になります。</p>

新しい LDAP 同期が正常に行われた場合、応答には形式 `"/api/v1/ldapSyncs/<LDAPsync ID>"` の "Location" が含まれます。

11.4.3 スケジュールされた LDAP 同期をキャンセルする

"/ldapSyncs/<LDAP 同期 ID>" ノードの DELETE メソッドです。このメソッドはスケジュールされた LDAP 同期をキャンセルします。同期メソッドがすでに開始されている (または開始され、完了している) 場合、このメソッドは失敗します。

11.4.4 単一の LDAP 同期メソッドで情報を取得する

"/ldapSyncs/<LDAP 同期 ID>" ノード上の GET メソッド。

提供された LDAP 同期 ID が有効な場合、<ldapSync id=LDAP sync ID> の形式の結果が得られます。... </ldapSync>は、[上](#)記に記載されている値に加えて、LDAP同期操作がfailureReasonがclashOccurredの場合に以下の情報を含みます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
clashingUserJid		存在する場合、これらのフィールドには、衝突した ID が含まれます
clashingUri		
clashingCallId		

11.5 外部ディレクトリの検索場所

API を使用して、ウェブ アプリのユーザが検索を実行するときに参照される追加のディレクトリ検索場所を Call Bridge に追加できます。外部ディレクトリ検索の場所は、テナント レベルごとに追加できます。これらの場所からの結果は、「通常の」結果 (LDAP ソース ユーザ リストなどからの結果) に追加され、ウェブ アプリで表示されます。

11.5.1 外部ディレクトリの検索場所の情報を取得する

"/directorySearchLocations" ノード上で実行する GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
tenantFilter	ID	tenantFilter を指定すると、指定されたテナントに関連付けられた外部ディレクトリ検索の場所のみが返されます。

レスポンス要素	タイプ/値	説明/メモ
ldapServer	ID	<directorySearchLocations total="N">タグには、複数の その中に <directorySearchLocation> 要素があります。 . 返される <directorySearchLocation> 要素は、左側の一般的な形式に従います。 すべては下記の外部ディレクトリ検索ロケーションの作成に従って
テナント	ID	
baseDn	文字列	
filterFormat	文字列	
ラベル	文字列	
優先度	番号 (Number)	

11.5.2 外部ディレクトリの検索場所を追加、変更する

- 作成中: 「/directorySearchLocations」ノードにPOSTメソッドを作成します。LDAP ソースがシステム上で正常に構成されている場合、その ID は応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更: "/directorySearchLocations/<directorysearch location id>" ノードの PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
ldapServer *	ID	設定済み LDAP サーバーの ID (上記 上 を参照)
テナント	ID	提供される場合、この外部ディレクトリが適用されるテナント。リモートディレクトリからのエントリは、このテナントに関連付けられたユーザにのみ提供されます
baseDn	文字列	検索対象とするLDAPサーバのツリー内のノードの識別名です。
filterFormat	文字列	ディレクトリ検索結果を選択するために使用される LDAP フィルター。\$1 はユーザ指定の検索文字列を表すために使用されます。
ラベル	文字列	このディレクトリからの検索結果に関連付けるべき人間が読める形式の名前。
優先度	番号 (Number)	検索で directorySearchLocations が使用される順序を制御します。優先順位の高いエントリが最初に使用されます
displayName		これらのフィールドは、検索結果のコンテンツを生成する際に使用される LDAP のフィールド名を指定します。たとえば、displayName が「cn」に設定されている場合、正規名を使用します。
email		
sip		

11.5.3 外部ディレクトリの検索場所の詳細情報を取得する

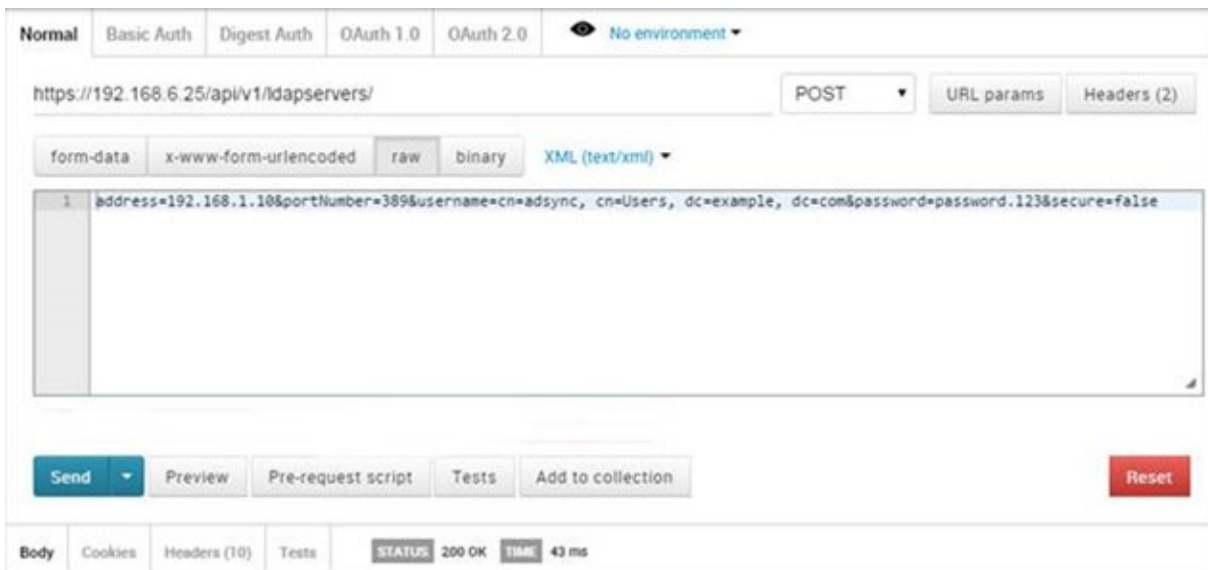
"/directorySearchLocations/<ディレクトリ検索ロケーション id>" に対して実行される GET メソッドノード。指定されたディレクトリ検索ロケーション ID が有効な場合、「200 OK」応答が受信され、上記で説明したディレクトリ検索ロケーションの作成に従って、XML コンテンツが含まれます。

11.5.4 外部ディレクトリ検索場所を追加する例

このセクションでは、ウェブアプリのユーザが検索を実行するときに、Call Bridge が参照するディレクトリ検索場所を追加する例を示します。

手順は以下のとおりです。

1. Chrome Postman などのアプリを使用して、Meeting Serverの API にログインします。
2. Meeting Serverに LDAP サーバエントリを作成します。下の図は、ldapservers エントリが URL 192.168.6.25 のミーティングサーバに POSTed されているところを示しています。このエントリは LDAP サーバ (URL 192.168.1.10) に対するもので、認証情報が提供されます。



ステップ 2 では、Call Bridge が LDAP サーバにアクセスすることを許可するために必要な情報を提供します。

3. GET を使用して、ステップ 2 で作成された LDAP サーバエントリの ID を取得します。

The screenshot shows a REST client interface with the following details:

- Method:** GET
- URL:** https://192.168.6.25/api/v1/ldapservers/
- Status:** 200 OK
- Time:** 42 ms
- Body (XML):**

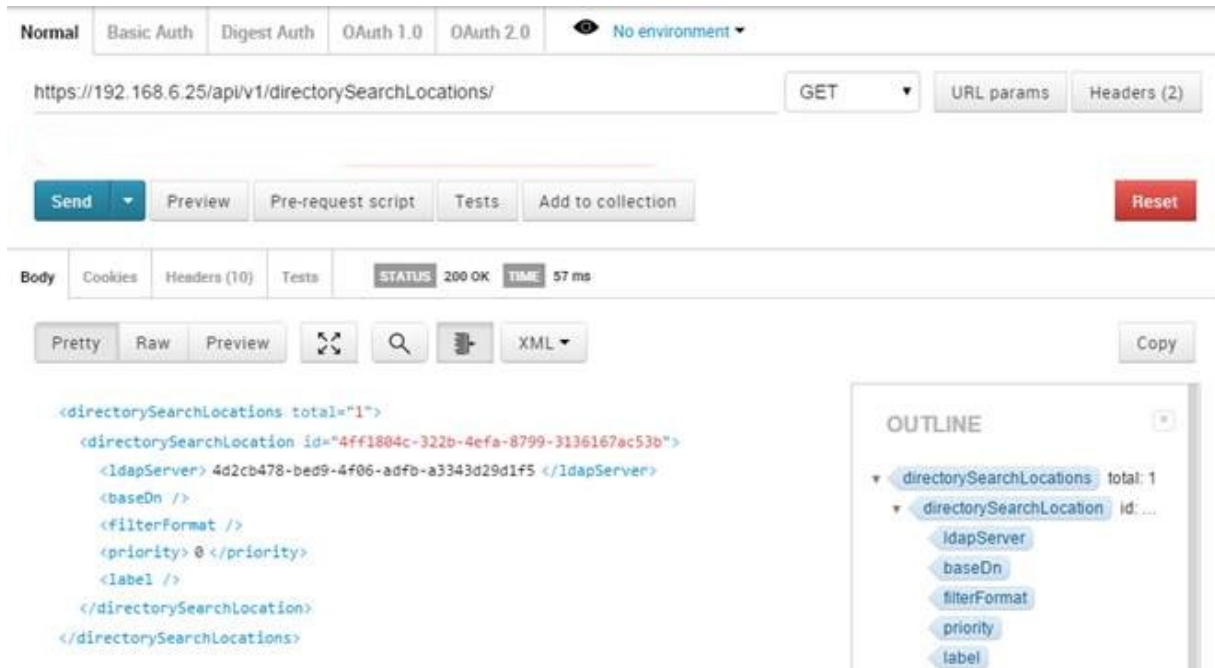
```
<ldapServers total="1">
  <ldapServer id="4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5">
    <address> 192.168.1.10 </address>
    <username> cn=adsync, cn=Users, dc=example, dc=com </username>
    <portNumber> 389 </portNumber>
    <secure> false </secure>
  </ldapServer>
</ldapServers>
```
- Outline:**
 - ldapServers total: 1
 - ldapServer id: 4d2cb478-be...
 - address
 - username
 - portNumber
 - secure

4. 手順 3 の LDAP サーバ ID を POST して、DirectorySearchLocation を作成します。 DirectorySearchLocation の設定は、ディレクトリ検索の動作を定義します。データ形式を raw に設定していることを確認します。

The screenshot shows a REST client interface with the following details:

- Method:** POST
- URL:** https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/
- Body Type:** raw
- Request Body:** ldapServer=4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5
- Status:** 200 OK
- Time:** 42 ms

5. GET を使用して、ステップ 4 で作成された DirectorySearchLocation の ID を取得します。



The screenshot shows a REST client interface with the following details:

- Method:** GET
- URL:** https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/
- Status:** 200 OK
- Time:** 57 ms
- Body (XML):**

```

<directorySearchLocations total="1">
  <directorySearchLocation id="4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b">
    <ldapServer> 4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5 </ldapServer>
    <baseDn />
    <filterFormat />
    <priority> 0 </priority>
    <label />
  </directorySearchLocation>
</directorySearchLocations>

```
- Outline:**
 - directorySearchLocations total: 1
 - directorySearchLocation id: ...
 - ldapServer
 - baseDn
 - filterFormat
 - priority
 - label

6. PUT を使って DirectorySearchLocation を編集します。PUT URL に DirectorySearchLocation ID を追加し、baseDN および filterFormat などの詳細情報を提供します。データ形式が raw に設定されていることを確認してください。次に例を示します。

PUT:

https://192.168.6.25/api/v1/DirectorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b

**baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterformat=cn=*\$1*&firstname=givenna
me&lastname=sn&displayname=cn&sip=mail**

The screenshot shows a REST client interface with the following details:

- Method:** PUT
- URL:** `https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799`
- Body:** `baseDn=OU=contacts,DC=example,DC=com&filterFormat=cn*$1*&firstName=givenname&lastName=sn&displayname=cn&sip=mail`
- Status:** 200 OK
- Time:** 45 ms

7. DirectorySearchLocation の構成が期待通りであることを確認してください。

The screenshot shows a REST client interface with the following details:

- Method:** GET
- URL:** `https://192.168.6.25/api/v1/directorySearchLocations/4ff1804c-322b-4efa-8799`
- Status:** 200 OK
- Time:** 60 ms

The response body is XML, displayed in "Pretty" format:

```
<directorySearchLocation id="4ff1804c-322b-4efa-8799-3136167ac53b">
  <ldapServer> 4d2cb478-bed9-4f06-adfb-a3343d29d1f5 </ldapServer>
  <baseDn> OU=contacts,DC=example,DC=com </baseDn>
  <filterFormat> cn*$1* </filterFormat>
  <priority> 0 </priority>
  <label />
  <firstName> givenname </firstName>
  <lastName> sn </lastName>
  <displayName> cn </displayName>
  <phone />
  <mobile />
  <email />
  <sip> mail </sip>
  <organisation />
</directorySearchLocation>
```

An "OUTLINE" panel on the right lists the XML elements: `directorySearchLocation`, `ldapServer`, `baseDn`, `filterFormat`, `priority`, `label`, `firstName`, `lastName`, `displayName`, `phone`, `mobile`, `email`, `sip`, and `organisation`.

12 マルチテナンシー

ミーティングサーバはマルチテナンシーをサポートしています。これは、その容量を一連の「テナント」に再分割することを指し、各テナントは全体としてのユニットのすべての機能を備えますが、他のテナントのリソース (例えば、ユーザ、coSpace、アクティブな通話) にはアクセスできません。

API のマルチテナンシーには 2 つの主な影響があります。

- API はテナントの作成、変更、削除を可能にし、テナントを管理する主要な手段となります。
- API は特定のテナントに結果を返すことができます。
マルチテナント モードでは、通常、各 coSpace、呼び出し、ユーザはテナントにキー入力されます (所有される)。特定のユーザ、coSpace、またはコール オブジェクトに関する情報を取得する場合、API にはそのオブジェクトを所有するテナントが含まれ、列挙ベースの取得には返されたリストの各オブジェクトのテナント情報が含まれます。
同様に、GET メソッドをフィルタリングして、特定のテナントの情報のみを含めることができます。

このドキュメントで前述した API メソッドの大部分は、マルチテナンシー モードでも機能します。ほとんどの場合、これは作成 (POST) メソッドでテナント ID を提供することと同等であり、システムは新しいオブジェクトがどのテナントと関連付けられるべきかを知っています。たとえば、マルチテナント モードではないときに coSpace を作成するには、フォーム パラメータとして「name」などのパラメータを持つ「/api/v1/coSpaces」への POST メソッドが必要です。特定のテナント用の coSpace を作成するには、POST は "/api/v1/coSpaces" になりますが、さらに、tenant=<tenant id>" をフォームパラメータに含めます。ここで、"<tenant id>" は、以前のテナント作成の結果として、または以前の列挙を介して学習されるでしょう。

どの初期 POST メソッドでも、「tenant」パラメータがない、または長さ 0 の値は同等として扱われます。オブジェクトがどのテナントにも関連付けられないという影響があります。

上記のルールに従い、<tenant id>値は次のオブジェクトの作成および変更 (POST および PUT) メソッドで有効です (図 4 参照):

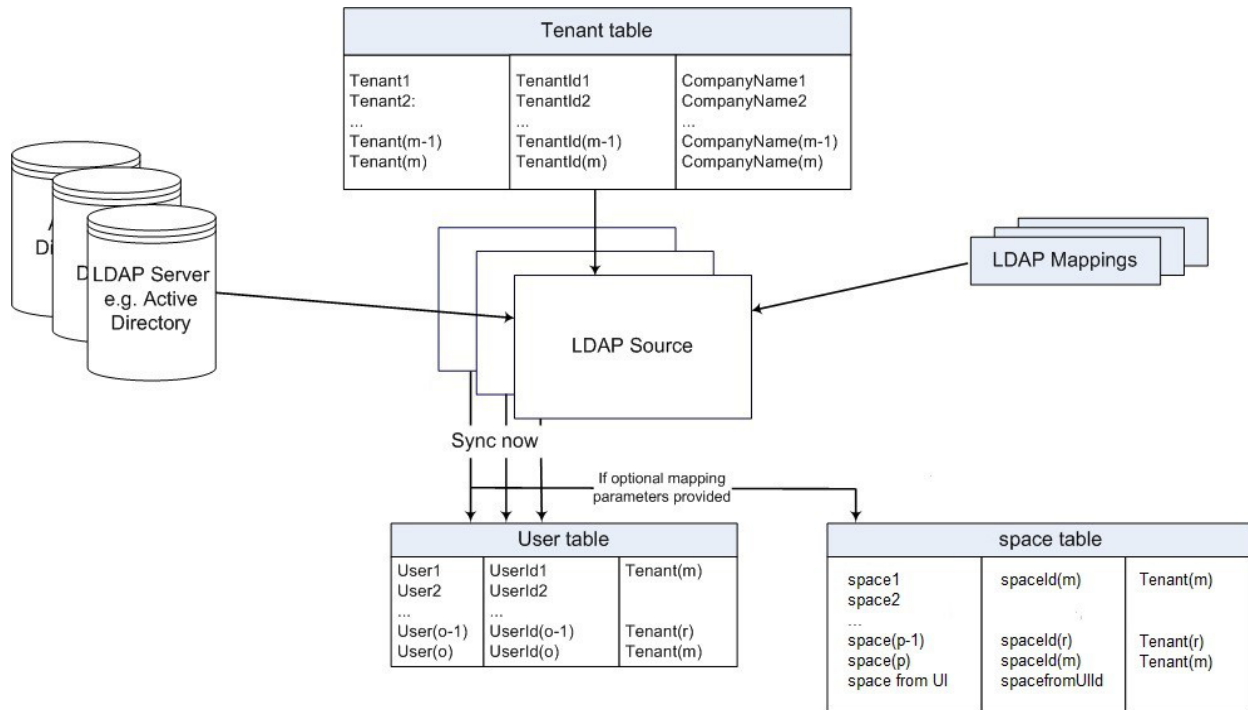
- coSpaces ("/coSpaces" または "/coSpaces/<coSpace ID>")
- LDAP ソース ("/ldapSources" または "/ldapSources/<ldap source id>")
- 転送ダイヤル プラン ルール ("/forwardingDialPlanRules" または
"/forwardingDialPlanRules/<forwarding ダイヤル プラン ルール ID>")
- 発信ダイヤル プラン ルール ("/outboundDialPlanRules" または
"/outboundDialPlanRules/<発信ダイヤル プラン ルール ID>")

<tenant id>値は、以下のオブジェクトの取得 (GET) メソッドでミーティングサーバから返されます。

- coSpaces ("/coSpaces" または "/coSpaces/<coSpace ID>")
- ユーザ ("/users" または "/users/<user ID>")
- コールレグ ("/callLegs"、"/callLegs/<コールレグID>"、または "/calls/<call id>/callLegs")
- LDAP ソース ("/ldapSources" または "/ldapSources/<ldap source id>")
- 転送ダイヤル プラン ルール ("/forwardingDialPlanRules" または
"/forwardingDialPlanRules/<forwarding ダイヤル プラン ルール ID>")
- 発信ダイヤル プラン ルール ("/outboundDialPlanRules" または
"/outboundDialPlanRules/<発信ダイヤル プラン ルール ID>")

これらすべてのオブジェクトの列挙について、「tenantFilter」値は、指定されたテナントに関連付けられたオブジェクトのみを取得するために、要求された URI で提供できます。

図 4: マルチテナンシー プロセスの概要



12.1 テナント

12.1.1 テナントを取得する

" /tenants" ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
filter	文章	URI に filter=<tenant> を供給すると、フィルターに一致するテナントのみが返されます。
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。
callLegProfileFilter	ID	そのコールレグプロファイルを使用して、それらの coSpaces だけを返すために、callLegProfileFilter=<call leg profile id> を指定します。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
テナント ID 名	ID テキスト	レスポンスは、複数の <tenant> 要素を持つ最上位の <tenants total="N"> タグとして構成されます。 <tenant>要素は左側の一般的な形式に従います。
tenantGroup	ID	指定する場合、このテナントを指定されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの共有スペースの ID は一意である必要があります。

12.1.2 テナントを作成、変更する

- 作成中: "/tenants" ノードに POST メソッドを作成します。テナントが正常に作成されると、新しいテナントの ID が応答ヘッダーの「ロケーション」フィールドで返されます。
- 変更: "/tenants/<tenant id>" ノードに対して実行される PUT メソッド

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
name *	文章	テナントのラベル
tenantGroup	ID	指定されている場合は、このテナントを指定されたテナントグループに関連付けます。同じテナントグループ内のテナントの coSpace の ID は一意である必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールレグのプロファイルをこのテナントに関連付けます
callProfile	ID	指定されている場合、指定されたコールプロファイルをこのテナントに関連付けます
dtmfProfile	ID	指定されている場合、指定された DTMF プロファイルをこのテナントに関連付けます
ivrBrandingProfile	ID	指定すると、指定した IVR ブランディングプロファイルをこのテナントに関連付けます
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、指定されたコール ブランディング プロファイルをこのテナントに関連付けます
participantLimit	番号 (Number)	指定すると、同時にアクティブにできるこのテナントに関連付けられた参加者の数に制限が設定されます。この制限を超える新規参加者は許可されません。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
userProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けるユーザ プロファイル。特別な設定がない限り、このテナントに関連付けられたすべてのユーザはこのユーザ プロファイルを使用します
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定されたロビープロファイルをこのテナントに関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合、指定されたダイヤルイン セキュリティプロファイルをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)
webBridgeProfile	ID	指定されている場合、指定されたウェブブリッジ プロファイルをこのクライアントに関連付けます (3.0 以降)

12.1.3 個々のテナントに関する詳細情報の取得

" /tenants/<tenant ID>" ノードで GET メソッドが実行されると、指定されたテナント ID が有効な場合、" 200 OK" 応答が受信されます。

に対するGET /tenants/<テナント ID> は次の応答値を返します:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
name *	文章	テナントのラベル
tenantGroup	ID	指定する場合、このテナントが関連付けられているテナントグループ。同じテナントグループ内のテナントの共有スペースの ID は一意である必要があります。
callLegProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている指定のコールレグ プロファイル
callProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けられている指定の通話プロファイル
dtmfProfile	ID	指定されている場合、指定された DTMF プロファイルをこのテナントに関連付けます
ivrBrandingProfile	ID	指定されている場合、指定された IVR ブランディングプロファイルをこのテナントに関連付けます
callBrandingProfile	ID	指定されている場合、指定されたコール ブランディング プロファイルをこのテナントに関連付けます

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
participantLimit	番号 (Number)	指定されている場合、このテナントIDに関連付けられた参加者の同時アクティブ数の上限が設定されます。この上限を超える新規参加者は許可されません。
userProfile	ID	指定されている場合、このテナントに関連付けるユーザ プロファイル。特別な設定がない限り、このテナントに関連付けられたすべてのユーザはこのユーザ プロファイルを使用します
lobbyProfile	ID	指定されている場合、指定されたロビープロフィールをこのテナントに関連付けます。
dialInSecurityProfile	ID	指定されている場合、指定されたダイヤルインセキュリティプロフィールをこのテナントに関連付けます (3.0 以降)
webBridgeProfile	ID	指定されている場合、指定されたウェブブリッジプロフィールをこのクライアントに関連付けます (3.0 以降)

12.2 テナントグループの操作

12.2.1 テナントグループを取得する

「/tenantGroups」ノード上で実行された GET メソッド。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
offset limit	数字 数字	「オフセット」と「制限」を指定して、仮想リストの最初の「ページ」以外の要素を検索することができます (セクション 4.2.2 を参照してください)。 レスポンスは、複数の <tenantGroup> 要素を持つ最上位の <tenantGroups total="N"> タグとして構成されます。
テナントグループ	番号 (Number)	テナントグループ数
テナントグループ ID	ID	各テナントグループの ID

12.2.2 テナントグループの作成と変更

- 作成中: "/tenantGroups" ノードに POST メソッドを作成します。テナントグループが正常に作成されると、新しいテナントグループの ID が、応答ヘッダーの「Location」フィールドで返されます。
- 変更: "/tenantGroups/<tenant group id>" ノードで PUT メソッドを実行します。

12.2.3 個々のテナントグループに関する詳細情報の取得

変更: "/tenantGroups/<tenant group id>" ノードで GET メソッドを実行します。指定されたテナント ID が有効な場合、「200 OK」の応答が受信されます。

13 クエリーメソッド

13.1 AccessQuery メソッド

AccessQuery メソッドは、指定された URI またはコール ID (例えば、coSpace に関連付けられる可能性があるもの) に到達する方法の詳細を検索します。1つの使用例は、外部システムが URI "sales.meeting" の coSpace が SIP URI "sales.meeting@example.com" を経由して到達することを発見することです。

/api/v1/accessQuery ノードで POST が実行されました。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uri	文章	(URIのユーザーパートは、完全な URI の '@' 文字の前の部分です。) これには、最大 200 文字を使用できます。
callId	番号 (Number)	数字の ID (通常は 9 桁)
テナント	ID	指定されている場合、検索を特定のテナントに制限します

上記のパラメータは必須ではありませんが、uri または callId が提供されている場合、クエリは有効です。

応答形式:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
uri	文字列	応答には、" <accessQuery>" タグ内の左記の要素が1つまたは複数含まれます。
ウェブアドレス	文字列	リクエストで提供された uri に対応する完全な URI
IVR	文字列	リクエストで提供された callId へのウェブ アクセス用の HTTPS URI (バージョン 3.1 で廃止)
		リクエストで提供された callId で提供できる IVR に到達するための電話番号 (バージョン 3.1 で廃止)

13.2 conversationIdQuery メソッド

conversationIdQuery メソッドは、指定された ID の会話が検出されたかどうかを調べます。

/api/v1/conversationIdQuery ノードで実行された GET。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
会話ID	文字列	検索する会話 ID

応答形式:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
会話ID	文字列	検索された会話 ID
found	true false	指定された ID の会話が見つかったかどうか。

13.3 uriUsageQuery メソッド

uriUsageQuery メソッドは、指定されたテナント内の指定された URI を使用して、coSpace、ユーザ、IVR を検索します。

/api/v1/uriUsageQuery ノードで実行された POST。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
uri	文字列	URI の「ユーザ部分」。つまり、完全な URI の「@」文字の前の部分です。これには、最大 200 文字を使用できます。
テナント	ID	指定されている場合、指定されたテナント内の共有スペース、ユーザ、IVR のみが返されます。省略された場合、テナントのないエンティティのみが返されます。

応答形式:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpaceId	ID	指定されたURIを使用する、またはそのアクセス方法を使用するcoSpaceのid
userId	ID	指定された URI を使用するユーザの ID
ivrId	ID	指定された URI を使用する IVR の ID

14 ダイアルイン セキュリティプロファイルのメソッド

14.1 一般情報

管理者は、セキュリティを向上させ、各企業のセキュリティポリシーを遵守するために、パスコードの最小文字数を設定できます。最小パスコードの長さは、IVR、SIP 直通ダイヤル、ウェブ アプリなど、すべての異なるダイアルインに適用できます。

パスコードの最小の長さは、新しい API オブジェクト `/dialInSecurityProfiles` で定義されています。新しく定義されたセキュリティ プロファイルは、最上位 (グローバル) プロファイル、テナント、コスペース、またはアクセス方法に割り当てることができます。プロファイルは、`coSpaceTemplates` およびにも割り当てることができます。 `/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>/accessMethodTemplates`.

プロファイルの階層があります – 下位の階層のプロファイルの値が上位の設定を上書きし、パラメータが設定されていないか、ダイアルインセキュリティプロファイルが設定されていない場合、階層の上位のプロファイルを継承します。

`dialInSecurityProfile` の階層は次のとおりです。

- トップレベル (グローバル) プロファイル (`/system/profiles`)
- テナント (`/tenants/<tenant id>`)
- コスペース (`/coSpaces/<cospace id>`)
- アクセス方法 (`/coSpaces/<cospace id>/accessMethods/<アクセス方法 id>`)

ダイアルインセキュリティプロファイルは、以下のように、`cospace` テンプレートおよび `cospace` アクセスメソッドテンプレートにも適用できます。

- `coSpaceTemplates` (`/coSpaceTemplates/<coSpace テンプレート ID>`)
- `accessMethodTemplates` (`/coSpaceTemplates/<coSpace template id>/accessMethodTemplates/<access method template id>`)

coSpace および関連するアクセス方法がテンプレートからインスタンス化されると、テンプレートからのダイアルイン セキュリティ プロファイルが、対応するインスタンス化されたオブジェクトに割り当てられます。

メモ: スケジュールされたミーティング (CUCM アドホック電話会議) に 15.12.0 より前の TMS バージョンを使用する場合、システムまたはテナントレベルでセキュリティプロファイルを設定しないでください。

注: パラメータ `minPasscodeLength` が 0 に設定されている場合、パスコードの長さの強制は行われません。ただし、パラメータを設定する場合は、8 文字から 63 文字の範囲内で設定する必要があります。

14.1.1 ダイアルイン セキュリティ プロファイルを使用して最小パスコード長を実装する

すべての `dialInSecurityProfile` パラメータは任意です。これらのパラメータがどのレベルでも指定されていない場合、デフォルト設定は、`minPasscodeLength=0`、および、`AllowOutOfPolicy=true` になります。 `dialInSecurityProfiles` のデフォルト設定は `<unset>` です。

注意すべき点

- パスコードの最小文字数である 8 桁は、パスコードが設定または変更された場合にのみ、`coSpaces` および `dialInSecurityProfiles` に適用されます。
- 既存の `coSpaces` と構成は、パスコードが変更されない限り影響を受けません。

以下の表は、パスコードが更新される際のさまざまなシナリオにおけるワークフローの概要を示しています。

シナリオ	ワークフロー
API の使用	
3.12 で作成 - <code>coSpace</code> ダイアルイン プロファイルが有効で、パスコード長がたとえば 6 桁に設定されている API	アップグレード後 - 既存のスペース - パスコードが編集されるまで変更はありません。編集後のパスコードが 8 桁未満の場合、エラーメッセージが表示され、パスコードルールが適用されます。

シナリオ	ワークフロー
	既存のダイアルイン セキュリティ プロファイルを使用する新しいスペース - パスコードルールが適用されるため、パスコードは最低 8 桁である必要があります。
新しいダイアルイン セキュリティ プロファイルが有効な coSpace API	パスコード長は最低 8 桁である必要があります。
ダイアルインプロファイルが有効でない coSpace API	<p>既存の coSpaces - パスコードが編集されるまで影響を受けません。パスコードを 8 桁未満に変更すると、エラーメッセージが表示され、パスコードルールが適用されます。</p> <p>新しい coSpaces - 最低 8 桁のパスコード/空のパスコードが必要です</p>
CMM/webapp のようなポータルを使用する	
8 桁未満のパスコードが設定された旧テンプレートを使用して、Web App/CMM から作成された coSpace	テンプレートは古いダイアルインプロファイルを使用し、パスコードは指定された値に基づいて自動的に生成されます。したがって、パスコード規則は適用されません。
8 桁未満のパスコードが設定された新しいテンプレートを使用して、Web App/CMM から作成された coSpace	パスコードは最低 8 桁の長さが必要です。
Cisco TelePresence Management Suite を介してスケジュールされた Meeting Server の会議	パスコードは最低 8 桁の長さが必要です。アップグレード後は、8 桁未満の PIN が設定されている場合、Meeting Server で会議を開始できません。

14.2 ダイアルイン セキュリティプロファイルを取得する

個々のプロファイルでGETを行う /dialInSecurityProfiles/<ダイアルインセキュリティプロファイルID> は次の応答を返します:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた、人間が読みやすい名前。これには、最大 200 文字を使用できます。
minPasscodeLength	番号 (Number)	<p>パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (両端を含む)。3.12.1 以降。</p> <p>coSpace のパスコードの設定は任意です。管理者は、希望しない限り、パスコードを設定する必要はありません。ただし、パスコードを設定する場合は、8 桁から 63 桁の間でなければなりません。</p>

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新しく定義されたパスコード長に準拠していない古いパスコードを使用してユーザが通話に参加できるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「true」になります。

/dialInSecurityProfiles の列挙は以下の URI パラメータを受け付けます:

URI パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
オフセット		オフセットと制限を指定して、仮想リストの最初のページ以外のダイアルインセキュリティプロファイルを検索することができます
limit		
usageFilter	未参照 referenced	要求で「usageFilter=unreferenced」を指定してください。これにより、グローバル設定または他のオブジェクトによって参照されないダイアルインセキュリティプロファイルのみを取得します。これは、プロファイルを削除する前に確認するのに役立ちます。少なくとも 1 箇所参照されているダイアルインセキュリティプロファイルだけを取得するには、「usageFilter=referenced」を指定します。

レスポンスは、複数の <dialInSecurityProfile> 要素を持つ最上位の <dialInSecurityProfiles total="N"> タグとして構成されます。

各 <dialInSecurityProfile> タグには次の要素を含めることができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた、人間が読みやすい名前。これには、最大 200 文字を使用できます。
minPasscodeLength	番号 (Number)	パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (8 と 63 を含む)。3.12.1 以降。 coSpace のパスコードの設定は任意です。管理者は、希望しない限り、パスコードを設定する必要はありません。ただし、パスコード長は、8 文字から 63 文字の間で設定する必要があります。
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新しく定義されたパスコード長に準拠していない古いパスコードを使用してユーザが通話に参加できるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「true」になります。

14.3 ダイアルイン セキュリティプロファイルの作成と変更

新しい `/dialInSecurityProfiles` オブジェクトはダイアルインセキュリティプロファイルを実装するために使用されます。この API ノードは以下の操作をサポートします。

- `/dialInSecurityProfiles` にPOSTする 新しいダイアルインセキュリティプロファイルを作成する
- 個々のプロファイルでGETを行う `/dialInSecurityProfiles/<ダイアルインセキュリティプロファイルID>`

次のリクエストパラメータについて:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
名前	文字列	このダイアルインセキュリティプロファイルに関連付けられた人間が理解可能な名前です。これには、最大 200 文字を使用できます。
minPasscodeLength	番号 (Number)	パスコードの最小許容桁数: 0 桁、または 8 桁から 63 桁まで (8 と 63 を含む)。3.12.1 から。 coSpace のパスコードの設定は任意です。管理者は、希望しない限り、パスコードを設定する必要はありません。ただし、パスコード長は、8 文字から 63 文字の間で設定する必要があります。
allowOutOfPolicy	true false	ダイアルインセキュリティプロファイルが適用される前に設定され、新しく定義されたパスコード長に準拠していない古いパスコードを使用してユーザが通話に参加できるかどうか。作成 (POST) 操作でこのパラメータが指定されていない場合、デフォルト値は「true」になります。

15 スケジューラ API

スケジューラはバージョン 3.3 で新しい API ノードを導入します。スケジューラには独自の HTTPS インターフェイスがあり、これを有効にすると、スケジューラ API を使用してスケジューラ ミーティングを設定することができます。

ミーティングサーバ管理 API インターフェイスはスケジューラ APIs をサポートしていません。Postman のようなサードパーティツールは全てのリクエストに対して使用でき、ブラウザも GET API に対して使用可能です。次を参照してください [使用するサードパーティツール](#)

新しい API ノードは、新しいコマンドで指定されたアドレスで利用できます。スケジューラ `https リッスン <インターフェース><port>` で、`https://hostname:port/api/v1/scheduler` で始まります。

たとえば、

`https://hostname:port/api/v1/scheduler/health` または
`https://hostname:port/api/v1/scheduler/meetings`

スケジューラ API ノードは以下のとおりです。

- `/health`
- `/meetings`
- `/meetings/<meeting id>`
- `/meetings/<meeting id>/participants`
- `/meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence id>`
- `/meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence id>/participants`
- `/meetings/<meeting ID>/refreshEmails`
- `/meetings/<meeting ID>/recurrences/<recurrence id>/refreshEmails`
- `/timedLogging`

15.1 スケジューラの HTTPS インターフェースの設定

スケジューラには独自の HTTPS インターフェイスがあり、これを有効にすると、スケジューラ API を使用してスケジューラ ミーティングを設定することができます。ただし、Web Bridge は管理 API を使用してスケジューラと通信することはありません。HTTPS サーバーの

有効化は必須ではありませんが、診断およびトラブルシューティングの機能が提供されるため、有効にすることをお勧めします。

次のコマンドを使用して、HTTPS サーバー リッスン インターフェイスを設定します。

```
scheduler https listen <interface> <port>
```

次に例を示します。

```
scheduler https listen a 8443
```

コマンド `scheduler https certs <key-file> <crt-fullchain-file>` を使用し

て、サーバーの証明書キーペアを設定します。例：

```
scheduler https certs scheduler_https.key scheduler_https.cer
```

15.2 スケジューラ API メッセージ形式

API オペレーションの場合、スケジューラのメッセージ本文は JSON 形式を使用します。

たとえば、

`http://localhost:8082/api/v1/scheduler/meetings` with: への POST

```
{
  "coSpace": "9ed57ad2-26aa-469f-85d1-e62bbe75cdd6",
  "summary": "テストミーティング",
  "dtStart": "2021-07-20T22:00:00.000",
  "dtEnd": "2021-07-20T23:00:00.000",
  "rrule":
  "FREQ=YEARLY;BYMONTH=7;BYMONTHDAY=9;UNTIL=20220710T235900Z",
  "timeZone": "Europe/Budapest",
  "participants": [
    {
      "accessMethod": "527f439b-9527-4718-bc1c-d2511856c268",
      "userName": "testuser",
      "email": "testuser@example.com"
    }
  ],
  "organizerUserName": "testorganizer",
  "organizerEmail": "testorganizer@example.com",
  "organizerDisplayName": "Test Organizer"
}
```

15.3 コンテンツヘッダーの形式

Header key: Content-Type

Header value: application/json

15.4 応答コード

応答コード	説明
200	要求が成功しました。
400	不正なリクエストです。検証に失敗しました。
403	API へのアクセスが禁止されています。通常、ユーザがメンバーではないスペースでミーティングを作成しようとした場合に発生します。
404	ミーティング ID が見つかりません。
405	メソッドが許可されていません。例えば、POST の代わりに PUT が使用された場合などです。
415	サポートされていないコンテンツタイプです。ユーザが JSON 以外のコンテンツタイプの本文を送信しようとした場合に発生します。
500	内部サーバエラーです。
503	サービスが利用できません。通常、スケジューラが実行されているが、データベースに接続していないときに発生します。

15.5 カスタムエラーコード

以下は、ユーザエラーが発生した場合にスケジューラが送信するエラー ID とエラーメッセージのリストです。エラー ID はエラー メッセージに割り当てられた一意の ID を表し、スケジューラ インターフェイスでエラー メッセージをマッピングするために使用できます。

エラー ID	エラー メッセージ
1003	ミーティングの必須フィールドが欠けています
1004	ミーティングの開始日時の形式が無効です
1005	ミーティングの終了日時の形式が無効です
1006	ミーティングの開始日時および終了日時の順序が無効です
1007	ミーティングの作成/更新時の繰り返しルールの値が無効です

エラー ID	エラー メッセージ
1008	ミーティングの作成中に無効な参加者フィールド値が見つかりました
1009	ミーティング開催者のメールが無効です
1010	ミーティング開催者メールの表示名が無効です
1013	ミーティングの終了日/終了時刻も終日のミーティングもありません
1018	タイムゾーンが無効です
1019	このミーティングは、既存のミーティングと重複しています

15.6 リクエストとレスポンスの例

これは、指定した期間にスケジュールされたミーティングを取得するための例です。

REQUEST:

```
GET /api/v1/scheduler/meetings?fromTime=2021-06-27T22%3A00%3A00.000Z&untilTime=2021-07-04T21%3A59%3A59.999Z&maxMeetings=50 HTTP/1.1
Host: localhost:8082
```

応答:

```
HTTP/1.1 200 OK Content-Type: application/json
[
  {
    "coSpace": "9ed57ad2-26aa-469f-85d1-e62bbe75cdd6",
    "summary": "テスト 1",
    "dtStart": "2022-07-09T22:00:00",
    "dtEnd": "2022-07-09T23:00:00",
    "timeZone": "Europe/Budapest",
    "meeting": "1aa0cf29-ea53-4fa8-b63a-7675aba85e36",
    "isSchedulerSpaceOwner": false,
    "isFullDayMeeting": null,
    "rrule":
      "FREQ=YEARLY;BYMONTH=7;BYMONTHDAY=9;UNTIL=20220710T235900 Z",
    "organizerEmail": "amilicev@example.com",
    "organizerUserName": "amilicev@example.com",
    "participantCount": 1,
    "isInvited": null,
    "recurrence": "2022-07-09T22:00:00"
  }
]
```

これは誤った開始時間形式を使用して作成するミーティングの例です。

REQUEST:

```
POST to http://localhost:8082/api/v1/scheduler/meetings
HTTP/1.1 に POST :

{
  "coSpace": "0002c44c-9abb-4ff2-a522-29e67082fd56",
  "summary": "Test Meet",
  "dtStart": "2022-09-08T12:00:00.000ZZ",
  "dtEnd": "2022-09-08T13:00:00.000",
  "timeZone": "Asia/Calcutta",
  "isSchedulerSpaceOwner": false,
  "participants": [
    {
      "accessMethod": "18579b6f-072d-4e93-b8bc-8d7a6d5853ce",
      "userName": "test@example.com",
      "メール": "test@example.com"
    }
  ],
  "organizerUserName": "test@example.com",
  "organizerEmail": "test@example.com",
  "organizerDisplayName": "Test"
}
```

応答:

HTTP/1.1 400 Bad Request Content-Type: application/json

```
{
  「コード」: 400,
  "errorId": 1004,
  "メッセージ": "ミーティングの開始日時の形式が無効です。"
}
```

15.7 スケジューラ関連のメソッド

スケジューラ API は、単一または複数の繰り返しミーティングのスケジュール、変更または削除、参加者の追加または削除、サービスの状態の取得、メール通知の送信または更新をサポートしています。

15.7.1 サービスの正常状況を取得する

サービス健全性ステータスの取得は、API ノード `/health` によりサポートされています。以下のメソッドを使用します。

- `/health` に対する GET

リクエスト要素	タイプ/値	説明/メモ
状態	文字列	サービス全体の正常性状態

リクエスト要素	タイプ/値	説明/メモ		
component	配列 (Array)	レスポンス要素	タイプ/値	詳細
		db: 状態	文字列	UPまたはDOWN
		メール: 状態 詳細	文字列 オブジェクト	UPまたはDOWN サーバアドレスとポート。
		cmsWebScheduler: 状態 詳細	文字列 オブジェクト	UPまたはDOWN GUID は、c2w 接続でスケジューラの ID として使用されます。
		ping: 状態	文字列	UPまたはDOWN

15.7.2 coSpace でのミーティングの作成、変更、削除

- POST を /scheduler/meetings に
- GET に対して /scheduler/meetings
- DELETE に対して /scheduler/meetings

ミーティングの作成は、次のパラメータを指定して /scheduler/meetings への POST でサポートされています:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpace *	ID	coSpace ID。
organizerEmail	string	ミーティング開催者のメールです。
organizerUserName	string	ミーティング開催者のユーザ名です。
organizerDisplayName (オプション)	文字列	メールに表示されるミーティングの開催者名です。
概要	string	ミーティングの要約、最大長さ 50 文字

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
isSchedulerSpaceOwner	true false	<p>スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する責任がある場合、true です。</p> <hr/> <p>メモ: true に設定すると、スケジューラはミーティング/ミーティング シリーズの終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。</p> <hr/>												
isFullDayMeeting	true false	ミーティングが終日ミーティングの場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
dtEnd	string	<p>ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。</p> <p>例：2021-01-30T08:30:00.000</p> <p>dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。</p>												
dtStart*	string	<p>ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。</p> <p>例：2021-01-30T08:30:00.000</p>												
rrule	string	<p>定期的なミーティングの頻度。</p> <p>例：FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z</p>												
participants	配列 (Array)	<p>参加者オブジェクトのリスト。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>email</td> <td>string</td> <td>ユーザーのメールとメールの確認。</td> </tr> <tr> <td>ユーザ名</td> <td>string</td> <td>ミーティング参加者のユーザ名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	email	string	ユーザーのメールとメールの確認。	ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザ名。	accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
email	string	ユーザーのメールとメールの確認。												
ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザ名。												
accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。												
タイムゾーン	string	<p>dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。</p> <p>例: 「ヨーロッパ/ロンドン」</p> <p>指定しない場合は、デフォルトで「UTC」になります。</p>												

定例ミーティングの取得は、次のリクエストパラメータを使用した `/scheduler/meetings` による GET でサポートされています。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	coSpace ID。
maxMeetings	数値	取得するミーティングの最大数。 <code>startDate</code> の昇順に並べ替えて、 <code>fromTime</code> 以降の最初の <code>n</code> ミーティングを返します。 最小は1で、デフォルトは5です。
fromTime	string	ISO 8601 フルタイム形式のミーティング終了日に対して計算されます。例: 2021-01-30T08:30:00Z。設定されていない場合、既定で現在の時刻になります。
untilTime	string	ISO 8601 フルタイムフォーマットのミーティング開始日に対して計算されます。例: 2021-01-30T08:30:00Z。 設定しない場合、 <code>untilTime</code> に上限はありません。
ユーザ名	string	主催者のユーザ名または参加者のユーザ名。

GETの応答要素 `/scheduler/meetings` はミーティングのリストです。各ミーティングには次のパラメータを指定できます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	coSpace ID。
概要	string	ミーティングのタイトル。
dtStart	string	ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。 例: 2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	string	ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。例: 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または <code>isFullDayMeeting</code> のいずれかが返されます。
会議	ID	会議 ID。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
isSchedulerSpaceOwner	true false	<p>スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する責任がある場合、true です。</p> <hr/> <p>メモ: true に設定すると、スケジューラはミーティング/ミーティング シリーズの終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。</p>
isFullDayMeeting	true false	<p>ミーティングが終日ミーティングの場合は true。</p> <p>dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。</p>
rrule	string	<p>定期的なミーティングの頻度。</p> <p>例 : <code>FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z</code></p>
organizerEmail	string	ミーティング開催者のメールです。
organizerUserName	string	会議主催者の userName
参加者数	数値	ミーティングに招待された参加者の数。
繰り返し	string	ISO 8601の完全な時間形式での、定期的なミーティングの最初の繰り返しの開始時刻です。
タイムゾーン	string	<p>dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。</p> <p>例: 「ヨーロッパ/ロンドン」</p> <p>指定がない場合の既定値は「UTC」です</p>

coSpace でのミーティングの削除は、 `/scheduler/meetings` に対する DELETE メソッドでサポートされています `coSpace` パラメータ。

リクエスト要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace *	string	coSpace ID、GUID の確認あり、長さ 36

15.7.3 個々の会議の取得、変更、または削除

個別のミーティングに関する情報の取得は、GETによりがサポートされています

`/scheduler/meetings/<ミーティング ID>` 次のパラメータを返すことができます:

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	coSpace ID。
概要	string	ミーティングのタイトル。
dtStart	string	ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	string	ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。例 : 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
会議	ID	会議 ID。
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する責任がある場合、true です。 メモ: true に設定すると、スケジューラはミーティング/ミーティング シリーズの終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。
isFullDayMeeting	true false	ミーティングが終日ミーティングの場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
rrule	string	定期的なミーティングの頻度。 例 : FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z
organizerEmail	string	ミーティング開催者のメールです。
organizerUserName	string	会議主催者のユーザ名
参加者数	数値	ミーティングに招待された参加者の数。
繰り返し	string	ISO 8601の完全な時間形式での、定期的なミーティングの最初の繰り返しの開始時刻です。

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
タイムゾーン	string	dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。 例: 「ヨーロッパ/ロンドン」 指定がない場合の既定値は「UTC」です

PUT では、個別のミーティングの変更を `/scheduler/meetings/<meetingId>` でサポートしています。次のパラメーターがあります:

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	coSpace ID。
organizerEmail	string	ミーティング開催者のメールです。
organizerUserName	string	ミーティング開催者のユーザ名です。
概要	string	ミーティングのタイトル。
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する責任がある場合、true です。 メモ: true に設定すると、スケジューラはミーティング/ミーティング シリーズの終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。
isFullDayMeeting	true false	ミーティングが終日ミーティングの場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
dtStart	string	ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。 例: 2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	string	ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。 例: 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
タイムゾーン	string	dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。 例: 「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合は、デフォルトで「UTC」になります。

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
rrule	string	定期的なミーティングの頻度。 例 : FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z												
participants	配列 (Array)	参加者オブジェクトのリスト。 <table border="1" data-bbox="748 474 1417 913"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>email</td> <td>string</td> <td>ユーザーのメールとメールの確認。</td> </tr> <tr> <td>ユーザ名</td> <td>string</td> <td>ミーティング参加者のユーザ名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	email	string	ユーザーのメールとメールの確認。	ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザ名。	accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
email	string	ユーザーのメールとメールの確認。												
ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザ名。												
accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。												

ミーティング インスタンスの削除は、DELETEによりサポートされます
/scheduler/meetings/<ミーティング ID>

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
meetingId	ID	削除するミーティングのミーティング ID です。

15.7.4 会議の参加者リストの変更または取得

ミーティングの参加者の取得は、[object]の GET でサポートされています。

/scheduler/meetings/<meetingId>/participants 各参加者には、[verb] 次のオブジェクト:

リクエスト要素	タイプ/値	説明/メモ		
participants	配列 (Array)	参加者オブジェクトのリスト。		
		パラメータ	タイプ/値	詳細/メモ
		メール	string	ユーザのメールとメール確認。
		userName	string	ミーティング参加者のユーザー名、
アクセス方法	ID	accessMethod id サポートしていない場合が送信された場合、コスペースレベルの参加情報が招待に使用されます。		

ミーティングまたはミーティングシリーズの参加者の変更は、PUT によりサポートされ、`/scheduler/meetings/<meetingId>/participants` 次のパラメータを使用します：

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ		
新規参加者	配列 (Array)	招待リストに追加する参加者。		
		パラメータ	タイプ/値	詳細/メモ
		メール	string	ユーザのメールとメール確認。
		userName	string	ミーティング参加者の userName。
accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。		
deletedEmailParticipants	配列または文字列	これらのメールアドレスを持つ参加者は招待リストから削除されます。		
deletedUserParticipants	配列または文字列	これらのユーザー名の参加者は招待リストから削除されます。		

15.7.5 定例ミーティングを作成、変更、削除する

ミーティングの繰り返しの取得は、GET によりサポートされています。`/scheduler/meetings/<ミーティング ID>/recurrences/<繰り返し ID>` を返し、次の値を返します：

応答要素	タイプ/値	説明/メモ
coSpace	ID	coSpace ID。
概要	string	ミーティングのタイトル。
dtStart	string	ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000
dtEnd	string	ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
タイムゾーン	string	dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。 例: 「ヨーロッパ/ロンドン」 指定がない場合の既定値は「UTC」です
会議	ID	会議 ID。
isSchedulerSpaceOwner	true false	スケジューラ コンポーネントが coSpace の有効期間を管理する責任がある場合、true です。 メモ: true に設定すると、スケジューラはミーティング/ミーティング シリーズの終了から約 24 時間後に coSpace を削除します。
isFullDayMeeting	true false	ミーティングが終日ミーティングの場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが返されます。
rrule	string	定期的なミーティングの頻度。 例 : <code>FREQ=YEARLY; BYMONTH=10; BYDAY=-1SU; UNTIL=20301105T082754Z</code>
organizerEmail	string	ミーティング開催者のメールです。
organizerUserName	string	ミーティング開催者のユーザ名です。
参加者数	整数	ミーティングに招待された参加者の数。
isCancelled	true false	ミーティングがキャンセルされた場合は true。

ミーティングの発生の変更は、次のパラメータを使用して PUT でサポートされています。

`/scheduler/meetings/<ミーティング ID>/recurrences/<発生 ID>`

リクエストパラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
概要	string	ミーティングのタイトル。												
isFullDayMeeting	true false	ミーティングが終日ミーティングの場合は true。 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
dtStart	string	ミーティングの開始日 (LocalDateTime のフルタイムフォーマット) です。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000												
dtEnd	string	ミーティング終了日はLocalDateTimeの完全な時間形式です。 例 : 2021-01-30T08:30:00.000 dtEnd または isFullDayMeeting のいずれかが必要です。												
タイムゾーン	string	dtStart および dtEnd 要素に対応する地域またはロケーションです。 例: 「ヨーロッパ/ロンドン」 指定しない場合は、デフォルトで「UTC」になります。												
participants	配列 (Array)	参加者オブジェクトのリスト。 <table border="1" data-bbox="716 1005 1416 1451"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>タイプ/値</th> <th>説明/メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>email</td> <td>string</td> <td>ユーザーのメールとメールの確認。</td> </tr> <tr> <td>ユーザ名</td> <td>string</td> <td>ミーティング参加者のユーザー名。</td> </tr> <tr> <td>accessMethod</td> <td>ID</td> <td>accessMethod id 指定しない場合、スペース レベルの参加情報が招待に使用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	タイプ/値	説明/メモ	email	string	ユーザーのメールとメールの確認。	ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザー名。	accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペース レベルの参加情報が招待に使用されます。
パラメータ	タイプ/値	説明/メモ												
email	string	ユーザーのメールとメールの確認。												
ユーザ名	string	ミーティング参加者のユーザー名。												
accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペース レベルの参加情報が招待に使用されます。												
isCancelled	true false	ミーティングがキャンセルされたかどうかを示します。 Trueに設定された場合、繰り返しIDによってミーティングがキャンセルされます。												

15.7.6 定例ミーティングの参加者を取得または変更する

ミーティングの繰り返しで参加者のリストを取得することは、GETをサポートするエンドポイントで可能です。/scheduler/meetings/<ミーティング ID>/recurrences/<繰り返し

ID>/participant 次のパラメーターとともに:

リクエスト要素	タイプ/値	説明/メモ		
participants	配列 (Array)	参加者オブジェクトのリスト。		
		パラメータ	タイプ/値	詳細/メモ
		メール	string	ユーザのメールとメール確認。
		userName	string	ミーティング参加者のユーザー名、
アクセス方法	ID	accessMethod id サポートしていない場合が送信された場合、コospaceレベルの参加情報が招待に使用されます。		

ミーティングの参加者の変更は、PUT によってサポートされ、/scheduler/meetings/<meeting id>/recurrences/<recurrence id>/participant 次のパラメーターとともに :

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ		
新規参加者	配列 (Array)	招待リストに追加する参加者。		
		パラメータ	タイプ/値	詳細/メモ
		メール	string	ユーザのメールとメール確認。
		userName	string	ミーティング参加者の userName。
accessMethod	ID	accessMethod id 指定しない場合、スペースレベルの参加情報が招待に使用されます。		

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
deletedEmailParticipants	配列または文字列	これらのメールアドレスを持つ参加者は招待リストから削除されます。
deletedUserParticipants	配列または文字列	これらのユーザーネームの参加者は招待リストから削除されます。

15.7.7 coSpace のメールをリフレッシュする

coSpace のメール更新は以下によりサポートされます。

POSTを使用して `/scheduler/meetings/refresh?coSpace=<coSpace id>`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
meeting*	ID	会議 ID。

15.7.8 単一のミーティングのメールとミーティングシリーズ全体のメールをリフレッシュする

ミーティングのメール更新は以下によりサポートされます。

PUT to `/scheduler/meetings/<meeting ID>/refreshEmails`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
meeting*	ID	会議 ID。

ミーティングシリーズの 1 回の繰り返しミーティングについて、メールの更新は以下によってサポートされます: PUTを使用して `/scheduler/meetings/<meeting ID>/recurrences/<recurrence id>/refreshEmails`

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
meeting*	ID	会議 ID。
繰り返し*	string	完全な時間形式の LocalDateTime での単一インスタンスの ID です。 例: 2021-01-30T08:30:00Z

15.7.9 時間指定ログ情報を変更、取得する

この機能では、新しい API ノード `/scheduler/timedLogging` を導入し、以下のオペレーションをサポートします。

- PUT を `/scheduler/timedLogging` に
- GET を `/scheduler/timedLogging` に

パラメータ	タイプ/値	説明/メモ
webBridge	数値	詳細な Web Bridge のロギングを有効にするための残り時間 (秒)。
API	数値	HTTPS側のログが有効であるべき残り時間 (秒)。
email	数値	メールログ記録の残り時間 (秒)。

16 プロファイルの使用

使用できるプロファイルは多数あります。

- /system/profiles (これは最上位のプロファイルです)
- /callProfiles
- /callLegProfiles
- /callBrandingProfiles
- /dtmfProfiles
- /ivrBrandingProfiles
- /userProfiles
- /compatibilityProfiles
- /dialInSecurityProfiles
- /webBridgeProfiles
- /lobbyProfiles

最上位プロファイルには、他のすべてのプロファイルを含めることができます。

同様に、他のすべてのプロファイルは、テナントに対して設定、変更、または取得できます。たとえば、テナントごとに異なる callBrandingProfile を最上位システム プロファイルに設定して、テナント A の通話が、テナントに属していないユーザへの通話とテナント B の通話で異なるブランディングを持つようにすることができます。

共有スペース、アクセス方法、ユーザ、IVR は一部のプロファイルで作成できます。次の図を参照してください。これらの定義のプロファイルに設定された値は、最上位またはテナントレベルで設定された値を上書きします。たとえば、coSpace の callLegProfile セットの値は、その coSpace に属するコール レッグに使用され、coSpace が関連付けられているテナントや最上位プロファイルで指定された callLegProfile の値を上書きします。

最後に、各コール レッグのプロファイルに表示されるパラメータの 1 つの値を指定できます。その後、ほとんどのパラメータに対してプロファイルを使用し、コール レッグの defaultLayout などの特定のパラメータだけをオーバーライドできます。

プロファイルの使用はすべてのレベルでオプションです。

以下の図は、プロファイル間の関係、継承、オーバーライドを示します。

図 5: プロファイルでの値の継承

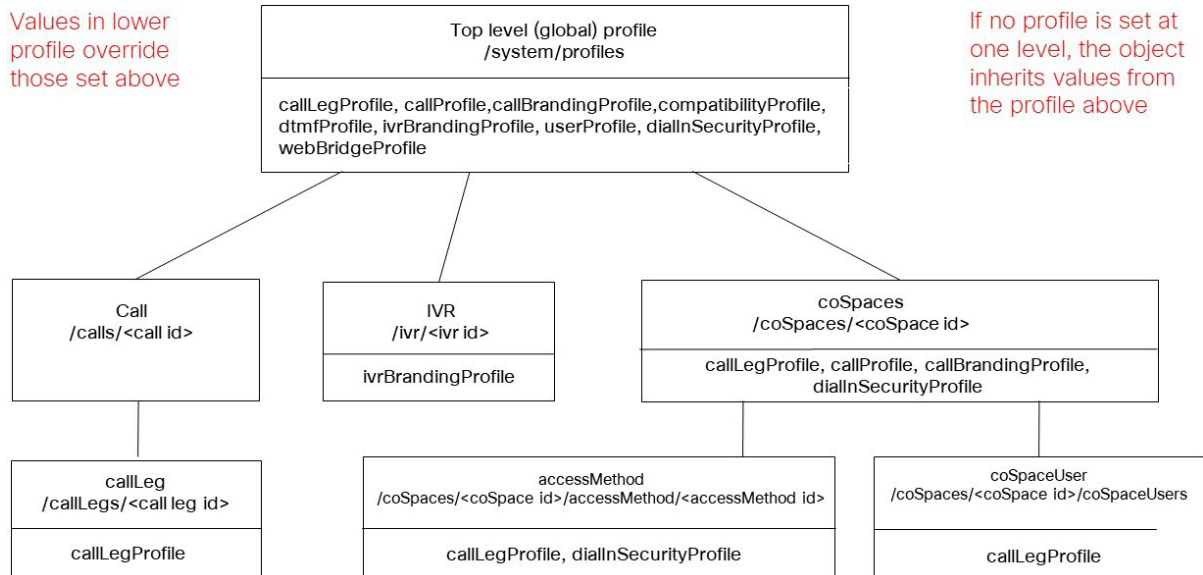
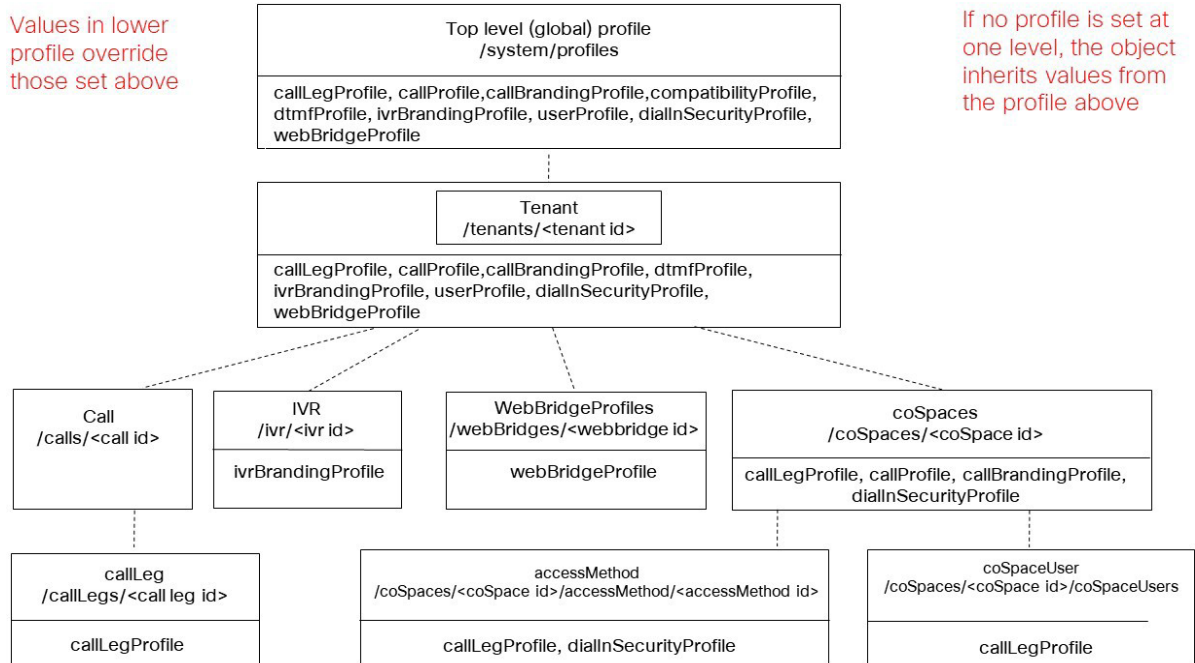


図 6 : テナント使用時のプロフィールでの値の継承



付録 A ウェブアプリミーティングで参加者の役割を変更する

Meeting Server には、ミーティング参加者の役割が事前に設定されていません。管理者は、Meeting Management を使って Meeting Server をプロビジョニングする際に、ロール名と関連する権限を定義します (詳細については、『[Meeting Management ユーザーガイド](#)』を参照してください)。ユーザには、ミーティングに参加するために使用するアクセス方法に基づいて、これらのロールが割り当てられます。Cisco ミーティング サーバ ウェブ アプリ経由で接続しているミーティング参加者は、他の参加者の役割を変更することができます。この機能は、coSpace 呼び出し用のウェブ管理 API 経由でもサポートされています。

メモ: この機能は、ウェブアプリおよび SIP/CE エンドポイントまたはクライアントから参加する参加者に対してのみ対応します。Lync や Skype などの他のクライアントから参加している参加者の役割の変更はサポートされていません。

メモ: ActiveControlが有効になっているCiscoエンドポイントでは、通話中の役割変更によってビデオまたはビデオ+プレゼンテーションの権限は変更されません。ビデオまたはビデオとプレゼンテーションが無効から有効に、またはその逆に変更される場合があります。たとえば、ビデオの権限が無効になっているゲストとして参加している参加者などです。通話中に、ビデオ権限が有効なHostにロールが変更された場合、エンドポイントでビデオは無効のままです。

callLegProfiles、callLegs、および参加者でサポートされている `changeRoleAllowed` パラメータによって、参加者が通話中の他の参加者の役割を変更できるかどうかが決まります。

`changeRoleAllowed` の実効値は、コールレグプロファイルの階層の既存のルールに基づいて計算され、階層のすべてのレベルで定義されていない場合、デフォルトで `false` になります。

A.1 利用できる役割

ウェブアプリ

開始者 (参加者の役割を変更する) には、以下に基づいて指定できる特定の役割があります。

- アクセス方法 スコープ

- coSpace メンバーシップ / 所有権
- 開始参加者の初期の役割
- 対象の参加者の現在の役割 (役割を変更中)

開始参加者は次の機能を利用できます。

- 開始参加者が共有スペースの所有者である場合、範囲に関係なく、共有スペースのすべてのアクセス方法。
- 共有スペースのすべての公開およびディレクトリアクセス方法
- 共有スペースの所有者であるか、共有スペースのメンバーである場合に限り、メンバースコープのメソッドにアクセスできます。
- 共有スペースの所有者である場合、または共有スペースメンバーとして特定のアクセス方法を使用して参加した場合、プライベートスコープのアクセス方法にアクセスできます。

開始者がアクセス方法へのアクセス権を持っている場合、別の参加者に割り当てることができます。ただし、彼らが役割を元の状態に戻すことができる場合のみです。「スペースデフォルト」のロールはこの規則の例外です。開始者は別のロールを持つ参加者に「スペースデフォルト」のロールを割り当てることができません。「スペースのデフォルト」ロールの詳細は、[スペースのデフォルトロール](#) を参照してください。

ウェブ管理から

管理者ユーザは、`/callLegs/<call leg id>` で PUT を実行するときに、`accessMethod` の値を指定することで、参加者または通話経路オブジェクトのアクセス方法を変更できます。管理ユーザは、coSpace で設定されたすべてのアクセス方法にアクセスできます。さらに、アクセス方法の設定を解除すること、つまり値に「」を設定することで、オブジェクトのコールレグプロファイル階層からアクセス方法のコールレグプロファイルが削除され、アクセス方法の重要度の値を解除します。

A.2 特殊な役割

参加者のロールは、次のシナリオで「スペースのデフォルト」または「カスタム」として表示されます。

A.2.1 スペースのデフォルトロール

ミーティングが Meeting Management 管理者によって提供される場合（『管理者向け Meeting Management ユーザーガイド』に記載されている手順を使用）、すべてのユーザーまたはアクセス方法には指定されたロールが割り当てられます。スペースが古い方法を使用して作成された場合、ロールは [スペースのデフォルト (Space default)] として表示される可能性があります。

- coSpace オブジェクトに callId/uri がある場合、仮想アクセス方法「Role 1」は、GUID 00000000-0000-0000-0000-000000000001 を使用して、coSpace メンバー用のアプリスペース ポータルのウェブサイトで作成されます。coSpace のメンバーがこのロールを使用して通話に参加すると、通話中のロールが「スペースのデフォルト」として表示されます。
- この仮想アクセス方法がない場合、coSpace のメンバーがウェブ アプリのスペース ポータルから「スペースデフォルト」として割り当てられたインコールロールを持っている場合、インコールロールは「スペースデフォルト」として表示されます。
- 通話中、ロール変更メニューにオプションの 1 つとしてスペースデフォルトが表示されません。参加者の役割が「スペースデフォルト」から他の役割に変更された場合、その役割を「スペースデフォルト」に戻すことはできません。

A.2.2 カスタムロール

coSpaceUser に設定されている callLegprofile が、アクセス方法または coSpace オブジェクトのいずれかのコール レッグ プロファイルと一致しない場合、ロールはウェブ アプリの通話中に「カスタムロール」として表示されます。このロールはウェブ アプリでは変更できません。

A.3 ロールと coSpace メンバーシップを割り当てる

A.3.1 メンバー

[主催者] や [ゲスト] などの任意の名前のロールは、割り当てられた設定または権限に対応します。 coSpace メンバーの場合、ロールは、 coSpace ユーザのコール レッグ プロファイルを変更することで変更されます。

アクセス方法は変更されないため、ロール変更の結果は `/callLegs/<callleg id>` および `/participants/<参加者 ID>` の GET には反映されません。 重要度の値も影響を受けません。

スペースに複数のアクセス方法があり、GUID 00000000-0000-0000- 0000-000000000001 を持つ Role1 がそのうちの 1 つである場合、ミーティングの作成中に、ユーザは非メンバーのロールとして Role1 を追加できません。 Role1 はメンバーのみが利用できます。

スペースにアクセス方法が Role1 (GUID 00000000-0000- 0000-0000-000000000001) しかない場合、ミーティングの作成中に、webapp ユーザは出席者リストにメンバーのみを追加できます。 非メンバーが追加されると、「スペース メンバーだけが追加できます」というメッセージが表示されます。

A.3.2 その他の参加者

非 coSpace メンバーの場合、役割は、アクセス方法を変更することで変更されます。

`/callLegs/<callleg id>` 以降で GET を実行するときのパラメータ アクセス方法 の値 `/participants/<participant id>` に変更が反映されます。 さらに、アクセス方法のコール レッグ プロファイルはコール レッグ プロファイル階層に挿入される、アクセス方法の重要度の値も参加者に適用されます。

付録 B 追加のコールレック情報

B.1 コールレック情報

特定のコールレックに関する情報が取得される場合、その構造は次の形式に従います。

```
<callLeg id="386621ab-927b-4624-a77d-0288913c92ac">
```

コールレックのレスポンス値 ([セクション 8.3.6](#))

```
<configuration>
```

コールレックの設定 ([以下](#))

```
</configuration>
```

```
<status>
```

コールレックの状況 ([下記の](#) を参照)

```
</status>
```

```
</callLeg>
```

B.1.1 コールレックの設定

返される構成セクションには、そのCall legの PUT メソッドで変更できるものと同じ値が含まれます。

設定セクションの例を以下に示します。

```
<configuration>
  <ownerId>2671a77d-4bd5-4bf2-8ed6-f14afd80c2ac</ownerId>
  <chosenLayout></chosenLayout>
  <needsActivation>>false</needsActivation>
  <defaultLayout>speakerOnly</defaultLayout>
  <participantLabels>>false</participantLabels>
  <presentationDisplayMode>dualStream</presentationDisplayMode>
  <presentationContributionAllowed>>false</presentationContributionAllowed>
  <presentationViewingAllowed>>true</presentationViewingAllowed>
  <endCallAllowed>>true</endCallAllowed>
  <muteOthersAllowed>>true</muteOthersAllowed>
  <videoMuteOthersAllowed>>true</videoMuteOthersAllowed>
  <muteSelfAllowed>>true</muteSelfAllowed>
  <videoMuteSelfAllowed>>true</videoMuteSelfAllowed>
  <changeLayoutAllowed>>true</changeLayoutAllowed>
  <joinToneParticipantThreshold>0</joinToneParticipantThreshold>
  <leaveToneParticipantThreshold>0</leaveToneParticipantThreshold>
  <videoMode>>false</videoMode>
```

```

<rxAudioMute>>false</rxAudioMute>
<txAudioMute>>false</txAudioMute>
<rxVideoMute>>false</rxVideoMute>
<txVideoMute>>false</txVideoMute>
<sipMediaEncryption>allowed</sipMediaEncryption>
<audioPacketSizeMs>20</audioPacketSizeMs>
<deactivationMode>disconnect</deactivationMode>
<deactivationModeTime>1</deactivationModeTime>
<telepresenceCallsAllowed>>false</telepresenceCallsAllowed>
<sipPresentationChannelEnabled>>true</sipPresentationChannelEnabled>
<bfcfMode>1</bfcfMode>
</configuration>

```

B.1.2 コールレックステータス

返されるステータス情報には、コールレックのアクティブ状態に関連するライブ値が含まれます。メディア情報は、1 つまたは複数の rxAudio、txAudio、rxVideo および txVideo サブセクション内に含まれます。複数のビデオまたは音声ストリームが識別され、「役割」属性を介して区別される場合があります。これは「メイン」または「プレゼンテーション」のいずれかです。

各メディアセクションには、パケット損失の割合とジッターが含まれます。

ステータスデータの一例を以下に示します。

```

<status>
  <state>接続済み</state>
  <durationSeconds>349</durationSeconds>
  <direction>incoming</direction>
  <sipCallId>6ff025ec40843df0b5153cab4a8601ee</sipCallId>
  <groupId>8b29e92d-27c2-421a-8d73-47daf09d7fe7</groupId>
  <recording>>true</recording>
  <streaming>>false</streaming>
  <deactivated>>false</deactivated>
  <encryptedMedia>>true</encryptedMedia>
  <unencryptedMedia>>false</unencryptedMedia>
  <layout>テレプレゼンス</layout>
  <activeLayout></activeLayout>
  <availableVideoStreams></availableVideoStreams>
  <rxAudio>
    <codec>aac</codec>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
  </rxAudio>
  <txAudio>
    <codec>aac</codec>

```

```

    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>0</jitter>
    <bitRate>64000</bitRate>
    <roundTripTime>66</roundTripTime>
  </txAudio>
  <rxVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>768</width>
    <height>448</height>
    <frameRate>29.7</frameRate>
    <bitRate>544603</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <txVideo role="main">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>720</height>
    <frameRate>29.9</frameRate>
    <bitRate>1098095</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>11</jitter>
    <roundTripTime>60</roundTripTime>
  </txVideo>
  <rxVideo role="presentation">
    <codec>h264</codec>
    <width>1280</width>
    <height>768</height>
    <frameRate>15.0</frameRate>
    <bitRate>3433</bitRate>
    <packetLossPercentage>0.0</packetLossPercentage>
    <jitter>2</jitter>
  </rxVideo>
  <activeControl>
    <encrypted>true</encrypted>
    <remoteSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
      <selfInfo />
      <スピーカー情報 />
    </remoteSubscriptions>
    <localSubscriptions>
      <capabilities />
      <conferenceInfo />
    </localSubscriptions>
  </activeControl>
</status>

```

さらに、"<sipCallId>" 値が含まれる場合があります。これは、コールレックが SIP 接続に対応している場合に存在します、SIP プロトコル ヘッダーからのグローバルに一意的な「Call-ID」値になります。

Call Bridge からリモート参加者へのアクティブなビデオ ストリームがある場合、そのコールレックで現在使用中の実際のレイアウトを示す「レイアウト」値があります。ユーザーが特定の選択をした場合（ウェブアプリのコールレックの場合）や、coSpaceのデフォルトやコールレックのオーバーライドによる場合です。

付録 C マルチパーティー ライセンシングに関する その他の情報

C.1 /system/licensing Information

情報が /system/licensing ノードから取得される場合、その構造は次の形式に従います。

```
<licensing>
  <機能>
    <callBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </callBridge>
    <webBridge>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </webBridge>
    <turn>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </turn>
    <ldap>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
    </ldap>
    <branding>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
      <level>whiteLabel</level>
    </branding>
    <recording>
      <status>activated</status>
      <expiry>2100-Jan-01</expiry>
      <limit>30</limit>
    </recording>
    <personal>
      <status>noLicense</status>
    </personal>
    <共有>
      <status>noLicense</status>
    </shared>
    <capacityUnits>
      <status>noLicense</status>
    </capacityUnits>
  </features>
</licensing>
```

C.2 /system/multiparty ライセンス情報

情報が /system/multipartyLicensing ノードから取得される場合、その構造は次の形式に従います。

```
<multipartyLicensing>
  <timestamp>2016-07-20T14:22:17Z</timestamp>
  <personalLicenseLimit>0</personalLicenseLimit>
  <sharedLicenseLimit>0</sharedLicenseLimit>
  <capacityUnitLimit>0</capacityUnitLimit>
  <users>545</users>
  <personalLicenses>0</personalLicenses>
  <participantsActive>0</participantsActive>
  <callsActive>0</callsActive>
  <weightedCallsActive>0.000</weightedCallsActive>
  <callsWithoutPersonalLicense>0</callsWithoutPersonalLicense>
  <weightedCallsWithoutPersonalLicense>0.000</weighted
    CallsWithout>PersonalLicense>
  <capacityUnitUsage>0.000</capacityUnitUsage>
  <capacityUnitUsageWithoutPersonalLicense>0.000</capacityUnit
    パーソナルライセンスなしの使用>
</multipartyLicensing>
```

付録 D API とともに RESTer をインストール、使用する

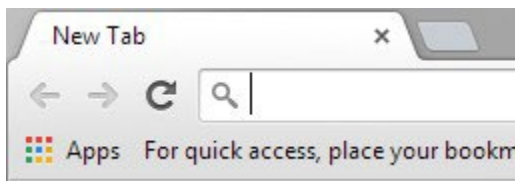
この付録では、API ツールである RESTer をインストールして使用する例を示します。他のツールも利用できます。 [セクション 3.4](#)を参照してください。

メモ: バージョン 2.9 から、サードパーティのアプリケーションがなくても API を使用できます。ウェブ管理ユーザインターフェイスから簡単に API 構成を実行できます。詳細については、[セクション 3.3](#) を参照してください。

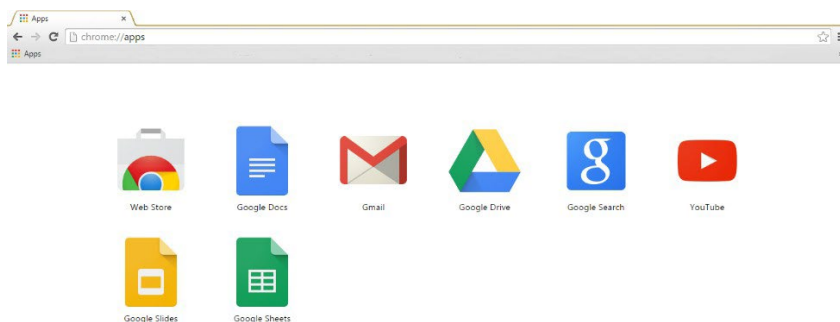
[先に](#)説明したように、API アクセスが可能なアカウントをお持ちであることを確認してください。

D.1 RESTer をインストールする

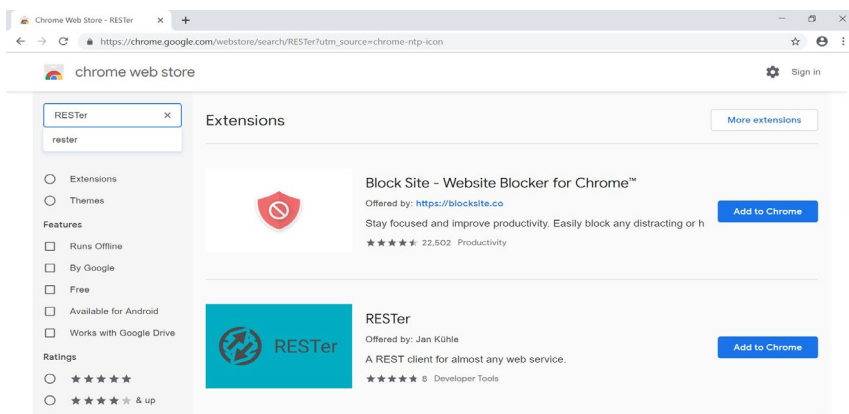
1. Google Chrome をブラウザとして開き、ブラウザ ウィンドウの左上隅にある [アプリ] アイコンを選択します。または、<https://chrome.google.com/webstore/category/extensions> を Chrome ブラウザウィンドウでクリックして [手順 3](#) に移動します。



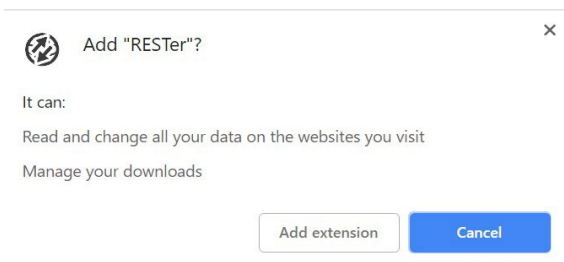
2. Web Store をクリックして Chrome App Store を開き、[\[拡張機能\]](#) を選択します。



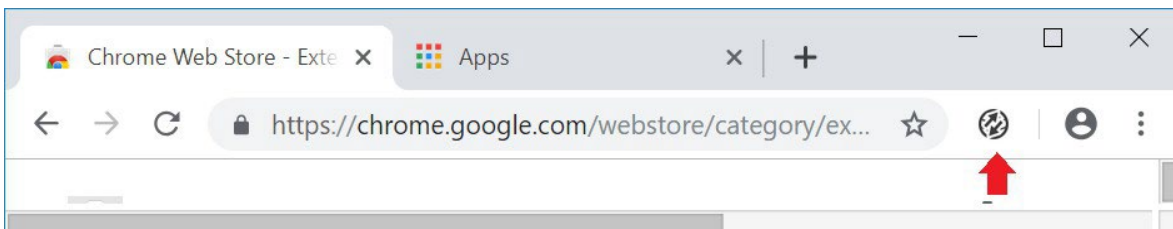
3. 検索フィールドに RESTer と入力して Enter を押し、検索結果から RESTer 拡張機能を見つけて、[Add to Chrome] をクリックします。



4. [拡張機能を追加] をクリックしてインストールを続行してください。



5. インストールが完了すると、確認のダイアログが表示され、メニューバーに RESTer アイコンが表示されます。



D.1.1 SSL 例外の追加/確認

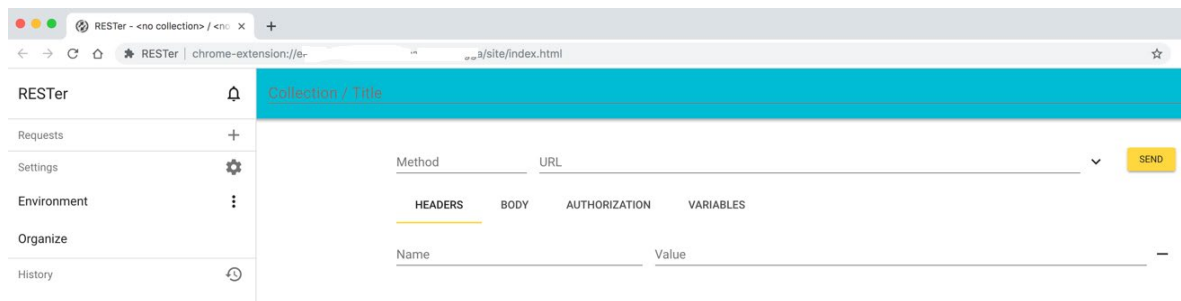
RESTer はブラウザが設定されているものと同じ SSL 証明書の検証と例外ルールに従います。あなたの Web 管理サイトの URL が証明書検証に合格しないか、例外が保存されていない場合、RESTer はすべてのリクエストを拒否します。例外を確認または追加するには:

1. Chrome ウィンドウで、HTTPSとポート番号（非標準ポートでリッスンしている場合）を使用して、ミーティングサーバのウェブ管理インターフェースのURLを開きます。例：
https://cms.lab:445
2. Chrome でミーティングサーバのウェブページがエラーなくロードされた場合、進めて大丈夫です。または
3. Chrome でプライバシーエラーが表示される場合は、[詳細設定] をクリックし、アドレスへのリンクをクリックしてください。

D.1.2 基本認証ヘッダーを生成する

リクエストはサーバへの認証が必要になります。RESTer は認証ヘッダーを生成して保存できるため、各コマンドでこのステップを繰り返す必要はありません。

1. まだ開いていない場合は、ブラウザのメニューバーにある RESTer アイコンをクリックしてツールを開きます。



2. [認証] タブをクリックし、次に [基本] をクリックします。

Method	URL		
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		
HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Generate new token			
Basic ←			
Custom			

3. 表示されるポップアップにサーバの資格情報を入力し、[保存] をクリックします。

User name
Password
CANCEL SAVE

4. タブが更新され、**認証** タブが保存された資格情報を使用することが表示されます。

Method	URL		
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		
HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Use existing tokens			
<input checked="" type="checkbox"/>	admin		
	Custom		
	Never expires		
Generate new token			
<input type="checkbox"/>	Basic		
<input type="checkbox"/>	Custom		

D.1.3 GET コマンドの例

1. RESTer タブを開きます (まだ開いていない場合)。これが新しいセッションの場合、[セクション D.1.2](#) の手順に従います。Authorization ヘッダーを設定する。**認証** ヘッダーをクリックして確定し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します。(上記の手順 4 の画面を参照してください。)
2. RESTer タブで **Method** をクリックし、ドロップダウンリストから **GET** を選択します。
3. URL フィールドをクリックして、クエリする API オブジェクトの完全な URL を入力します。これには、webadmin アドレス、ポート、および API パスが含まれます。この例では、callLegProfiles に関する情報を取得します。

Collection / Title	
Method	URL
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

4. [送信] をクリックしてリクエストを送信します。ページ下部に応答が表示されます。

Response 200 OK 1.12 KB 418 ms

```

Date: Wed, 20 Mar 2019 00:45:57 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Content-Type: text/xml
Vary: Accept-Encoding
Content-Encoding: gzip
Content-Length: 688
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive

```

```

1 <?xml version="1.0"?>
2 <callLegProfiles total="28">
3   <callLegProfile id="08c75fd5-7a05-42a3-8be8-158c3e160a73">
4     <needsActivation>true</needsActivation>
5     <name>Example</name>
6   </callLegProfile>
7   <callLegProfile id="09127467-c932-48f2-8b11-4b793541ee9">
8     <needsActivation>>false</needsActivation>
9   </callLegProfile>
10  <callLegProfile id="18b9b86c-3ae6-4631-93cd-c61185c87be6">
11    <needsActivation>true</needsActivation>
12  </callLegProfile>
13  <callLegProfile id="1dd5bfbc-30da-4ec5-85a2-0e83fdb5ba28">
14    <needsActivation>true</needsActivation>

```

5. ツールは応答を自動的に検出し、XML としてフォーマットします。

D.1.4 POST コマンドの例

1. REStEr タブを開きます (まだ開いていない場合)。新しいセッションの場合は、[セクション D.1.2](#) の手順に従って Authorization ヘッダーを設定します。[認証] ヘッダーをクリックして確定し、既存の資格情報を使用するように設定されていることを確認します。

Method	URL		
GET	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles		
HEADERS	BODY	AUTHORIZATION	VARIABLES
Use existing tokens			
<input checked="" type="checkbox"/>	admin	Custom Never expires	
Generate new token			
<input type="checkbox"/>	Basic		
<input type="checkbox"/>	Custom		

2. RESTer タブで **Method** をクリックし、ドロップダウンリストから **POST** を選択します。
3. URL フィールドをクリックして、クエリする API オブジェクトの完全な URL を入力します。これには、ウェブ管理者のアドレス、ポート、および API パスが含まれます。この例では、新しい callLegProfile を作成します。

Collection / Title	
Method	URL
POST	https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

4. POST リクエストでデータを送信するには (オプション)、**ボディ** タブにリクエストで送信するデータを入力する必要があります。

[**ボディ**] をクリックし、ウィンドウの右側にある三点リーダードロップダウンをクリックします。ドロップダウンリストから [**フォーム**] を選択します:

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

Name	Value	Type
		Text

Plain
JSON
XML
✓ Form

5. このリクエストで設定するプロパティの **名前** と **値** のフィールドを入力します。利用可能な設定については、[セクション 8.4.3](#) を参照してください。

Method: POST, URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS | **BODY** | AUTHORIZATION | VARIABLES

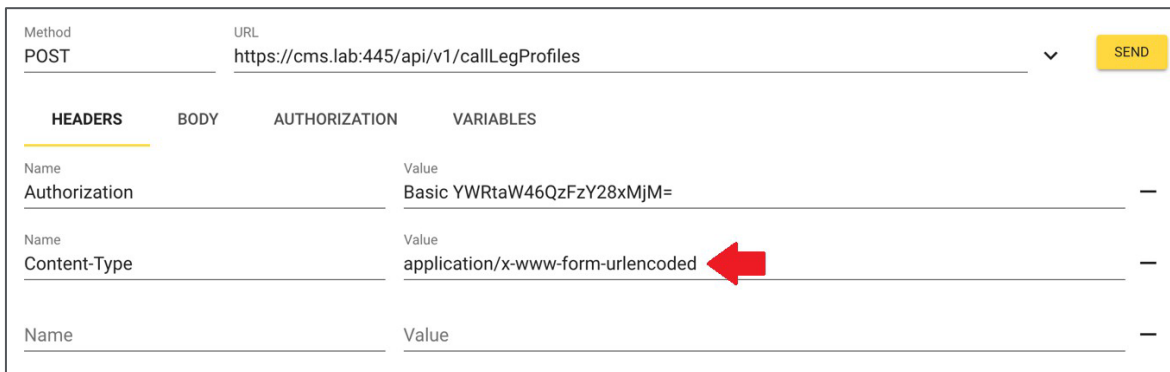
Name	Value	Type
Name	API Demo	Text
defaultLayout	allequal	Text
allowMuteOthers	true	Text
Name	Value	Text

6. リクエストには正しいコンテンツタイプのヘッダーが含まれている必要があります。これを行うには、[ヘッダー] タブをクリックして、新しいヘッダーを **Content-Type: application/x-www-form-urlencoded** として入力します。

そうしないと、リクエストの送信時に HTTP 502 エラーが発生します。しかし RESTer はユーザが行おうとしていることを検出し、今後のリクエストに備えてヘッダーを設定するかどうかを提案します。ハイライトされた警告バナーをクリックすると、RESTer が自動的に必要なコンテンツ ヘッダーをリクエストに追加します。



7. 正しいコンテンツヘッダーがリクエストに追加されます。



8. [送信] をクリックするとリクエストが送信されます。応答のヘッダーと本文はページの下部に表示されます。Location ヘッダーには、リクエストにより作成されたオブジェクトのパスと ID が含まれます。

Method: POST URL: https://cms.lab:445/api/v1/callLegProfiles

HEADERS BODY AUTHORIZATION VARIABLES

Name	Value	Type
Name	API Demo	Text
defaultLayout	allequal	Text
allowMuteOthers	true	Text
Name	Value	Text

Response 200 OK 549 B 415 ms

```
Date: Wed, 20 Mar 2019 00:49:44 GMT
Server: Apache
X-Frame-Options: DENY
Cache-Control: max-age=0, no-cache, no-store, must-revalidate
Pragma: no-cache
X-XSS-Protection: 1; mode=block
X-Content-Type-Options: nosniff
Strict-Transport-Security: max-age=31536000; includeSubDomains
Location: /api/v1/callLegProfiles/147fb83d-622b-4372-8c6e-96c0d22d00c7
Vary: Accept-Encoding
Content-Encoding: gzip
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive
Transfer-Encoding: chunked
```

D.1.5 PUT コマンドの例

RESTer で PUT コマンドを実行するには、HTTP メソッドが異なることを除き、POST コマンドの場合と同じ手順に従います。前の [セクション](#) の POST の例を参考に、メソッド設定で POST のオプションを PUT に変更します。

付録 E Web Bridge 3 によって提示される API メソッド

バージョン 2.9 では、Web Bridge 専用の情報を取得するための新しい API メソッドが導入されています。

3. これらの新しい API メソッドは、通常の Meeting Server API にはありません。これらは、Web Bridge 3 によって提供される API でサポートされます。この API は、Web Bridge 3 と通信するために、ブラウザで実行されるウェブアプリによって使用されます。これらのメソッドは、管理者が診断目的で使用することを想定しています。

例えば、Web Bridge 3 が次の場所で実行されている場合: `join.meeting.space` の場合、これらの API メソッドは次の場所にあります: `https://join.meeting.space/api/bridge/info`
新しいメソッドは以下のとおりです。

- GET on `/api/bridge/info` でこの Web Bridge 3 の識別子を返します。
- GET on `/api/v1/load` は、この Web Bridge 3 レガシー用の識別子を返します。
- GET on `/api/bridge/callbridges` は、この Web Bridge 3 への現在の Call Bridge 接続に関する情報を返します。
- GET on `/api/bridge/connections` は、この Web Bridge 3* によって現在提供されている HTTP 接続に関する情報を返します。
- GET on `/api/bridge/websockets` は、この Web Bridge 3* が現在提供している Websocket の情報を返します。
- GET on `/api/configuration` は、カスタムメール招待状に使用できる言語とその他の非機密の設定情報を返します。

* 認証が必要です (ウェブアプリのユーザがログインに使用するのと同じ認証)。

Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている式、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

★定型★このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。★定型★マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト www.cisco.com/go/offices をご覧ください。

© 2026 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco の商標または登録商標

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Cisco の商標の一覧を表示するには、次の URL にアクセスしてください: www.cisco.com/go/trademarks。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1721R)